建築と社會

住宅

5

第十七輯　第五號
昭和九年五月一日

日本建築協會

登録商標 OHNO SHUTTER PATENTE

日米特許一二個・實用新案登錄四六個併用

大野式防火捲上ケ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式シヤッター

大野式ルーブルシヤッター

大野式工場用軸承

大野式轉子入軸筐

大野式轉子入戸車

大野式廻轉軸抵抗測定機

各種防火扉

日英米佛特許三一個・實用新案五九個併用

特許不二サッシ

受托營業

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)三七三七 三七三八

取付出張員詰所・大阪市北區上福島中二・電話福島(45)五八八

愈々出來た!!

續學校建築圖集

各方面の支持と盡力とを以て小學校・中等學校專門及大學に至るまでの學校建築に關する資料を40餘校に亘つて蒐め得た。

本書は之等の學校の平面圖に加ふるに外觀及主要各部の寫眞・立面圖・斷面圖・工事梗概更らに鐵筋混凝土造並に木造の小學校標準矩計圖小學校の使用家具及運動設備の規格圖を纏めて編纂したものである。

今や一般教育思想の普及と當局の教育方針の徹底とに依つて學校建築は量に於ても質に於ても優に建築界の重要なる一分科となりつゝあるこの時に當り本書の刊行は大いに意義あるものと信ず。

敢へて教育家・建築家・建築業者並に建築科學生の諸氏へ躊躇するところなく絶好參考資料として本書を薦む。

内容次頁
參照

四六倍版
200頁

定價 1.00圓 {本會員は1割引} 稅 14錢

日本建築協會刊行
大阪・北區・朝日ビル 振替口座大阪39975

賣捌 丸善本支店
柳々堂書店

續學校建築圖集目次

寫眞

東京帝國大學醫學部第一號館・外觀……5
東京帝國大學本部附屬屋及工學部實驗室……5
京都帝國大學法學部經濟學部外觀・2階學生圖書閱覽室……6
大阪市立商科大學豫科及高商部・外觀……7
大阪市立商科大學豫科及高商部・內部……8
東京商科大學豫科・外觀・中庭……9
神戶商業大學本館・外觀……10
神戶商業大學本館・內部……11
京都藥學專門學校・外觀・講堂……12
大阪女子高等醫學專門學校附屬病院・外觀・病室13
兵庫縣甲陽中學校・全景・玄關・講堂……14
兵庫縣甲陽中學校・教室・講堂・體操場……15
大阪府立今宮中學校・外觀・玄關・講堂……16
兵庫縣立神戶第一商業學校・外觀・玄關・講堂・銃器室……17
神戶市立第三神港商業學校・外觀・講堂・教室…18
第一東京市立中學校體育館及屋內プール・外觀內部……19
大阪府立堺中學校・外觀……20
高知海南中學校・外觀……20
京都市立堀川高等女學校・外觀……20
神戶女學院・音樂堂・女學部・圖書館・理學館・ソールチヤペル外觀……21
神戶女學院・講堂・寄宿舍・教師住宅外觀……22
神戶女學院・講堂・大階段……23
神戶女學院・圖書室・書庫・チヤペル內部……24
大阪府・聖母女學院・外觀・教室……25
大阪市・信愛高等女學校・構堂・玄關・內部……26
東京市立忍岡尋常小學校・外觀・內部……27
東京市立中之町尋常赤阪高等小學校・外觀・體操場……28
神戶市立川中小學校・外觀……28
神戶市立福住尋常小學校・外觀・講堂・教室…29
兵庫縣・魚崎尋常高等小學校・外觀・講堂・教室 30
兵庫縣・魚崎尋常高等小學校・內部……31
大阪市立濟美第六小學校・外觀・教室……32
岐阜市華陽小學校・外觀・正面入口……33
名古屋市立幅下尋常小學校・外觀……34
名古屋市立中之町尋常高等小學校・外觀……34
大阪市立西九條小學校・外觀……35
京都市立成德小學校・外觀・玄關……35
大阪市立北田邊小學校・外觀・內部……36
大阪市立東田中小學校・外觀・教室……37
橫濱市立芦穗崎小學校・外觀……37
神戶市須菜幼稚園・外觀……38

圖面

東京帝國大學醫學部第一號館（教室研究室及實驗室）地1.2.3階平面圖……39
東京帝國大學醫學部第一號館（教室研究室及實驗室）斷面及立面圖……40
東京帝國大學本部附屬屋及工學部實驗室 1.2 階平面圖……41
東京帝國大學理學部臨海實驗所（水族室標本室）配置・斷面・立面及平面圖……42
京都帝國大學法學部經濟學部地.1.2.3 階平面圖 43
大阪市立商科大學學部校舍地．1.2.3 階平面圖…44
大阪市立商科大學學部・校舍立面圖……45
大阪市立商科大學配置圖・圖書室及研究室平面圖並立面圖……46
大阪市立商科大學豫科立委圖及1.2.3階平面圖…47
大阪市立商科大學豫科高等商業部體育館立面圖及平面圖……48
大阪市立商科大校高等商業部1.2 3階平面圖……49
大阪市立商科大學高等商業部斷面圖及立面圖…50
東京商科大學豫科地．1.2 階平面圖及立面圖……51
東京商科大學豫科配置圖及一部詳細圖……52
神戶商業大學本館地．1.2.3 階平面圖……53
神戶商業大學本館立面圖及斷面圖……54
慶應義塾大學豫科配置圖立面及 1 階平面圖……55
慶應義塾大學豫科 1 階平面圖……56
大阪齒科醫學專門學校正面及1.2.3階平面圖及立面圖……57
大阪高等醫學專門學校本館立面圖及 1．2．3 階平面圖……58
大阪高等醫學專門學校配置圖1.2.3階平面圖及立面圖……59
兵庫縣甲陽中學校 配置圖地．1 階平面圖 ……60
兵庫縣甲陽中學校2．3．屋階平面圖……61
大阪府立今宮中學校1.2.3階平面圖……62
大阪府立今宮中學校立面圖配景圖及建物配置圖63

續學校建築圖集目次

兵庫縣立神戸第一商業學校 1.2.3.4階平面圖……64
兵庫縣立神戸第一商業學校立面圖……65
神戸市立第三神港商業學校1.2.3階平面圖……66
第一東京市立中學校體育館及屋內プール斷面及平面圖……67
大阪府立堺中學校 1. 2. 3.屋階平面圖……68
大阪府立堺中學校立面圖及配置圖……69
京都市立堀川高等女學校立面圖及1.2.3階平面圖70
神戸女學院高女部及體操場各階平面圖……71
神戸女學院音樂堂 1.2.3.4階平面圖……72
神戸女學院理學部文學部 1. 2.屋階平面圖……73
神戸女學院圖書館地 . 1.2.3 階平面圖……74
神戸女學院總務館及講堂平面圖……75
神戸女學院專門部高女部・寄宿舍各階平面圖…76
神戸女學院配置圖……77
大阪市信愛高等女學校立面圖……78
大阪市信愛高等女學校配景圖及1.2.3階平面圖…79
大阪府聖母女學院 1 階平面圖……80
兵庫縣立聾啞學校平面圖配置圖及本館・講堂・寄宿舍各階平面圖……81
兵庫縣立盲學校配置圖及本館・教室・小使室及便所平面圖……82
兵庫縣盲學校講堂及寄宿舍平面圖……83
東京市立忍岡小學校立面圖……84
東京市立忍岡小學校 1. 2. 3.屋階平面圖……85
東京市立中之町尋常赤阪高等小學校 1 階平面圖86
東京市立中之町尋常赤阪高等小學校 2 階平面圖87
東京市立中之町尋常赤阪高等小學校 3 階平面圖88
神戸市立川中小學校 1. 2 階平面圖……89
神戸市立川中小學校 3 階及屋上平面圖……90
兵庫縣魚崎尋常高等小學校1.2.3階平面圖……91
大阪市立濟美第六小學校1.2.3階平面圖……92
大阪市立濟美第六小學校立面圖……93
神戸市立福住小學校地1.2.3階平面圖……94
岐阜市華陽小學校 1 階平面圖……95
岐阜市華陽小學校 2.3. 屋階平面圖……96
名古屋市立幅下小學校 1 階平面圖……97
名古屋市立中之町小學校 1 階平面圖……98
大阪市立天王寺小學校. 1.2.3屋階平面圖…… 99
大阪市立天王寺小學校立面圖及斷面圖…… 100
京都市立成德小學校1.2.3階平面圖…… 101
大阪市立北田邊小學校 1. 2 階平面圖…… 102
大阪市立東田中高等小學校 1. 2 階平面圖及立面圖…… 103
横濱市立芦穗崎小學校 1. 2 階平面圖…… 104
横濱市立芦穗崎小學校立面圖・一般矩形圖及雨天體操場斷面圖…… 105
神戸市須榮幼稚園 1. 2 階平面圖…… 106
大阪市立小學校鐵筋混凝土構造標準規格圖… 107
大阪市立小學校木造校舍標準矩形圖…… 108
大阪市立小學校塗板規格圖…… 109
大阪市立小學校上下式塗板規格圖…… 110
大阪市立小學校兒童用机及腰掛規格圖…… 111
大阪市立小學校兒童用机規格圖(二人用)…… 112
大阪市立小學校教師用理科實驗臺及兒童用理科實驗机及腰掛規格圖…… 113
大阪市立小學校料理示範臺及實驗臺規格圖… 114
大阪市立小學校唱歌室用腰掛及圖畫用兒童机・腰掛及筆洗規格圖…… 115
大阪市立小學校兒童用木工倣細工臺・腰掛及裁縫用教卓規格圖…… 116
大阪市立小學校兒童用裁縫机及腰掛・座式裁縫机・裁縫仕上臺規格圖…… 117
大阪市立小學校兒童用傘棚及傘置規格圖…… 118
大阪市立小學校兒童用下足箱規格圖…… 119
大阪市立小學校横木規格圖…… 120
大阪市立小學校梁木規格圖…… 121
大阪市立小學校肋木規格圖…… 122
大阪市立小學校鐵棒規格圖…… 123
大阪市立小學校遊動木規格圖…… 124
大阪市立小學校辷臺規格圖…… 125
大阪市立小學校踏切板規格圖…… 126
大阪市立小學校スプリングボールド規格圖… 127

工事梗概

慶應義塾大學日吉臺校舍新築概要…… 128
大阪齒科醫學專門學校新築工事仕樣書…… 128
大阪府立堺中學校改築工事概要…… 133
第一東京市立中學校屋內プール工事概要…… 137
第一東京市立中學校體育館工事概要…… 138
東京市立津久戸尋常小學校新築工事概要…… 139
大阪市濟美第六小學校新築工事概要…… 140
塗板製作仕樣書…… 141
兒童用机腰掛製作仕樣書…… 142

會　　告

住宅研究に關し座談會に協會員の隨意參加を希望の件

本協會住宅委員會に於て委員長武田博士の下に左記の通り座談會の形式で住宅に付いて研究致して居りますので協會員各位の隨意御參加を歡迎いたしますから奮つて御出席の上適切なる御研究談を御洩し下さることを希望いたします

月　日　　毎月（本年度は 1. 2. 8. 12 月を除く）
第一水曜日（但シ**5 月**は**9日**）

時　間　　午後正六時開會

會　場　　建 築 倶 樂 部

研 究 科 目 及 各 月 豫 定 表

3 月	防 盜		7 月	防 熱（冷房）……簡易なるもの	
4 月	防 鼠		9 月	防 虫	
5 月	防 濕	防 腐	10月	防 寒	
6 月	防 臭	防 音	11月	防 火	

昭 和 9 年 5 月

日 本 建 築 協 會

建築と社會

第17輯第5號　昭和9年5月發行

住宅

目次

住宅寫眞……（2）
海邊に建つ「夏の家」懸賞設計當選圖案……（37）
盜賊と建築……青柳憲五（53）
防盜座談會……住宅委員會（57）
ガラス破壞の實驗報告……岡田孝男（59）
防鼠方法に就いての座談會概要錄……住宅委員會（61）

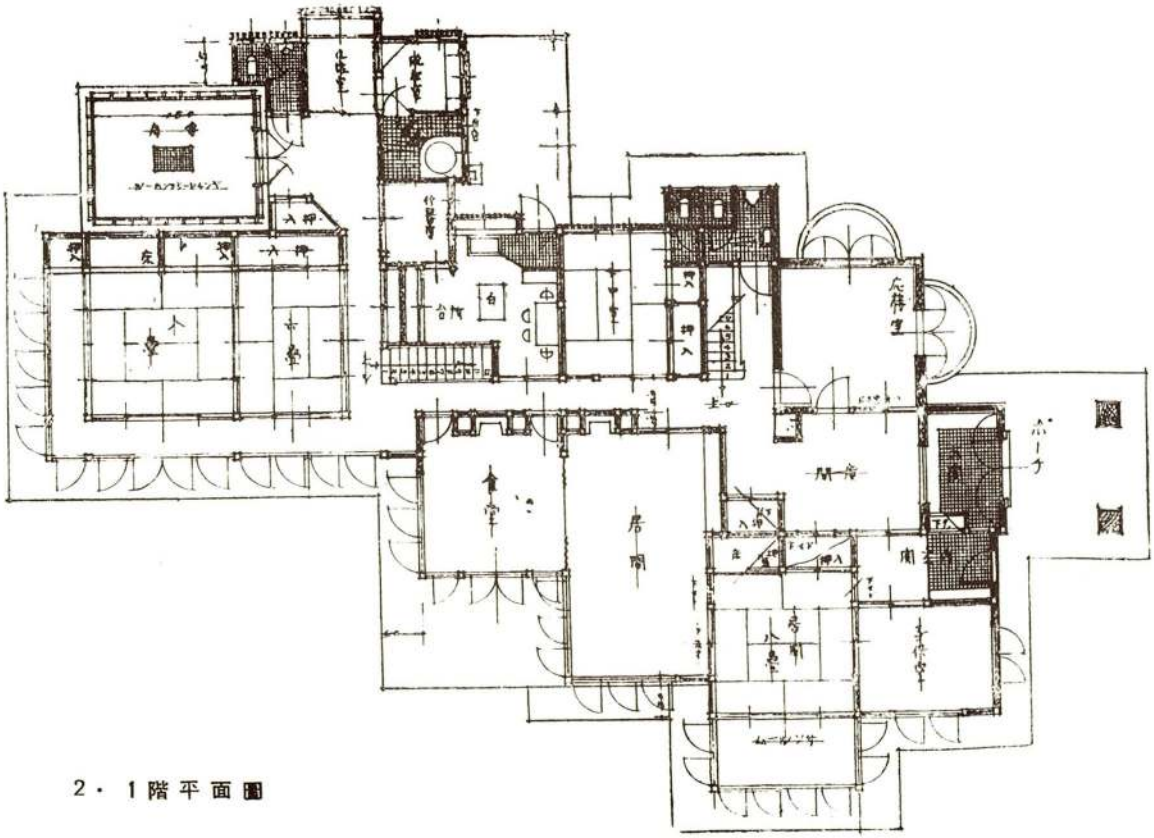
函館大火の跡を視察して……鳥井信（67）
函館市大火災の實地踏査をして……中澤誠一郎（79）
函館大火に於ける不燃質建物の被害概況……中澤誠一郎（97）

函館大火畫報……（90）
新建築……（63）

建築材料陳列場記……（105）
時報……（62）
會員のこゑ……（104）
會報……（112）



1・外觀



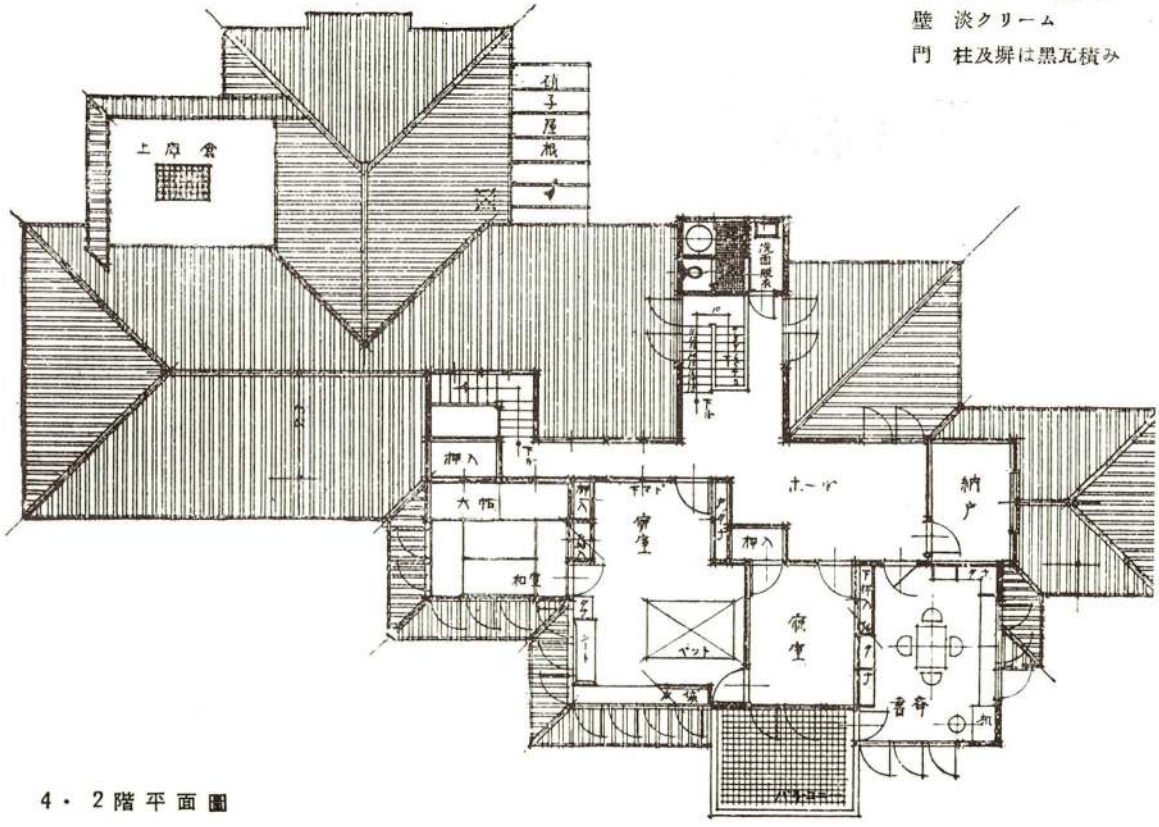
2・1階平面圖

Y2　澤田氏邸（須磨）　設計　工學博士　武田五一氏



3・外觀

瓦　淡ブリユー釉藥掛
壁　淡クリーム
門　柱及塀は黒瓦積み



4・2階平面圖

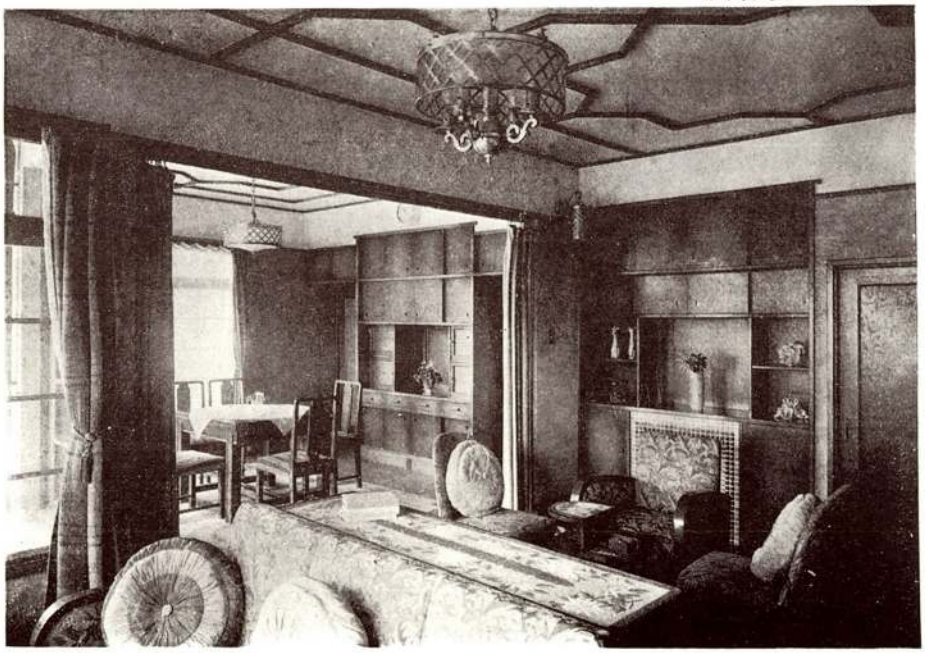


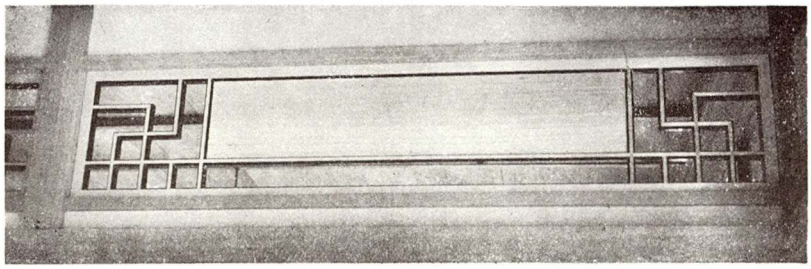
5・倉　庫　鐵筋コンクリート造で
側窓なく天窓より採光



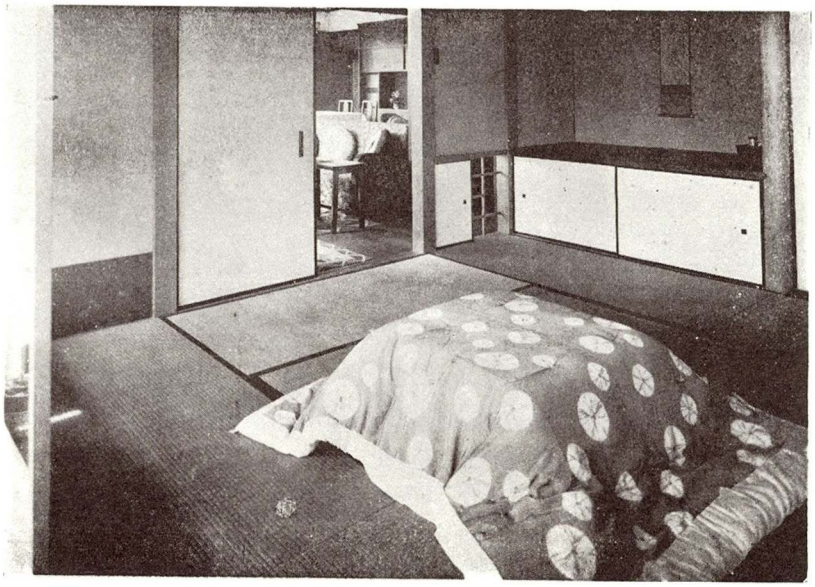
6・子供室

7・居間及食堂の一部





8・客室ランマ

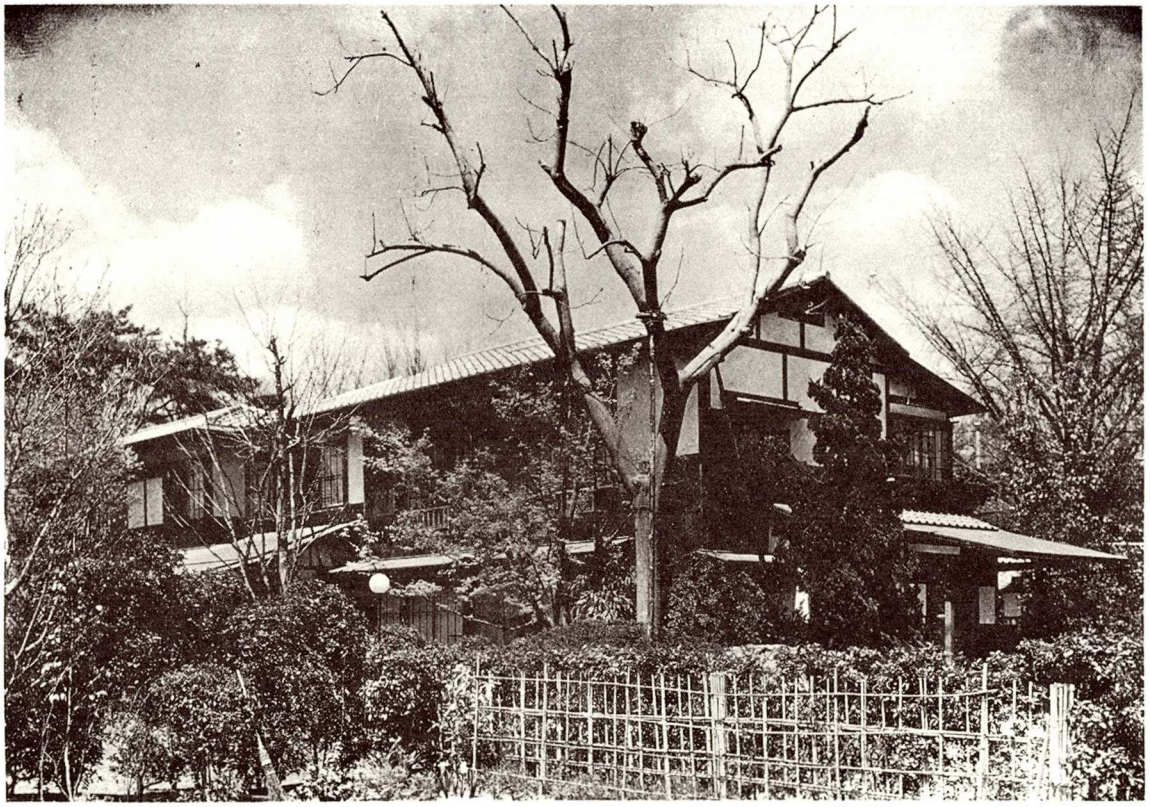


9・居間8帖



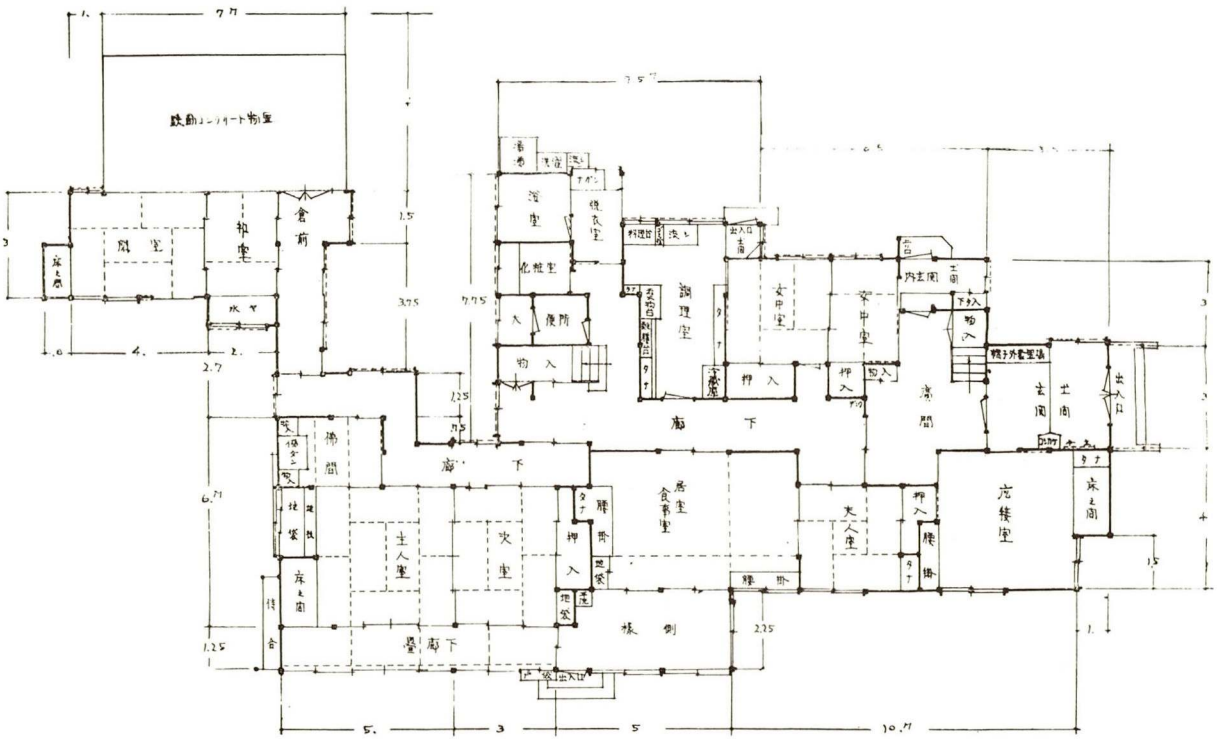
10・居間の一部

澤田氏邸（須磨）　　設計　工學博士　武田五一氏



1・外　　觀

2・1階平面圖



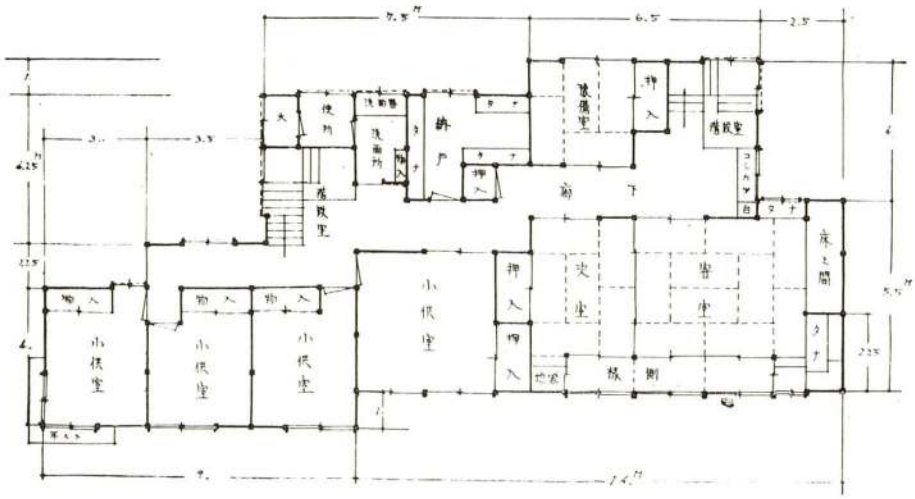
6　田中氏邸（京都）

設計　工學博士　藤井厚二氏

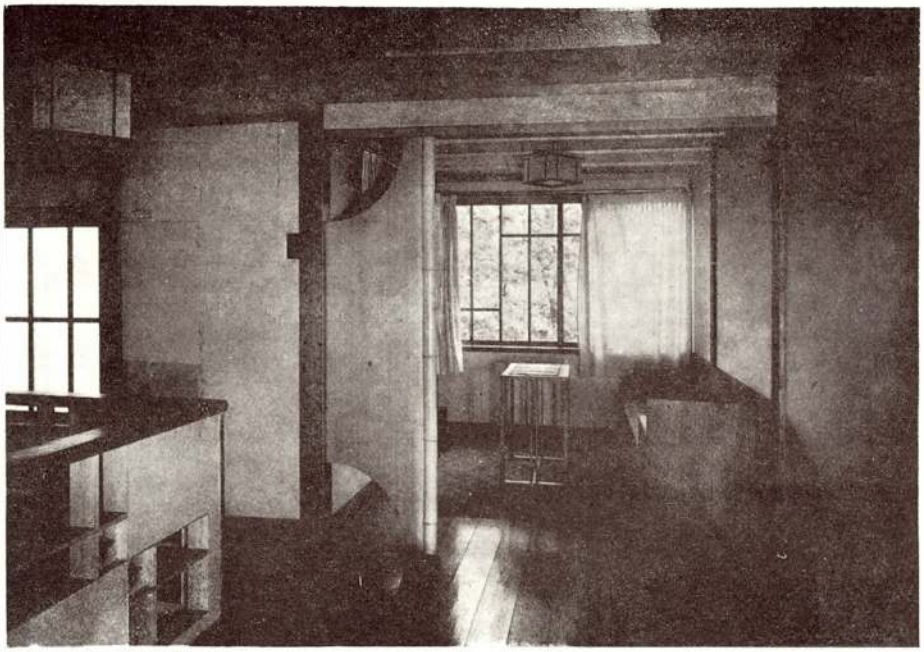


3・ 外 觀（左側に見ゆるは數寄屋）

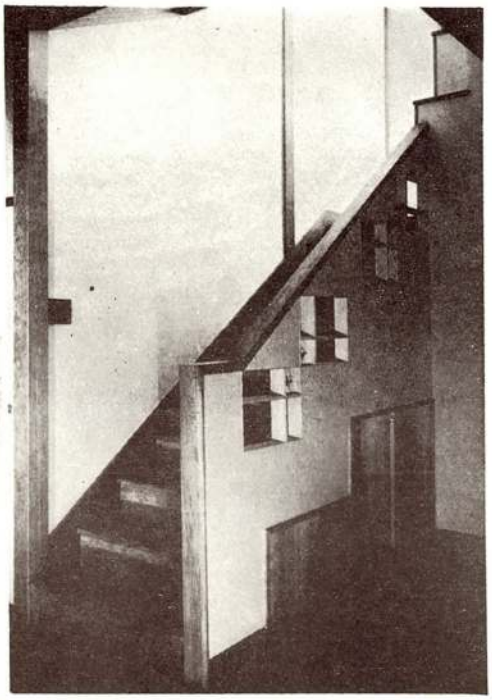
4・ 2階平面圖



田 中 氏 邸（京都）

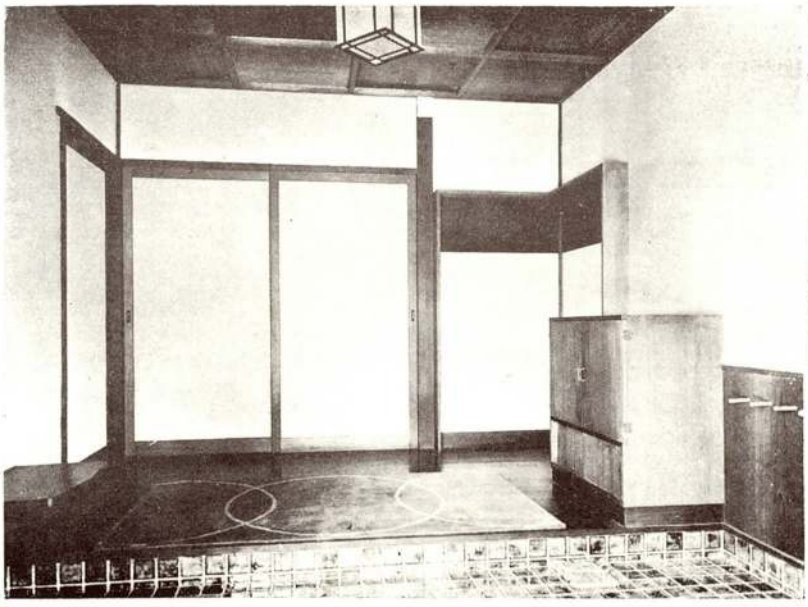


5・休憩室

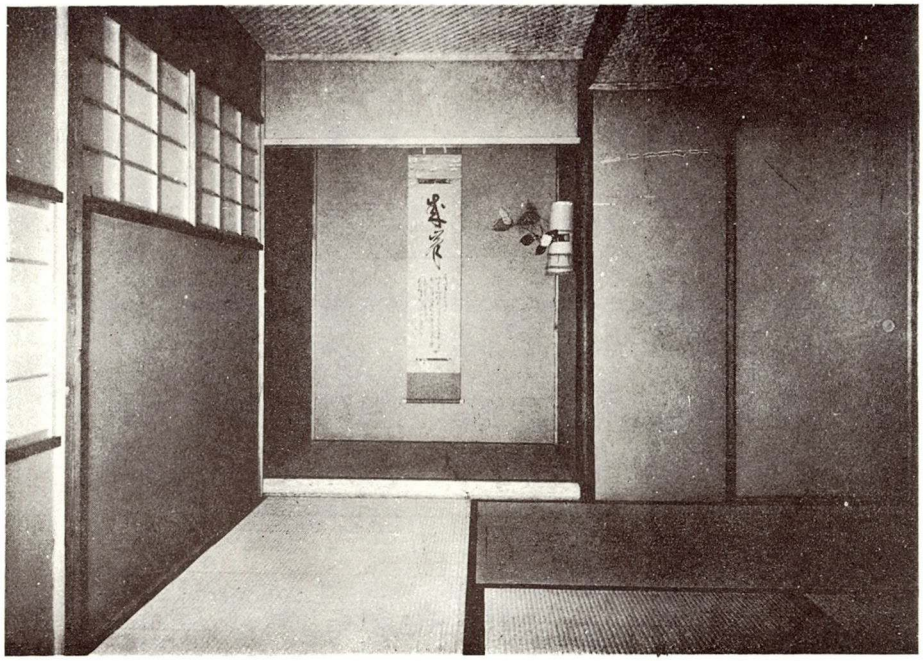


7・階段

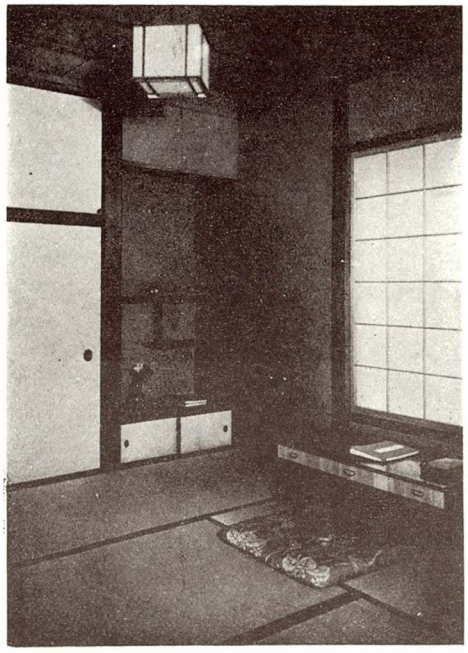
6・玄　關



ヽ8　田中氏邸（京都）

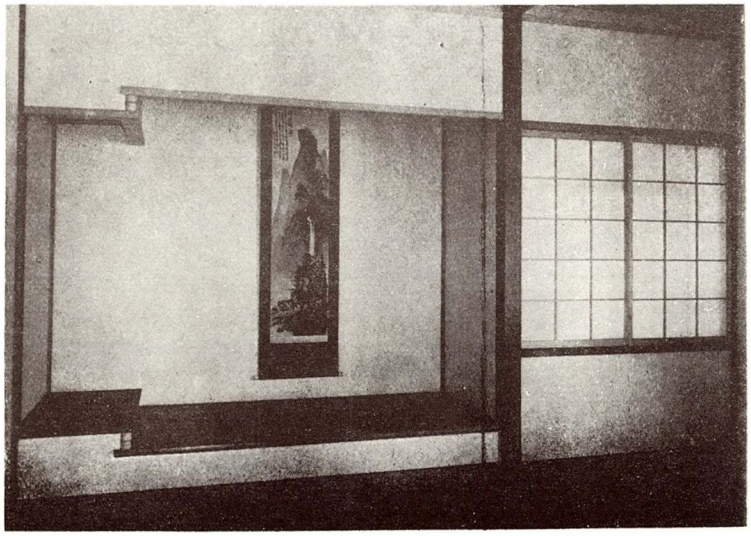


8・閑　　室



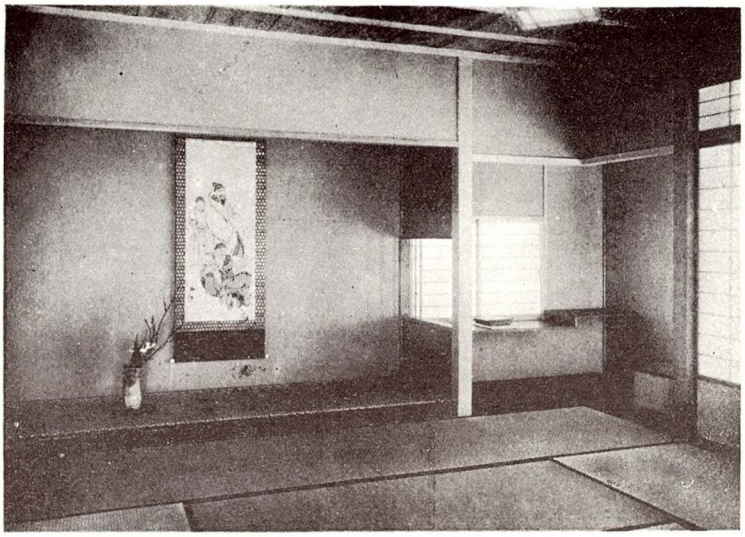
10・夫人室

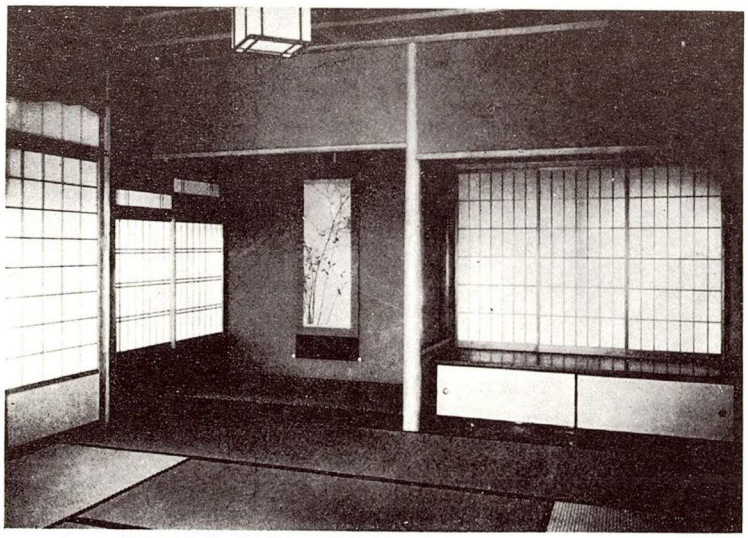
9・應接室



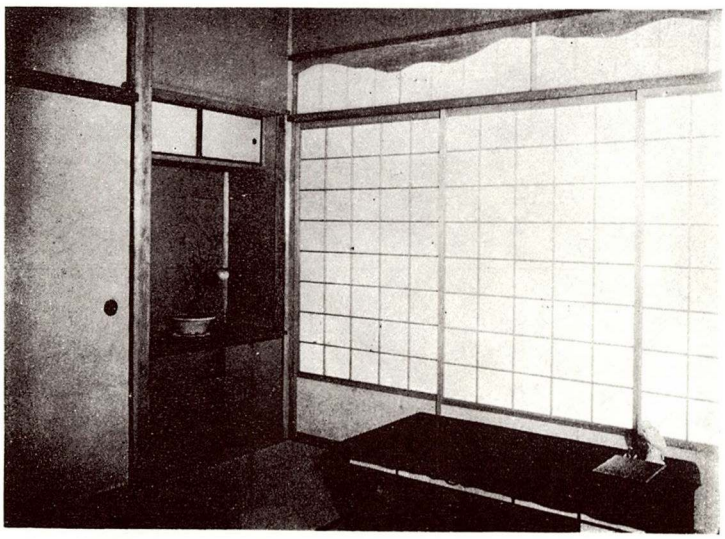
田中氏邸（京都）

11・客　室

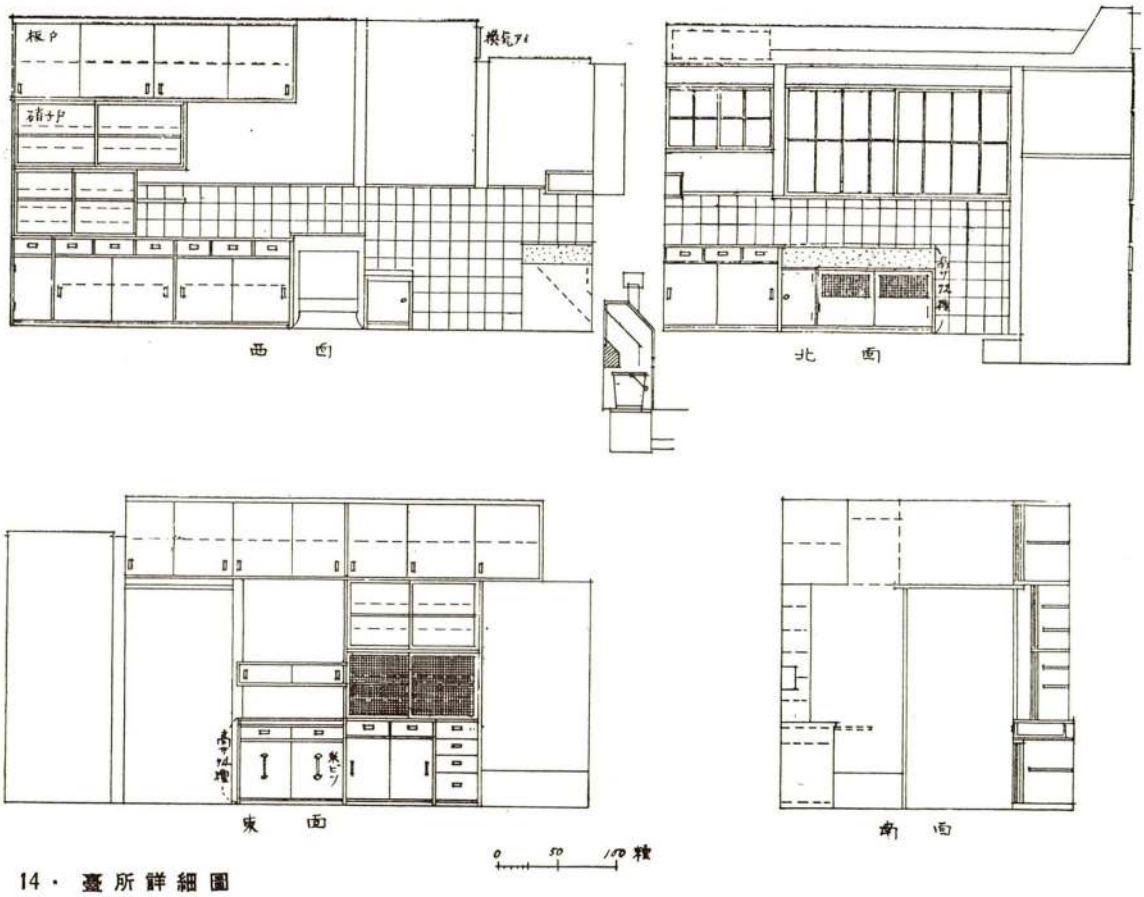




12・主　人　室



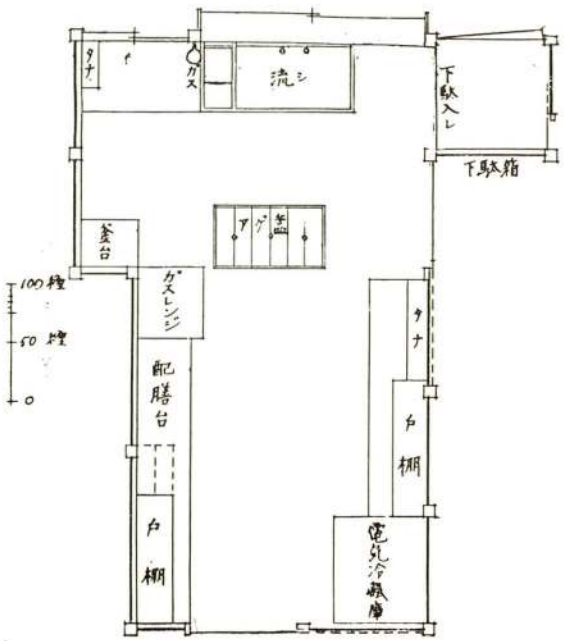
13・主人室の次間

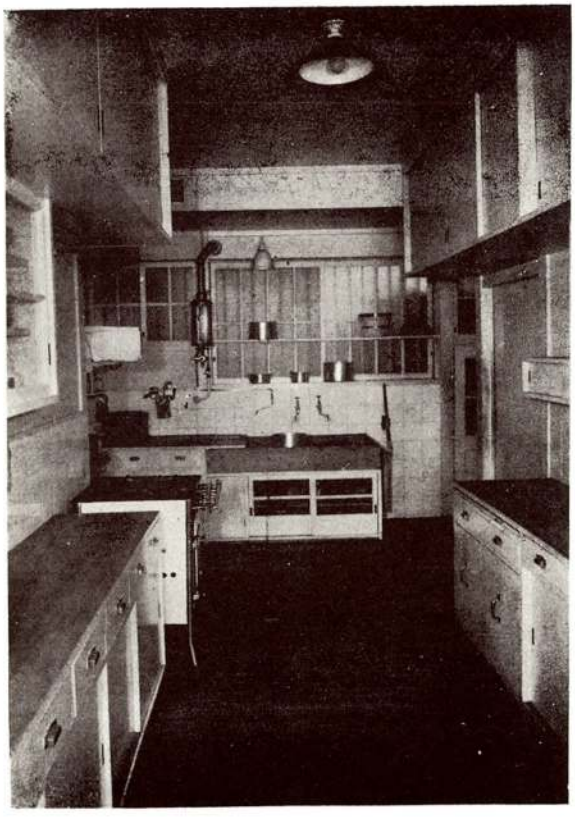


14・臺所詳細圖

16・臺　所

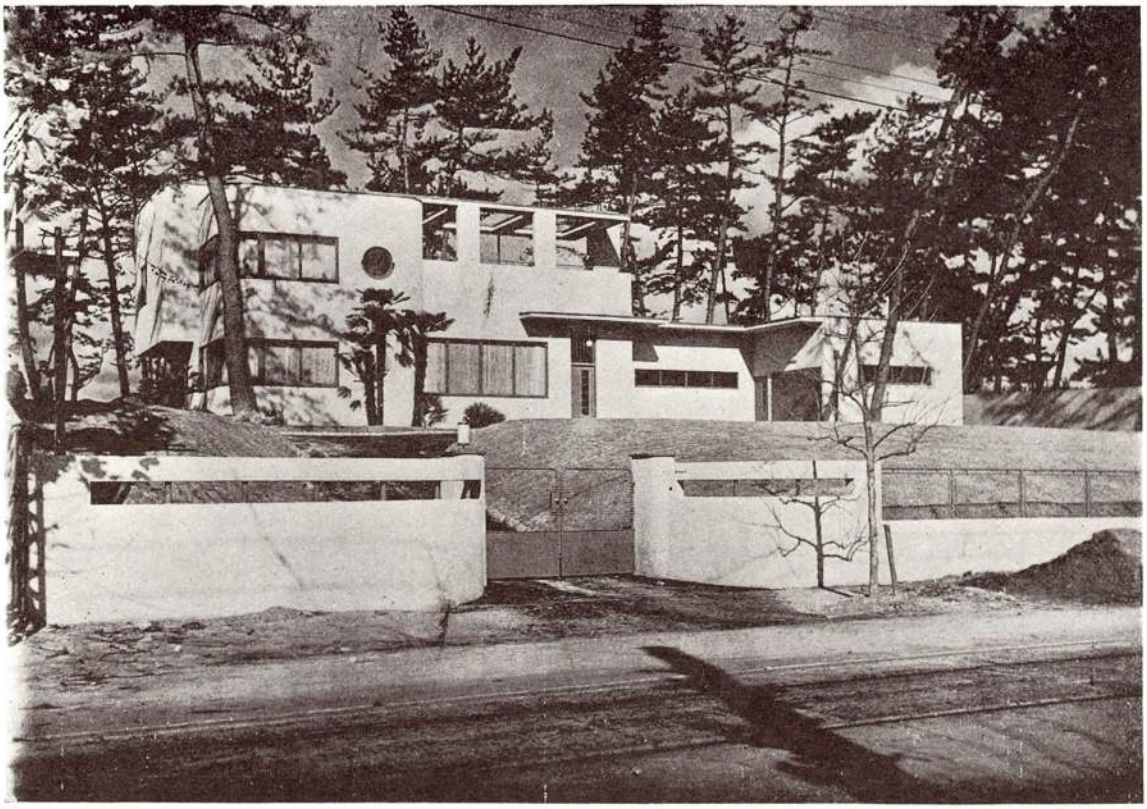
15・臺所平面圖





田中氏邸（京都）

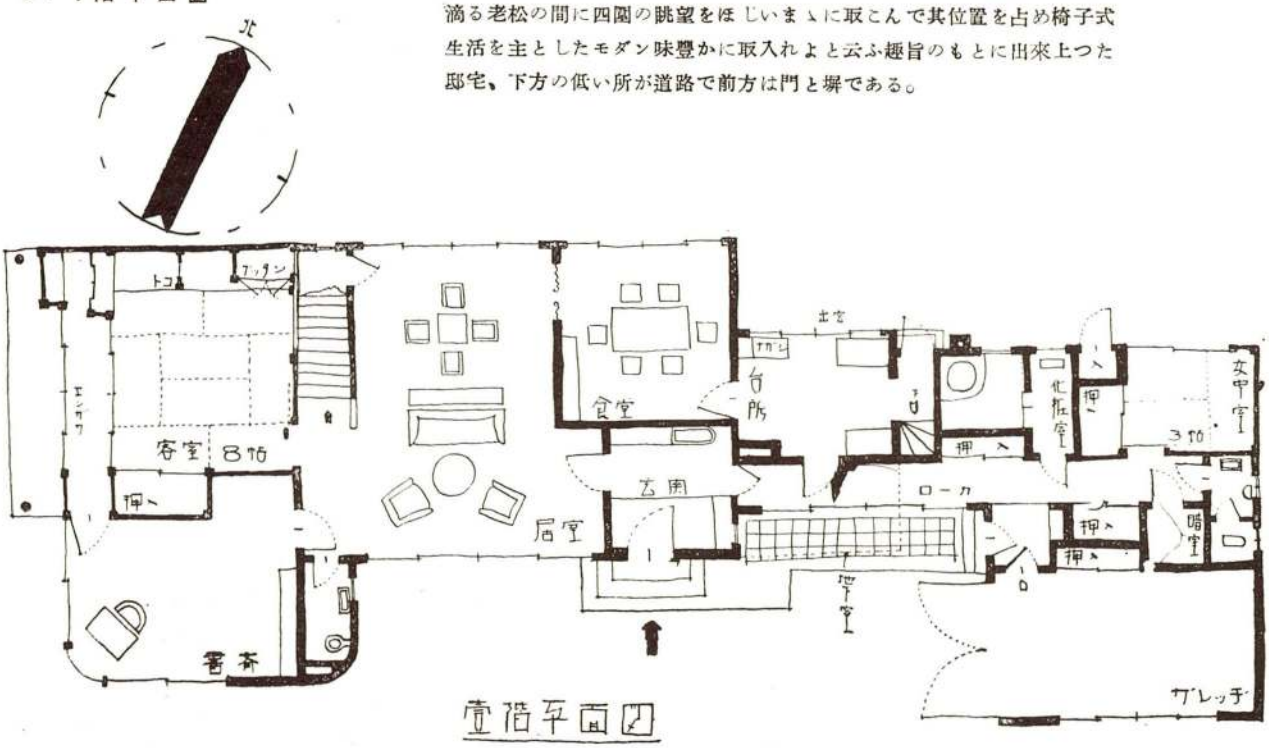
設計　工學博士　藤井厚二氏



1・外　　觀

2・1階平面圖

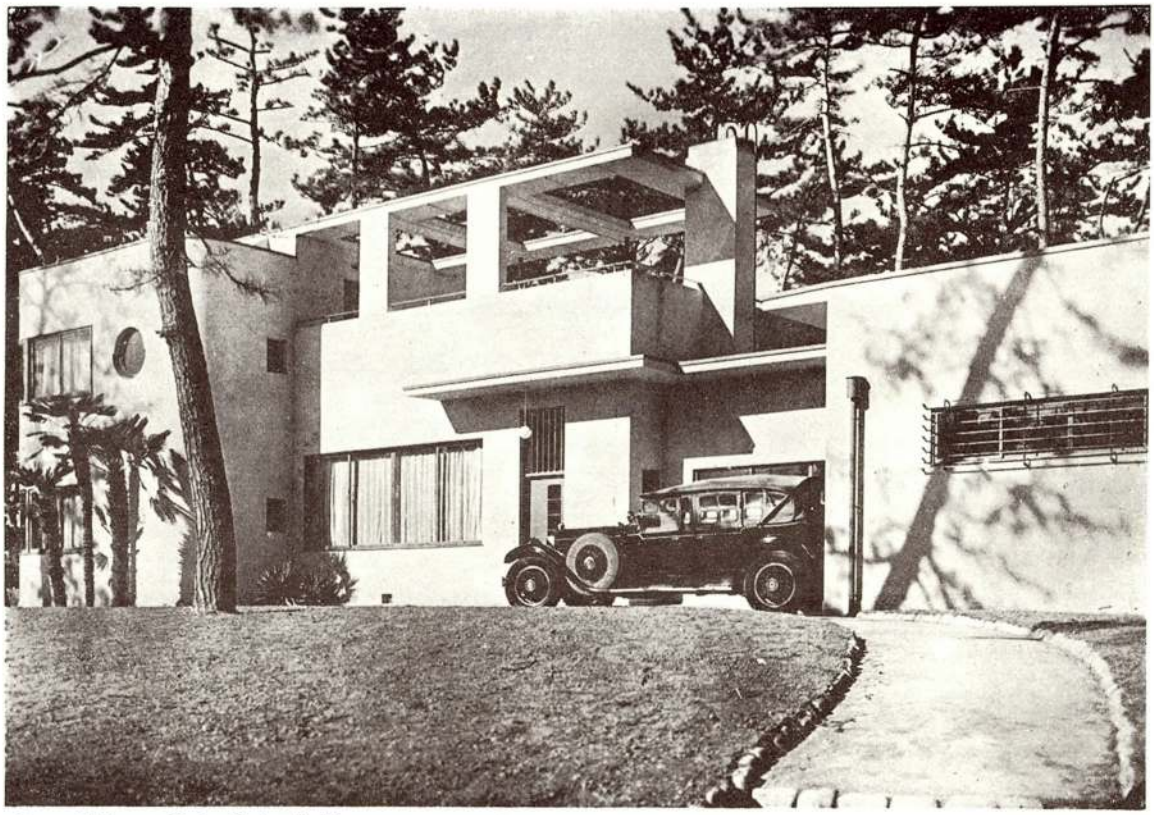
阪神線甲子園と上甲子園との間で小高い元堤防敷の丘を其敷地として緑滴る老松の間に四圍の眺望をほしいまゝに取こんで其位置を占め椅子式生活を主としたモダン味豊かに取入れよと云ふ趣旨のもとに出來上つた邸宅。下方の低い所が道路で前方は門と塀である。



壹階平面圖

v 12　吉本氏邸（阪神上甲子園）

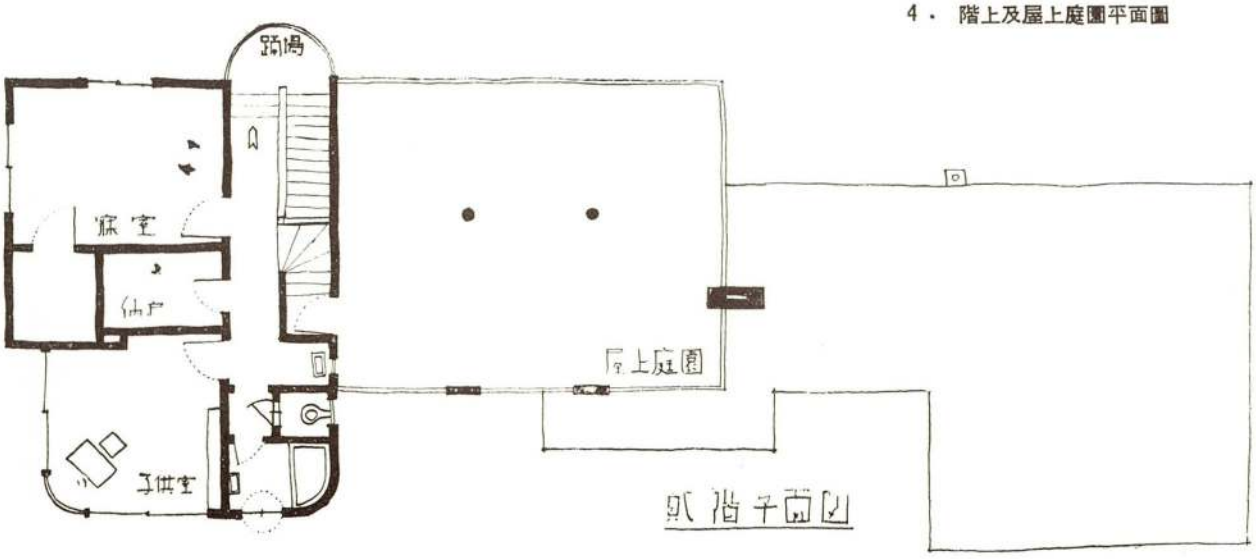
設計施工　大林組住宅部

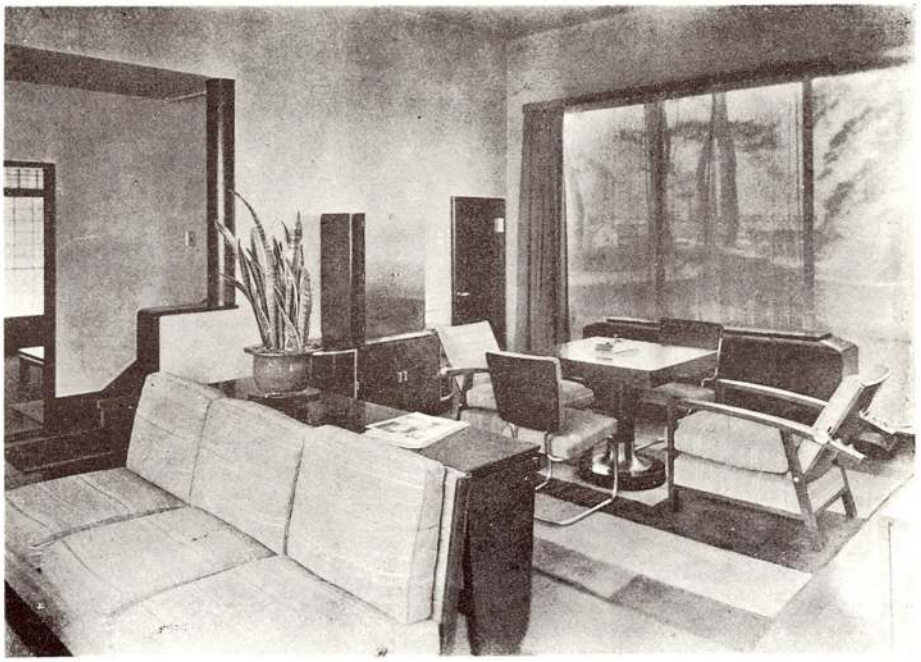


3・ガレーヂと屋上庭園

表門のナダラカなスロープを上りつめた玄關横のガレーヂと屋上庭園廻りの展望

4・階上及屋上庭園平面圖





5・ 1階居間

居間の一隅と居間を通して日本間を望む

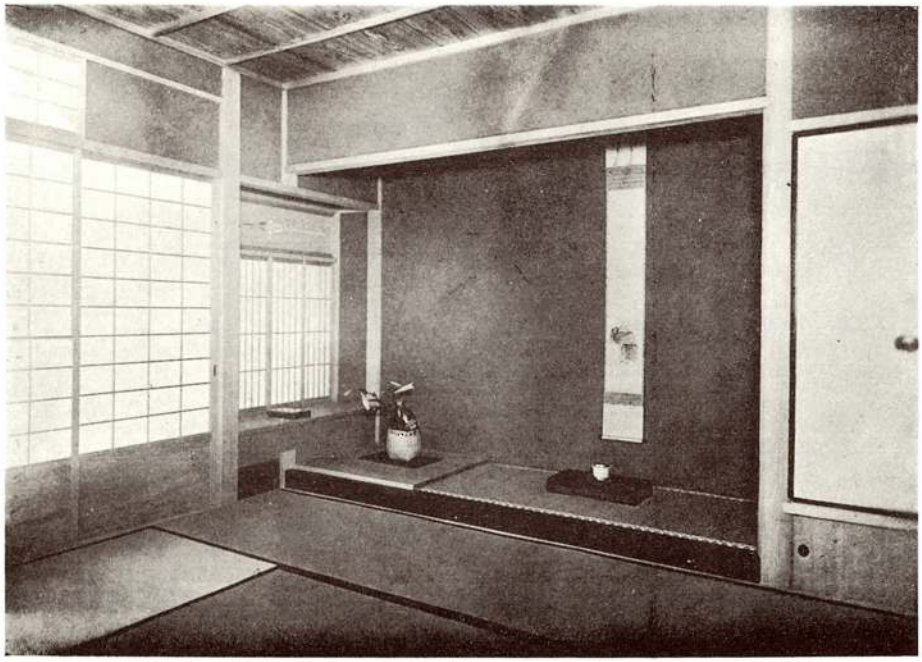


6・ 階上寝室の一隅



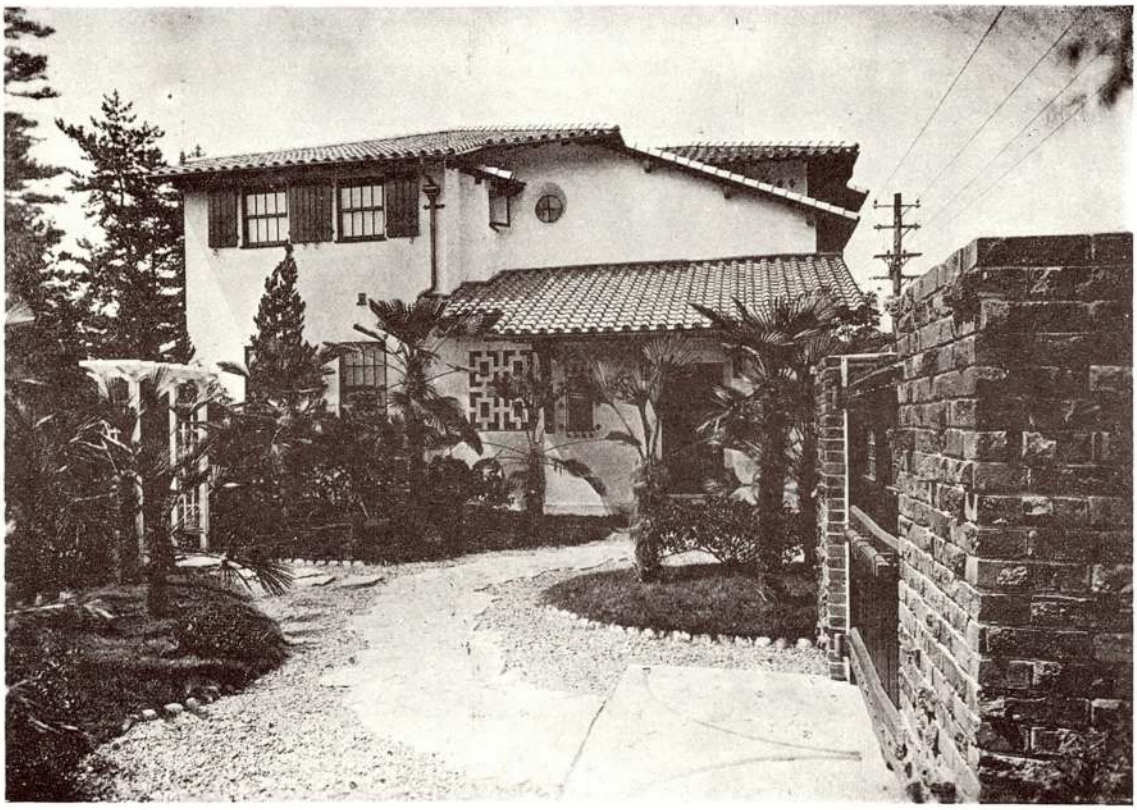
7・書　齋

1 階東南に面せる書齋の一隅



8・客　室

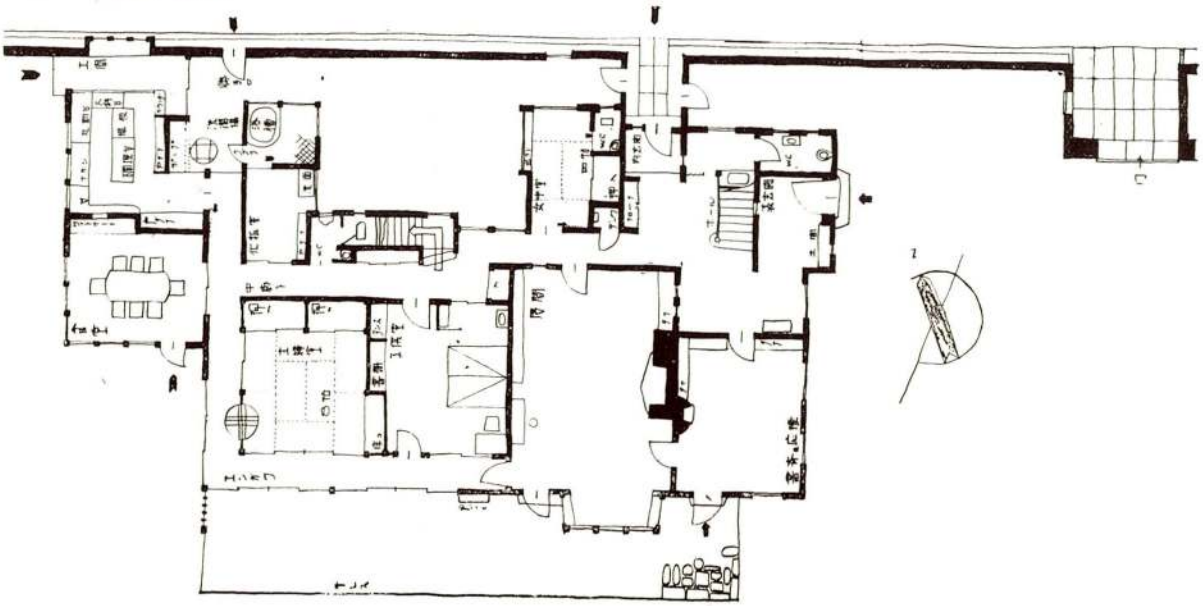
1 階洋館内に取こまれた簡素な日本間



1・外　　觀

東側の正門の内側から正面玄關ポーチ廻りを望んだスパニッシュ趣味を基調として出發した邸宅

2・1階平面圖

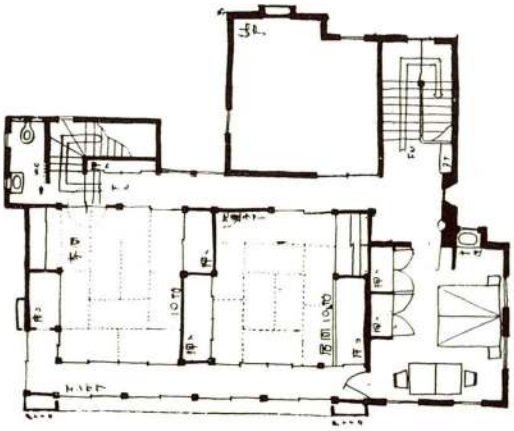




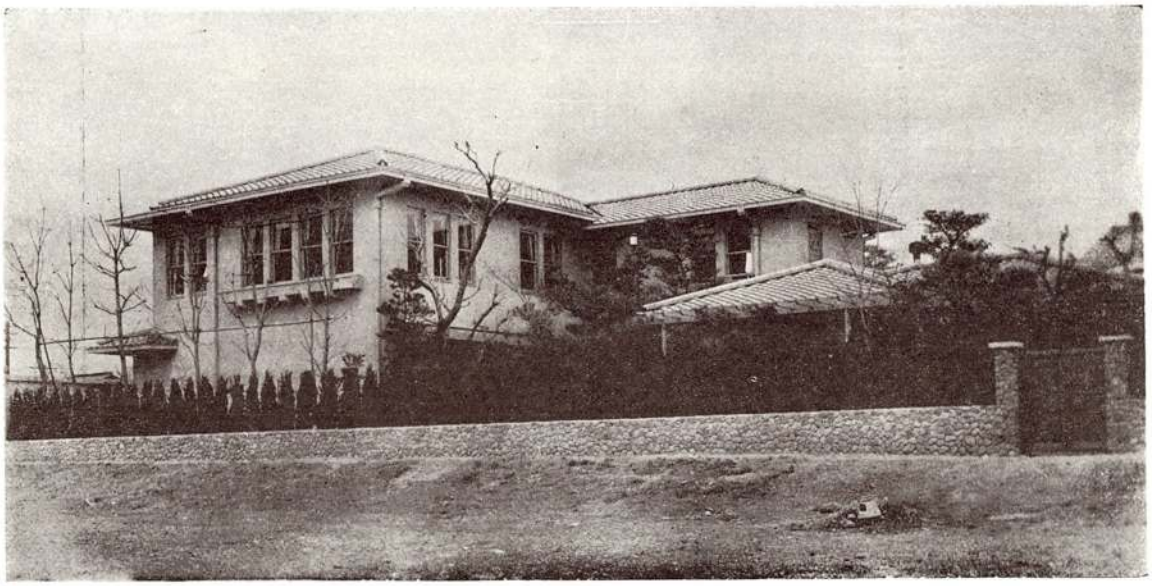
3・南　　面

邸内の裏庭は昔ながらの池と自然其まゝの老松がさながら建物を抱込んだかの様な風情となつて居るが茲に西南部の一段下つた平庭から建物の食堂、居間廻りを展望したもの

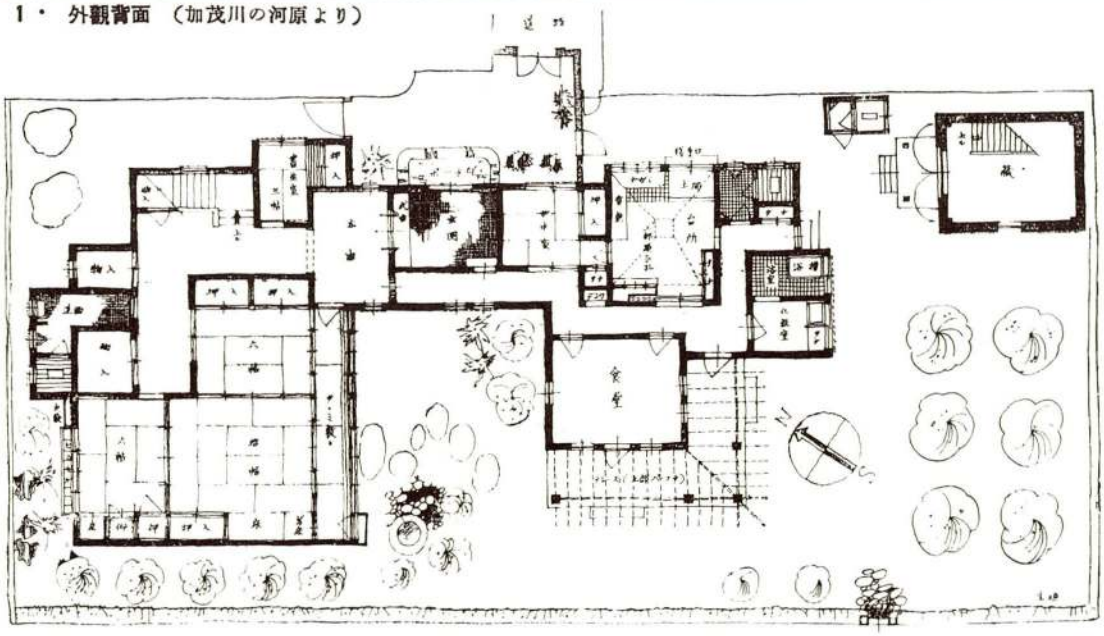
4・階上平面圖



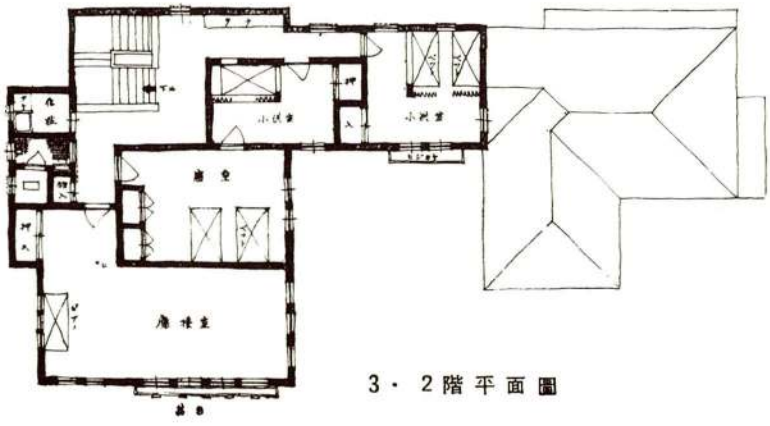
河田博士邸（阪和・上之芝）　　設計施工　大林組住宅部



1・ 外觀背面 （加茂川の河原より）



2・1階平面圖



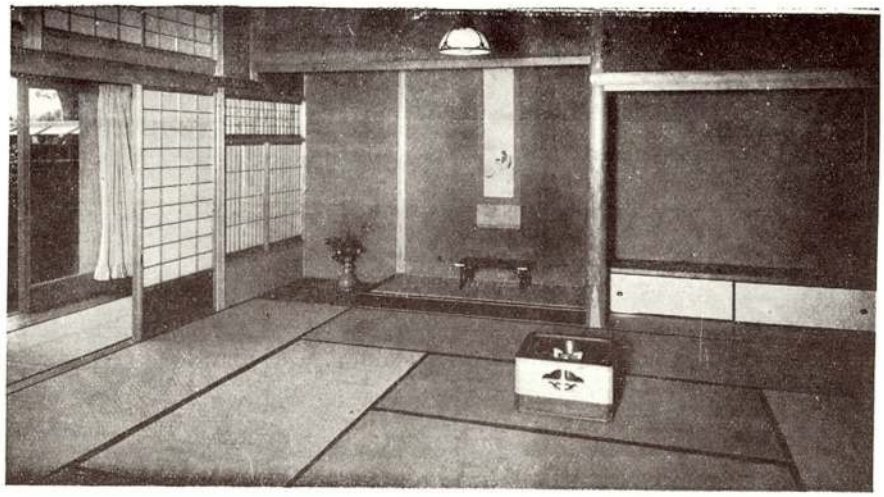
3・2階平面圖

プランに就いて

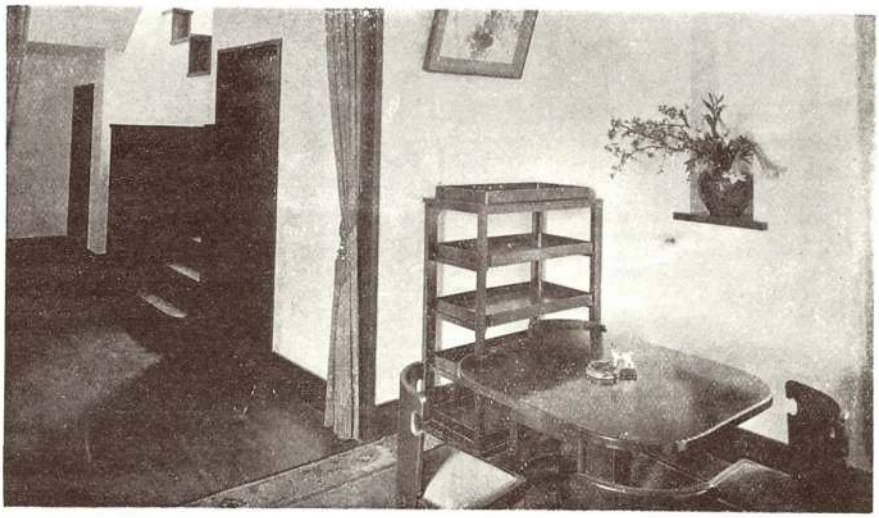
敷地が三方隣地に圍まれ西南の方向にのみ開け、しかもこゝに加茂川の美しい眺を有する事を考慮せなければならなかつた

松尾氏邸（京都）

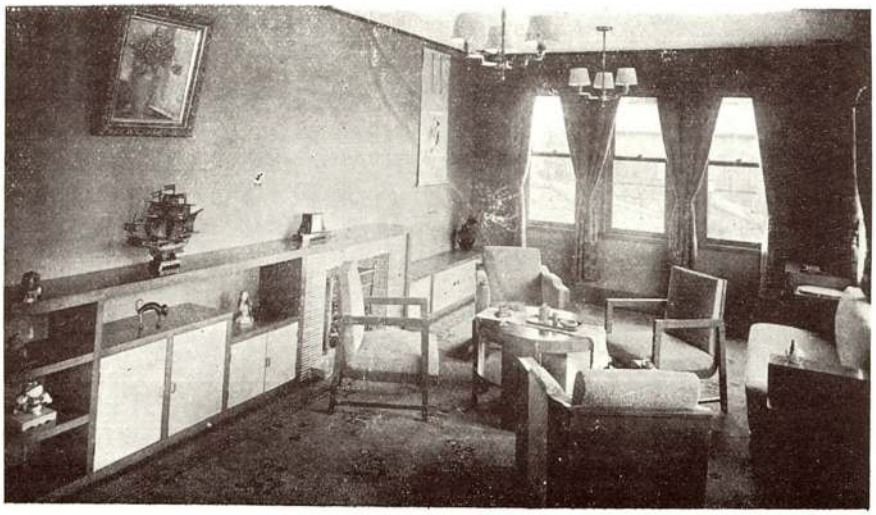
設計施工 竹中工務店



4・居間客間

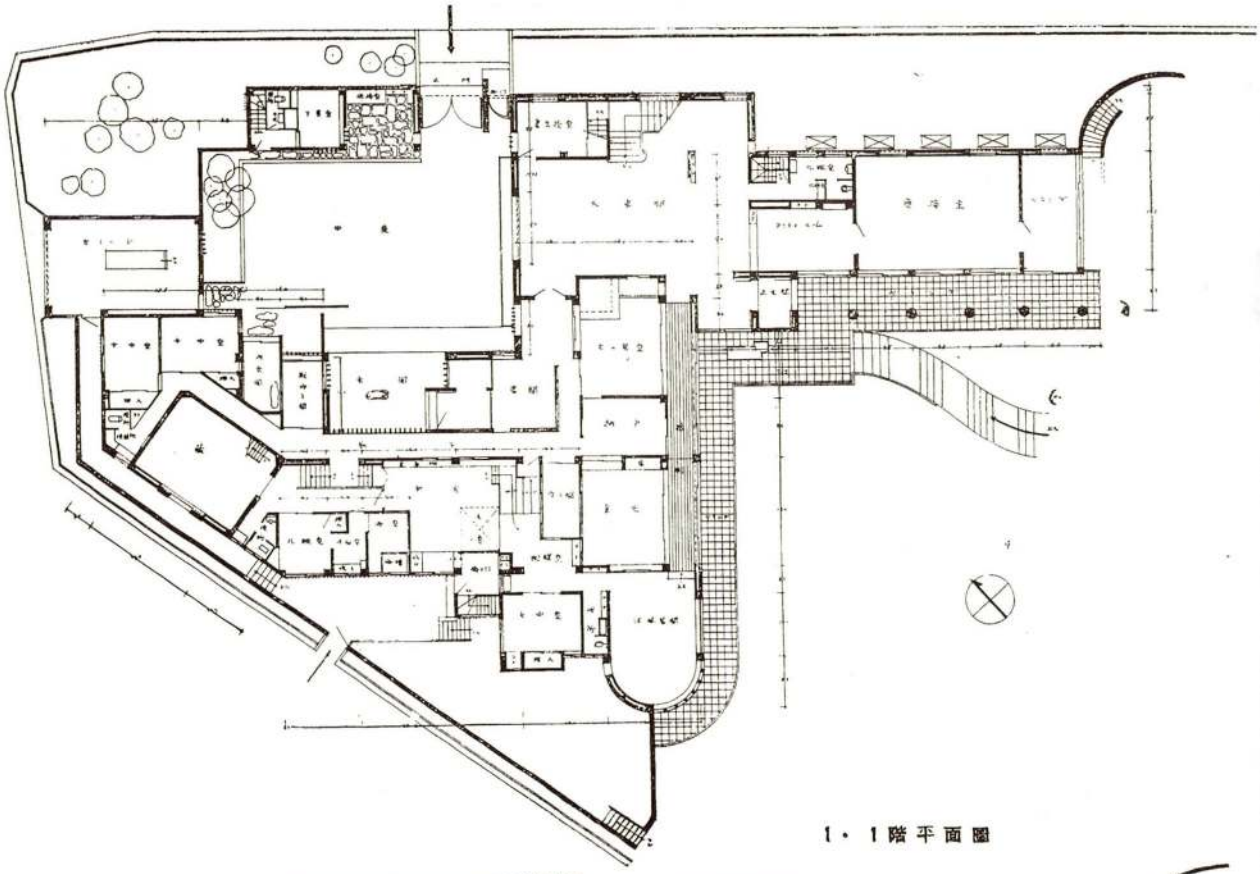


5・ホールより階段

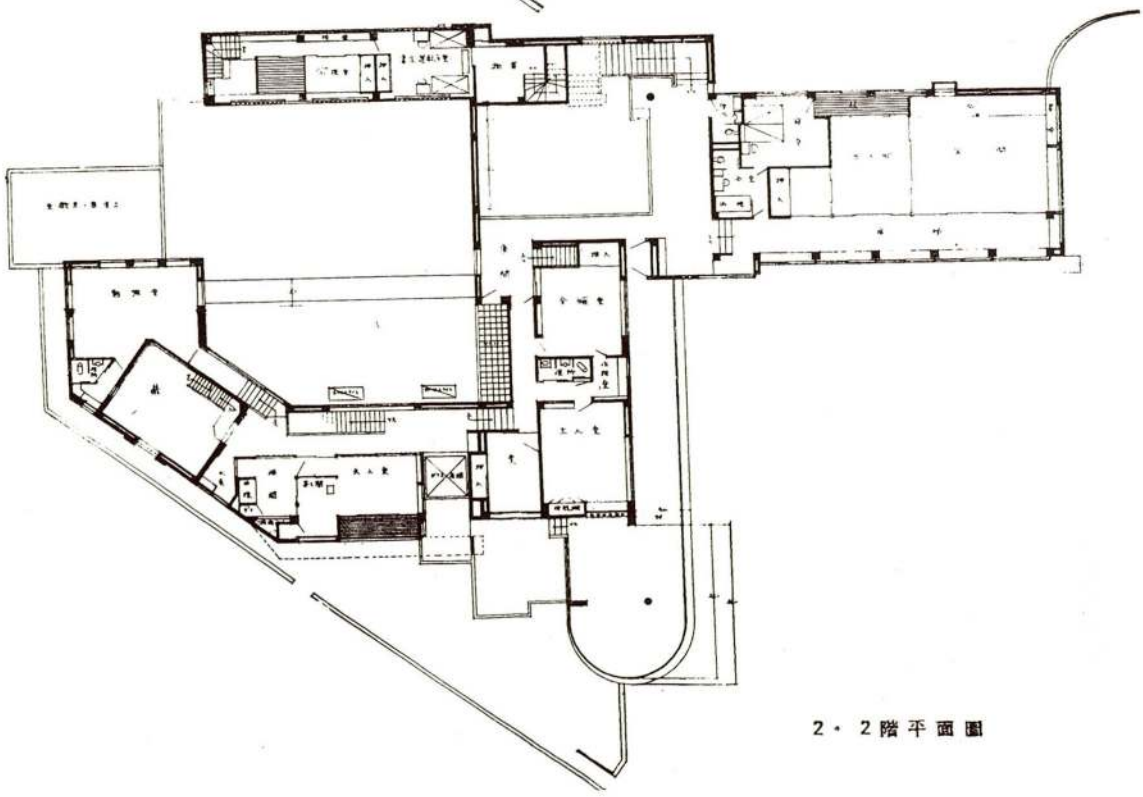


6・應接室

應接室壁面に洋畫と軸物、置物に和洋いづれをも觀賞し得る地袋床、棚の類を設け、加茂川の眺望に對する連窓の爲に室の落付を失はぬ樣壁面の布貼は滋味勝の鶯茶色を選んである



1・1階平面圖

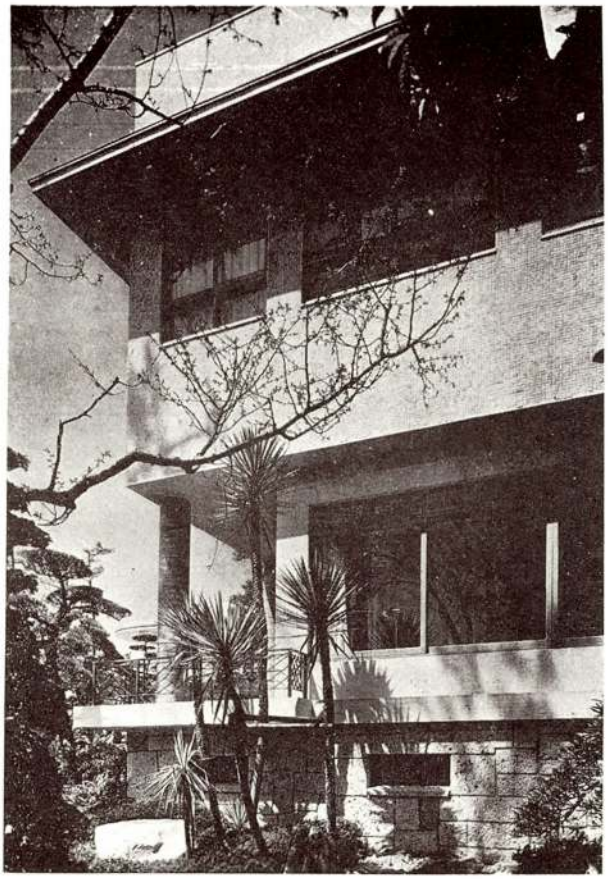


2・2階平面圖

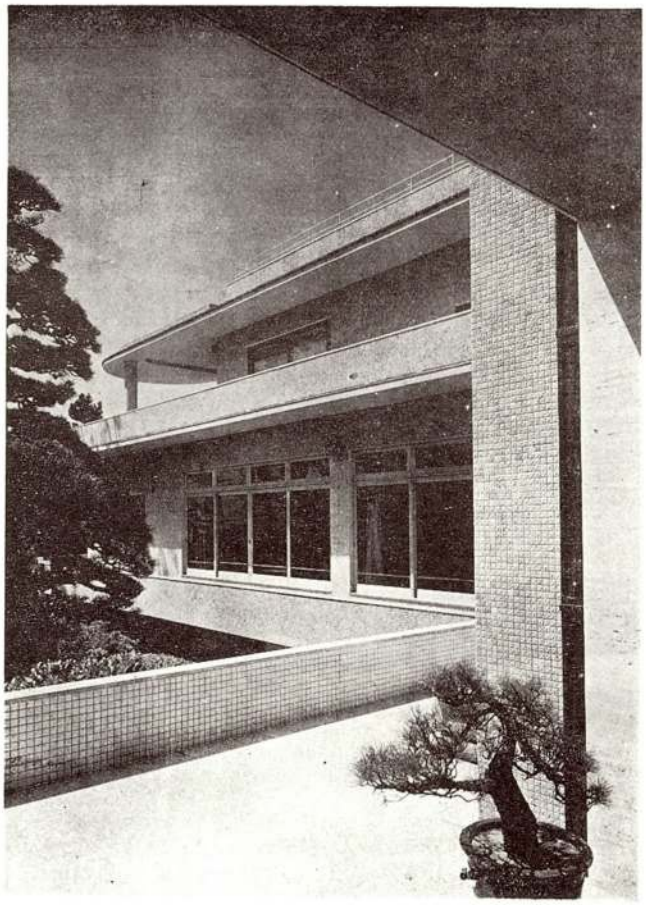
中山氏邸（阪急•芦屋）

設計　村野藤吾氏

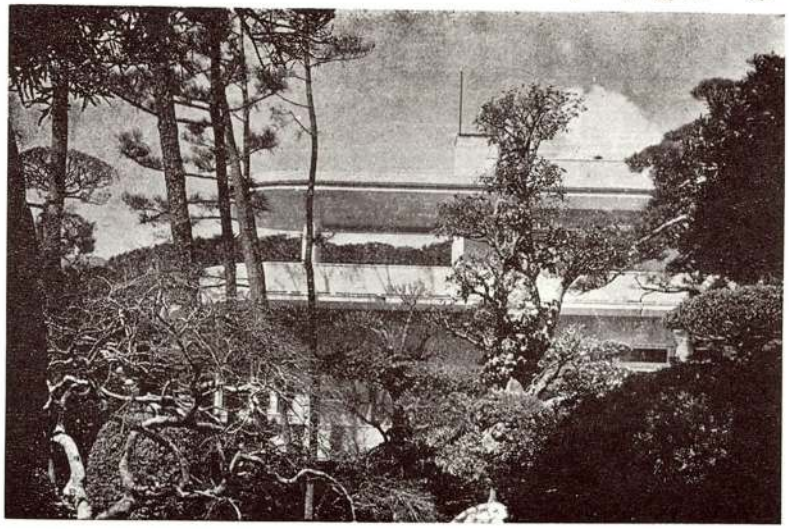
3・外觀の一部



4・同　上



5・外觀の一部



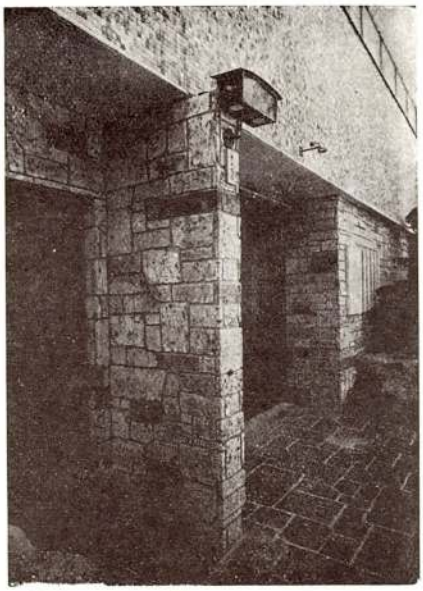
外壁は特製凹凸モザイツクタイルを使用し、平滑にして單調に流れ易きモザイクタイルに雅味と軟調を加へ庇下端等のリソイド等の調和につとめてゐる。

不規則な敷地と土地の高低の爲め平面上最も苦心の點がうかゞはれ道路に面して庭園をあしらひ塀を廢して建物そのまゝの外壁を見せて樹木と共に道路を美化したる點は場所柄として特筆すべきである、但しその目的が種々の點に於て設計者の意志に徹底出來なかつたことは殘念である

中山氏邸（阪急・芦屋）



6・南側外觀の一部

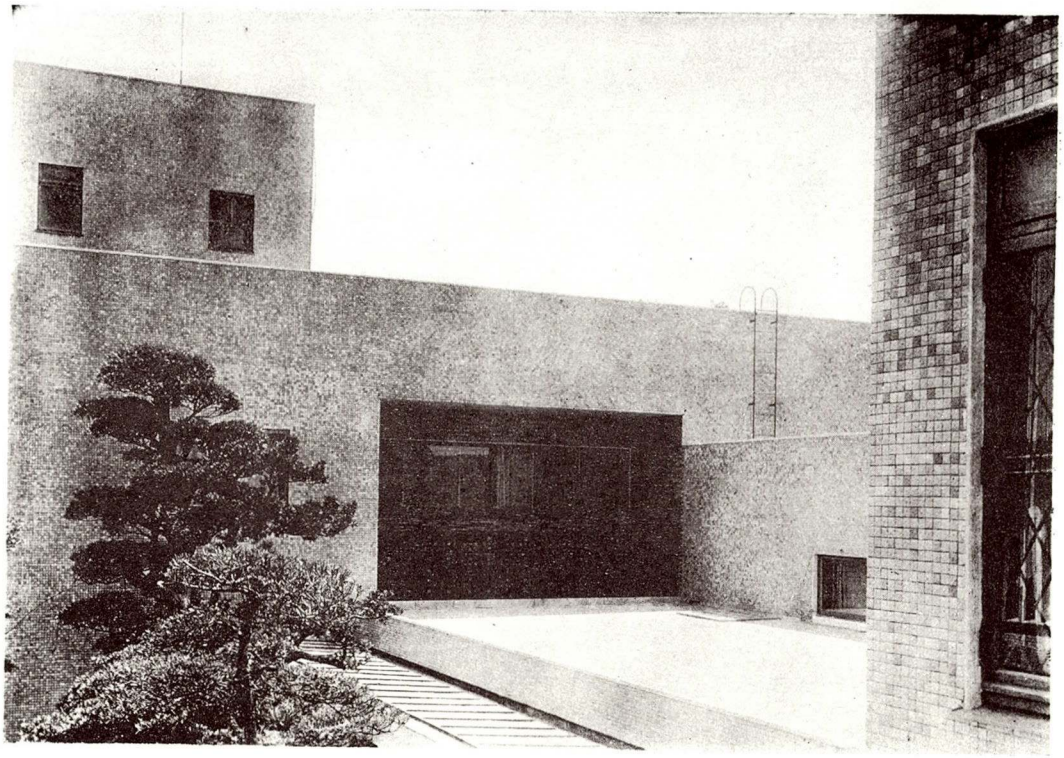


7・表　門

8・玄關入口

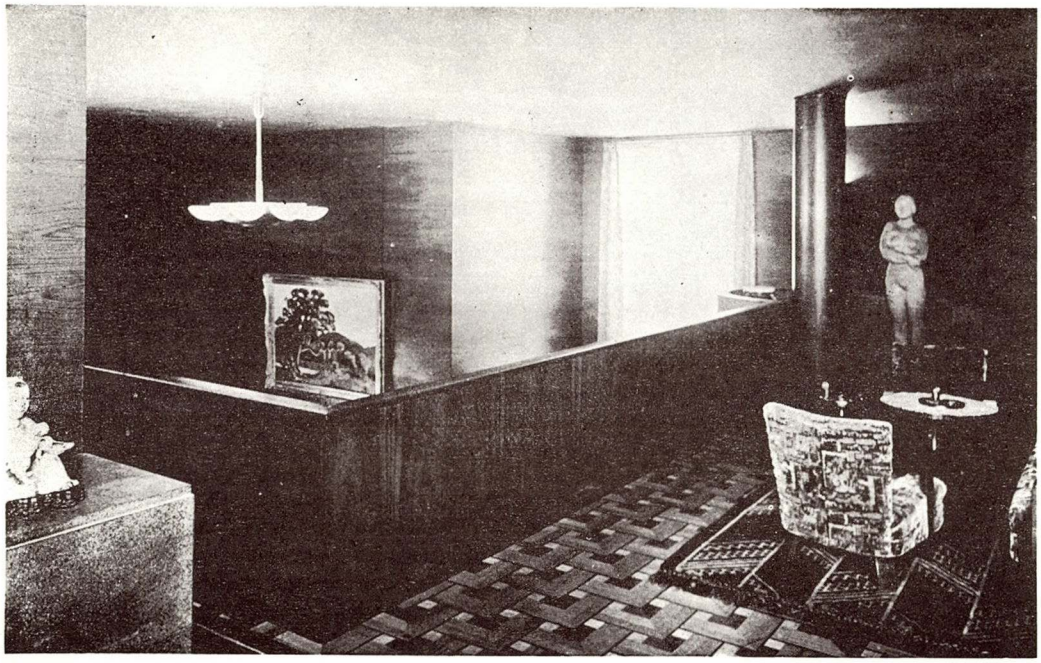
床は獨逸産トラバーチン、壁は伊太利産トラバーチン、天井リソイド仕上、扉の金物はホワイトブロンズ

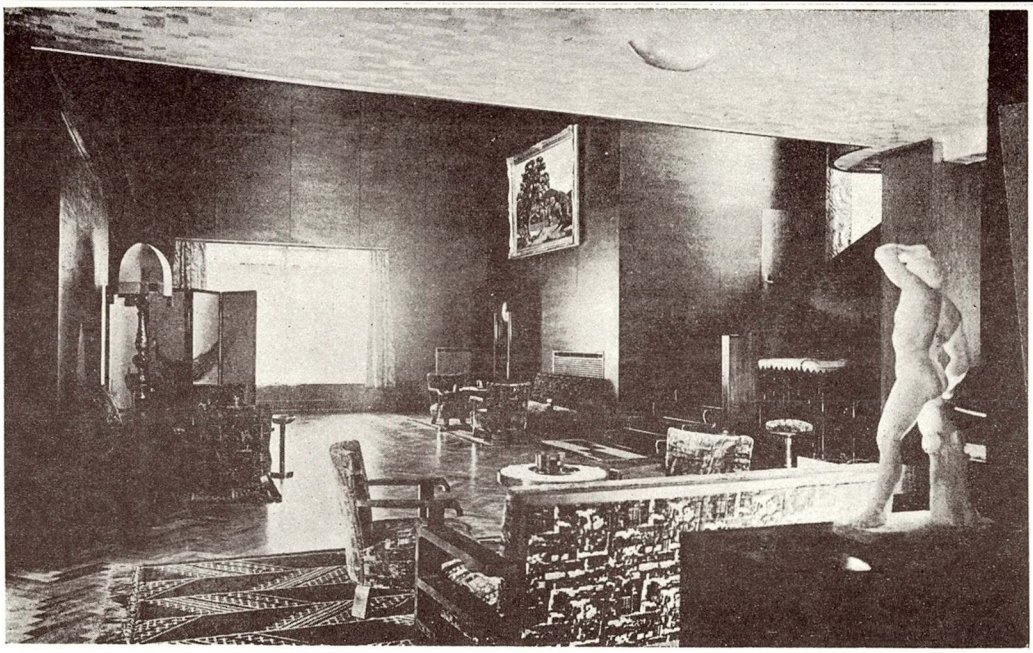




9・中庭バルコニー

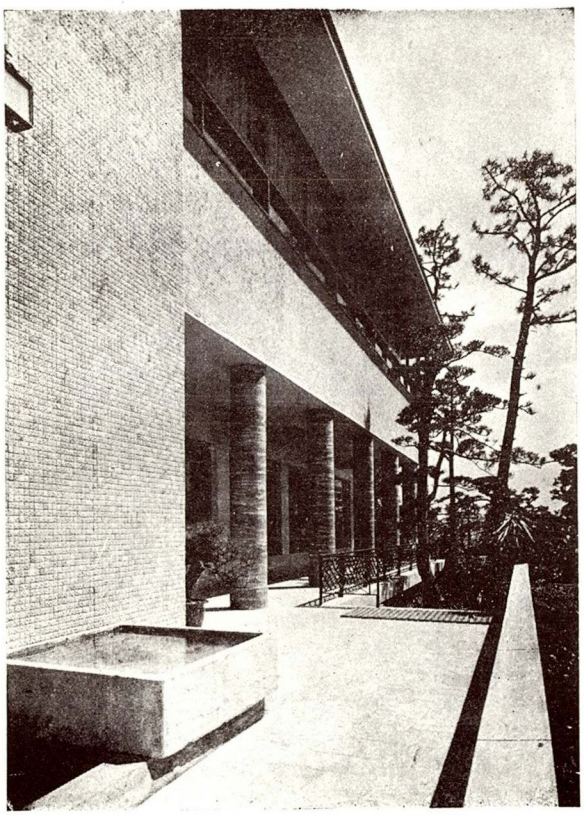
10・2階ギャレリー

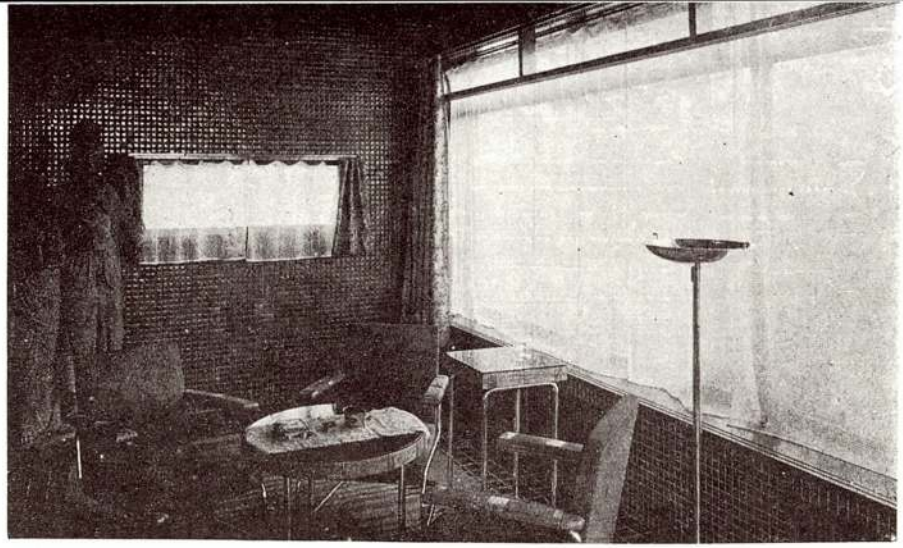




11・ アンティルーム大廣間を見る

12・ 外觀の一部・居間より應接間テレースを見る





13・ベランダ

壁及床は特殊タイル貼



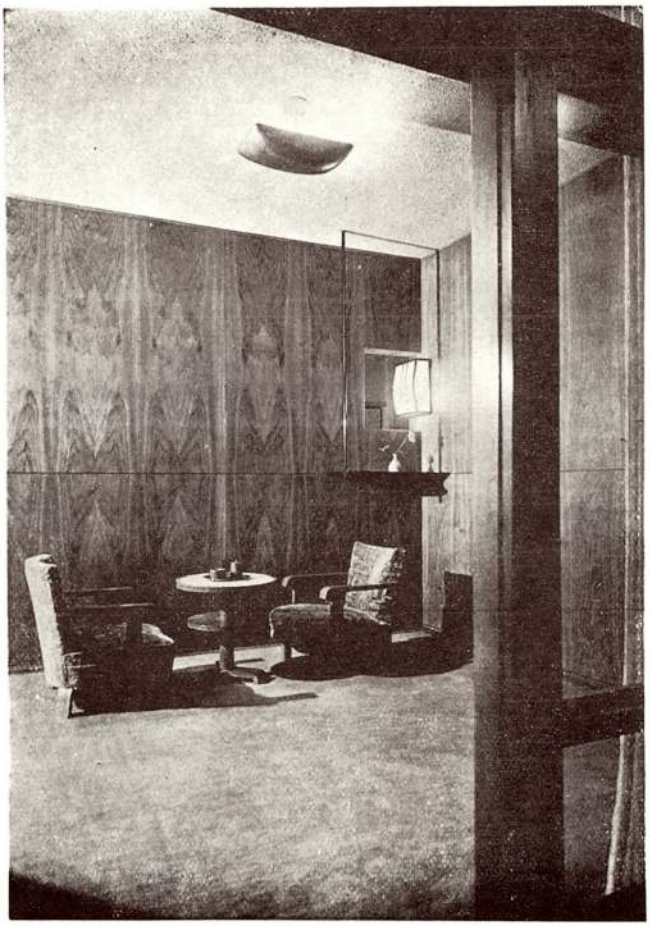
14・大廣間

床は寄木貼、壁は全部チークベニヤ、ギヤレリー手摺廻はサーカシアンウオールナツト及グレーメープルベニヤを使用し、天井はプラスター下地に銀箔モミ紙貼、壁面の重い調子を天井と單純な照明器具の色調とによつて氣安い氣持を求めてゐる。



15・アンティルーム

壁のテツコーとロイロタイルの色調によつて暖い調和を求めてゐる。

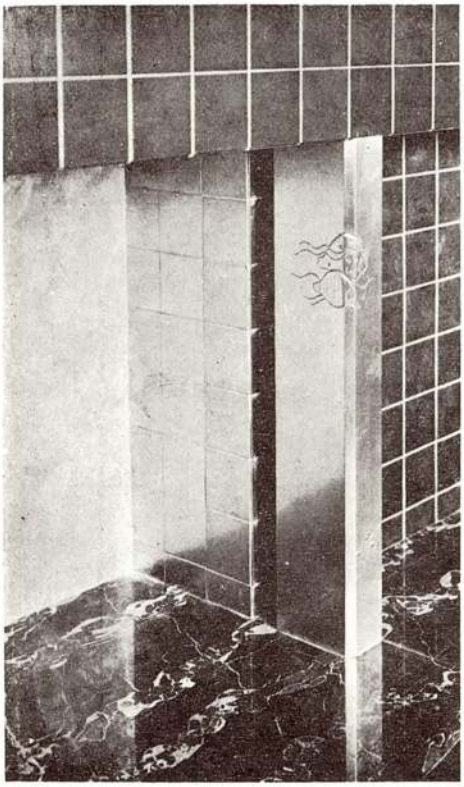


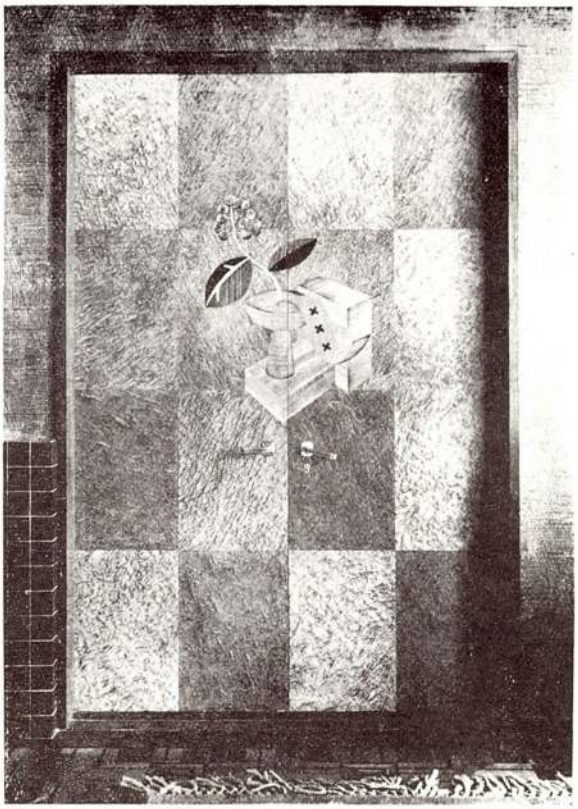
16・玄關廣間

玄關を入つて硝石スクリーンのレースをすかして見える處である、壁はサーカシアンウールナット、天井はリソイドペンキ仕上で、壁の電燈は日本間内廊下に兼用させて日本間との取合の不自然に對する緩和につとめてゐる。

17・ アンティルーム フアイヤープレース

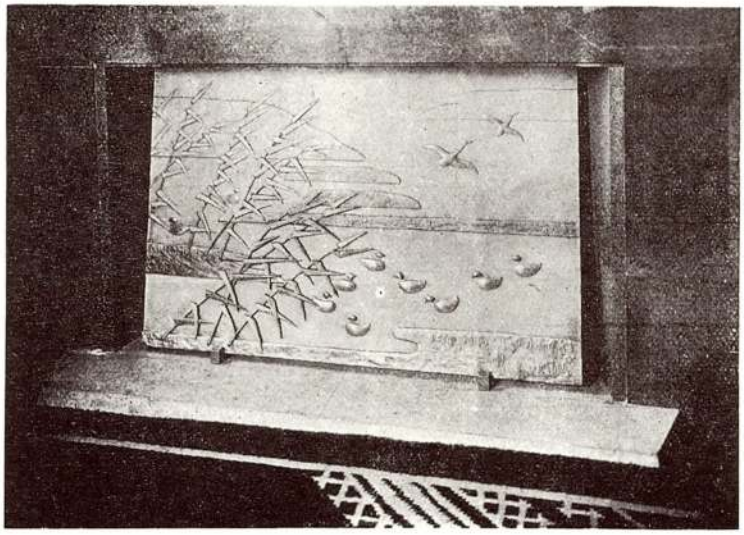
飾柱はホワイトブロンズに魚を彫刻し、腰廻はロイロタイルに金目地





18・ 應接間入口扉

グレーメープルのハギ合せに模様は桐の象嵌

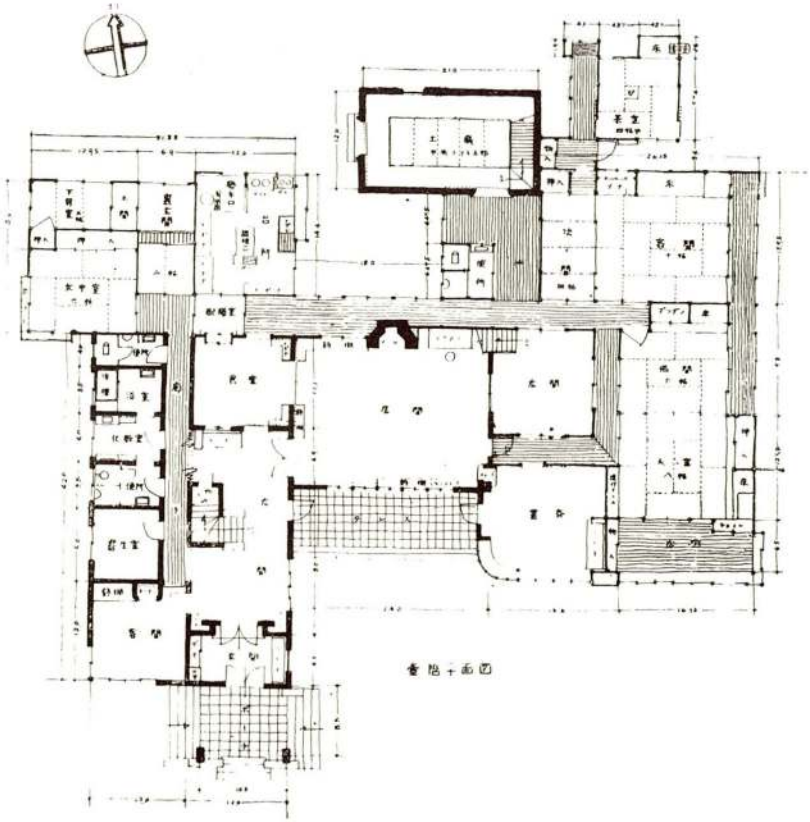


19・ 2階フアイヤープレース前飾

ホワイトブロンズの錆肌に金をあしらふ



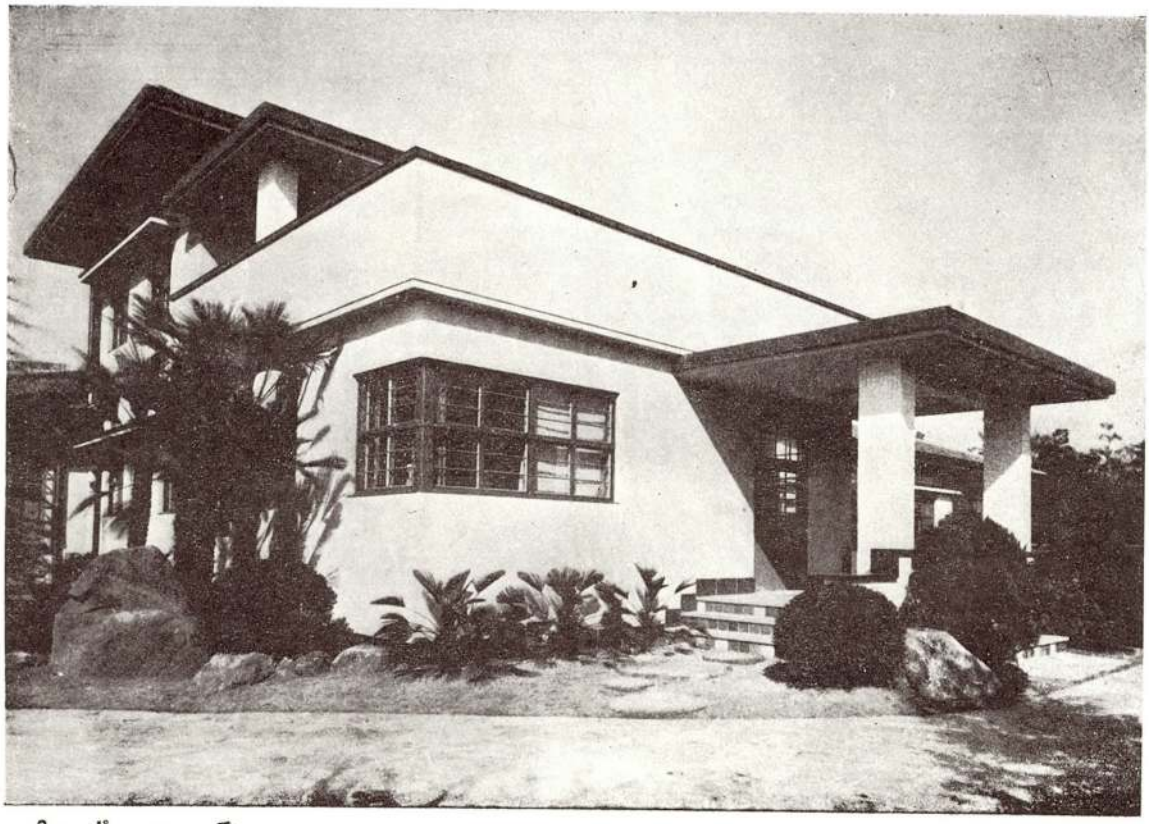
1・全　景



2・1階平面圖

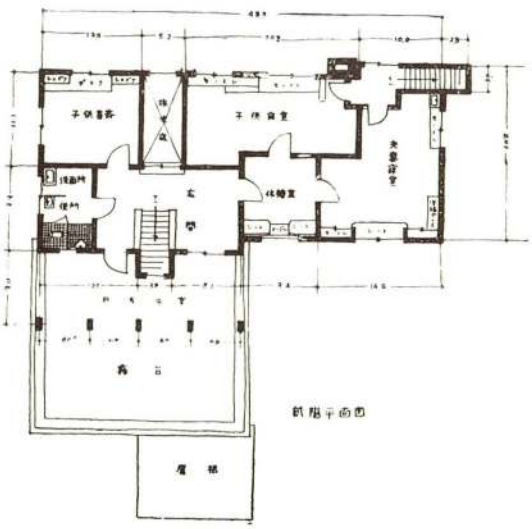
▽28　Y 氏 邸（阪神•香櫨園）

設計　一級建築士事務所　氏店
施工　本中工務店　乾工務店



3・ポ　ー　チ

4・2階平面圖

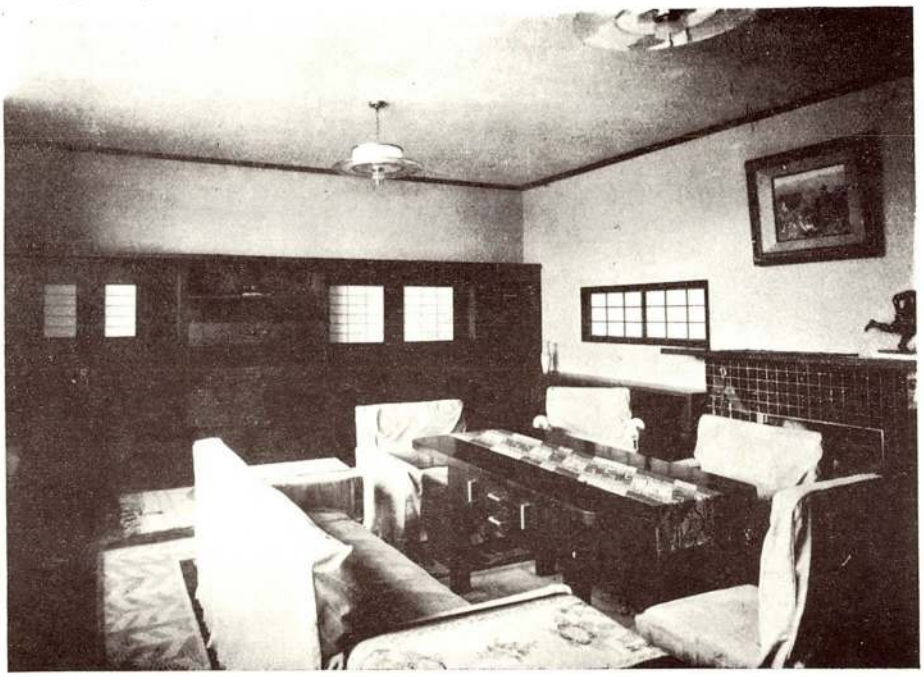


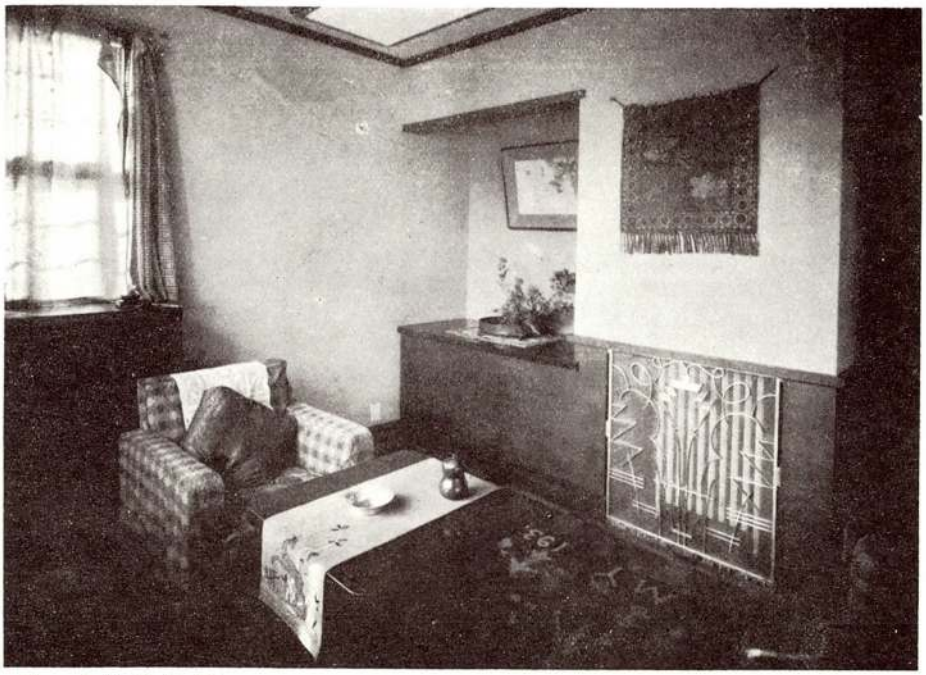
家具　内外木材工社
裝飾　藝株式會社



5・1階ホール

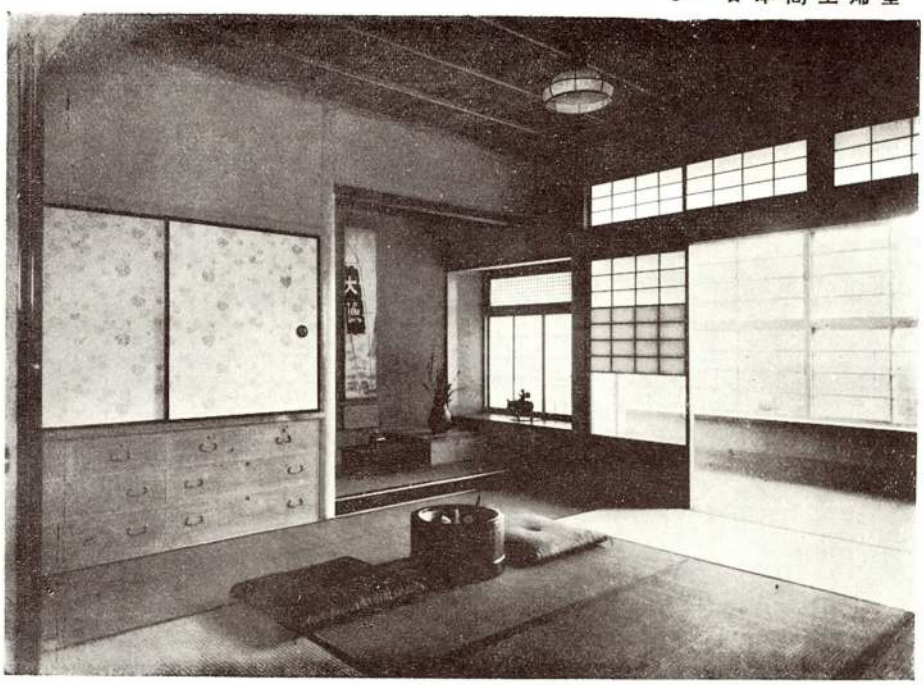
6・居　間





7・1階應接室

8・日本間主婦室

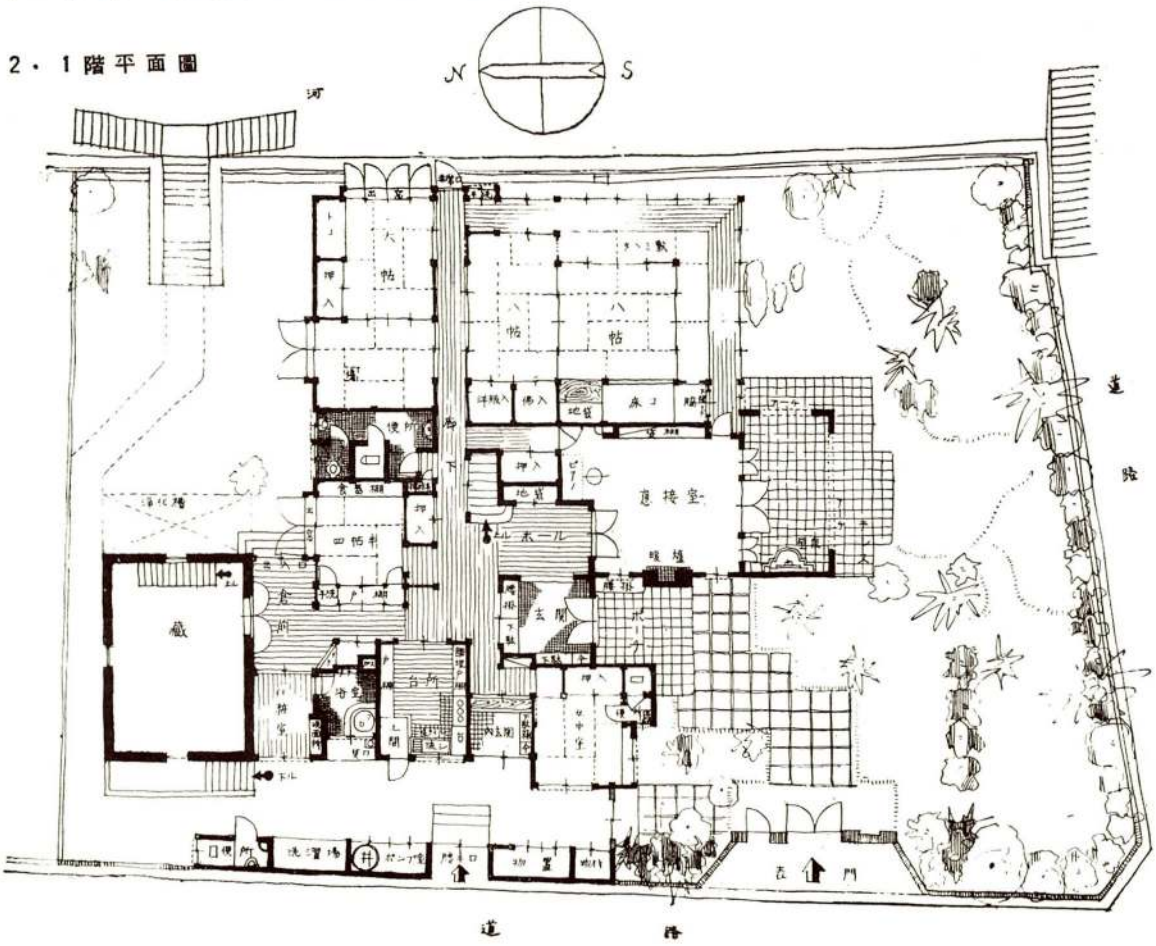


Y 氏 邸（阪神•香櫨園）



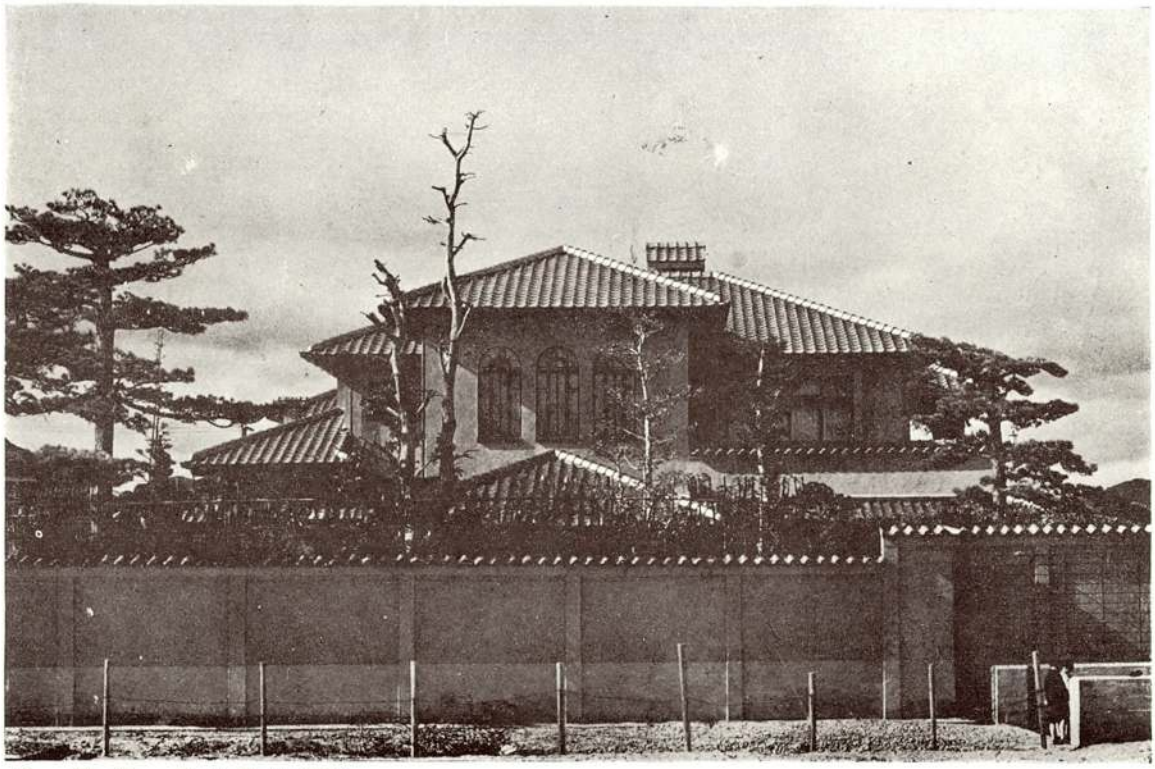
1・外　観　　東は京橋川に面し近く比治山の櫻が見える

2・1階平面圖



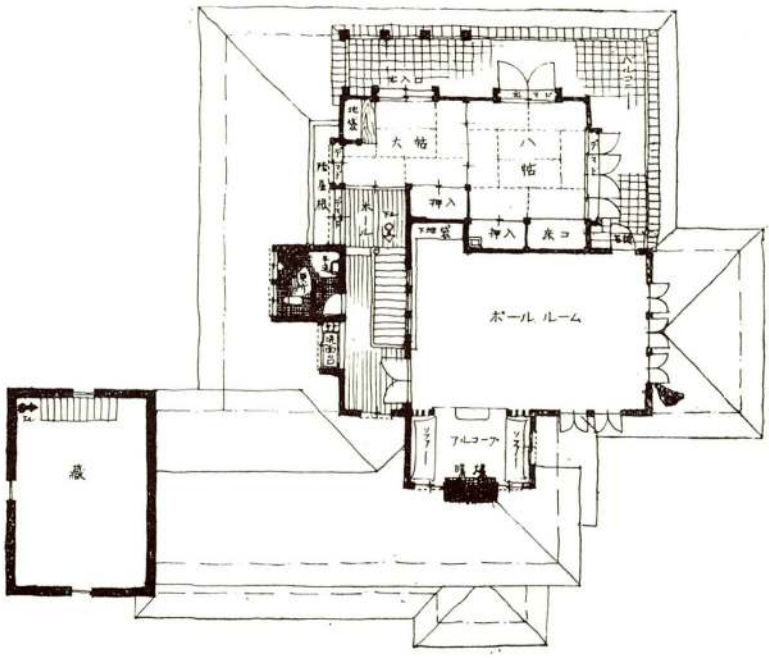
長尾氏邸（廣島市）

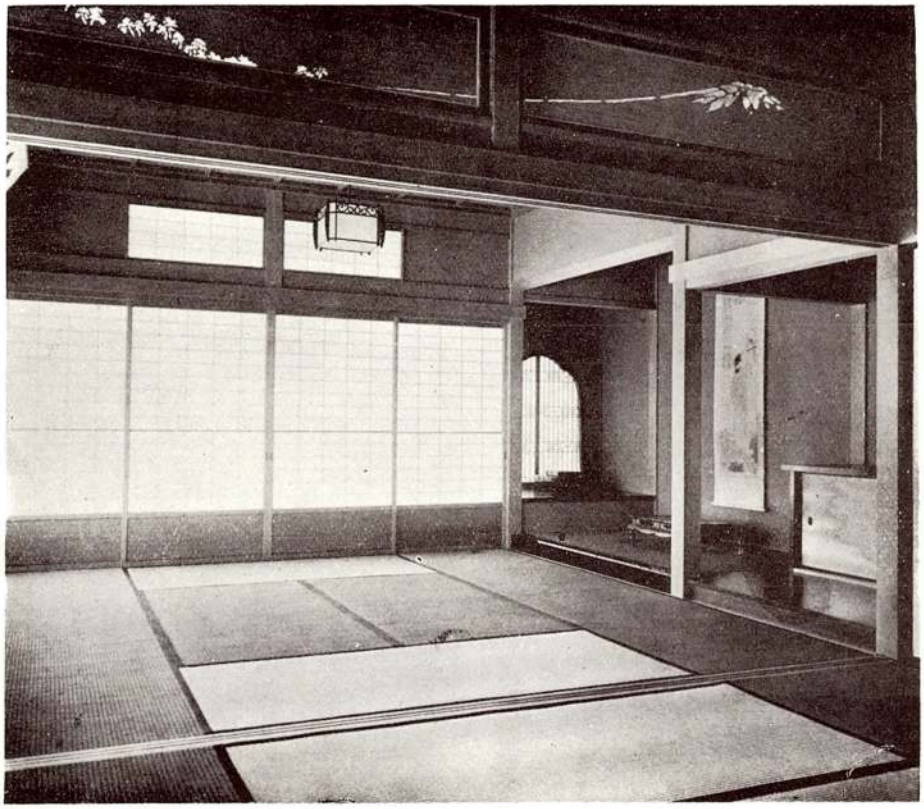
設計施工　三越住宅建築部



3・南面　瓦は黒日本瓦
壁はクリーム色
木部栗色ペンキ塗

4・2階平面圖





5・客　室



6・應接室(1)

壁紙は銀揉紙
扉はチークと
鹽地のベニヤ



7・ ボールルーム　オーク寄木床ワックス仕上

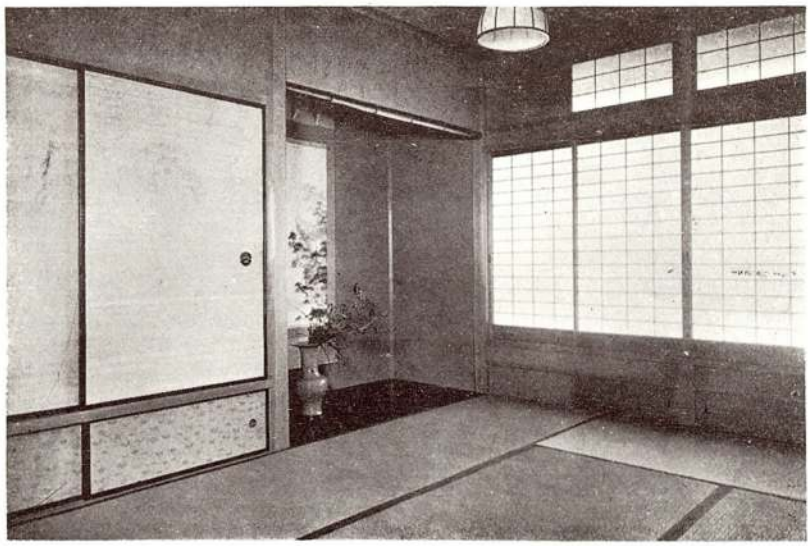
8・ 應接室(2)　煖爐はロイロタイル





9・ランマ

ランマは武田博士の考案に依る



10・夫人室

地袋、地窓は通風のためのもの



11・臺所

長尾氏邸（廣島市）

設計施工 三越住宅建築部

「夏の家」懸賞設計圖案審査概評

今回日本建築協會で懸賞募集中の阪神線淀川甲子園大林組住宅部經營地へ同住宅街完成記念として建つ「夏の家」設計圖案は 3 月 10 日の締切までに應募圖案 107 通であつた。

13 日午後 5 時から審査會を開いて下記の入賞 3 名選外佳作 4 名の決定をみた。

入選者

大阪市港區東田中町4丁目93番地ノ3

入選　「春」　堀　武雄

大阪市西淀川區佃町432田口彌市方

入選　「和」　三戸谷和久

兵庫縣明石郡垂水町西垂水神田町竹垂莊內

入選　「潮」　宮地米三

選外佳作名

大阪市住吉區田邊東ノ町7丁目34

選外佳作　「昭」　清水善之助

兵庫縣尼ヶ崎市竹谷町3丁目99

選外佳作　赤丸小島陽

大阪市西成區粉濱中之町2丁目46

選外佳作　「松」　荒川利一

京都市左京區修學院中林町106ノ3

選外佳作　「芳」　皆川辰雄

當日出席審査員は下記であつた

藤井厚二　古塚正治

古宇田實　本間乙彥

武田五一　村野藤吾

松本儀八　葛野壯一郎

審査概評

今回の應募圖案は實に 107 通の多數に及んだのは募集規定がまことに自由性に富んで居たことも其理由の一つであらう。

特に總體的に見て何れも眞面目な力作が多く熱心な努力の跡が認められてゐるのは何といつても愉快なことである。

此種の競技圖案としては實に一段の進境を示し將來の日本の小住宅の基調ともなる樣な作品が少なからず見受けられた。

入選に至るまで順次 4 回に亘つて審査を遂げて入選と選外佳作の決定をみたが入選案に對する各審査員の批評中入選案は夏に住よく其他の時期の住居としても決して無理がない、無難な案だと思ふ。

特に入選案は無論のこと應募圖案の一般的に付て目立つた點は

1. ドローイングが叮嚀で上手になつたこと。
1. 風通しの具合と日照關係を大に考慮せられて居ること。
1. 臺所の設備等に至るまで詳細な注意が拂れて居ること。
1. 和洋折衷が無理がなく所謂板についた樣になつて來たこと。
1. 外裝に下見張を取入れたものが割合に多かつたのは土地の狀況から考へられたものでもあらうか。

尙共通的に苦言らしい氣付いた點を擧げて見ると

1. 玄關出入口の近くに便所を設けることは感じの上からと、プライベーシーの上から考慮の餘地があらう。
1. 應募案中夏の家と云ふよりもあまりに在來の間取のいき方に捉はれ過ぎたものもあつたのは物足りない感じがした。
1. 夏の家としては臺所の位置は東側に置くのが賢明であらう。　等々



建　坪　27.92坪

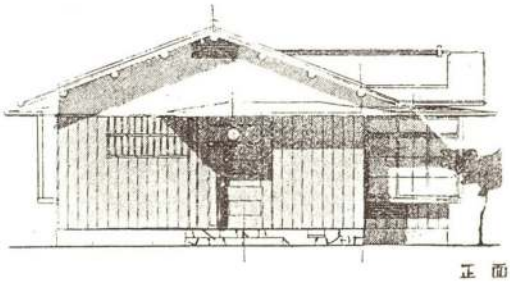
プランニング　夏向の家として、通風換氣を第一に考慮し、伸び伸びした開放的な配置にしました。建具も出來るだけ引違にして、取去れば狹い部屋も廣く使用出來ます

外　觀　在來の和風住宅に、モダーン味を多分に取入れました

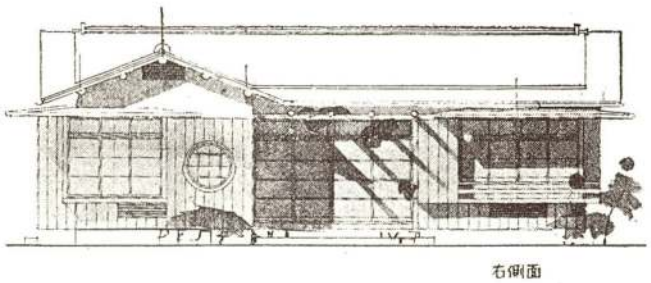
構　造　木造平家建基礎混凝土布地形及玉石地形。木骨造和小屋屋根黑色日本瓦葺、一部銅板葺とす

外部仕上　腰　モルタル塗
壁　米松板竪羽目張上部セメントスタツコ塗
床　ポーチ及テレス床は鐵平石張

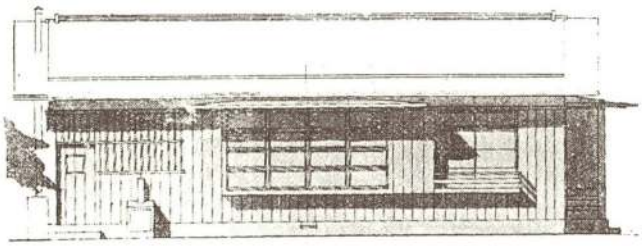
內部仕上　床　和室疊敷洋室米松板張
浴室便所タイル敷
壁　和室砂壁洋室漆喰塗
天井和室竿緣天井洋室テツクス張水性ペンキ塗



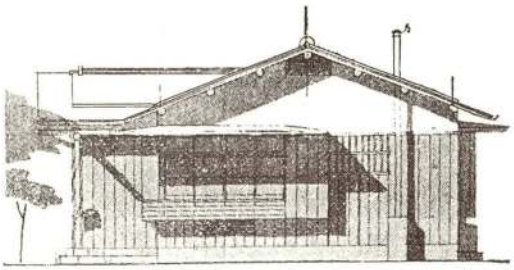
正面



右側面

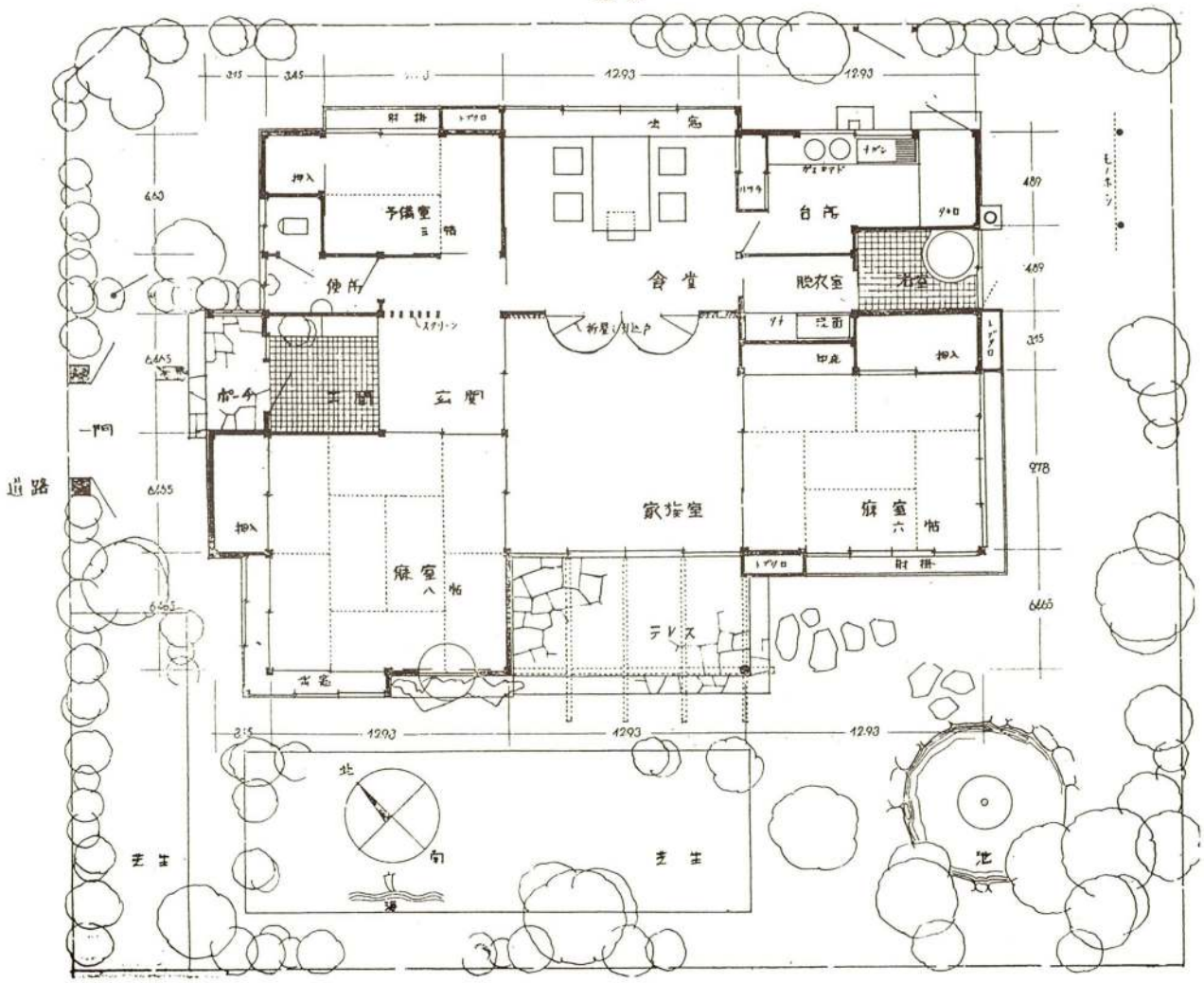


左側面

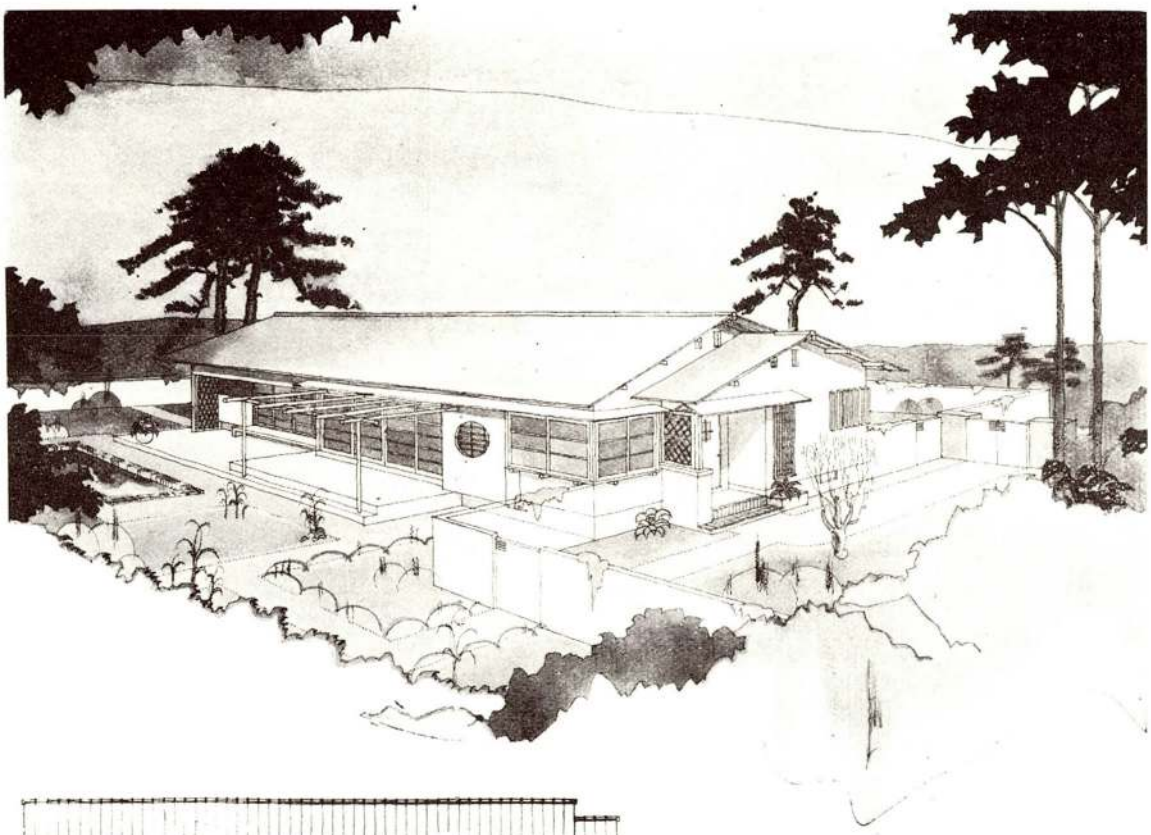


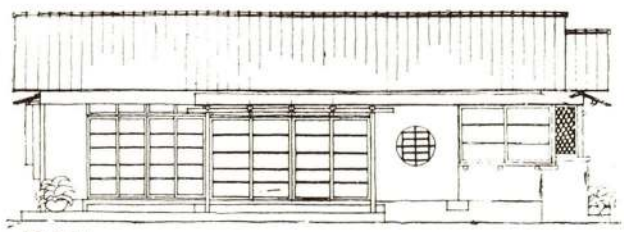
背面

道路



海邊に建つ「夏の家」懸賞設計當選圖案　　入選　　堀　武雄君

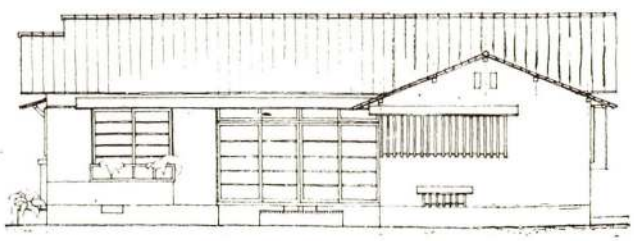




南門圖



東西圖



北西圖

様式　日本趣味を加味した洋風住宅

構造　木造耐震構造、割栗地形、土臺廻り混凝土打、土臺ボールト締、和小屋造

外部　鐵鋼張、セメント塗、腰見掛り人造石洗出し仕上、ポーチ及びテレースは小口タイル張

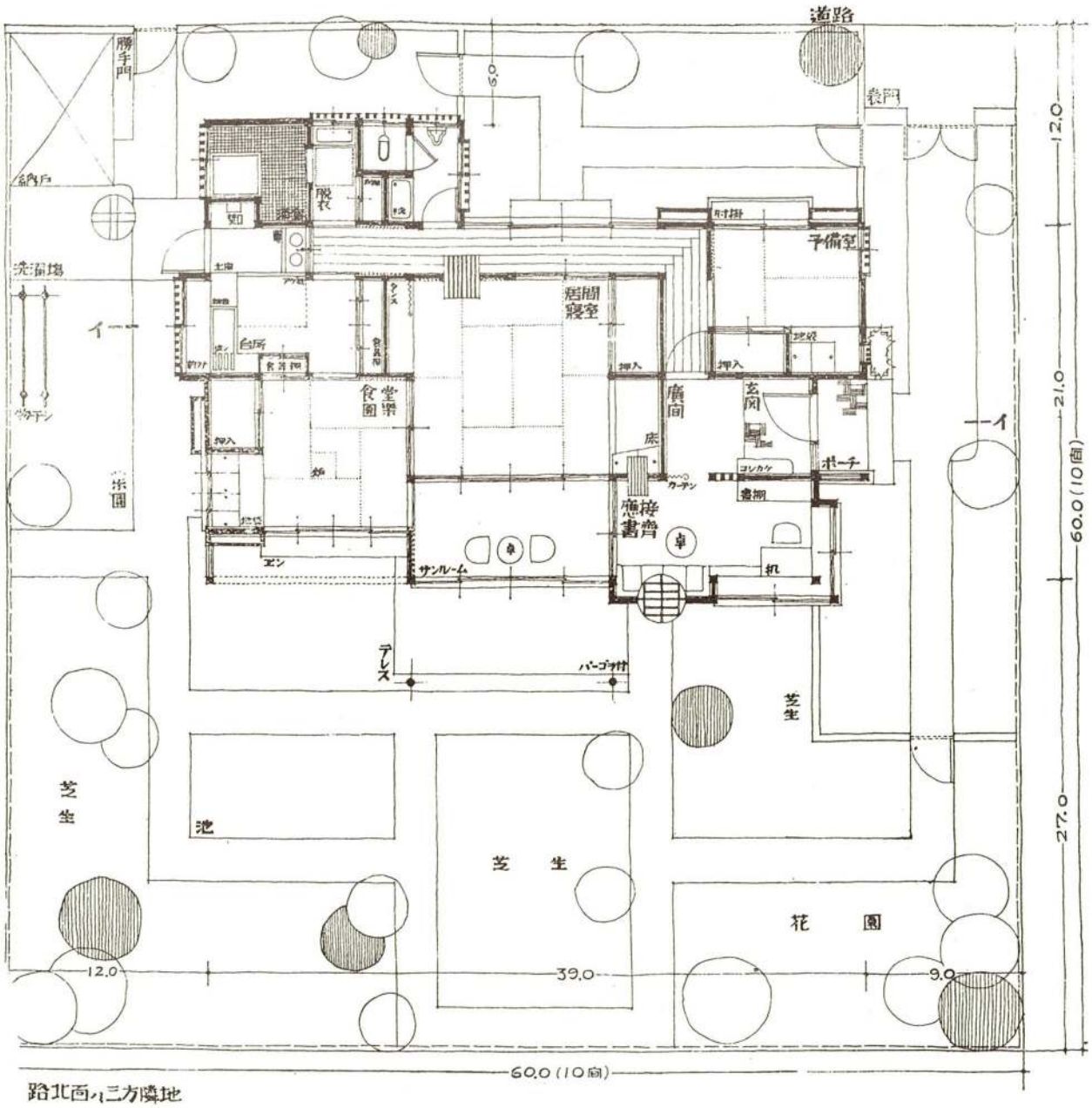
内部　洋室、壁、天井テックス張、ペンキ塗巾木仕舞、和室真壁棹縁天井

屋根　土居葺の上、桟瓦葺、勾配4寸勾配

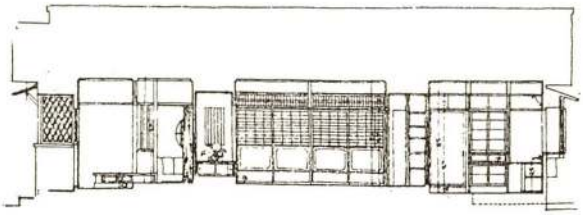
浴室　床アヅキ色、腰白色タイル張、浴槽檜製2人箱風呂据へ天井は打上天井

便所　大正式汲取便所

配置平面圖

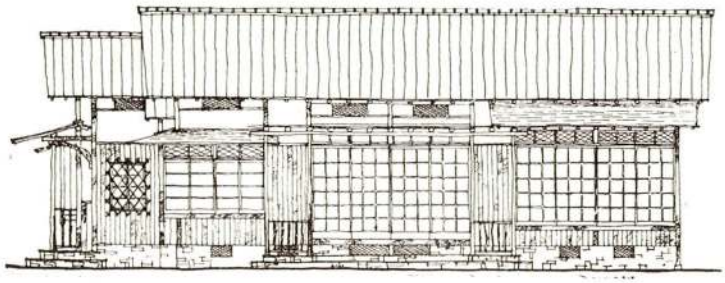


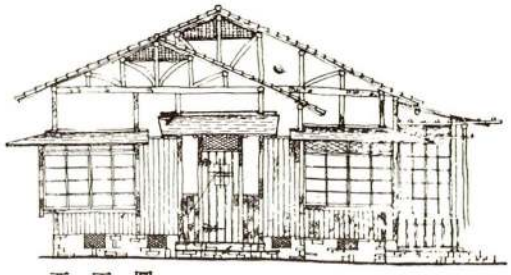
路北面ハ三方隣地



イーイ断面圖







西面圖

敷地坪數　110坪（11間×10間）
建　坪　29坪52
建築費　4000圓

型式　日本茶室風に洋風を加味したるもの

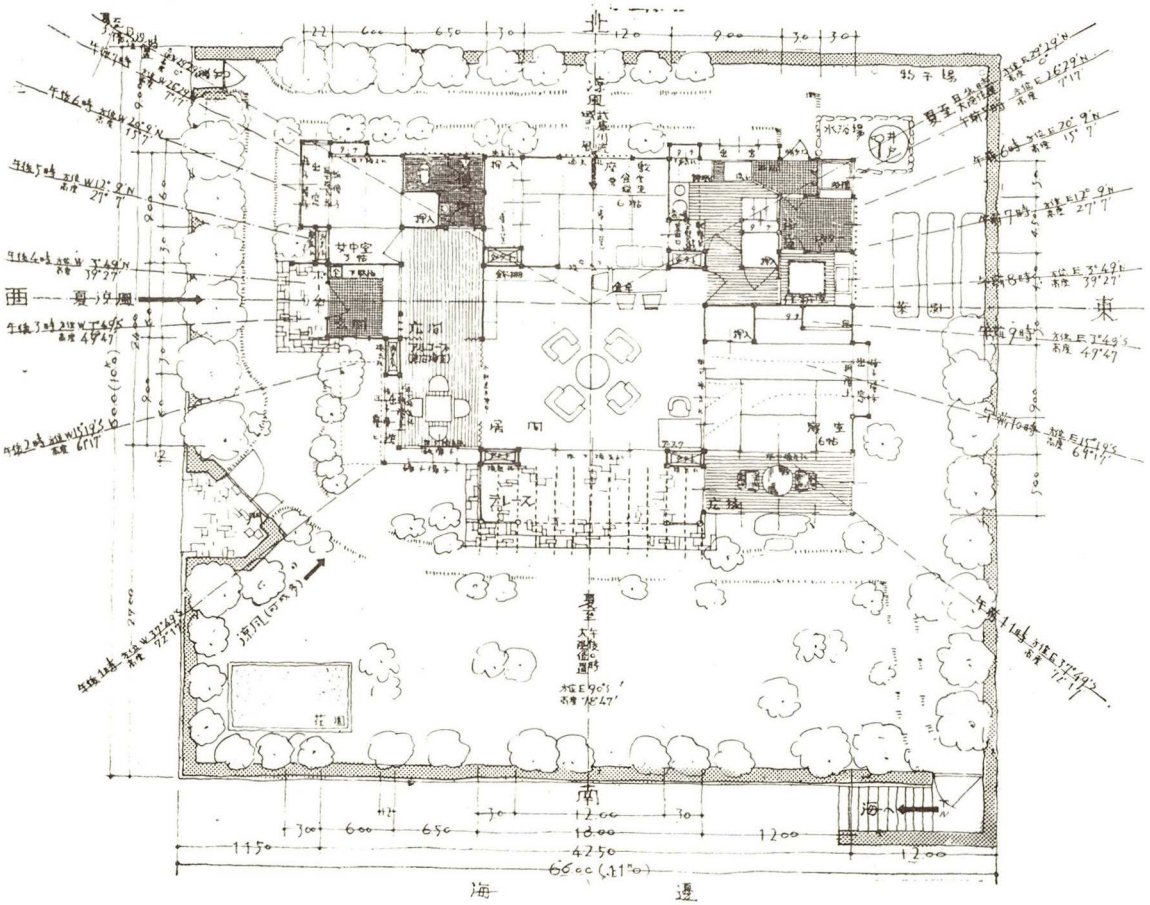
特徴　夏の家として通風、日照に重きをおき、居間（北側座敷を入れて）を中心として開放的なプランとして設計しました。居間を涼しくするために西側にアルコーブ、廣間、玄關、女中室の窓は出窓とし庇出を多くして日射を遮り午後4時以後の西日は日覆ひ、樹木に遮る尙南側及西側の壁を一部二重壁構造として下部に換氣窓を設け、床下小屋裏とも連絡せしめ、内部氣流を良くし温度の上昇を防げり。尙居間の北側の床下換氣孔より武庫川流域よりの北風を取入る、別に居間と座敷との境のダクトを通じて直接外部と小屋裏とを連絡せしむ。冬期には各換氣孔を閉ず海水浴より歸りて、水浴の出來る様井戸と浴場内を廣くして、シヤワーを設け直接勝手口より浴室へ入る様にす

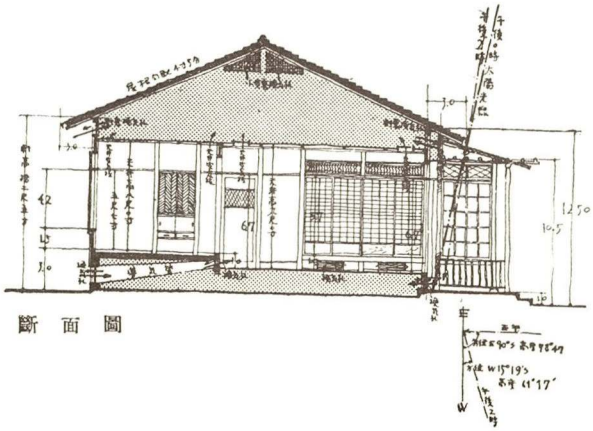
構造　木造平家建日本瓦葺、床高居間2尺、座敷、寢室は1尺上り基礎及腰廻混凝土打ち一部南側西側純二重塗構造

外部　日本式眞壁塗薄クリーム色、腰竪板張、柱共ナグリ仕上、クレオソート塗下部腰廻、淺綠色漆喰塗一部鐵平石貼
ポーチ、テレース、鐵平石貼付、棟母屋及パーゴラ丸木造、パーゴラは葭簀張又は藤葛をからます

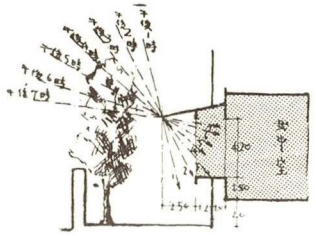
内部　壁眞壁式、居間壁カンバス張ペンキ塗、格天井格綠丸太、疊敷部竿綠天井雜木丸木又は竹を用ふ
門は道路の關係によりて、北側の西方へ置いても可なり

海邊に建つ「夏の家」懸賞設計當選圖案　入選　宮地米三

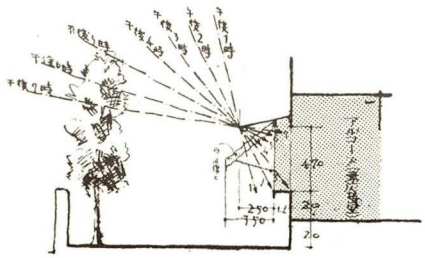




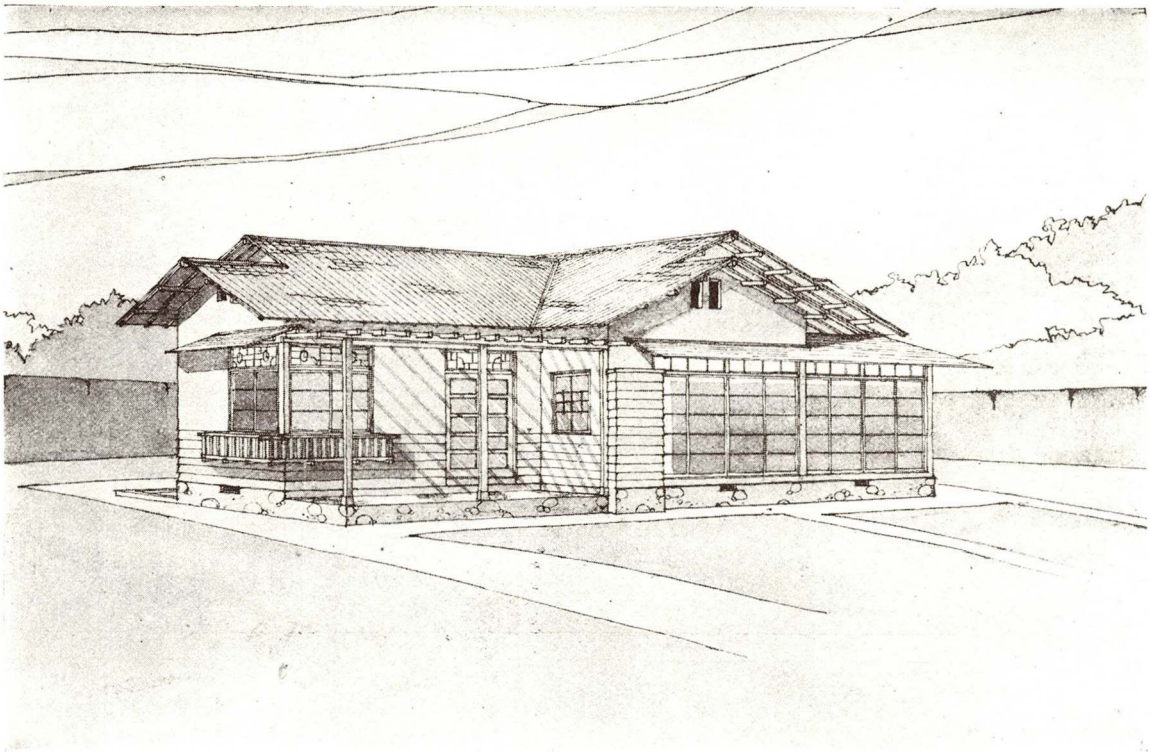
斷面圖



夏至における太陽位置
(女中室)



海邊に建つ「夏の家」懸賞設計當選圖案　入選　宮地米三君　43



木造瓦葺平家建

建坪 30 坪

軒高、地盤面より軒桁峠迄、12 尺 5 寸。屋根、太平瓦葺、勾配 4 寸 5 分。外部腰廻、米松下見板張上部ラス張、モルタル塗の上、リソイド塗仕上

地形廻土臺下、布堀混凝土打、見え掛玉石入モルタル塗仕上

軸組土臺檜防腐剤塗、柱は栂材桁、米松とす小屋組、和小屋一部敷野地とし板張防腐材塗

内部仕上、居間小供室等板張部は檜材とし、大壁塗壁紙貼、天井プラスター仕上、適當の位置に通風孔を設く

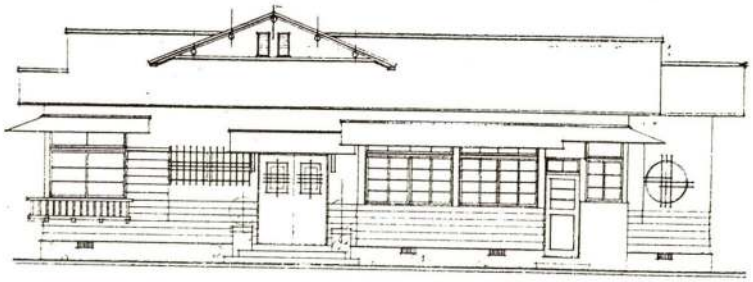
臺所床、一部揚板、下は物置

浴室は戸外に直接出入口を設け、海水浴後外部より直接入浴することを得しむる様設備

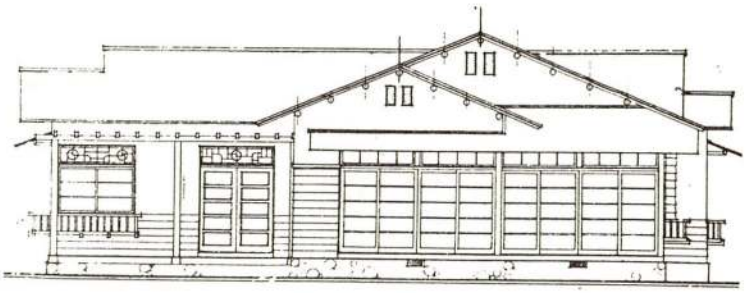
便所は大正便所

洗濯場兼足洗場、浴槽より水栓により湯を導き洗濯に用ふ

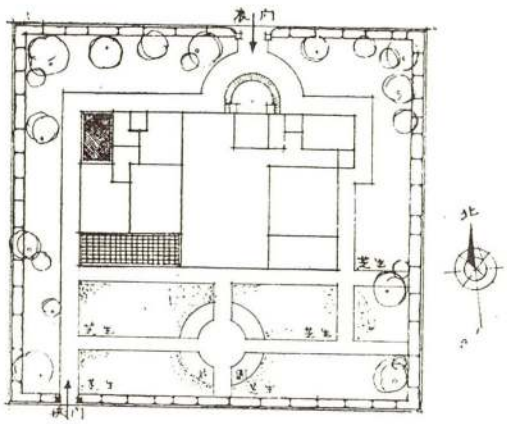
造作材、洋間はラワン材ステイン塗仕上、和室は檜又は杉を使用



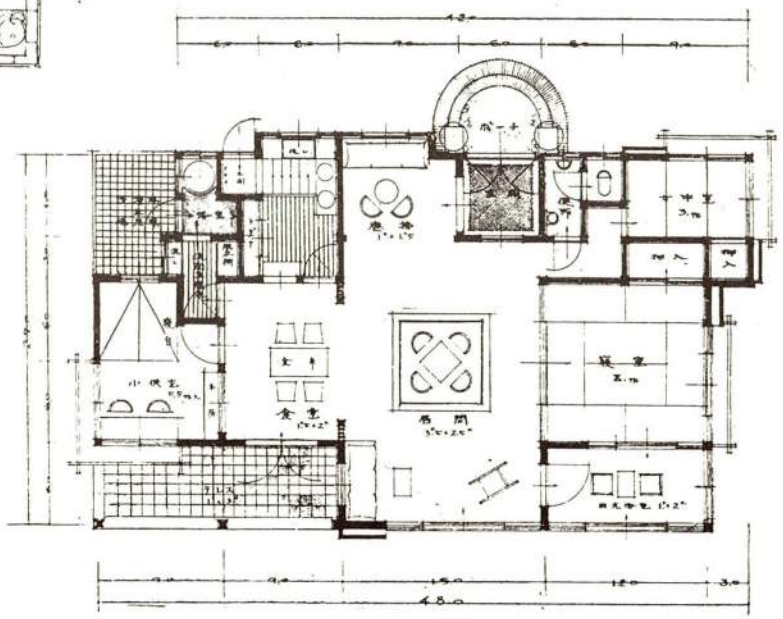
北側立面



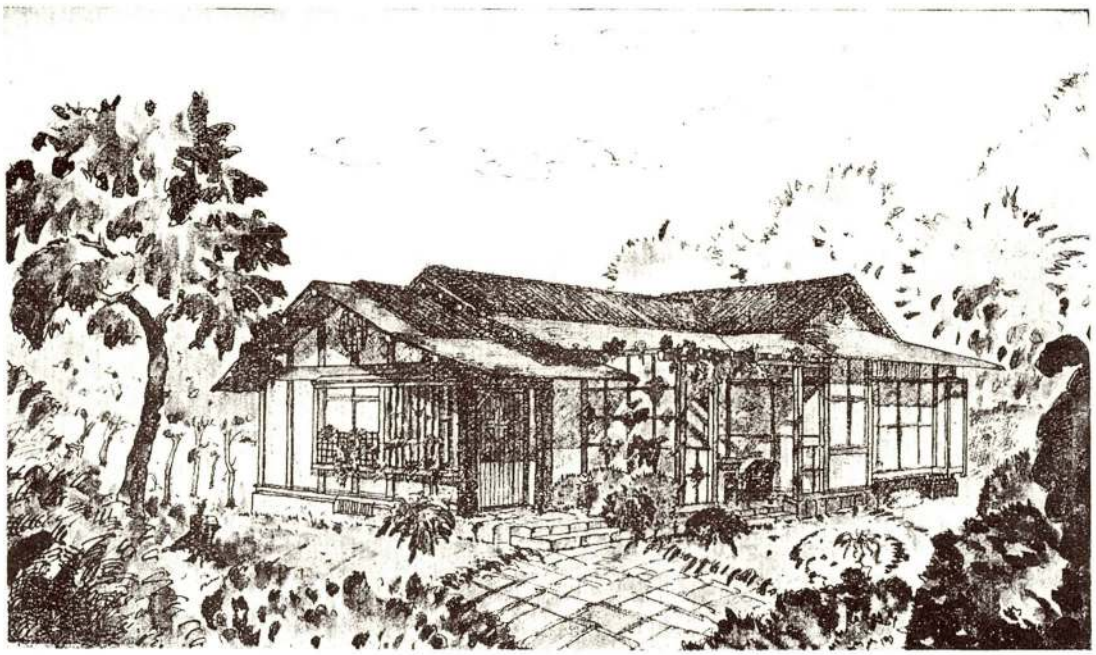
南側立面



配置圖



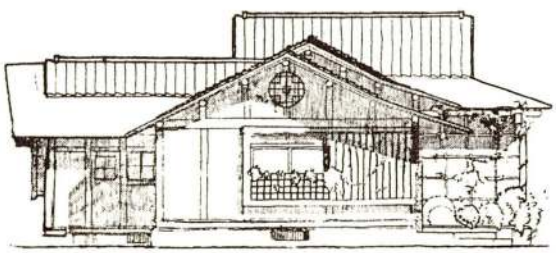
海邊に建つ「夏の家」懸賞設計當選圖案　　佳作　　清水善之助君　45



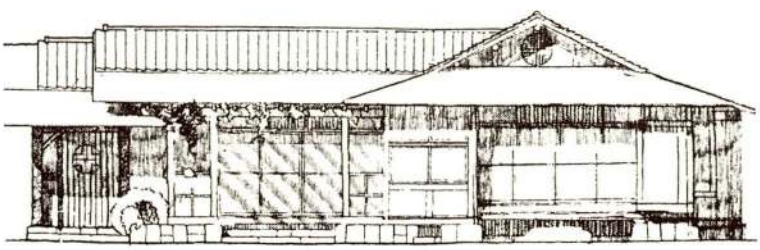
夏期海濱に於ける生活に重點を置くと同時に冬期のことも考慮した
プラン全體は之を活動と休息の二大部に分ち前者は和風を加味せる洋風とし後者は純和風
又兩者の床高を更へて其の獨自性を圖ると共に（床下換氣利用）且又相互の機能的な連絡と調和を考へた
夏期の通風換氣は建設地方の主要なる風向きを考慮す

敷　地　100 米坪（400平方米）
建　坪　30 米坪（120平方米）
外　觀　和風を基調とせる洋風建
屋　根　中央部日本瓦葺又はルーフイング二層貼の上に鐵網混凝土打ペンキ塗
木部見掛　柱型等はオイルステーン塗化粧母屋鼻テレス藤棚等の木口は白ペンキ
腰廻　表側玉石積裏側混凝土モルタル塗テレス玄關ポーチ段石は亂石貼
構造其他　基礎。周圍及一部は布堀地形中は壺堀東立式（床下通風のため）木部。土臺桧、柱杉又は米栂應曲部材松、造作化粧材主として杉一部桧
壁　眞壁式、主として漆喰塗
洋室、玄關セロテツクスの類和室、小壁床壁廻等は砂壁其他漆喰便所湯殿等一部タイル張
床　和室疊敷　洋室玄關廣間、簡易なる寄木張玄關便所浴室等タイル張
天井　主として和風洋室玄關等はセロテツクスの類
尺度すべて米制に依る、在來3尺の基準を1米に改む
軒高　主要部　3.5

	洋室	和室	其他
床高	0.60	0.95	0.60
天井高	2.70	2.45	2.25
內法高	2.10	1.75	1.75

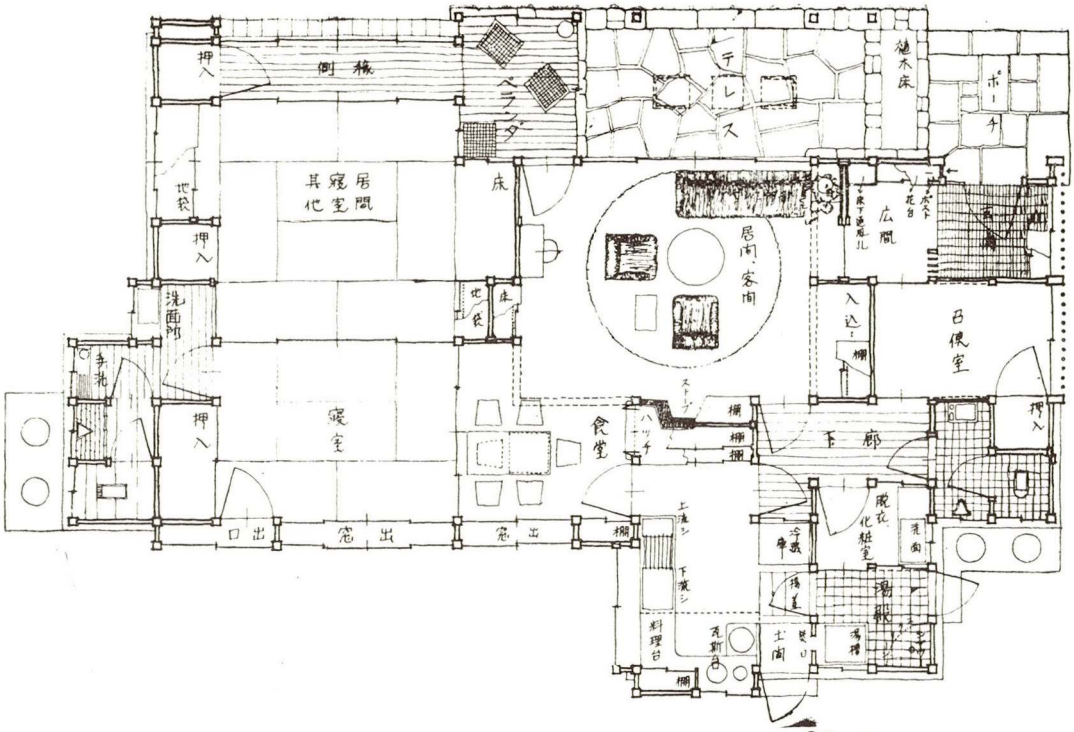


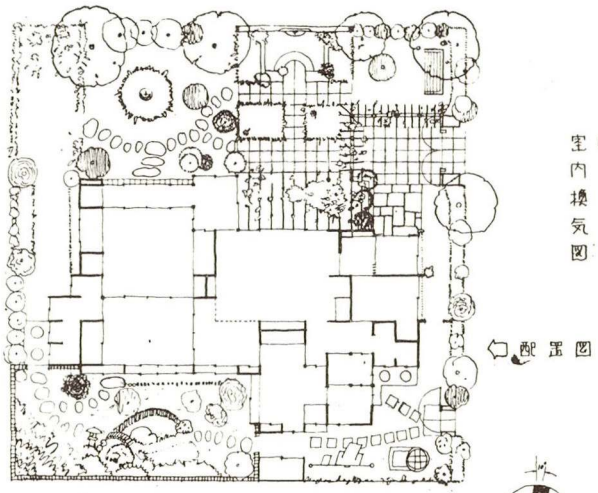
西側立面圖



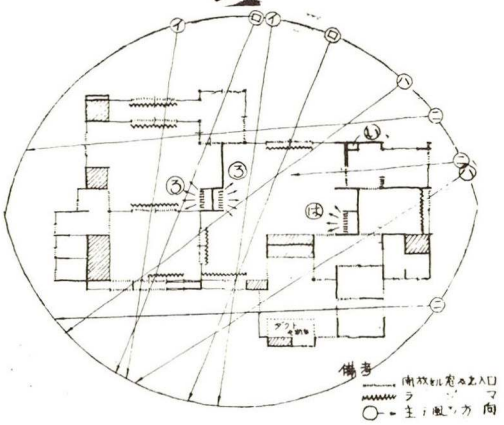
南側立面圖

海邊に建つ「夏の家」懸賞設計當選圖案　　佳作　　小島　陽君

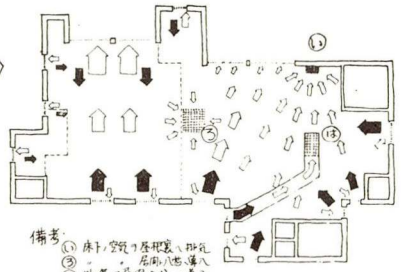




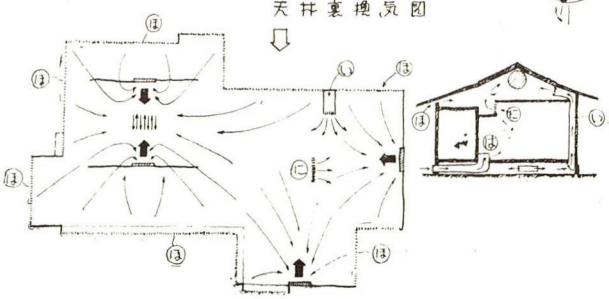
配置図



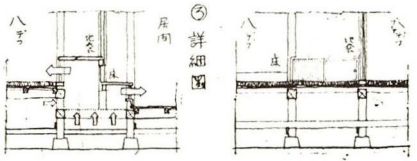
室内換気図



床下換気図

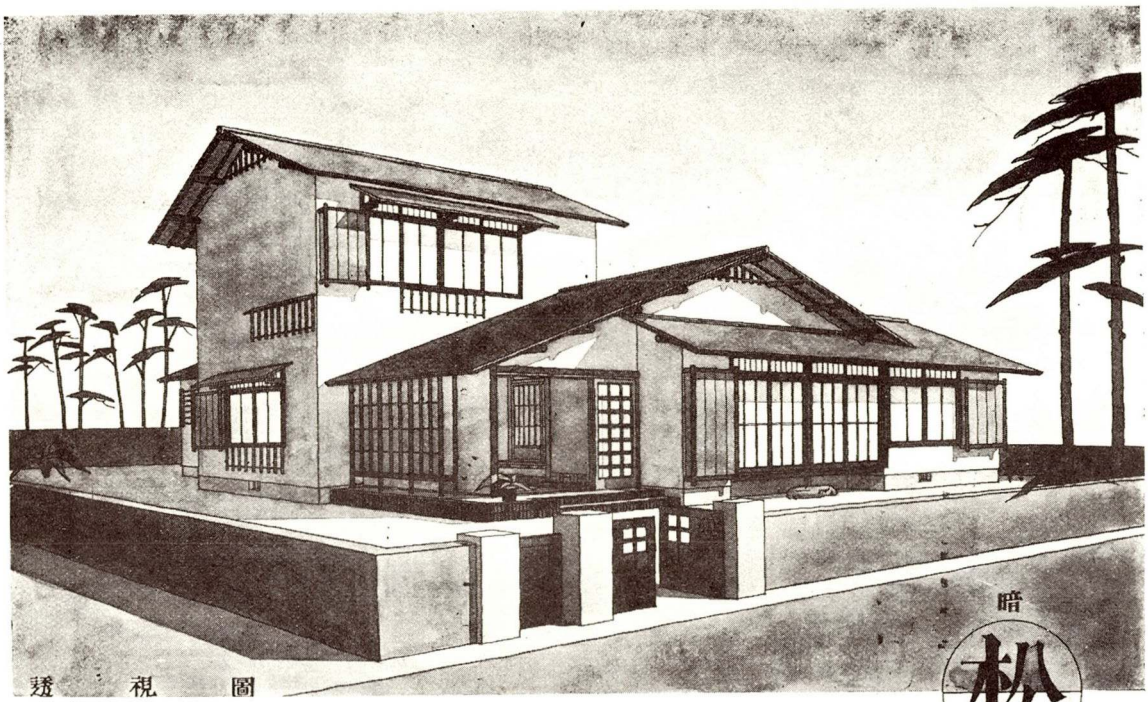


天井裏換気図



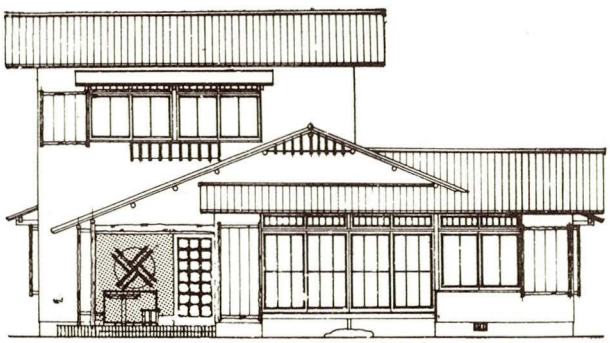
③詳細図

海邊に建つ「夏の家」懸賞設計當選圖案　　佳作　　小島陽君



透視圖

暗松



南正面圖 S=1/50



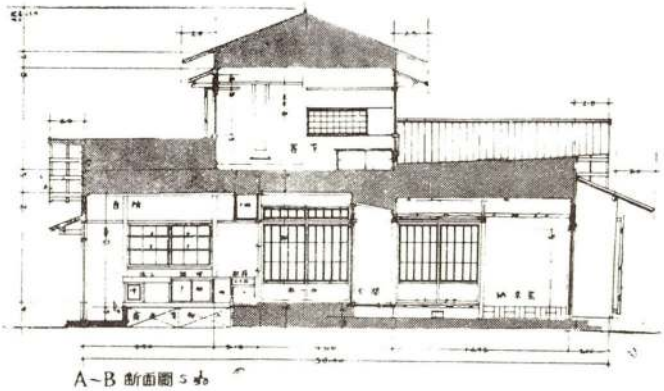
東側面圖 S=1/50

坪　数　建坪　26.00坪　2階　7.00坪
　　延　33.00坪（但し疊2帖大を約1坪とす）

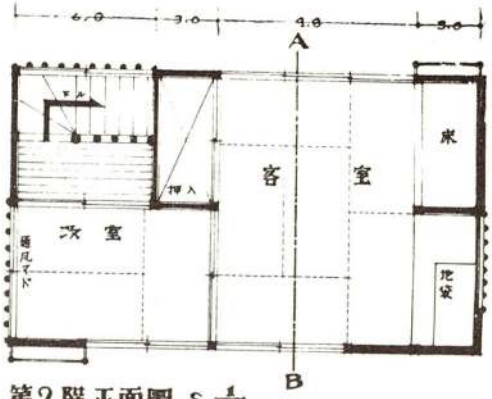
要　旨　ポーチ玄關土間をやめて納涼室を取つて見た
それによりホールが建物の中央に取られ廊下の必要がなくなる。疊面に夏の涼風（東西南北）を充分に通じ得る
如何様な家族の家にも適する

外部仕様　基礎混凝土打上、土臺埋込ボールト締セメントモルタル仕上
外壁大壁セメント色モルタル仕上、屋根、昭和瓦、4寸勾配、化粧木部ペンキ塗窓下通風マド及納涼室西側窓、丸太格子裏虫除金網張、庇類銅板張

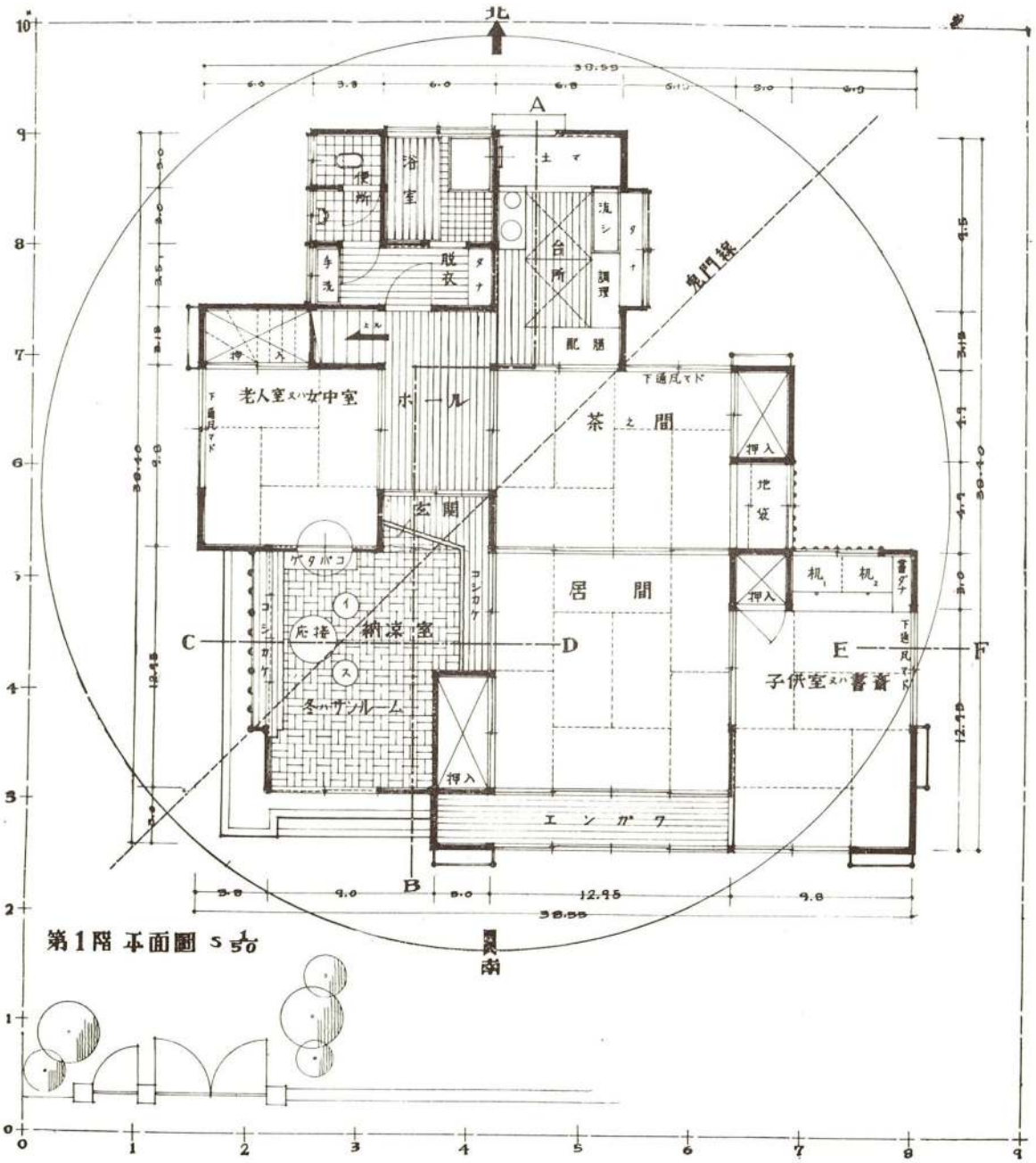
内部仕様　納涼室、床巾木タイル、壁モリノイトペンキ仕上、天井化粧染モリノイトペンキ仕上
ホール、床フローリング、壁天井モリノイト、ペンキ仕上
小供室、床疊、壁天井テックス張、居間天井化粧縁テックス張、浴室、臺所壁天井板張、他は並日本式



A~B 断面圖 S 1/50

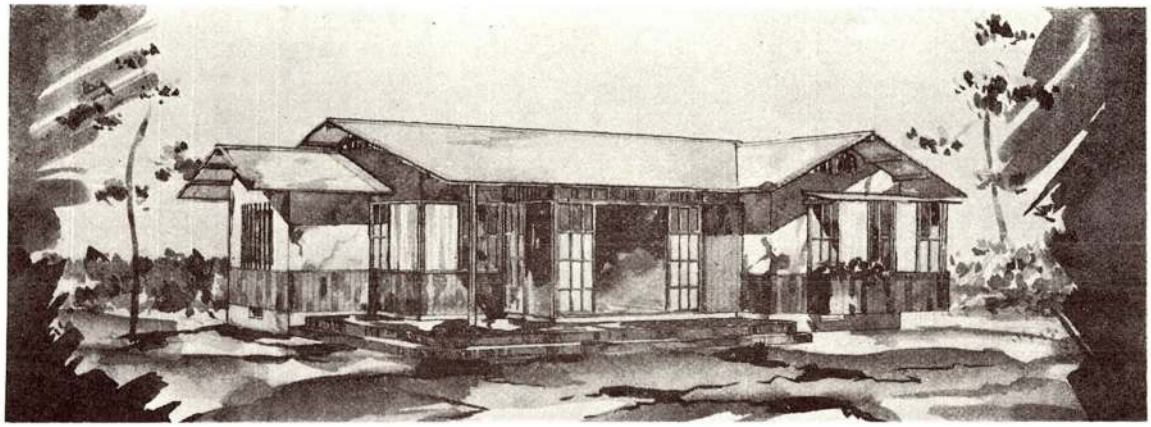


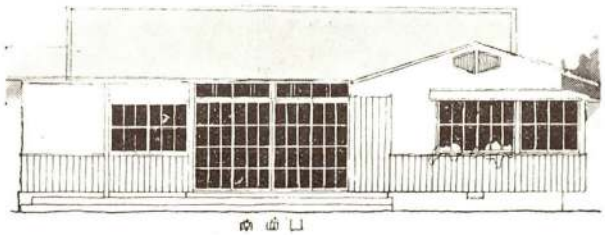
第2階平面圖 S 1/50



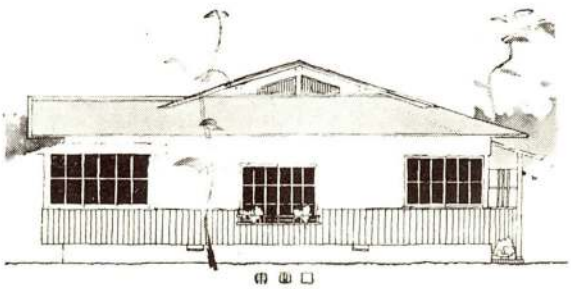
第1階平面圖 S 1/50

海邊に建つ「夏の家」懸賞設計當選圖案　　佳作　　荒川利一君





南面圖



東面圖

敷　　地　　100.00坪
建　　坪　　27.80坪
建物主要高　　軒高　11.7尺　床高1.8尺
　　居室天井高　8.7尺

設計要旨

別紙斷面圖の如くテレス西出入口上部にガラリ'(内部より引違戸にて開閉自由になす)を設け、別に居室天井に排氣口を設け各作用により夜間に於ける室内温度の冷却をはかる

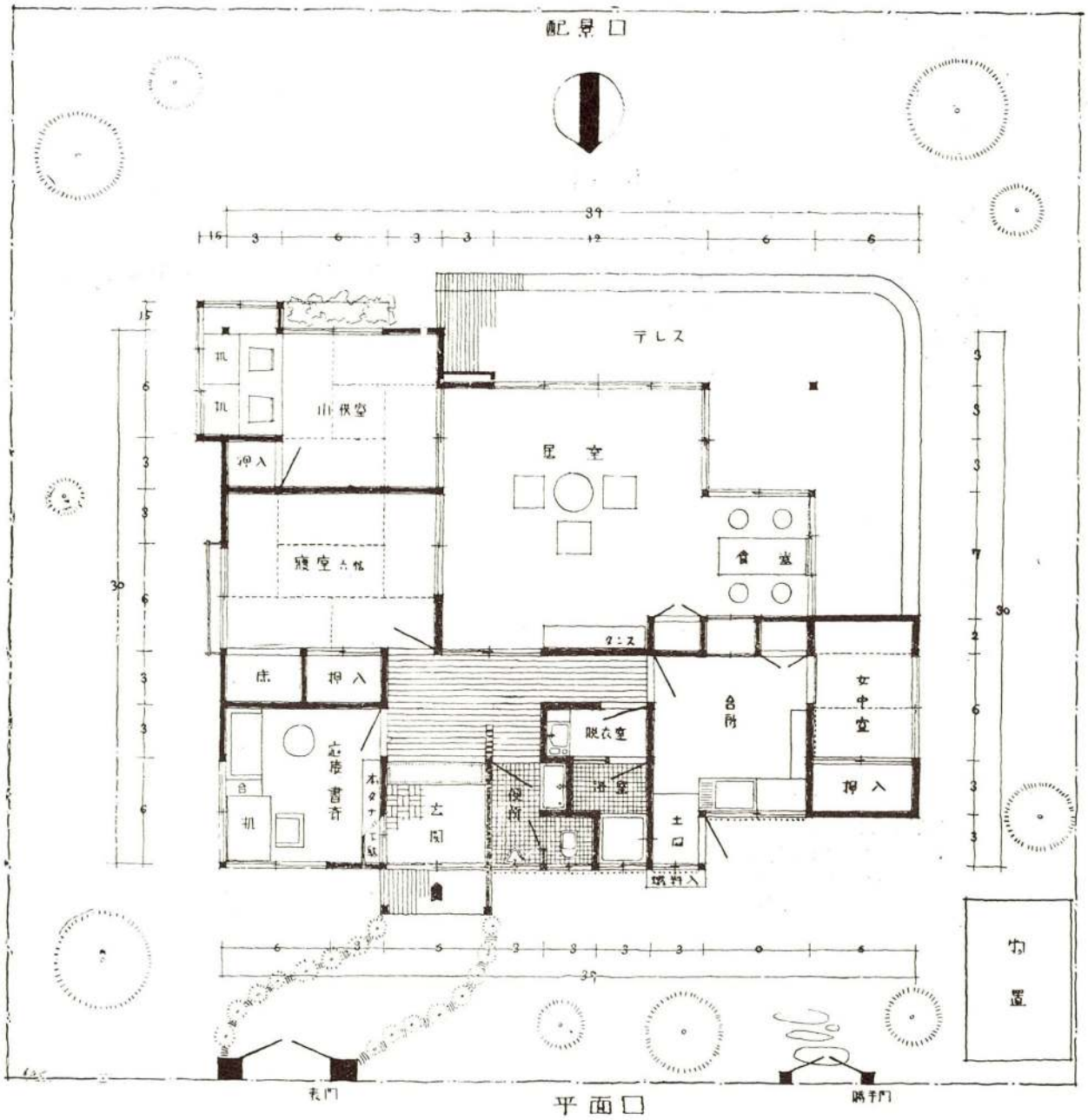
構　　造

木造平家建基礎、混凝土モルタル仕上外部、屋根スレート葺、壁體白色セメント塗、木部オイルステン塗仕上

内　　部

室名	天井	壁	腰	床	其の他
玄關	漆喰化粧木梁	漆喰	板羽目	タイル貼	
應接書齋	同上	壁紙張	同	樫甲板張	網戸付
居室食堂	漆喰	同上		同上	
小供室	日本天井	同上		疊一部板張	
寢室	同上	砂壁		疊	
便所	漆喰	漆喰	タルイ貼	タイル貼	
脫衣室	同上	同上	水當りタイル貼	板張籐上敷	
浴室	モルタルペンキ塗	同上	タイル貼	同上	
臺所	亞鉛鐵板	漆喰タイル		拭板	

海邊に建つ「夏の家」懸賞設計當選圖案　　佳作　　皆川辰雄君



海邊に建つ「夏の家」懸賞設計當選圖案　　住作　　皆川辰雄君　51

審　査　漫　感

松本儀八

今回「夏の家」の懸賞應募案總數107通中から入選、選外佳作の決定に至るまでの系路は最初第1選で66通餘落されて41通が殘さるゝ事になり、第2選では更に18通が殘ることになり、第3選では遂に11通となり、最後の第4選には愈々7通となり茲に入選3、選外佳作4と云ふ決定を見ることになつた譯で相當愼重に審査されたのであつた。何れも眞面目な力作が多かつたことは審査會でも異口同音に聞かされたことであつた。

特に我國の様な夏季をもつ所では夏に涼しい家であらねばならぬ事は當然であるが、就中夏に適しい「夏の家」と云ふ、家の設計案だと云ふのでプランもエレベーションも其點に多大の考慮を拂はれて居る努力の跡が見へたことは誠に愉快であつた。そして「夏の家」とは云ひ條其他の季節にも適しい構へとなつて居ることは無論である。次に入選の各案に付て感じた點を述べてみよう。

入　選　案

「和」案は大體に於てプランに無理がなく、風通しも先づ申分ない、特に臺所と食堂廻りの取扱などは一入洗練せられた感じがする。

エレベーションも頗る簡潔であり「夏の家」としては格好であるが、應接室兼書齋などはあまりにも形ばかりで、實用の上から多少考慮の餘地がありはすまいか、然し全建坪を小める上からして已むを得ぬと云へば已むを得ないかとも思はるゝ

「春」春此案もプランに於てさほど無理がなく食堂と家族室の2室を開放自在として通風に力めたことと、夫れに各室共風通しに相當の考慮を拂つた所は大にかつてやるべき所であらう。其他室の配置の上にも無理が少い、エレベーションも温和しいが壁下見を立羽目板張としたのは建上つた感じがどうかと思はるゝのと、此程度の家として實際方面から板間の割に疊の數が少過ぎる様にも思はれた。本案は製圖手法の優秀な點に於ては一等他を抜いた所があつたとは此案の强味であつた。

「潮」プランに於て疊の部屋の食堂と椅子式の居間とを連續開閉的に使用せんとする所は「春」案の行方とよく似て居る所がある、エレベーションは前2案に較べていくらか複雜味を帶びて居る、所はどうかと思ふ。

全體29坪の家としてホール廻りが聊か贅澤過ぎる様な感じもした、夫れに臺所の押入の位置、化粧室廻りの取扱に一考の餘地があり、エレベーションに於ても廣椽とテレス廻りの取合其他3箇所に研究に値すべき所がある様に思ふた。

選外佳作

選外佳作當選の4案にはプランに面白いものもあり、又エレベーションに氣のきいたものもあるが概して入選案の方が無難であると云ふ所から選外となつた譯である。

海邊に建つ「夏の家」設計圖案懸賞募集規定

1. 阪神沿線濱甲子園健康住宅の海邊に建つ夏向の住宅設計圖案
2. **應募設計要件**
   1. 位置 濱甲子園海濱の平地　2. 敷地 100 坪內外　3. 建坪 30 坪以內　4. 所要の室 室數及大さ等は任意　5. 構造 木造建たること　6. 樣式 和風を基調とする洋風建　7. 建築費 4,000 圓以內たること
3. **應募圖面及書類**
   1. 平面圖 50分之1　2. 立面圖 50分之1　3. 斷面圖 主要部部分1面以上　4. 透視圖 着色をなすこと　5. 簡單なる仕樣書又は說明書　4. 圖面は原圖紙へ墨仕上とす 5. 各圖面並に書類には暗號を附し別に暗號並に住所氏名を記したる紙片を封筒に入れ添付すること
6. **賞**
   入　賞 3　名　金牌　副賞各 100 圓宛
   選外佳作　若干名　銅牌
7. **締切期日**　昭和9年3月10日正午
8. **審査及當選發表**
   1. 審査の結果は「建築と社會」に之を發表す
   2. 審査員の氏名は下の如し
      葛野壯一郎　古宇田實　武田五一
      藤井厚二　古塚正治　本間乙彦
      松本儀八　南信　村野藤吾
      （五十音順）
   3. 當選圖案は大林組濱甲子園健康住宅地へ直に施工し昭和9年6月より8月末迄「夏の家」展覽會の開期中一般に公開す
9. 審査の結果に對しては說明を求め又は異議を申立つることを得ず
10. 實施に當り多少の改造をなすことあるも異議の申立を得ず
11. 應募圖案は之を還附せず
12. **應募圖案發送先**
    大阪市北區中之島3丁目3
    朝日ビル內　日本建築協會宛

盜賊と建築

青柳憲五

本稿は去る 2 月 16 日建築俱樂部に於て當協會 2 月例會として講演會を開催したる際の講演原稿である青柳憲五氏は刑事課出身にして現に兵庫縣芦屋警察署長を勤められ曾て有名なるピス強事件の殊勳者であり、殊に盜難、戸締りに付ての權威者である。

本協會が我國の文化に永年甚大なる貢献をせられ、益々人類の幸福を增進せられ居ることにつき深甚の謝意を表するものであります。

今夕計らずも本協會に於て皆樣に御目にかゝることを得て、親しくかゝる問題につき御相談申上ぐる機會を得ましたことは、本協會と密接なる關係を有する我等警察官に取りて最も光榮と存ずる次第であります。然るに私は淺學であり且つ未熟なるにも不拘、かゝる問題につき御話をすることは先輩にも相濟まぬ譯で且又皆樣の御參考にもなり得ないことゝ思ひますが、折角のことでありますので御許しを願ひたいと思ひます。

偖て我等の唯一の安息所たる住宅に對し、最も安全幸福ならしむるために國家は建築法令を制定して、其の建築につき取締をなし且つ保護を加へて居ることは寔に喜ばしきことであります。而して其の要求して居ることも最も適切であつて、我等の居住につき必要なる衛生、堅牢又は美觀等に對しては殆んど閑然する處なく充分なる規則が設けられて居る樣に思はれますが、私等警察官の如く日夜泥棒の爲めに追ひ廻されて居るが如き者に取つては、現代の住宅建築が以上の如く衛生とか美觀とか云ふ方面には充分意を用ひられて居るも、外敵の侵入主として盜賊に對する防備といふことにつきては比較的等閑に附せられては居りはせぬかとこの點遺憾に思ふ者であります。假令衛生的で美觀を備へた堅牢な住宅に一家の團欒を味ひ居るとしても、外敵の侵入即ち盜賊の爲めに一朝一夕にして是を破壞せらるゝことは間々あり勝で、特に其の兇惡なるものにありては最大の不幸をさえ招來することがあります。

先年或る親子三人暮のサラリーマンの家庭が盜賊に見舞はれて、主として妻君の晴着（女物は最も處分に好都合なるの理由に依る）のみを窃取せられた事件がありました、此の大切な衣類を取られた妻君は明け暮れ其れが早く發見返還せられんことを神に祈り夫に縋りましたが、遂に品物の發見せらるゝ迄に妻君の衣類に對する特別の執着心は最愛の夫との間に感情の疎隔を生ぜしめて、極端ではありますが遂に子供を殘して離緣の止むなきに至つた事實さえあります。一度盜難の被害に罹つたものは其の大小に不拘、共通の不安と不愉快とを相當永く味はさるゝものであります。此の意味に於ても折角の安住を脅かす盜賊に對する防禦設備は、それがたとひ自然の要求にもせよ、現在の世相に鑑みて或る程度

迄は是を法令の力を以て要求し置く必要はなからうかと思ふものであります。特に現今の如き借家に於て此の點に欠如せることを痛感するものであります。

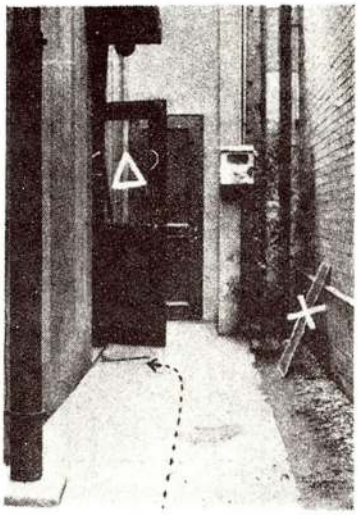
此の意味に於て昔の家を考へますと、表戸などは一枚の頑丈な戸を以て拵へられ、それを一本のシンバリ棒で全く押しても突いても開かない様に出來てゐますが、現今のものになりますとその戸を二枚となし、四枚となし、硝子や鐵棒などを以て外觀は如何にも立派に出來てゐますが、賊の侵入には便利よくなつて居る譯であります。私等の立場から申しますとかゝる個所は多少の美觀は犧牲にしても、防禦といふことを重んじて頂きたいと思ふ次第であります。

然らば賊は如何なる場所より如何なる方法を以て侵入するかと申しますと、近頃の如く文化の急激なる進展は世相を著しく複雜ならしめ、從つて其の犯罪の手段又は罪證湮滅の方法も極めて巧緻となり、犯罪の態樣は愈々多岐多樣となりまして搜査は益々困難となる一方であります。然し人間が或る行動を起さうとする時には曾て經驗したと同一の經路を反覆しようとする傾向のあることは爭はれないものであります、即ち意識的にせよ無意識的にせよ繰返へさるゝ動作は自然に其の習癖となり得意となり或程度に固定するものでありますから、犯罪行爲を敢行する前後に行ふ動作の上に現はれたるこの得意なり、習癖なり又は其の他の特色ある狀況を觀察して之を一つの觀念として纏めて見たものが犯罪の手口と申すものであります、例へば高い處に攀ぢ登らねば取ることの出來ぬ避雷針泥棒を專門とするものに曾つて屋根葺職人であつたものが居たり、錠前屋であつたものが押入强盜になつて居たりするもので、全然學問のないものが書籍を窃取するといふ樣なことはない樣なもので、特に職業的犯人になりますと一定の方向に向つてのみ進むものでありまして或る押入强盜は白晝のみに、或る者は夜間のみに、或るものは窓からのみ侵入し、或るものは常に戸の筬板を鋸で切るといふ風に一定してしまふものでありますから、是に對してはどうしても夫々の手口を研究して、丁度醫者が夫々患者に對して適應した藥を與へて病氣を平癒せしむると同樣に、この犯罪手口に對し防禦の方法を豫め講じて置けば被害を免るゝことが出來るのであります。この手口といふものは面白いもので我々同輩の仲でもすぐ判ります、あの男は酒を呑むとすぐにあの方面に活躍するとか又あそことあそこに必ず現はるゝとかいふ風に是等の手口の研究と是に對する對策は又面白いものであります。

手口の研究に依つて各住宅に對する弱點を知ることが出來ます。而して其の一般的に手口としてよく行はるゝものを研究して見ますと

（1） 差込錠を外して侵入する手口

表戸などで戸の中央部に螺込錠を以て施錠してあるものは金具を止めてある螺釘があまりに小さいため戸と戸との間に金片などを挾入してコヂる時は容易に破壞することが出來ます、この種の手口によりて一度被害にかゝつたものが其の戸の上下に差込錠を二個用ひて其の後の被害を免れた家もあります。



人氣のない露路に入りドアーのガラスを外して侵入した例（アサヒグラフ所載）

（2） 硝子窓の差込錠を外すには其の施錠の箇所の硝子を石片や木片にて破壊する方法もありますが音を立てずに破壊するには蠟燭の火を吹きつけて○○○○を以て○○○するなど其他粘着物を塗つた紙や布片を當てゝ容易に破り手を挿入して施錠を外し目的を達するのであります。

（3） 鐵格子や木格子を外し又は切り取る手口

是は炊事場や風呂場、便所其他高窓等に鐵棒や木格子の使用してある處を狙つて其の鐵格子や木格子の根元の嵌め木を切り取つて外し侵入する手段であります。

（4） レンジ窓を破壊して侵入するもの

レンジ窓は主として外觀に重きを置き作られて居ります關係上、其の用ひられたる材料が破壊し易くこの點を狙ふのであります、故に其の用ひられたる材料例へば竹とか木の内部に鐵材を使用するとかその取付けにつき充分の用意を施すといふことが最も必要であります。

（5） 椽側や玄關のランマより侵入する被害は比較的多いのであります。

是はその構造に於て又取付け方法に於て外部より外し易く出來て居るのが多いからであります。

（6） 便所の吸取口は小さい様でもよく侵入する個所の一つになつて居ます。

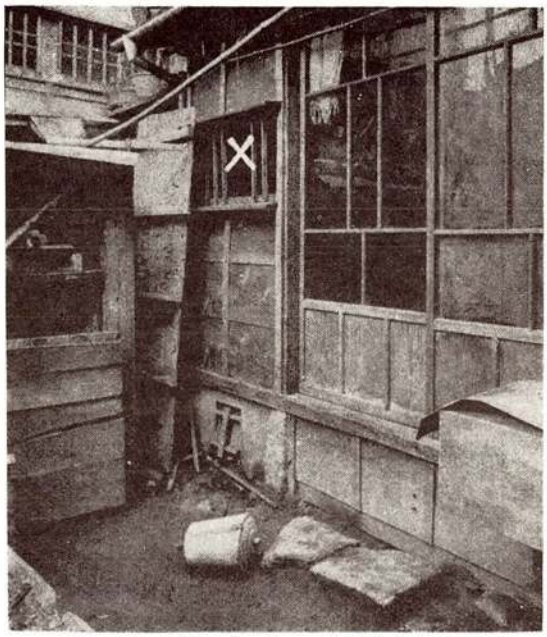
（7） 便所の掃出し窓は高さ8寸あれば大抵の人の頭が這入りますのでそこからよく這入つて居ります

（8） 高層建築物ではその戸樋の取付けにつき注意を要します。

高い處の窓は比較的其の戸締が不完全でありますから「傳ひ」の被



勝手のガラス戸の敷居が淺かつたために、ガラス戸を旋錠のかかつたまゝ外して侵入した例（アサヒグラフ所載）



便所の窓の木桟二本を外して侵入した例（アサヒグラフ所載）

害にかゝることがあります。

以上申し上げました様な箇所は犯人の侵入手口としてよく狙まれて來たものでありますから、住宅にありてはこんな箇所につきよく注意して、防備を施して置けば大抵その難を免れることが出來るのであります。それで窓などは單に棒では駄目です、必ず頑强な縦横に通つた鐵棒の格子又は金網を以て其の取付けを完全にすることが必要であります。又特に注意を要するのは風呂場と廊下との間、便所の入口の戸締、又は洋舘との仕切、などには丈夫な戸を以てし嚴重な施錠をなすことは最も有效なことであります。その上施錠の方法としてはその箇所を外部から察知せられない様な風にすることが必要であります。又雨戸等は之を5寸釘様のものでトヂることも有效であります。

最近流行の所謂文化住宅の如きは採光、通風、美觀等實によく出來て居る様ですが、防禦の點は甚だ遺憾と思ひますのでこの點研究の餘地はありはせぬかと思ふものであります

最後に家屋の周圍を明るくし内部を成るべく暗くして犯人の立寄る所のない様に街燈や門燈を多くすることは住宅を護る上について本當の親切であると思ひます。

そして電車や汽車其の他騒音の激しい工場の近くなどはこの騒音を利用して破壞侵入することが多いのであります、又天候によるもの例へば暴風雨の夜などは犯人の心も殊の外荒んで爲す動作も暴虐になり易くなりますから、防備を完全にしてよく氣をつけることが肝要であります。

つまらぬことを纏りもなく申し上げたことにつき深く御詫び申し上げます。（終り）

防　盜　座　談　會　記

日　時　昭和9年3月14日午後6時20分—9時
場　所　建築倶樂部別室
出席者　武田博士、小川陽吉、松本儀八、增山新平、赤松修、小川安一郎、岡本新次郎、岡田孝男、小林三造、三木來三、池田實、伊藤和夫

住宅委員會として、防盜に關する座談會を開催した。委員外に數氏の參加あり、丁度芦屋署長青柳憲五氏の「盜賊と建築」なる講演のあつてから、間もない時だつたので話がはづんだ。以下記する所は、座談の大要である。

1. 防盜の積極的防備　警報設備について大阪暖房商會員尾中氏の小林式盜難豫防警報裝置の實物につき說明があつた。（說明書は同商會へ請求すれば無料送附する由）

此の裝置の特長は、住宅の各室毎の番號が標示器につけてあり、標示器のスキツチを入れゝば戸締不完全なる室の番號が現はれて、ブザーの鳴ることで、これによつて戸締の狀態を知ることが出來る。次に戸締を完全にして、標示器のスキツチを入れておけば、戸を開けると同時に標示器にその室の番號が現れてブザーが鳴り始め、戸を閉めてもなほ鳴り續け、標示器のスキツチを切りかえねば鳴りやまぬことで、これによつて賊侵入の警報と同時に侵入場所を示すことである、缺點とするのは、暴風などで、建具が少し動いた場合にも、鳴り出すことであるが、これは建具さえしつかりしておけば防ぐことが出來る。

賊が窓をあけて、家の中へ侵入してから鳴り出すのは、既に遲いから、入る前に鳴り出す樣、戸を少し動く樣にし、賊が戸をこじやうとして、少し動かせば鳴ると云ふ工合にしてはとの說が出たが（岡本）、これは風で鳴り出す率を多くするから、餘程工夫がいる。

2. 防盜と建築の弱點　盜賊に對して、住宅の弱點はどこにあるかを、知らねばならぬが、洋風住宅では、窓ガラス障子、和風住宅では、ランマ、雨戸、格子、戸袋などが考へられる。

ガラス窓は種々の方法で、錠のある所のガラスを切り取り、手を入れて錠をはづして侵入するから、錠を中央につけるだけで安心せずに、或は上下につけるなどして、外部より押して見ても、何處に鍵があるのか判らぬ樣にすること、又ガラスは切り取られぬ樣に、厚ガラス（少くとも正1分厚）を使用することが肝要である。ガラスの抵抗力については實驗を提案し（岡田）、委員長の許可があつたので、實驗成績を本文末に附しておく。

日本住宅のランマ障子は、大抵嵌め込みである。これは外から容易にはづすことが出來るし、又夏の暑い時にはランマ障子をはずして寢ることが多い。賊は有り合せのものを踏み臺として、此所から侵入することが相當に多い。これを防ぐには、格子を打ちつけることが必要である。即ちランマの、薄鴨居の外側と、雨戸鴨居の一筋の内側へかけて、格子を4寸マ位に打ちつければよい（岡田）

雨戸は外部よりこじると容易にはづれるのが多いが、雨戸が單獨にはづれぬ樣に、鎖型の金物で連絡するとか、戸框に實つけするとかしたい。又棒を横におき、金物で雨戸を締める方法は、京都の鴨川沿岸の旅館などにあるが、風で雨戸の鳴るのを防ぐと同時に、防盜にも役立つ（小川陽）。雨戸1枚につき5寸釘1,2本を下框と溝敷居に刺すのは、有効である（增山）。毎日のことでは面倒であるが、數日間、家族全員留守の場合などは、是非やりたいものである。雨戸の溝の外へ、アングル金物を打ちつけておけば、戸の外れるのを防ぐことが出來る。（三木）

格子は、ボート又はパイプを、鴨居と敷居で留めたばかりでは、不完全である。2本のボートに手拭をかけ、棒切をはさんで捻じると、ボートは容易にはづれる。甚だしきは、兩手で力まかせに引ぱつても、外れるものがある。又敷居を削つてボートを外す手もあるから、必ずボートの中央か上下へ、横に縫ひ金物又は横桟を入れ、ボート1本が單獨に外れぬ樣にせねばならぬ。此意味で、ボートやパイプよりも、面格子が安全である（小川安）。木格子は、見付より見込の厚いものを、大釘で打ちつけ、これも必ず上下、中央の3本位横に貫を通すのがよい。（武田博士）

面格子では火災の時逃出せぬからその工夫が必

要である。(小林)

戸袋はそのまゝ外したり、又板を破つて這入るのは容易である。この被害も相當に多いそうであるが、昔は戸袋から侵入するのは、袋に這入ると云つて嫌つたものだそうだが(武田博士)、今は賊も、かゝる禮儀？を知らぬものが出來たのは嘆かはしい？。戸袋も安心出來ぬから、取つけを丈夫にせねばならぬ。

3 盜賊と迷信　戸袋から入るのを嫌ふと同じ樣に、出入口の上に麻繩を張つておけば、その下を通つて這入らないそうだ、これはお繩を頂戴すると云ふ迷信で、大阪附近の農家で行はれて居る。(小川陽)

其他出入口や窓に、猿の繪か猿の字を書いて張りつけること、京都の祇園祭の時、鉾の上から撒く粽を出入口に吊しておけばよい(岡田)、そうである。猿は芦屋方面に行はれ、粽は京都方面に行はれて居る。岡田委員の家などは向ひと兩隣へ空巢が這入たのにかゝはらず一度も被害を受けて居ないのは、この粽の効による？。しかし前の戸袋と同じ樣に近頃の賊は仁義を知らぬものが出來たから、この迷信もおいおい行はれぬ樣にならう(武田博士)、鮮人などかゝる迷信には全然無關心だ(小川陽)。

賊は侵入する前に、庭で脫糞する風がある。そして廁で伏せておく。糞が發見されない間は被害が判らぬそうだ(池田)。

これは芦屋署長の話では、脫糞して居る間に、精神を統一して、氣を落ちつけ、又靜かに物音などを聽き分け、侵入の方法を考へなどするそうであるが、武田博士の說によると、危險な場所へ這入る前には、下腹へ力が入り、腸の儲動を盛ならしめて、糞を押し出すと云ふ生理的現象であるそうで、博士も外遊中しばしばこの經驗がある由。又心配小便と云ふこともある(小林)。

4. ガラス戸、カーテン、汲取口、塀等　ガラス戸は正1分以上のガラスを使へば安全である。そして大きな面積のガラス窓では、賊の方も氣取がして手をつけかねるそうである(武田博士)。

カーテンはある方がよい。家の内部の狀態が判らぬから入り難い。家の中の電燈を消して、家の外の電燈をつける、所謂、家の内を暗く外を明るくと云ふのも同じ理由である。

說教强盜はしかし家の中に電燈がついて居ない方が仕事がしやすいと云つたそうであるから例外もある(岡田)。便所の汲取口から這入るのは、便壺の中へ板を1枚落し、その上へ乘つて便器をかつぎ上げて入るのであるが、これも相當に數多い手口である。汲取口は5寸角位とすればよい(松本)又大正便所の如く土管とか隔壁が便槽の中にあるものは最も安全である。(松本)

便所の床上の掃出口から這入る手合も相當に多いが、これは高さ4寸以下とすればよい。

塀は高く嚴重にしておいても、賊が越え樣と思へば、容易に越へるものである。しかも塀の内側へ入つた賊は、外部から見えぬから、安心して仕事をする。且高塀に安心して戸締りが忘れ勝ちになる塀と庭樹との間にひそむ賊は内部からも發見困難である。だから塀を高くするのは考へ物である。それより塀を簡單にして家の戸締を嚴重にし家の方で防ぐがよい(武田博士)。

武田博士の邸では、賊が3晩も續けて、家の廻りをぐるぐる廻り、侵入口を探したそうだが、家の戸締が嚴重な爲め、遂に目的をとげず、諦めて引上げた事實がある。この意味に於て、防盜の爲には塀は不必要である(武田博士)。しかし塀は防盜の目的以外に、或は通路より、家の内部を見すかされるのを防いだりする役目を持つから、塀を廢止するのは一考を要す　(松本)。

5. 文化住宅と防盜　この頃建つ文化住宅は、大抵塀は簡單であり、家は大きな面積のガラス戸が建てゝあるが、これに對する注意としては、塀に賴らず、家そのもので防ぐこと、ガラス戸は必ず正1分以上のものを使ふこと、ガラスの差込錠も丈夫なものを使ふこと(外部より差込をもどすことの出來るのは不可)である。窓金物にホイトコを使えば便利なことが多い(武田博士)。

玄關の扉は、片開で2尺5寸から2尺8寸位。必ず内開のこと。シュラーゲ錠を使へば安全である。兩開として間口が狹いときには、2尺5寸と1尺5寸位の2枚の扉とすることが日本でもこの頃行はれて居るが、これは元來ロシヤで始めたものである(武田博士)。博士が1901年ロシヤに行かれた時に、ロシヤで盛んに使つて居たので、これは便利だと思はれた由。

玄關扉には鎖をつけておくのがよい(小川陽)。

玄關扉は三段の戸締をすべきである(武田博士)。玄關扉には箱錠とボールト(横栓)と鎖の三段の締りをするのは、ロンドンでは建築條令で規定されて居る(武田博士)。ボールトは、箱錠を合錠で開けられた時に役立つ。鎖は扉が少し開く位の長さにして、框と扉に引掛けてある、扉を少し開いた時、急に外から暴力で押し開けて、侵入するのを防ぐのである。日本でも用心深い家では、これが用ひられて居る。

扉には覗口を設けるべきで、或は郵便受口と共用に、玄關の壁に覗窓を設けるのも一方法でる(小川安)。扉に覗口をつける場合は、扉のガラスを面取とし、面だけ殘して他を磨りにしておけば外部から内部は見へないで面のところで、大體の外貌は内から見えるから便利である(武田博士)。

扉の外には必ず電燈をつけておくこと、又は抱き合せのバルベットをつけてもよい(赤松)。

門のベルは子供の丈のとどかぬ位置につけておかぬと、惡戲されて困る場合がある(小川陽)。

6. 倉庫　倉庫は鐵筋コンクリートに限る。窓は壁につけるよりも、天窓とした方が便利で盜難には申分ない(松本)其例は確に良結果を得られる。

7. 在來の住宅に對する防盜設備　現在數多くある住宅に對して、如何なる方法で改善すべきであるか?

木格子ボールトなどの不完全で心配な所では、それを取りかえて完全な格子とするのが最もよいが、借屋などで、取りかえのきかぬ所では、木格子ボートはそのまゝとしておいて、その内部へ丈夫な金網を張ることを奬勵したい(岡田)。金網は窓枠の周圍に釘づけとし、ボートには針金でしつかり結つけておけば、ボートを外づそうとしても、出來ないことになる。汲取口の不完全なところでは、便所の錠を丈夫なものと取りかえ、これに内側から丈夫な締りの出來る樣にすること(伊藤)。掃出口の大きいのは、格子をつけ、錠の差込は、一ケ所のところは上下にもつける。ランマには格子を打ち、其他前に述べた注意の實行を奬勵する所である。(委員岡田孝男記錄)

附　錄

ガラス破壞の實驗報告

岡　田　孝　男

盜賊が窓又は出入口のガラスを破り侵入するものと假定し、ガラスの厚さにより又破壞個所により、破壞方法により、如何なる難易あるかを知る爲の實驗で、ガラスは建具に嵌めたまゝ、垂直に保ちつつ破壞した。ガラスは赤菱印の厚さは2ミリ厚(並1分)及3ミリ厚(正1分)を用ひた、3ミリ以上のは他日報告する豫定である。破壞方法は、1. 紙をぬらして貼りつけ、手で撲る方法、2. ガラス切りで一部分を切り取る方法、3. 蠟燭の火で燒き切る方法の三つを採用した。このうち1. 及2. はなかなか困難であるが、3. の方法は極めて容易に行はれ、安全と思つた、ガラスが意外に、もろいのに一驚を喫した。又一般には蠟燭の火で熱しておいて、濡れた手拭で急に冷せば壞れると信じられて居るが、濡手拭で冷すことは破壞には何等の關係のないことが判つた。

I 濡紙を貼り手で撲る方法　37cm×40cm、厚さ2mmのガラス、建具に嵌めたまゝ。奉書紙を濡し、ガラス面全體へ貼る。手に手袋をはめ、拳を水平に動かし、ガラス面と直角に衝突せしむ。10cm 位の所よりスタートしたのでは、ガラスと框の間で音がするだけで、破壞せず。20cm 位のところより勢よくスタートしたところ、大きな音をたてゝ破壞し、ガラスは紙より離れて、散亂し、それが床の上へ落ちて大きな音がした。音は2室を距ててなほ明瞭に聽かれた。

濡紙とガラスの附着力は、極めて小さい。一般に信じられて居る樣に、ガラスが紙にくつついて散亂しないと云ふのは、眞でない。或は飴を延ばした紙とか、鳥もち、とかが考へられぬでもないが、ガラスを撲り破るのは、大きな破片が床へ落ちて、大きな音を立てる恐もあるから、餘程自信

のあるものでないと、決行出來ないと思はれる。

II ガラス切りで切り取る方法　37cm×40cm 厚さ 2mm のガラス、建具に嵌めたまゝ。ガラス切り(ダイヤ入り)を持つて一邊の長さ 10cm 位の三角形に切り取らんとす。ガラスの中央部でやつて見たが、條はついても、なかなか切り取れぬ。押しても取れぬし、飴をつけた木で引つぱつても取れぬ。ガラス切りの柄の方で衝激を與へて見ても、取れぬ。强いてやつたらガラス全體が破れた。一般に信じられて居る樣に、鍋盞に飴を塗つてガラスにあてがひ、ガラス切りでグルット一廻り切つて、押すか引くかすれば、ぽかつと穴があくと云ふのは、出來ないことらしい。次にガラスの緣の方でやつて見た。即ちガラスの緣を一邊とし、くの字形に切り、及隅の所で一線を引いて見たが、この二つはガラス切りの柄で衝激を與へれば、音はするけれども取れる。しかし敷パテが十分でガラスがしつかりはまつて居れば、可なり難かしい仕事である。

3ミリ厚の方では、24cm×33cm の板を建具に嵌めずにやつて見たが、中央部で切り取れないのは、2ミリ厚と同樣で、緣の方では隅の方が取れた。これも建具へしつかり嵌つて居れば、相當困難であらうと思ふ。

III 燒き切る方法　I及IIでは、ガラスも相當に抵抗力があり、これを切り破るには、可なりの努力が必要なので、我々も安心して可なりだが、このIIIの燒き切り方法にかかつては、全く無抵抗と云つてよい。2ミリも3ミリも抵抗力のないことでは、同程度であるのを知つて、一驚を喫した。

蠟燭は長さ17cm、直徑1.4cmの西洋蠟燭を用ふ。この焰は長さ5cm、巾約1cmである。蠟燭は垂直に持ち焰を自然的にガラスに平行に接せしむ。

A. 37cm×40cm、厚さ2mmのガラス、建具へはめたまま、垂直に保ち、焰を右上の隅にあてる。上より5cm、右緣より5cmの所である。30秒して、濡タオルで冷したが、ジュと云ふだけで異狀なし。

更に1分間熱して、濡タオルで冷したが、ジューと云ふだけで破れない。次に1分30秒熱したところガラスはパチンと音して、右上隅に二條の割が入り、左右5cm、上下10cm程取れた。この際濡タオルは使つて居ない。

B. 次に左上の隅を熱したところ、1分45秒でパチンと音して、ガラスに三條程割れが入り、6cm×8cm の大さが容易に取れた。

C. 37cm×40cm、厚さ2mmのガラス、右の端から5cmで、上下は丁度中央の所へ焰をあてると、1分45秒でピツと音がして、半徑5cmの半圓が數個の破片になつて取れた。この際濡タオルは使つて居ない。

D. Cと同樣のことをやつたが、2分たつても壞れないので、濡タオルをあてると、ジューと音するのみで壞れない。十分冷してから、更に焰を當てると、2分30秒でパチンと壞れ、6cm×12cm の大さが數個の破片となつて落ちた。

E. 37cm×40cm、厚 2mmのガラス、中央部を熱したところ、2分たつても壞れぬので、濡タオルをあてると、ジューと音するのみ。少し冷えたと思ふ時、更に熱すると、1分45秒でパチンと大きな音をたてて、左上四半分が2片となつて取れた。

F. 24cm×33cm、3mm 厚のガラス。建具に入れて、垂直に保ち、焰を左上 5cm の所へ當てる。1分30秒たつてから、濡タオルを當てると、パチンと壞れ2片となつて、横 5cm 縱 10cm が取れた。

G. 24cm×33cm、3mm 厚のガラス。建具にはめる。左から 5cm、上下では丁度中央に焰をあてる。1分30秒で、濡タオルをあてたが、ジューと音するのみ、2分でもジューと音するのみ、冷して更に2分45秒熱すると、パチッと音して、焰をあてた所を中心として、上は次第に大きく下も次第に大きく、ガラスの半分以上が數十の破片となつて壞れた。

H. 20×25cm、厚さ3mm のガラス、右上の所、右より 5cm、上より5cmのところへ、焰をあてると、1分45秒でパチッと音して壞れた。

以上 A, B, C, D, E, F, G, H, の8回の實驗によると、焰をあてた爲にその部分が膨脹し、他の焰のあたらぬ所との平衡を失して、急に割が入り、しかも數條の割が來るので、容易に數片を取ることが出來る。しかも此際は、濡タオルは殆んど無關係で、一般に信じられて居る樣に、熱しておいて急に冷せば壞れるのは、ガラス全體が熱せられた場合のことで、ガラスの一部分が熱せられると、熱せられこと自身の爲に、割が來るのである。

此際、隅に近い方を熱するのが、最も早く壊れ、中央部を熱すると、比較的遅いが、大きく割れることが分る。而して、ガラスの厚さには殆んど無關係で、一般に信ぜられて居る所の、正1分厚（24オンス物）であれば大丈夫であると云ふ信仰は、捨てなければならぬ。正1分も並1分も焔に對しては、あまり區別がない。

紙を貼つて撰る程の決意もいらず、ガラス切で切り取る程の熟練もいらず、焔ではきはめて容易に穴をあけることが出來るのは、意外とするところである。

なほ厚さの種々なもの、破壊の個所、方法については、詳細の實驗をして續報する豫定である。

防鼠方法に就いての座談概要錄

座　長　委員長　武田博士
出席者　幹　事　小川　陽吉　增山　新平
　　委　員　赤松　　修　小川安一郎
　　岡本新次郎　岡田　孝男
　　小林　三造　三木　來三

住宅に於ける鼠の害は可成り普遍的に多くの住宅が困まらされて居る。建築法規にも種々防鼠的取締を規定して居るが實際これらの法規を守つて建てられた住宅の現狀を見ると防鼠の目的を完全に果してゐる住宅は極めて稀れである。これは施工實際家が熱意を以てこれが防禦的方法を講じないからである。この事は鼠の習性と出入經路を考へて對策を講ずれば防鼠方法は大きく分けると三つに分れる。その一つは建築の構造から防ぐ方法、第二には設備を適當ならしむる方法、第三は器械的、藥品的、捕鼠方法による場合とある。

第一の建築構造を以て防鼠する方法は最も完全なるものなれどもこれは建築物が上等の工法でなければならぬ。從つて費用の點に於て大衆的住宅建築の總てに要求することは困難である。鐵筋コンクリート造の建築、メタルラス塗りの建築にて絶對に建築物内に鼠を入れさせない方法をとれば問題ではない。木造眞壁構造等の場合絶對に建物内に鼠を入れないことは細心の注意を拂はなければならない。この場合特に防鼠方法の研究を要するのである。鼠は食物を求める場合、巢を作る場合、隱れ場所とする場合、家屋に侵入するものであるから、この三點の要所を防ぐ必要がある。食物を求めるために臺所又は食料置場に侵入せんとする故臺所を防備しなくてはならぬ。排水口は外部に出して下水路を室内に設けぬこと。排水管を下水より切離して排水口よりの侵入を防ぐ、若し下水路を臺所床下に設けたる場合は簀蓋を蝶番式にし一方に留金裝置あるものに改良すること。

臺所の腰廻りはコンクリート打とするかモルタル塗りとするかして、鼠に喰ひ破られない樣にすること。若し物入れ裏、戸棚天井、抽出の奥等は金網又はメタルラス張りとして木板の喰ひ破りを防ぐこと。斯くするときは臺所に侵入を防ぐことが出來るものである。網はエキスパントメタルラスが經濟で且つ施工も樂で殊に切り口が鋭い故鼠も噛り難い樣だ。

鼠が天井に這入るのは巢を造るため又は隱れ場所とするためであつて、こゝに這入るのは二階床と一階天井と挾まれたる部分の壁體から侵入するのであるから、これをメタルラス又は金網で完全に防げば目的を達する。

この壁は高さは普通1尺乃至2尺位のもので周圍殘らずでたいした面積でないのであるから、ラス張りにしても僅少の費用で目的を達する。但し家根裏天井の場合は天井と屋根裏板に挾まれた周圍を完全にすればよいのであるが、軒の外部より瓦と裏板の間隙の方へ侵入せぬ樣外部軒も防鼠する必要を生ずるものである。以上の方法によれば天井には絶體に鼠を入れぬことが出來る。

從來行はれた方法で栗の毬を天井に置く方法や鐵のシエービンクを入れて置く方法、針金を張り鼠の通路を妨げる方法や天井裏に電氣を點滅させる方法等は防鼠の目的を達しないものである。食料品庫、米倉等の入口には鼠返しを設備すると目的を達する。高さ1尺5寸位、上部外方に屈曲する亞鉛引鐵板を張つた板を入口床面に置くのである。尙又鼠の通路となる箇所は軒に面戸板の不完全なるとき、電線引込線の穴の不始末なる時、天井空氣拔が透しのまゝにて金網を張らない時等、室内を汚損することがあるからこれらは建築のダメ工事を修補せねばならぬ。金屬天井、紙天井等は特に防鼠を入れる鼠の排泄物のために金屬板を腐蝕せしめ、紙天井は汚損して、張替なければならぬ被害をうける。

藥品による捕鼠方法には猫イラズ、殺鼠チブス菌、今津殺鼠劑、硫素等あるけれども、この方法は死體の發見困難にて思はぬ不衛生を招くことになる。

捕鼠は器械的裝置によつて捕へる方法が好ましい。以上の方法の外、座談會としては鼠料理の話、座敷に這入つた捕鼠方法、鼠の皮の利用方法等興味津々たる話題もあつたがこゝには省約する。

（增山幹事記錄）

時　　報

市街地建築物法中改正法律の公布

市街地建築物法中改正法律は、昭和9年4月6日の日付を以つて4月7日の官報に次の如く公布されました。

法律第四十六號

市街地建築物中左ノ通改正ス

第七條中「道路敷地」ヲ「道路幅」ニ改ム

第八條　建築物ハ其ノ敷地ガ命令ノ定ムル所ニ依リ道路敷地ニ接スルニ非ザレバ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　建築物ハ建築線ヨリ突出シテ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ建築物ノ地盤面下ニ在ル部分ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條中「市街ノ體裁上」ヲ「市街ノ計畫上」ニ改ム

第二十三條　本法適用ノ區域ハ主務大臣ノ指定スル市街地トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ前項ノ市街地ノ外ニ亘リ本法適用ノ區域ヲ指定スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從前ノ第二十三條ノ規定ニ基キ指定セラレタル區域ハ同條ノ改正規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

（參照）

大正八年四月五日公布法律第三十七號市街地建築物法抄錄

第七條　道路敷地ノ境界線ヲ以テ建築線トス但シ特別ノ事由アルトキハ行政官廳ハ別ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得

第八條　建築物ノ敷地ハ建築線ニ接セシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　建築物ハ建築線ヨリ突出セシムルコトヲ得ス但シ建築線カ道路幅ノ境界線ヨリ後退シテ指定セラレタルモノナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築物ノ前面突出部之ハ基礎ハ道路幅ノ境界線ヲ超エサル範圍内ニ於テ建築線ヨリ之ヲ突出セシムルコトヲ得

第十條　行政官廳ハ市街ノ體裁上必要ト認ムルトキハ建築線ニ面シテ建築スル建築物ノ壁面ノ位置ヲ指定スルコトヲ得

第二十三條　本法適用ノ區域ハ勅令ヲ以テ指定スル市、區其ノ他ノ市街地トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ其ノ定ムル所ニ依リ前項ノ市街地ノ外ニ亘リ本法適用ノ區域ヲ定ムルコトヲ得

天神橋の竣工

市電北濱線で中の島公園を眺めてゆくと明朗な一種の快味ある新天神橋を見る

輕快なる主徑間二鉸鋼拱のカーブと塗裝の色調が明るい感じを與へることによつて堂島川と土佐堀川を結ぶ新橋は中の島公園地帶にふさわしく感ぜられる

更にこの橋の通ずる路線は第1等松屋町筋線にして兩員15間あり都市の經濟交通衛生美觀等健全なる進歩發達に資すべく當局の處斷によつて實現しつゝある都市計畫の一部にして吾々は都市の基調をなすこれ等區劃路線の構成に大きな眼を向けて注意せねばならぬと同時に下表によつつこの橋に現れたる40有餘年の月日を顧みるも一興である

	舊　橋	新　橋
橋　型	構　桁　橋	主徑間二鉸鋼拱 側徑間鐵筋コンクリート拱
幅　員	10m606	22m000
徑間數	5	5
橋　長	240m450	210m700
鋪　裝	檜　板　張	アスファルトブロック敷
竣　功	明治 22 年　月	昭和 9 年 4 月

本會の春季大會

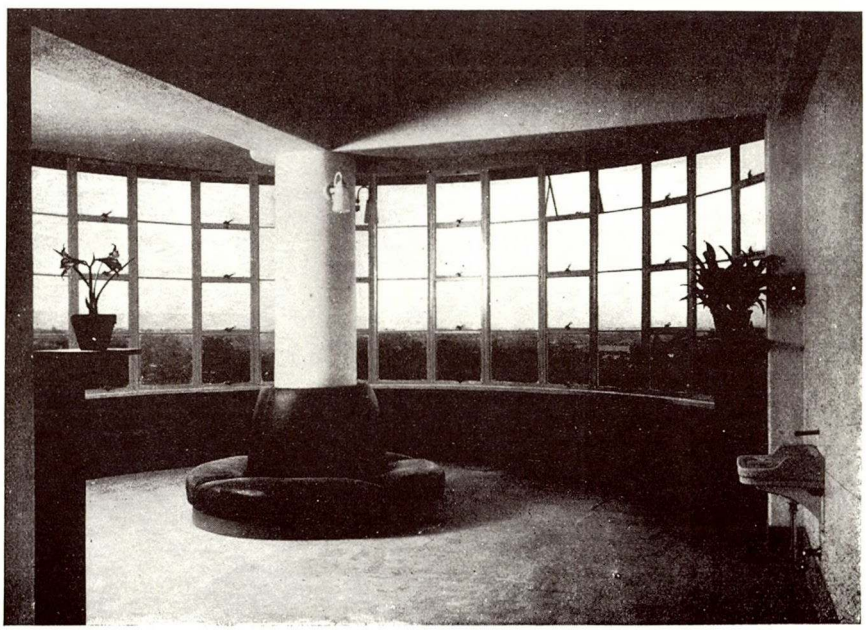
本會では弘仁藝術の探究と會員の親睦を圖る爲4月22日大和國「室生寺」の見學と兼ねて伊賀國名張で大晩餐會を開いた、參加者は103名で、當日は天氣にもめぐまれ近來の盛會であつた。



鳥瞰全景



病院外観



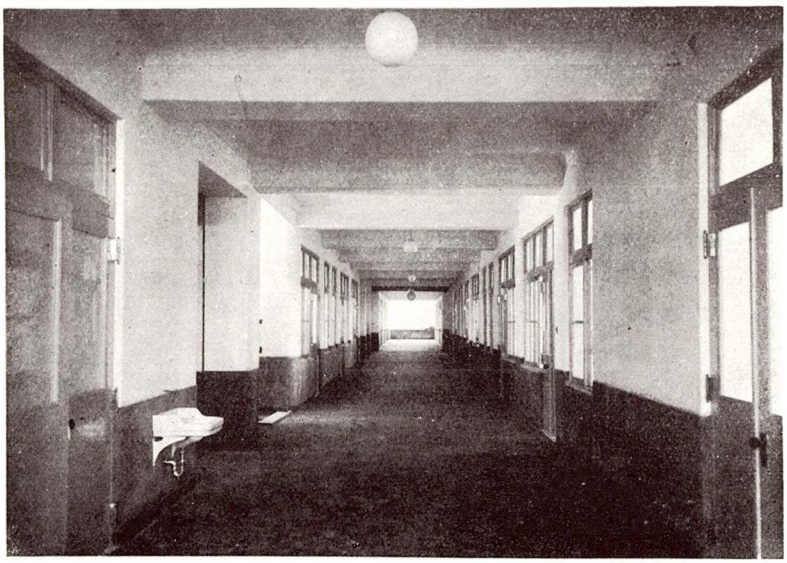
日光浴室



普通病室内部



有料病室内部



廊下

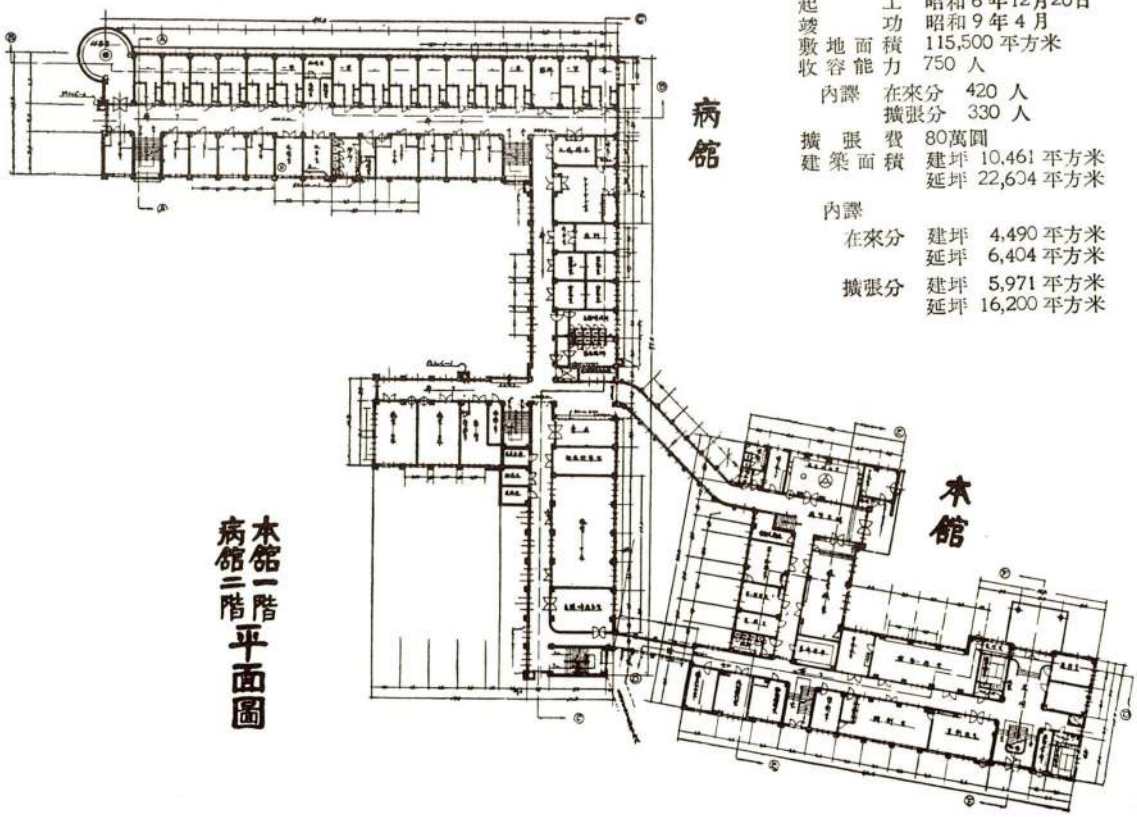
刀根山病院並保養所配置圖

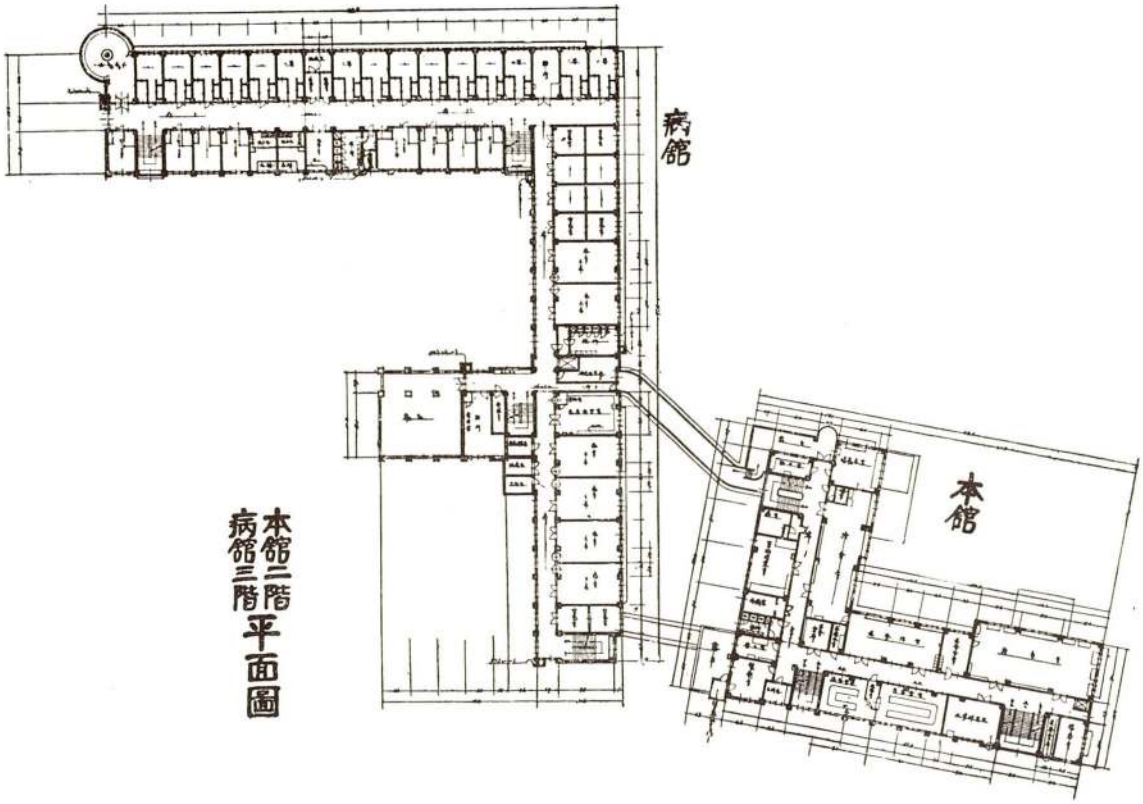


大阪市立刀根山病院

設計及監督	大阪市土木部建築課	
施工	池田勘藏	
位置	大阪府豊能郡麻田村	
起工	昭和6年12月20日	
竣功	昭和9年4月	
敷地面積	115,500平方米	
收容能力	750人	
内譯	在來分	420人
	擴張分	330人
擴張費	80萬圓	
建築面積	建坪	10,461平方米
	延坪	22,604平方米
内譯		
在來分	建坪	4,490平方米
	延坪	6,404平方米
擴張分	建坪	5,971平方米
	延坪	16,200平方米

本館一階 病館二階 平面圖

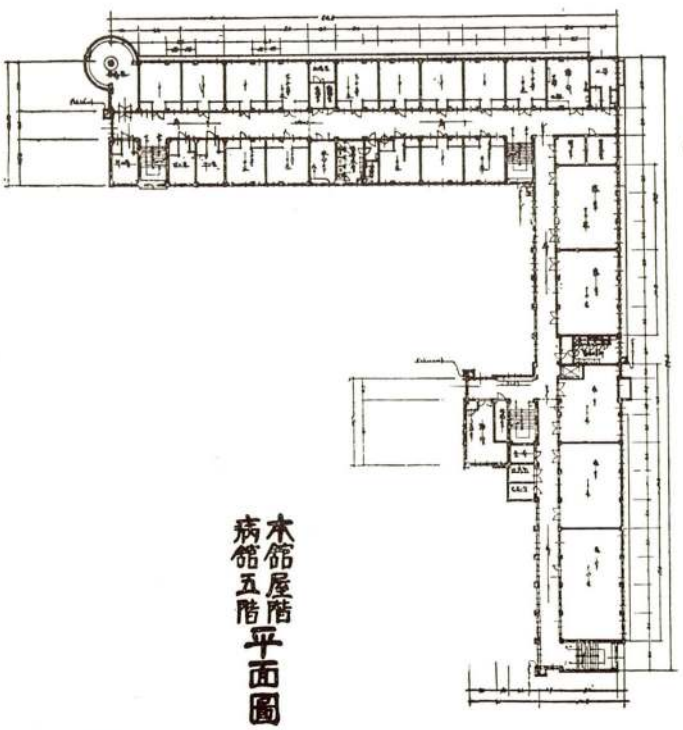


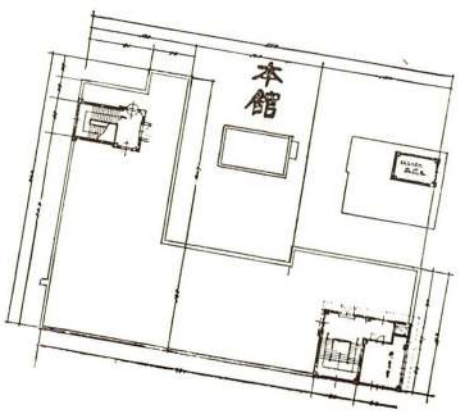


擴張建築內譯

本館	建坪	1,046平方米	延坪	3,470平方米	
病館	〃	1,982 〃	〃	9,284	〃
看護婦寄宿舍	〃	540 〃	〃	1,043	〃
門衛詰所	〃	33 〃			
特殊藥品倉庫	〃	19 〃			
渡廊下	〃	61 〃			
洗濯室	〃	200 〃			
同倉庫	〃	120 〃			
機關室	〃	315 〃			
動物舍	〃	267 〃			
厨夫及雜役夫室	〃	220 〃			
瓦斯發生室	〃	12 〃			
渡廊下(木造)	〃	110 〃			
唧筒室及給水池	〃	210 〃			
食堂及賄所	〃	836 〃			

構造　本館は鐵筋混凝土造、一部地階付3階建、軒高22,5米、病館は鐵筋混凝土造5階建軒高25米





大阪市立刀根山病院

函館市大火の跡を視察して

鳥井信

去る3月21日午後6時勃發したる函館市の大火災は一夜にして同市の大半を焦土と化し恰も曩年關東大震災に於けると同樣の慘鼻を現出した。この慘禍地、函館市へ實地視察のため大阪府より都市計畫地方委員會技師鳥井信、建築課長中澤誠一郎の兩氏が特派されたが、本會では會員のため特に兩氏に乞ふて4月14日建築倶樂部でその視察の情況を講演して貰つた、ここ及次項に揭出したものが即ち兩氏の講演速記である。

目　次

1. 概說
2. 函館市概況
3. 函館市の防火、及消火諸施設
4. 大火當時の風
5. 火災の延燒情況、及消防組の活動狀況
6. 避難及死傷者
7. 火災燒止り調査
8. 火防線の燃燒情況、及火防線の効果
9. 火災の損害狀況
10. 函館市の防火的復興計畫
11. 結言

1. 概　說

私は函館市の大火跡を視察に參りまして、去月26日午前6時頃函館へ上陸しました。函館は未た雪がぼつぼつ降つて居て、全くの冬の狀態でありました、私の上陸しました、26日は鎭火後、恰度5晝夜經過して居つたのでありますが、既に道路は整理され、電燈も點き、電話も通して居りました。　それは工兵隊及重砲隊が、懸命に活動した爲め、非常に速く整理されたのだそうであります。

燒跡を見渡しますと燒殘つた土藏や、鐵筋混凝土造が、燒野ケ原にぼつぼつ突立つて居る有樣は、何處も同じでありますが、其處に一つ內地に於ける燒趾と異つて居ると思はれたのは、煉瓦積の竈の樣なものが、突立つて居るのが極少なく、又壁土、葺土、瓦の類が推積された、小山の如きものが見受けられない、又敷地跡に屋根葺の鉄力が、散亂して居て、丁度波の打つて居る樣に、見える丈でありました、函館では內地と異つて、壁は壁土を用ひない、表裏から兩面板張りで、內側から紙を貼り、又屋根は屋根板の上に、野地で葺いた平鐵板張りの建物が、殆んど大部分であります、それは適當な壁土が得難く、壁土を練る期間も短く、又所謂殖民地式に、習慣となつたのでありまして、內地の少し上等の「バラツク」建が多い爲めであります。

尙ほ火災後、また餘り時日が經過して居ないのに、市中は非常に落付いて見受けられましたのは、道廳の役人が非常に敏活に働き、罹災者の約半數を、鐵道、船舶の無賃輸送をして離散せしめ、收容者には配給、救護が行屆いた爲めだそうであります、遇々救護事務を掌る人方が、忙しそうに動き廻つて居る中を、火事見舞とも見ゆる人、人探しらしき人、



1・　松風小學校屋上より燒跡を望む



2・　同　上



3・　放送局山上よりの瞰望

或は調査隊とも見ゆる人々が、うろうろすると云ふ情景でありました。　大阪からは富士岡、中澤兩君、東京からは田邊、二見外四君が、建築學會から調査の爲め特派され、神戸から山崎、岡本兩君が、恰度、私と同行され、其他各地から、都市計畫方面又は建築方面に從事して居る者が、多數入込んで、火災跡を調査して居りました。

さて、あの大火を起しました、大風の經路を驗べて見ますと、朝鮮方面にありました低氣壓は、21 日午前9時頃には能登沖40～50浬を、東北に通過して居たのであつて、其の21日午前9時過大阪では、最大18米半、築港附近では、局部的に20米あつたそうでありますが、幸にも、大雨を伴ひました爲め風も熄み、唯古い門や塀が倒れ、築港では、折しもの大潮と合して、大波濤を見ました、又市中では下水の汎濫位で被害はなく寧ろ、其の雨の爲め六甲の山火事が消え、殊に紀州神宮を中心として、數日に亘り燃え續け、損害既に數百萬圓に昇り、到底、鎭火の見込みなしとまで云はれた、大山火事を見事鎭火せしめて、非常な御手柄をした風でありましたが、　其颶風が、午後 2 時過ぎには、函館に近づいて參りまして、函館では午後 2 時から强風が吹いて雨を伴ひ、4 時には雨は晴れたが、風は益々强くなり、6 時には風速20米を示し、旋風、突風も所々に起り、看板は飛び、煙突は折損し、屋根葺材は剝れ飛ぶもの數知れず、更に屋根を吹飛ばされ、家屋の倒壞せるもの約千に近く、電信、電話線は切れ落ちて、交通も出來ない情態であつたそうであります、其內に 6 ケ所から漏電による小火が起つたが、幸にも消防隊は消し止めたのであります、それから風は益々吹き募り、電燈は全市的に停電して眞暗となり、氣溫は低り、全市民は、不安の狀態に陷つたのであります。　今にして考へますと、正に惡魔の襲い掛る凄さであつただらうと、想像されます。

斯くして、6 時53分、函館市の南端に在る、神職杉澤某の屋根が、吹き飛ばされ、其 2 階にあつた切爐の火が風に煽られて、大火の因をなしたのであります、その時は、風速22米ありまして、旋風、

罹災前の函館市街觀（津輕要塞司令部許可濟）

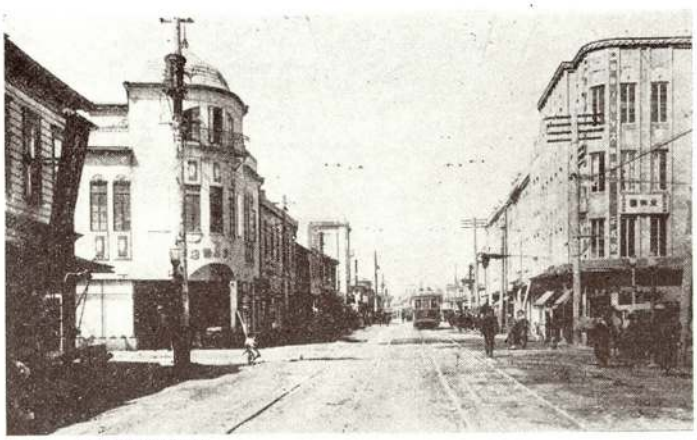


4・ 丸井デパート附近

突風、起り風向も67～68度の轉換をして、連續11時間に亘る火災の爲め、22,000餘戸を燒失し、4,300有餘の死傷者を生じましたので、實に關東大震火災に次ぐ、大悲慘事を惹起するに至つたのであります。 火災の詳細なる話を致します前に、先づ函館市の概況を述べて見たいと思ふのであります。

2. 函館市概況

函館市は北海道の玄關であります、古くから開けた貿易港でありまして、人口約210,000と稱せられて居ます、港灣設備は、素より、瓦斯、電氣、水道、電車其他あらゆる近代的設備の整つた都會で、北日本第一と謂はれ、北門を衛る要塞地帶であります。市は渡島半島の南端に、券肱をなして突出する函館山の中腹から、遠く放射展開し、恰もX字形を呈して居て、東西1里餘、巾狹い處で9町位であります。



5・ 惠比須町附近

函館山の裾一帶は上中流の住宅地で中央部及海港附近は商業地、東方は中以下の住宅地、北方は工業地であります。又市中は比較的區劃も正しく、道路面積も全面積に對して、約2割近くに當り、丁度大阪の舊市位の割合でありますから、中都市としては道路の多

6・ 函館市都市計畫街路地域圖





7・ 罹災前の蓬萊町火防線

であります。

3. 函館市の防火及消火諸施設

函館は是れ迄度々火災がありました、大火と云へば、函館を思ひ出す位大火には有名の所であります、最近の大火を調べて見ますと上表の通りであります。

函　館　市　火　災　調

火災年月	燒失戶數	燒失面積	風向	全半燒面積
明治40年8月	12,390戶	約400,000坪	東	全燒 14町 半燒 20町
大正3年4月	813戶	不明	東 15米	全燒 5町
同 12月	672戶	不明	北西 15米	同 16町
同 10年4月	2,141戶	54,191坪	東 5～11米	同 13町
昭和9年3月	23,613戶	1,410,000坪	南西22～24.2米	全燒 32町 半燒 17町

8・ 函館市火防線圖



此の40年の火災の際には、二三の保險會社が潰れたと云ふやうな事を聞いて居ります。其の結果、保險會社も函館と云へば、非常に警戒をいたして、火災保險率も日本の最上位であり、又一會社にて三十萬圓乃至四十萬圓位以上は取らぬと云ふ方針だと云ふことであります。

斯くの如く、函館に於ては非常に火災が多く、又市民は火災に對しては、非常に敏感でありますから、火災を防止する爲めには、從來色々な施設が施されたのであります、前表に擧げました以前、明治12年にあつた大火災後、防火用空地として、20間幅員の道路二條を以て、市を横斷しました、之を二十間坂と申して居ります。　大正10年の大火災後には、區劃を整理し、道路を擴げ、猶甲種火防線、乙種火防線と稱する場所を指定して、防火規格に適合した建物を建てる者には、補助金を與へ、更に、低利資金を貸付けると云ふ、防火家屋補助規程、及び防火家屋建築費貸付規程を設け

罹災前の函館市街　觀（津輕要塞司令部許可濟）



9・　罹災前の蓬萊町火防線



10・　同　上

ました、それは奬勵規程であつて、强制規程ではありません、構造に於ては、大體に、市街地建築物法を、準用したものでありますが、防火目的達成の爲め、軒高を21尺以上とし、防火地區の深さを5間としまして、甲種火防線内に於ては、延坪當り40圓、乙種火防線内に於ては、10圓の補助金を與へ、又甲種火防線内に於ては、延坪當り40圓の低利資金（利率4朱8厘、擔保付20箇年償還、一人總額 2,400 圓を超ゆることを得す）を貸付し、火防線の完成に努めたのであります。

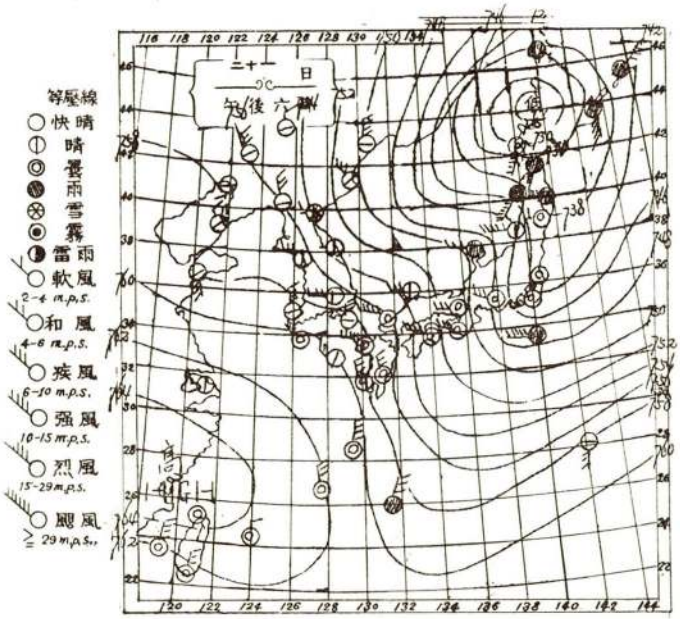
私は恰度大正11年に函館へ參つたのでありますが、當時は歐洲大戰の影響を受けて、物價は非常に高く「セメント」も6圓餘でありましたが、火防線の建物は、大低延坪當り 180 圓位で、鐵筋混凝土造が、出來て居ると云ふ事を聞きました、中に中村鎭氏が同氏發明の「ブロツク」積で、120 圓で造つて居ると云ふことを聞きました。　何しろ、當時は市街地建築物法も、施行されてまだ日が淺く、又鐵筋混凝土を、完全に造る經驗者が少いと云ふ頃であり、又安く安く、造ると考へた爲め、疑しげの鐵筋混凝土造もあり、其外に、木骨造で、外壁厚6寸以上の混凝土の中に、1 尺か1尺2 寸間位に、縱橫に4分の1「バー」を入れたもの、又中村氏の造つたのは、木骨造に外壁を厚6寸の「ブロツク」で積み上けて造つたもの、其の他煉瓦造にも、非常に壁體の薄弱なものなどがありましたが、　結極函館市が、50萬圓を以て助成の結果、出來上りました處は、蓬萊町通一筋約8町の間で、地藏町、東川通りと、電車通りの間であります。　然し其內を更に調べますと、木造が7棟、鐵筋混凝土造が 47～48 戶、煉瓦造 7～8 棟、木骨ブロツク造 7～8 棟もありました。　建物は4階建1棟、其他は2階建、3 階建半々と云ふ位で、防火建築の深さは奥行5間とし、其處に防火用鐵板戶を附し、木造附屬屋を附け建てしてあつて、深さ5間以上の防火建築は、4～5 戶に過ぎない狀態でありました。　かくして出來上つた街觀は、相當の體裁を保ち、銀座街と云ひ「カフエー」が繁昌して居りました。

消防施設としては、新式の「ガソリン・ポンプ」が20台ありまして、消防隊員は現役、豫備共 280 名居ります、又市中には、2 町乃至5町間隔に火災報知器を配置し、其數 175 ケ所、又水道の不完備を補ふ爲め市內各所道路下に、防火用貯水槽を設くる等、消火用施設には、殆んど間然する所がないとも見られ、消防隊の精銳は、日本の模範と云はれて居つたのでありまして、大正10年以後、十三四年間大火災もなかつたのであります。

4. 大火當日の風

函館では當日の風は37米吹いたとか、40米あつたとか、色々に申して居ります、道廳の公報では午後8時では25米餘であつたが、其時、測候所の風測器が倒れ、10時迄2時間、觀測出來なかつたが37米位であつただらうと云ふとでありまして、市中では皆思ひ思ひの事を言ふて居ります。私には、どうも腑に落ちない爲め、測候所で尋ねますと、測候所では觀測器は豫備のもので、完全に記錄出來たそうで、それに依ると、下表の通りであります。

11・21日午後6時天氣圖



大火災時函館風向、風速表

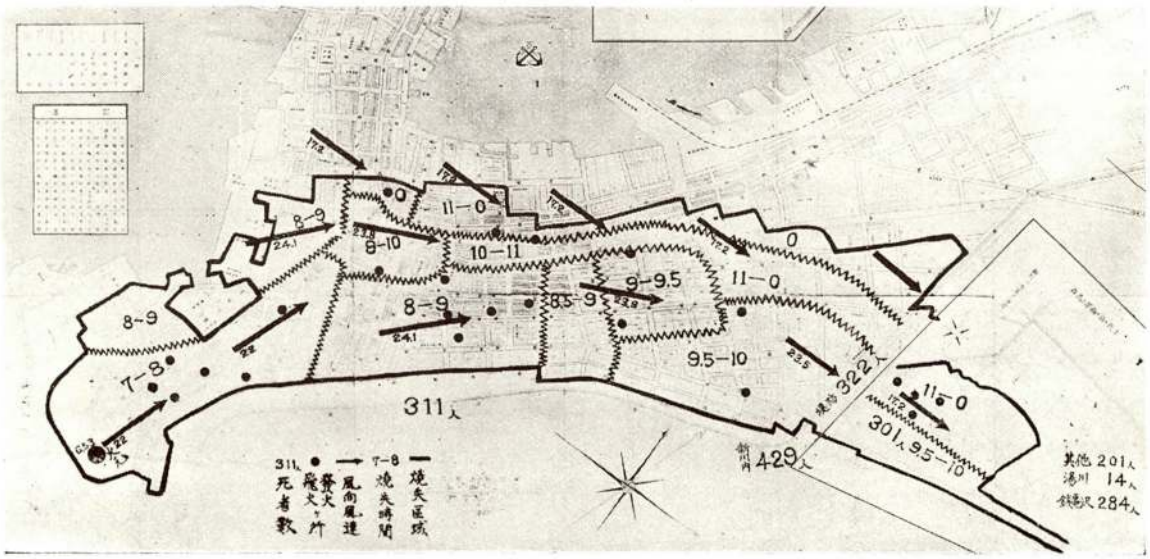
風向、	風速
6 P.M 南々西	18米
7 同	22
8 同	24.1
9 南西	23.8
10 西南西	23.5
11 西	17.5
12 同	16.5
1 A.M 同	14.8
2 同	14.6
3 同	12.3
4 同	9.6
5 同	10.2
6 同	11.3
7 同	6.7

午後6時53分發火
午前6時鎭火

記錄では、7時20分が最大風速で、24米2であるが、瞬間的のものは、27米位はあつただらうと思はれるとの話でした。

私は、先づ此測候所の記錄に依るより外なからうと思つて居りますが、併し函館公園の裏山では、生へて居る松の木が、大變、澤山折れて居ります、それをよく見ますと、直徑目通1尺位のものが、地上二間乃至三間位の高さの處で、何か切物で横に「スバリ」と伐つたかと、思はれる様に伐り倒されてあります、又八幡様の裏山の杉も、同じく切倒されて居て、其數約 1,000 本近くもあると云はれて居ました

12・函館市大火圖　燒失區域、發火、飛火位置、並各處、燒失時刻、風向、風速、死者位置を示す





13・　十字街附近



14・　旭町女子小學校の燒殘跡を見る



15・　蓬萊町附近

が、斯の如き風の力を見ますと、局部的には、37米或は40米近い旋風、突風が起きたのではないかとも思はれます、又風は非常に方向轉換をしたと申しますが、此21日の午後6時の天氣圖を見ると、詳細解りますが、午後6時には函館では天氣であつて、南南西の方向であつたが、颶風の中心が漸次東北に向つて移動しますと、其結果西風と變じて來たので、丁度午後7時から同10時迄に、67度半方向轉換をして居ります、それが爲め、逃路を失つて、あの様な澤山の死傷者、を出すに至つたのであります。

5. 火災の延燒情況

前頁に示した函館市大火面は、此處は何時から何時迄に燒けたと云ふことを示し、其時の風向及風速を矢を以て表はし、更に矢の下に、風速を數字にて記入して見たのであります、是れは勿論消防隊に聽き、又實地に就きて聞き訊し、色々やつて作つたのでありまして、稍々實際に近いものと思つて居ます、此圖中の丸星は飛火又は發火地點で、個立に燃え出した處を示すので、全部で24ケ所あります、此圖は右の方が左の方に較べて縮尺3分の1ですから、もつと長くなるのであります。

最初の發火地點、即ち火を起すと同時に火見櫓から見付つて、消防隊は直ちに掛け出したのですが、發火點が町の最南端で、又風上であつたから、消防自動車の到着するのに約3分を要し、其處で放水準備に約2分掛つたそうであります、詰り發見してから約5分後に初めて放水したのでありますが、其時は風速は22米もありますので、焔や煙は少しも上に上らず、全く地を甸う様にして非常の勢で燃え擴がり、火元に近く、道路に據つて防いで居た第一防禦陣は、颶風の爲め約10分後には、火が背後に飛び退陣を餘儀なくされたのです、第二陣は八幡宮下電車終點の道路を利用し、必死となつて防戰したが、矢張り旋風や、突風が頻りに起つて、何時の間にか火は更に後方へ飛んだので約20分間にして又退陣し、今度は公園側の町の最も狹い處に據つて、決死的防戰をしたのであるが、約10分後には、又々背後にある住吉小學校が、颶風によつて屋根の一部を吹飛ばされた所へ、火の粉がどんどん這入つて燃へ上りました、

罹災前の恵比須町大通



16・ 十字街附近丸井デパート



17・ 蓬萊町附近　　（津輕要寒司令部許可濟）

學校が燃え盛る時は8時に近い頃で、風も最高24米餘と云ふ極點に達した、場所は谷地、住吉の様な狭い處から、此様な廣い處へ燃え出て來たので、此所の高台から八方に燃え擴がつて、もう消防隊は手も足も出ない狀態になつたのであります。　そこで消防隊は第3陣を棄て2隊に別れ、1隊は防火線及二十間坂に據り、1隊は高砂町通り、又は鶴岡町、菊松町に據つて、風上への延燒を防止したのであります。　そうこうするす內に火の主流は風の方向に從ひ、3時間にして東海岸沿ひに約1里、東端砂山町迄燒き盡し、燃えるものが無くなつて鎭火したのであります。　又一方、火は風に抗して西北に燃え、汐見町方面に燃えた火流が風に乘つて流れ、大體に於て3階段に竝める様に燃えたのであります。

結局消防隊は10分間位つゝ四五箇所に陣を張つたのであるが、退いて放水裝置をして居る間に、火は忽ち飛んで後の方が燃えると云ふ有様で、又逃げなければならぬ、逃げるにも「ホース」を捲いて居る暇がないので、皆棄てゝどんどん退陣する。恰度熱河戰に於て、支那軍が日本軍の急追に遭つて、振返つて鐵砲を撃たうとすると、もう日本軍が迫つて來て、又逃げ出さねばならぬと、同じ狀態であつた様に思はれます。　猶ほ消防隊員は今度の様な大風には颶風、突風で時々吹き倒され、1人では立つて居れないので、二三人取縋つて漸く立つて居る位だから勿論充分の活動が出來ません、燒跡の水道の鉛管が熔けて水が流れ、水壓を減じ、又動力線は燒け落ちて、貯水池への揚水ポンプが動かなくなり、從つて水壓が減じ、且つ「ホース」よりの放水は、强風に吹飛ばされ、霧となつてしまつて、水はせいせい2間か3間位しか行かない狀態でありまして、全く消防隊は肝腎の水も出す、動作も出來ないから、完全に「ノツクアウト」されたやうな形で、何とも手を着けることが出來なかつたのであります。消防隊は急激な退陣、又退陣で「ポンプ」1臺「ホース」320餘本を燒き、消防隊員1名死亡、102名の重輕傷者を出し、實に氣の毒な努力をしたのであります。

6. 避難及死傷者

避難者は最初火事が北に向つて居た爲め、東川海岸に多く避難して居たのであるが、何時の間にか風は方向を轉じ、火に包まれたから逃げる路を失ひ、3間位の岸壁から怒濤逆捲く海中に飛び込んで、波に攫はれたのであります、此附近から300餘の死體を發見しました、又東の方、大森町方面へ逃げたものは、道路は先程御話した様に、看板、屋根材、電話、電信線が亂れ飛び散る內に馬車、手車又は脊によりて荷物を運んで逃ぐるもの、又反對に荷物を取りに歸る者等にて、道路は薄暗がりの內に動きの取れぬ混亂をなし、逃げる事も出來ない狀態であつた。　其內に火は急に追つて來て、新川に

架する木橋を焼き、又一つの橋は多人數の荷重で落ち、逃げ遅れた者は川に飛び込み、折柄の高潮と合せる怒濤に攫はれたのであります。　それが爲め此所で河中に 429 人堤防の附近に 322 人の死者を見たのであります。



18・　焼落ちた新川橋の慘狀

此新川は川幅 8 間、其兩岸は廣き堤防、又其兩側には夫々道路がありまして、總幅員約30間、丁度火の方向に直角に、恰も防火空地の如く位置してあつたのですが、火流は此附近に於て最も猛烈を極め、火焔は長さ約 2 町、棚引く火の幕は水平に容易く彼岸に燃え渡り、更に東方砂山に到り人家がなくなつて鎭火したのであります、此砂山は高さ四五十尺、幅 2 町餘、長さ約七八町もある砂丘であり、人家から 4 丁以上離れて居りますが、此山に避難した人は、皆火焔の爲め燒死したのであります、又海岸に居た者は、打寄する怒濤と寒さとにより、多數死んだのであります、燒け爛れて死んで居る人々の上に、怒濤によりて打上げられた船が、乘つて居ると云ふ、實に其の慘狀は言語に盡すことが出來ませぬ。　世の中に水攻、火攻と申しますが、此附近の慘狀は、水も凍れる如き怒濤であつたので、水攻、火攻の外に、寒氣に虐まれたのであります、此附近では 301 人燒死し、其他の箇所で 201 人、又海に飛び込み攫はれて、東方湯の川、錢龜澤に漂着せるもの 300 餘、遠くは、青森に漂着したものもあります。是等は死體の發見數で、猶ほ海に攫はれたものは、數知れずと云はれて居ります。

7. 火災燒止り調査

消防隊の消火能力は、先程述べた通りでありますが、消防隊は全力を擧げて努力したのであつて、最後には燒跡の中央部西北、即ち二十間坂、鶴岡町電車通り、高砂町の一部に集結して風上より消火に努めた丈で、其他の部分は、全く燒けるが儘に燒け、燃え草のなくなつて自然に鎭火したのであります、消防隊の最後の衛りである二十間坂其他電車通りにて鎭火し、恰も防火用道路にて喰ひ止め得た如く見え、其燒け止りには消防隊の活躍によつて半燒建物も數棟ありますが、此附近の燒失現狀視察者の談を聞くと、火は逆風に抗して、連檐の家に燃えて行くので、その道の中央では顏も暑くない位であつた只道路のある爲め家が切れて居るから、火は自然に止んだのである、その證據には歩道の並木や電柱が少し焦げて居る位だと云つたが、事實消防の効果は極めて薄く、先づ自然鎭火に近いものであらうと思はれるのであります。



19・　慘狀を極めたる砂山附近の光景　　（津輕要塞司令部許可濟）

8. 火防線の燃燒情況及火防線の効果



20・ 燒失後の蓬萊町火防線全景



21・ 燒失前の蓬萊町（此圖右端の更らに右にある建物の對側に建物内部に火の這入らざる建物あり）



22・ 燒失後の蓬萊町

先程述べました、住吉小學校の燃えたのは、凡そ8時近い時分で、間もなく火は飛び散り、8時半頃、火防線の中央部、南側にある鐵筋「コンクリート」造松竹活動館より發火し、又同時刻頃、東川方面より火防線の北側、約2町餘の處にある、西本願寺別院に發火し、續いて午後9時頃、其南にある寶小學校が炎上した爲め、結局、火防線は中央部兩側より燒けたのでありますが、南側火防線は、北側よりも少しく先に燒けたのであります、此南側より北側に延燒する狀況を、目擊した人の談によると、火の幕が對側に連なつたと云つて居ります燃え渡るには種々なる原因があると考へられます。即ち

1 南側火防線内の木造建築の燃燒によるもの
2 木骨「ブロツク」造、煉瓦造建築の内部に火の這入り、骨材の燒け墜つると共に外壁半壞したるによるもの
3 南側火防線の背後にある木造の燃燒により、2階建の屋上を超えたる火焰によるもの
4 南側火防線の背後にある、木造の燃燒による焰は、强風に吹き煽られ、建物相互間の間隙及び露路を通し、輻にて吹き出す如き火焰によるもの
5 鐵筋「コンクリート」造建物の内部に火の這入り、内部燃燒により、窓、出入口等の開口より火焰を吹出したるによるもの

是等の諸原因によりて、北側火防線内の建物前面の各開口は、防火設備がない爲め、忽ち延燒し、又少しく遲れて、北側火防線の背面より燒けたのであるから、火防線の目的は、殆んど功を奏しなかつたのであります、火防線内の背面、窓、出入口は防火用鐵板扉であつたから、附屬屋の燃燒により扉の間隙より、又扉の灼熱による室内發火により、殆んど總て室内に火が這入つたのであるが、少しも火の這入らぬ鐵筋「コンクート」造は、北側に2棟、南側に2棟、殘つて居ります。　之れを驗すると、何れも背面防火扉は、鐵板の外部に厚2寸位の漆喰塗とし、1棟の如きは、二重防火扉である、



23・燒失後の蓬萊町火防線を惠比須町電車より望む

然し何れも前面開口には、防火扉を付けて居ないのであります。南側の分は、火流の方向に對し背面を向けて火を防止し、建物前面を風下に向けて居るから、內部に火の這入らぬのは異とするに足らぬが、北側火防線にあつて、建物前面開口が防火設備なく、火流の方向に向ひ乍ら、火が建物內部に這入らぬと云ふことは、特に注目すべきことであります。此附近では、火は南側より北側に延燒しなかつたことを、示すものである、即ち此部分では、少くも、火防線の目的を達成したと考へられるのであります。更に此建物對側の建築並に其燒失狀況を更に驗すると、何れも完全なる鐵筋「コンクリート」造3階建で軒を揃へて居り、又建築相互間に間隙なく建揃つて居るので、建物內部に火は這入つても、內部燃燒により、窓、出入口より吐き出す火焰は、8間幅の道路を超えて、燃え渡らなかつたことを證明し得るのであります。即ち火防線は深さ5間でも、鐵筋「コンクリート」造3階建として軒を揃へ、且つ建物相互間に間隙なく建つて居れば、火は火防線の一方建物內部に火が這入つても、8間道路を越えて燃え渡らないものと、考ふる事が出來るのであります。

猶ほ火防線に於ては、火の延燒が非常に停滯したる事は、各所燒失時間圖に示す通りであるが、若し火防線がなければ、火は8時頃、北方函館灣迄燃え抜き、東方に方向を轉じ、海岸一帶、停車場附近を燒き、更に東方に廣範圍に燒失したものと、考へるのであります。

鐵筋「コンクリート」造の建物で全然內部に火の這入らぬものは6棟、其外の約50棟は火が這入つたのであります、土藏は凡そ五六十棟も完全に殘つて居ります、土造藏の店舖で、內部に火の這入らぬものは2～3棟ありました。

9. 火災の損害狀況

火災の損害に付ては色々に報道されて居りますが、3月31日迄の各種確かなる報道を摘記しますと燒失面積は141萬坪で、長さ約1里、幅約8町、全燒町が32箇町、半燒町が17箇町であります——燒失建物及建坪數は、燒失棟數が11,102棟、戶數にして23,613戶でありまして、住家が9,531棟、其の建坪32,100餘坪、非住家が1,591棟、其の建坪が36,300餘坪であります、　其の主なるものは學校が18、官公署が10、劇場が10、病院が48、社寺が19、銀行が3、新聞社6、工場及倉庫が14、其の他の大建築物が7と云ふことになつて居ります——損害額は建物だけで、36,535,915圓で、1棟當平均が3,320圓程になつて居ります、其の他の損害が87,372,412圓で、是は建物以外の商品とか、工場の設備とか、色々なものを集めたものでありますが、此損害の數字は道廳の報告に依りましたので、內容は能く究めて居りませぬ。合計すると123,908,327圓の損害で、罹災者1人當1,230圓になるのでありまして、詰り1家族にすれば、大體5,000圓近い損害になります——罹災人口は101,979人で、死傷者は死んだ者が1,911人、重症者が2,318人であります。

10. 函館市の防火的復興計畫

函館市は度々の大火に見舞はれて、今後之を如何にすべきかと云ふことに付ては、北海道廳當局がまだ餘燼の熄まぬ中から、內務省の都市計畫課と諮つて、着々計畫を進められて居りました、大體の

計畫としては、燒跡を全部區劃整理をして、適當な廣い道路を設け、又防火施設として、30間以上の綠樹帶を以て縱横に區劃し、又一部に防火地區を指定して、之を急速に完成する爲め、補助金の交附、低利資金の融通を圖らうと云ふので、區劃整理及び道路の方は約2千萬圓、防火地區の補助は約2百70萬圓と云ふ計畫を立てゝ居りましたが、是は大部分、國庫の補助を受けるものとして、計畫を進められて居りますので、果して、國がどれだけの補助をなすか、目下交涉中だと云ふことであります、何れにしても今度の火災に徵して、30間幅の綠樹帶では延燒を防止することが、出來ないことは確證されたのであり、消防隊も完全に「ノツク・アウト」されたのであるから、今後の都市の防火施設は、どうしても集團的防火地區を設くることが必要であつて、是より外に都市の防火策はないのであります。

今回燒失地總ての保險金額は2千7百餘萬圓、內、外國保險が600萬圓貰へると聞いて居りますが、東京、橫濱に於ける震火災の場合と違つて、保險金が澤山交附されるから、函館市の復興も餘程樂で、仕事も速く進むのでなかろうかと考へられます。序に今回の風が如何に强く、火災がどれ丈大きかつたかと云ふことは次の2ツの表に依つて御覽を願ひたい。

大　火　災　比　較　表

市　名	年　月	燒失面積	燒失家屋	死　者	風　速
東京市	大正12年9月	10,485,000坪	354,452棟	58,104人	北西 21.8米/秒
橫濱市	大正12年9月	2,999,000坪	94,883棟	21,384人	不明
函館市	昭和9年3月	1,410,000坪	11,102棟 (23,613戶)	1,911人	24.2米/秒
大阪市					
北の大火	明治42年	360,000坪	11,365戶	6人	東 9.5米/秒
南の大火	明治45年	140,000坪	4,576戶	3人	西 12.7米/秒
大鹽燒	天保8年 (97年前)	2,796,000坪	18,077軒	不明	不明
寬政3年の大火	寬政3年 (146年前)	332,800坪	13,386戶	32人	不明

11. 結　言

東京に於ける大火は地震に起因し、今回の函館市に於ける大火は全く風が造つた火災でありまして地震と風と原因は違つて居りますが、此2つは何れも、大火の因をなしたものであります、其の他今後の國家非常時に於ける空襲を考へて見まするとと、我が國の如き木造建築の集團たる都市は、實に非常なる危險に曝されて居るものと言はなければなりません、仍て我が建築協會では、此等の危期を憂慮し、日頃都市計畫並に建築方面から、防火、防空建築の必要を、社會に向つて唱道して居るのでありますが、此の際、此の尊き犧牲を、時と共に無にしない樣、生きた實例を以て、更に更に聲を高くし、都市の防火防空建築の必要を唱道すべき、尤も宜い時機ではなからうかと考へるのであります、　甚だ不完全なる調査を、長々と述べまして、御淸聽を煩はしましたことを感謝致して、私の視察談を終ります。

（拍手）

大阪と函館の大風調

大阪（明治15年測候所創立以後の大風）

年　月	風位	風力
大正元年9月23日	西南西	25.9米
大正2年10月3日	北々東	24.9
大正3年1月7日	西	24.0
大正10年9月26日	西	25.0

函館（明治29年測候所創立以後の大風）

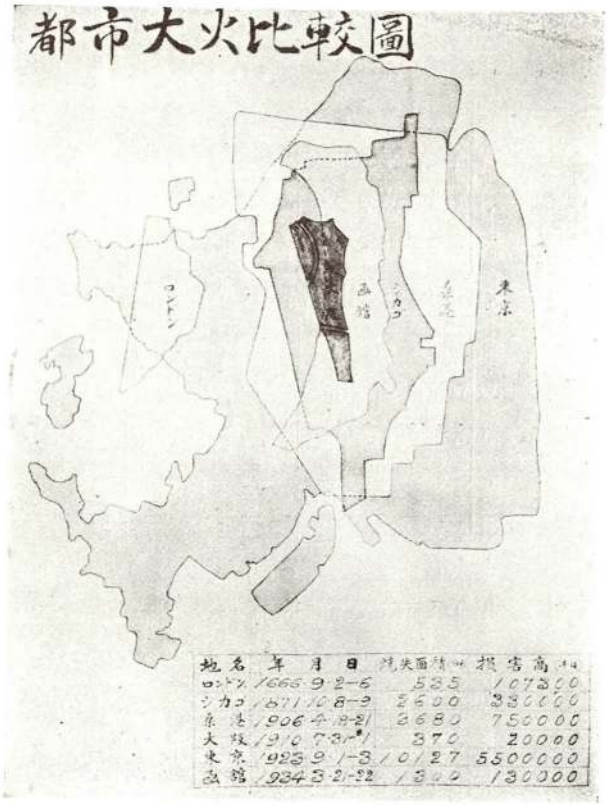
年　月	風位	風力
大正11年3月21日	南西	25.4米
昭和3年2月7日	西北西	27.9
昭和9年3月21日	南南西	24.2

函館市大火災の實地踏査をして

中澤誠一郎

唯今鳥井さんから詳細なお話がございまして、私も拝聽いたし、非常に啓發される所がありました。同様のことに付て私が又申上げるのでありますが、成べく重複する點は避けたいと存じます。又記錄等に付きましては私に十分な自信がありませぬし、道廳の發表統計等も時期に依りまして、色々違ひますので、段々後に正確なものが出て來るやうに考へますし、さう云ふ點は全然略したいと思ひます。

唯今回の火災が過去の火災と比較してどんな風であるかと云ふことを一寸圖に書いて見たのでありますが、斯の如く、何と云つても東京の大震火災はレコード破りのやうであります。燒失區域の點から云つて、今回の函館の大火は、シカゴの大火の約半分位、ロンドン大火の約二倍强位ぢやないかと考へて居ります、隨つて今回の大火災は歷史的に見ましても、可なり大きな火災であると言ふことが出來ると思ふのであります。それで私は先づ見て來たことを羅列的に申上げ其の一々に付て少しづゝ感想を附加へて置くことにしたいと考へるのであります。



第一は、先程もお話のありました大正十年の大火災の後、市が補助をして造らせました防火線でありますが、是は大體それ自體と致しましては殆ど皆燒けて居りますのみならず、補助を受けた耐火構造のもので、火災に遭つて壞れて居るのが可なりあるのであります。是は一寸不思議な現象でありまして、之に付ては相當原因があることだと思ひますが、其の一つとしては監督が殆ど出來て居なかつたのでないかと想像されるのであり



函館市火災時の時間帯

ます。詰り耐火建築が火災に遭つて壊れたと云ふことは非常に不思議な現象でありまして總體的に申上げますれば、今回の火災に於て防火線なるものは何も效果が無かつたと言へるのであります。先程のお話にありました通り、兩面から火を受けて、木造の家屋が燒けた爲に、結局火を止めると云ふ作用をしなかつた、斯う云ふ結果であります。唯其の中で恰度燒けた灰の中から何かを拾ひ出さうと考へますと、時間帶を作つて見れば、分りますやうに、防火地帶は緩漫燃燒に役立つた、即ち急速な火勢を其處で一時喰ひ止めたのでなからうかと考へられるのであります。

又もう一つは火が此の中を通らなかつたと云ふことであります。先程お話しになりましたやうに、大きな焔が吹いて、表面がやられたと云ふ跡が無い。尙ほ此の市民館の近所に改築中のカツフエがあにまして、足場などを組んでありましたり、其の隣の家の前にカンレイシヤの樣なもので廣告をしてありましたが、さう云ふものが少しも火で害を受けてゐない、是等も考へまして、さう云ふことが言へると思ふのであります。隨つて將來例へば避難路線の兩側に防火地區を設定すれば、相當避難場所が保護されはしないかと云ふやうな點に思ひ及ぶのであります。

斯う云ふ防火線の大體のラフ・スケツチをやつて來たのでありますが、是はスケールが少し奥行が深いのでありまして、奥行は大體此の圖の半分位、即ち四五間程のものであります。後で御覽を願ひますが、此の中に柱が混凝土、梁が木造で、漸く柱と梁をつなぎ合はして混凝土造に見せかけたやうなものがありまして、勿論耐震的には駄目だらうと思ひますし、構造的に如何はしいので、混凝土造と云ふ名稱を附するのはどうかと思ふやうなものが大分あるのでありますが、どうもそれに對して名の付けやうがないものでありますから、混凝土造と書いて置きました。だから、是は普通の大阪市中に在る混凝土造を想像して戴きますと、非常に違ふのであります。

第二に、函館大火の跡に付て甚だ奇異な狀況を呈して居りますのは、亞鉛板でありまし


函館中心部罹災状況圖
（木造を除く）
須美町
恵
宝
蓬莱町
凡例
焼失區域限界
甲種防火線
乙種防火線
C 鉄筋コンクリート造
C' 同屋根及床木造
CB コンクリートブロック造
B2 煉瓦造二階建
S 石造
土 土藏一階建
WMC 木造メタルラスコンクリート
W2 木造二階建
● 類焼セシモノ
X 類焼半壊セシモノ
✳ 類焼殆ンド全焼レタルモノ
✳ 類焼全壊セシモノ
○ 類焼ヲ免レタルモノ
D 一部類焼セシモノ



罹災前の函館銀座（甲種防火線）東側を南方より見る



同上　　市民館の前より南方を見る



同上　　夜の函館銀座

て、後で寫眞を見て戴きますと分りますが、兎に角焼跡は一望全部亜鉛板であります。如何に亜鉛屋根の建物が多かつたかと云ふことが想像し得るのであります。又焼けてゐない家を見まするると、風の爲に殆ど皆亜鉛屋根が剝ぎ去られて居ります。此の點から申しまして、此の火事は板葺屋根を傳つて焼けたやうな有様でなかつたかと私は想像したのであります。それ程亜鉛屋根が多くて、而も其の亜鉛屋根が風の爲に剝がれてしまつたと云ふことが考へられるのであります。

次に土藏造でありますが、土藏造は殆ど完全に助かつて居るのであります。或土藏造の家に住つて居る人に聽きますと、それは既に五遍火災に罹かつてゐて、私が住んでからでも是で三遍目だと言ふて居りました。而もそれは火元に近い谷地頭の邊でありまして、出火後一時間足らずにして燃えて居る所でありますけれども、其の家へ既に疊を相當運び込んだと云ふことでありまして、私の參りました25日にはもう其處に住んで居つたのであります。又其の土藏の中に佛様に供へた花があつたのでありますが、開けて見ると其の花が些とも變色も何もしてゐなかつたと云ふことであります。さう云ふ狀況で、土藏造と云ふものは非常に澤山完全に殘つてゐるのを見たのでありますが、それは皆戸を閉めて、それに味噌の目張をやつて居ります。それだけやつて置いて皆逃げ出したらしいので



罹災前の函館銀座


同　上

ありますが、是だけで完全に耐火的效能を發揮し得たと云ふことを考へまして、我々は耐火建築と云ふものに付ては、非常災害時に於ける我々の能力と云ふものをば考慮に入れて、極めて簡單に完全な防火設備が施し得るやうにして置く必要が多分にありはしないかと云ふ風な感じを有つたのであります。

次に防火戸でありますが、シヤツターは大體に於て非常に有效であつたのであります。一二の例外はありますが、概してシヤツターは大變有效に役立つて居ります。燒けた消防署の横の邊に電話分局が在るのでありますが、是は窓に全部シヤターがあつて猛火の中にあつて、全く災害を受けてゐない。又先程お話のありました通り、惠比須町の邊に2戸完全に殘つて居るのがありますが、裏の方は先程お話のやうに、二重戸になつて居りまして、表の方はシヤツターを下ろして居ります。是は3階建でありますが、1階から3階まで完全に殘つて居るのであります。又新川小學校と云ふのがありまして、其の外窓はシヤツターも何も無いのでありますが、此の廊下のシヤツターが相當利いて居るのでありまして、後で寫眞を御覽願ひたいと思ひますが、3階は全部殘つて居るのであります。2階はどうかと申しますと、此のシヤツターの部分まで燃えて來て、シヤツターで完全に止めて居りますし、1階も其の爲に一部分殘つて居るのがあります。殊に面白いのは、シヤツターの下が一部分開いて居る所がありますが、火が其邊から少し這入つてゐて、中が最後まで燃え盡してゐないと云ふことであります。是は恐らく他の部分から遮閉されてゐて、其の關係でドラフトを生じなかつた爲でないかと思ふのでありますが、一寸奇異な感じを起すやうな場所がありました。さう云ふ意味から言ひまして、シヤツターは全體として非常に效果があつたものと考へますし、又それに關聯いたしまして、火災に際しては、詰りドラフトの生じないやうにすることが非常に有效でないか、之に對して色々な方法を考へなくちやならぬのでないかと云ふやうな氣がするのであります。





それから私は燒け止りの所をすつと見て廻つたのでありまして、其の燒け止りのことに付て色々順序なしに申上げますと、谷地頭の邊は風の方向に直角な方向に燒けた場所でありまして、燒け止りの邊は山手でありますが、その邊は點々と疎らに燒けて居ります。即ち此處まで燃えて來て、此處で火が止つたと云ふ場所がないのであります。一つの家が殘つて居りまして、其の向ふの家を捜しますと、それが燃えて居りますし、又此の邊は燒け殘つて居つて、其の一寸先へ行くと、又燃えて居ると云ふやうな譯で、此の邊の火がどう云ふ風に走つたか、非常に不可思議な感じがするのであります。旋風、突風の爲でせうが順序よく燃えてゐないで、非常に氣紛れな燃え方をして居る譯であります——それから少し北の方も矢張りさう云ふ傾きがあるのであります。此の邊へ參りますと、此の廣い道が所謂二十間坂になるのでありますが、その手前の此の電車通りに面した處に丸井百貨店と云ふ函館一流のデパートがありまして、其の百貨店の表通りに面した窓にはシヤツターも何も無く、裏の方にシヤツターがあるのであります、それは裏の方に在る木造の家と遮斷する意味に於てつけてあるのでありませうが、是は表側から火を受けて燃えた形跡がないのであります。此の西隣の方から燃えて來た其の煽りで裏側の木造を燒き盡し、其の煽りで此のシヤツターがどうかなつた爲に、其處から火が這入つて、內部はすつかり燃してしまつた。斯う云ふのがあります——二十間坂の東へ參りますと、是も亦火勢は西風で煽られ、こちらへ向いて居る譯でありまして、其の餘燼で以て非常に緩慢な延燒をして居る所





函館大火・西方より見たる新川小學校（復興計畫に依るシビツクセンター）
（津輕要塞司令部許可濟）

であります、此處に一つ防火壁があります。それは昔の劇場にありますやうな1枚半位の煉瓦造でありまして、建物の妻の方にあります。是は相當な高さの2階建でありますが、其の檐から少し高い位まで煉瓦を積みまして之をボールトで建物と繋いで居る譯であります。さうして其の間隔が3尺位だらうと思ひますが、其の位あけまして、此處に防火壁が立つて居りますので、其の爲に其處まで燃えて來て、是が完全に喰ひ止めて居ると云ふ狀態であります——それから此處に函館毎日と云ふのがあります。是は後で寫眞を御覽願ひますと分りますが、2階までは鐵筋混凝土で出來て居る相當なものでありまして、3階をば後に繼ぎ足したのださうであります。是の部分が所謂はりぼてのものであつて、完全にやられて居ります。さうして是の梁が鐵骨のムキ出しの梁でありますが、其の3階の床梁が上から墜落して參りまして、2階の床梁へ落込んだのであります。それで中へ這入つて見ますと、梁がすつかり折れて、二目と見られない狀況になつて居りますが、是は上の耐火構造でない部分がやられた爲に下の部分もお相伴を喰つた例であります——此の電車通りに參りますと、少し耐火的な構造を有つたものは大體に於て助つて居ります。此の邊は所謂逆風でありまして、餘燼で以て擴まつて行き、此處に消防隊が陣を布いてゐたので、燒け止つて居る譯であります——驛前から少し東に行つた邊は恰度風の方向に燃えて來て、段々先が窄つて居る譯であります。で、今度見ました中で半燒と云ふやつは此の邊だけに在るのであります。此の邊の折れ曲りの部分は一寸火が引つ掛けて居ると



函館大火・右方に見ゆるは函館女子高等小學校



同上・新川哺育院横のボララ並木　（津輕要塞部司令許可濟）

云ふ場所で、そこに半燒の家が殘つて居りまして、他は全部半燒でなく、綺麗に砂山の邊迄燃えて來て、この湯の川行の電車通りの北側は全く完全に火を受けてゐないと云ふ狀態であります。此の邊は時間帶にありますやうに、夜半の1時頃から燃えて居りますが、此處は千代ヶ岱と云ふ所でありまして、こゝに千代ヶ岱の診療所がありますが、これと電車道を距てゝ北側に混凝土造の交番所がありまして此の二つは完全に殘つて居るのであります、これは飛火が此の二つを超えて飛んで、それから先の方が燒けた譯であります。廣い燒け野原の中に不思議に殘つてゐるのは奇蹟的であります——此の邊がもう一つ後に燒けて居りますが、それは此處に函館商事と云ふゴム會社がありまして、それに引火してそれが西風に煽られ燃えたので22日の午前2時頃であります。此の東の方に大谷女學校がありまして、是は鐵筋混凝土の堂々たるものでありますが、幾らか高臺に在りまして、而も火勢はゴム會社から西風でやつて來て居ると云ふ關係でありますが、女學校の下には相當半燒の家がありまして、其の半燒の家で漸く喰ひ止つて居ると云ふ狀況であります——砂山の方面になりますと、街路割の圖は非常に立派でありますが、家が非常に疎らな所でありまして、其の爲に止つて居るのでないかと云ふ風な感じがするのであります。

之を約めて申しますと、今度の燒け止りと云ふものは、第一には消防隊に依つて燒け止つたと云ふ所は殆ど無いと云つたやうな譯であります。又關東の大火災の時は地理的に、例へば樹木であるとか、坂路或は崖地であるとか云つたやうな所で、はつきり此處まで燃えて來て此處で止つたと思はれる所があつたやうでありますが、今度はさう云ふ所が非常に少いのであります。大體風の思ふ儘に燃えて行つて、風の力で何とも出來ない所、海とか、家のない所で燒け止つた、斯う考へるより外に考へやうのないやうな燒け止りの狀況

になつて居ります。隨つて其處に耐火構造があつた爲に完全に止つたと云ふのは見當らなかつたのであります、一二止つゐるのもあるがどうもそれは矢張り其の場所の風の工合がさう云ふ風になつた爲でありまして、あゝ云ふ風に對しては何とも手が着けられぬのでないかと云ふ風な感じだけが強くするのであります。



函館大火・殘存せるクサカリ藥店より消防署の方向を望む(津輕要塞司令部許可濟)

次に少しく方面を變へまして、今度の火災に對して私の參つて居りましたまでに於ける救護や復興計畫がどんな風であつたかと云ふことを一寸申上げて置きます。是は主として都市計畫的に見た事柄でありますが、燒けました當時は北海道長官は上京中でありましたので、早速23日頃歸つて參られまして、直に復興計畫を考へられたやうであります。而も今度の如く非常に速く復興計畫を進められたと云ふことは、是は最も特筆すべき事柄でないかと思ふのであります。即ち3月24日には一つの告示を出しまして、函館の大火に依つて燃えた區劃內では都市計畫法に基く土地の區劃整理をやるから、右完了（約6箇月の豫定）に至るまで建築物は總て假設建築物の外建築せざるやうすべし、斯う云つたやうなことを明にして居ります。此の告示で特に目に着いたのは、右完了に至るまでと云ふ所に括弧を付けて6箇月の豫定と云ふことを明にしたことであります、詰り之を出します時に北海道長官が既に6箇月の豫定を以て土地の區劃整理をやるのだと云ふ腹を決められたのでないかと察しられまして、非常に面白いと思ふのであります——又先程申した防火線に在る建築物、及び其の他に相當被害を蒙つた不燃建築物が在るのでありますが、之に對しましては、3月26日に工事着手前に北海道長官の許可を受けて修繕をしろと云ふ風な命令を出しまして、之に依つてそれ等の建築物の修繕に當つて相當構造的に之を監督すると云ふ方針を決められたやうであります——尙ほ私は28日に彼地を引揚げたのでありますが、其の28日には既に測量隊が勢揃ひを致しまして、都市計畫の既定幹線を此の際事業として實施すると云ふ立前の下に、即ち先の告示にある土地の區劃整理をやると云ふ考の下にどんどん杭打を始めて居りました。詰り假設物を全部其の杭の內らに引下げて建てさせるやうに、さう云ふ風に手廻しよく杭を打つて居つたやうに見受けたのであります——其の他新聞等で既に御承知になつて居ります如く、計畫の主なるものとしては、綠地帶を持つた廣路の新設、或は街路の區劃變更並に其の實施、土地區劃整理の施行、防火地區の指定、外濱の埋立——それは此處であります。此の大森海岸に近くに函館女子高等小學校と云ふの

がありまして、新川小學校と同じやうな3階建の鐵筋混凝土造でありますが、此處までは埋立が出來まして、此處に廣い道路を挟んで公園と建築敷地 — 家はまだ建つてはゐませんが——出來て居る譯であります、是から先は所謂普通の砂濱でありまして、波が打寄せて來るのであります。其處には昔ながらの低い防波堤の様なものもありますが、此處へ燒跡の色々な塵芥を全部持つて來て、それを埋立に使はうと云ふ譯で、其の塵埃の捨場所を此の新川から函館女子高等小學校の前迄の間と云ふ風に市が指定いたしまして、以て一石二鳥と云ひますか、後始末をすると同時に海岸の埋立をしやうと云ふ計畫でありますが、或人に聞いて見ますと、どうもそれだけの塵芥は無いやうであります。併し兎に角計畫としてはさう云ふ風なことを考へて居るのであります。又郊外地への避難連絡道路の敷設、是は都市計畫の方で大體湯ノ川の方へ行く道路を考へて居りますが、之を更に將來の所謂シヴイツク・センターになる函館の中心地點から眞直ぐに持つて行かうと云ふ計畫をして居るやうであります。尙又公園地區を指定しまして、相當廣場を取らうと云ふ風なことも考へて居るやうであります。以上申上げたのが大體私の見ましたところの道廳の計畫であります。次に私は既に申上げもしましたが、私の雜感と申しますか、感じた一二の點をば申上げまして、御批判を仰ぎ、私の話を終りたいと思ひます。

第一は廣場であります。廣場は常に東京の被服廠跡に於けるが如く、結局多人數が集つて死ぬ場所のやうな結果になつて居るのであります。今度の場合に於ても新川、大森濱、此の邊一帶相當な空地が在るのでありますが、此の邊が非常に澤山の死人を出した場所になつて居るのであります。斯う云ふ點から考へまして、廣場と廣場との間には必ず相當完全な連絡道路を取つて、避難の爲に備へなければならぬのぢやないかと云ふ風な感じをするのであります。橋は無論不燃燒の橋で、其の避難道路に對しては私は所謂路線式の防火地區と云ふやうなものは即ち斯う云ふ避難道路に指定して非常に効果を發揮するのでないか、斯う云ふ風にも考へるのであります。

又一つには、一般に避難に對する知識を普及して置くことが非常に大切であらうと思ひます。今度の火災に於きましても避難民の誘導を警察官がやつて居るのでありまして、茲に斯う云ふことを書いたものがあります。一寸讀上げますと

> 避難民に對しては安全地帶を示して其誘導に努め、特に危險區域を安全地帶と誤認し避難したる者もあり、之等に對しては殆ど强制的に避難の誘導を爲せり。

此の內容は分りませぬが、警察官が相當働いたことを述べて居ります。ところが、其の後7時30分頃になりますと、即ち發火してから30分ばかり後には警察電話が切れてしまつて、間もなく又電燈が消え、如何とも仕方がなくなつたと云ふことを云つて居ります。それで斯う云ふ場合には、警察官などは火を消すよりも避難民を誘導することに一生懸命になることも必要でありますが、一般の市民も一朝災害の時に餘り狼狽しないやうに平素より訓練して置くことが大に必要でないかと私は考へるのであります。

それから集團式防火地區の必要なことは先程鳥井君から縷々お話があつたのでありまして、私も全く同感であります。是は鳥井君の述べられた所に全く同感であると云ふことを

申上げるだけで十分であらうと思ひます。

次に建築法規の窓に對する色々な規定がありますが、是は見方に依りますれば、建物自體が燃えることは問題でないので、火を他處へ撒き散らさなければ可いともいへます。從來の例へば大阪大火に付て見ましても、松ケ枝小學校が燒けて、それから急に火勢がひどくなつたと云ふことが書いてありますが、今度の函館大火でも住吉小學校が燃えてから急に火勢が强くなつたと云はれて居ります。詰り傳染病のバチルスを撒き散らす樣な仕事を大建築物がやるので大建築物と云ふ風なものから非常に火勢が强くなつて來るやうであります。此の點に於て防火地區の耐火構造と云ふものは、火が來ても、其の火を附近へ振撒かないやうにすると云ふ風な事丈け考へればいゝ、それ自體中がやられることは仕方がないといふ規定かも知れぬのでありますが、そんな事で窓が例へば 6 間離れて居れば、別段防火戸と云ふ風なものを必ずしも要しないと云つて居るのか知りませぬが、是は餘程考へものでないかと云ふ氣がしたのであります。燒けても可いと云ふのならば、寧ろ 6 間と云ふものも必要はない、それが燒けないやうにと云ふことを考へるとすれば、どうも此の 6 間と云ふのは短いのでないかと云ふ風な感じが致すのであります。

要するに、今度の大火は烈風或は颶風に近い風の中で起きたので、我々の考と致しては最惡の場合に起きたやうな氣がするのでありまして、私は災害防止とか災害防備と云ふ事柄は斯かる最惡の場合を考へて置く必要があると云ふことを熟々と感じたのであります。動もすると、折衷案と云ひますか、實行可能案といひますか、出來得る程度のなまぬるい防備と云ふもので我慢をすることに慣らされてゐる、それは金がない爲なのであります。又之の施設を急速に完備さす爲に助成金をやる等の考を起こしても結局金がない、そんな餘分な金はないといふのであります。例へば防火地區の實際的効果を發揮する爲には相當之を促進せしめねばならぬ、促進する爲に金を出せと大藏省へ言ひますと、それはいけない、そんな金は無いと云ふのでありますけれども、一朝 1 億 3 千萬圓程使つて何にもならぬものに消失させた後には泣いても笑つても出さなけりやならぬ、何千萬か何百萬か知りませんが金を國が出さなけりやならぬ。それ位なら災害が起きる前に出しておけば 1 億圓位は儲かる譯であります。どうも子供の體が丈夫な時にはうまいものを食はせないで病氣をして物が食へなくなると、甘いものを食へとやかましくいふ、そして藥代が要るこれは下手な育て方であります、うまいものは贅澤ぢやない、榮養であります、平素榮養をよくしておけば病氣にならぬ、都市の榮養は、災害の豫防であります、これに金をおしんでゐると病氣にもなるし、金も徒に要る、仍ち災害に付ては最惡の場合を考へて、成べく急いで、事前に之を防備すると云ふことが必要である、それがどうも何と云ひますか、私の眼から見ますと、いつも平素は金をおしんでゐて、災害の起つた後から金を出して居ります、金が全くない譯でない、そういふ金を事前に與れゝば可なりな仕事が出來、從つて莫大な損害の生する災害を豫防することも出來る、折角出される金なら平素に與れるのがいゝ、そうでないと何だかつまらぬ金のような氣がするのであります。

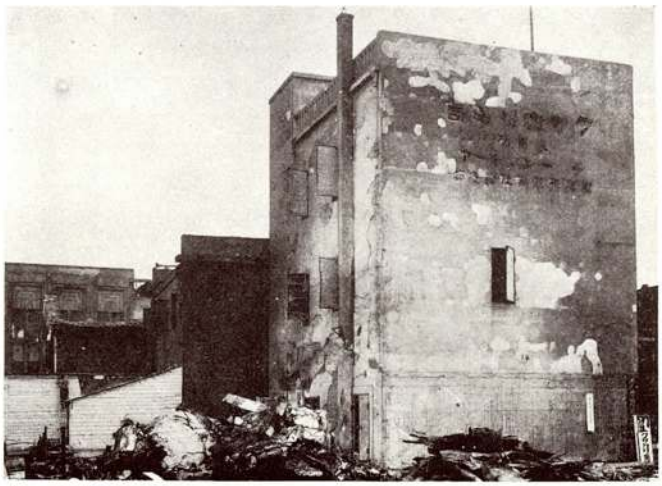
洵に粗末な取止めのない話でありましたけれども、私の話は是で終ります。(拍手)



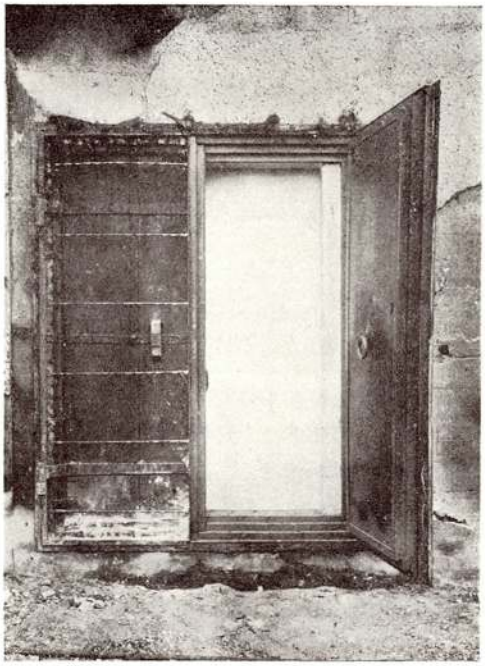
1・ 銀座裏街の被害狀況
市民館3階より銀座街の東裏側を望む



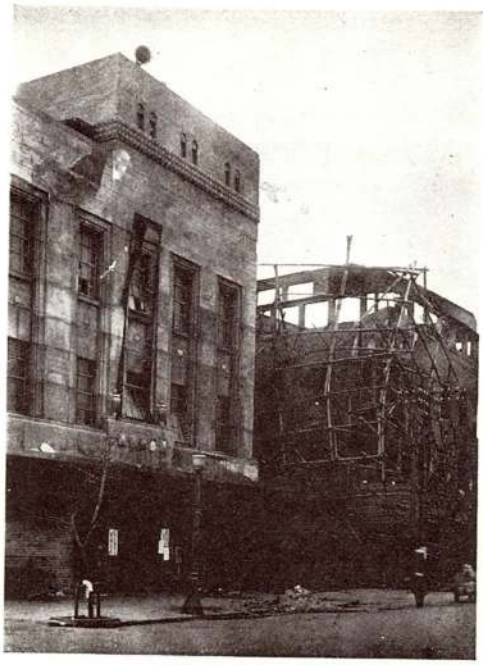
2・ 大損害を受けたる耐火構造街（銀座街）
右側の3階建がクサカリ薬局



3・ 火炎より免れたるクサカリ薬局



4・ クサカリ薬局背面防火扉の詳細を示す
内部に土藏引戸、外部はセメントモルタルを張り付けたる鐵製扉

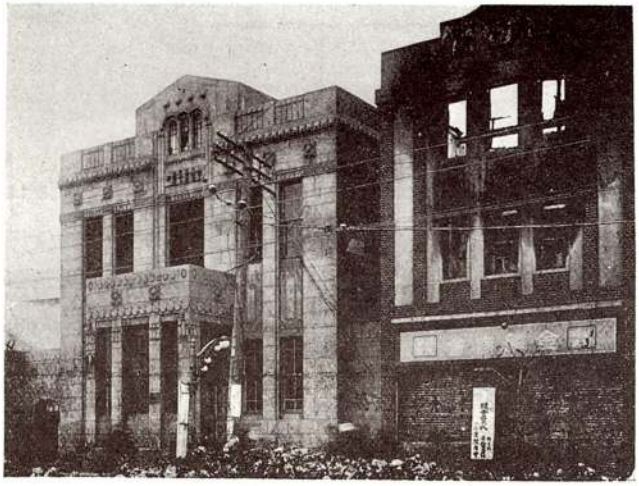


5・ 市民館と銀座會館との外面
市民館催物の布切と會館の修理用足代が少しも火を受けざりし有様

（昭和九年四月廿八日津輕要塞司令部許可濟）



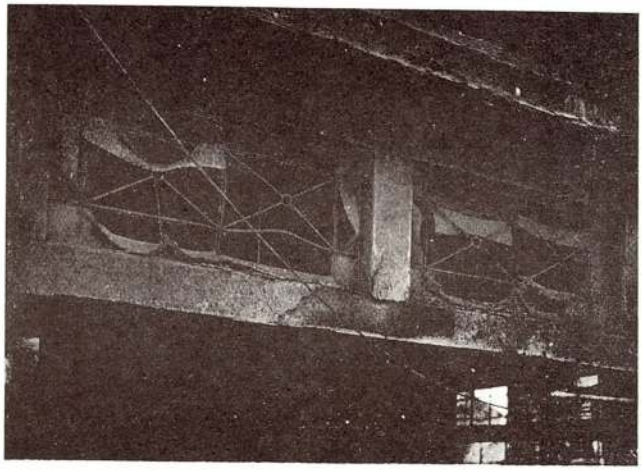
12・ 二十間坂中段に木造建築物の一列を殘す
風向變りて此の一列を殘す、背面は僅かに焦げたる程度なり



15・ 五十九銀行左と株式店右の被害比較
一は完全にして一は内部燒失、金鱗商會は屋根、内部木造なりしため屋根より延燒



13・ 燒失を免れたる松下毛皮店



16・ 十字街武藏屋果物店の被害
正面欄間の被害を示す



14・ 土藏造りの風月堂完全に延燒を免る



17・ 今井百貨店の被害
背面防火戸より火の侵入を受け内部燒失

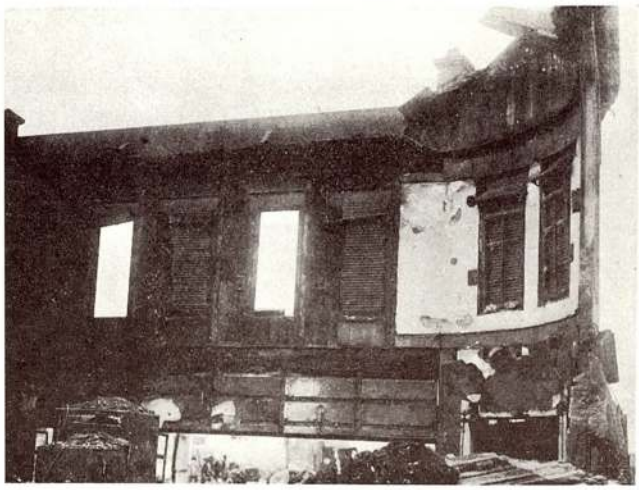
（昭和九年四月廿八日津輕要塞司令部許可濟）



6・ 銀座街梅津食料品店の被害
木造の外部に鐵筋混凝土を張り付け僅かに耐火構造の資格を與へたに過ぎず甚敷不完全なるもの



9・ 煉瓦造3階建の崩壊（旭自動車）
1階梁、柱鐵筋混凝土造、2階、3階は煉瓦1枚積にして内部燒失と共に崩壊せるものなり



7・ 燒失度の甚しき梅津食料品店の内面の模様
外壁の一部を僅かに殘すのみにして燒失し且崩壊す



10・ 鐵筋混凝土造の崩壊（恵比壽座一寄席）
構造の不完全なりし爲に内部燒失と共に崩壊せるものなり

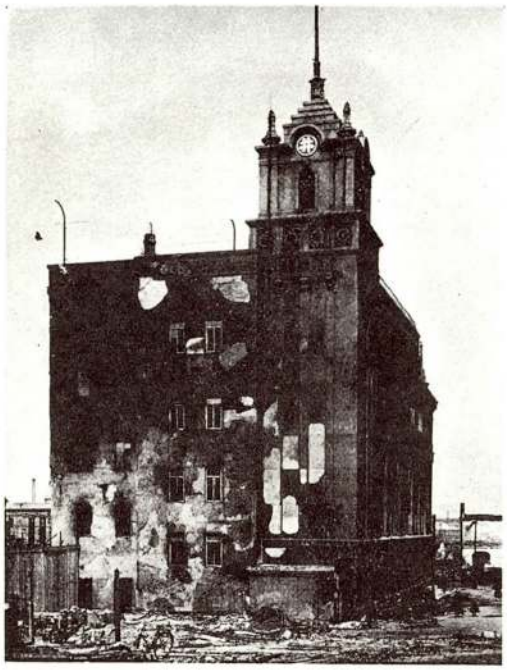


8・ ブロツク構造の被害（淺岡病院・麗人座）
構造不完全なりしため内部燒失と共に崩壊したるものなり



11・ 二十間坂上より東濱町方面を望む
燒失區域と燒失を免れたる區域との境

（昭和九年四月廿八日津輕要塞司令部許可濟）



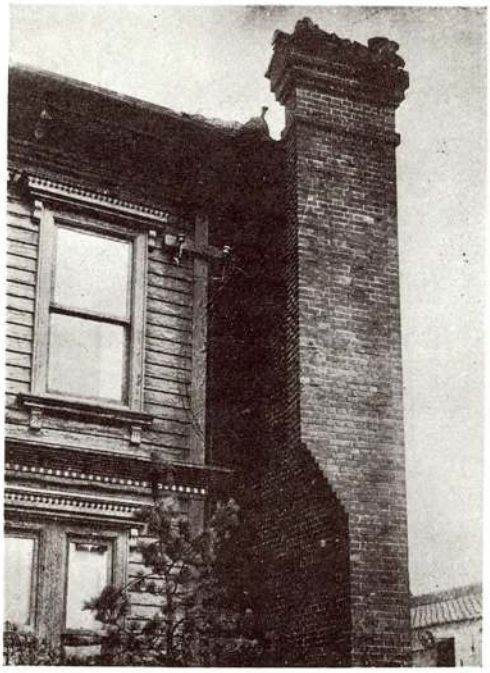
18・ 今井百貨店



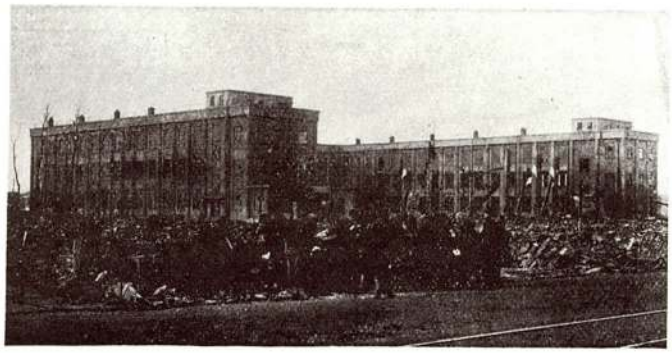
19・ 今井百貨店の內部



20・ 防火壁の爲に延燒を免れたる木造建築物
東濱町水產會社が防火壁のため隣家よりの火を完全に防ぎたるもの



21・ 20圖の防火壁の詳細を示す



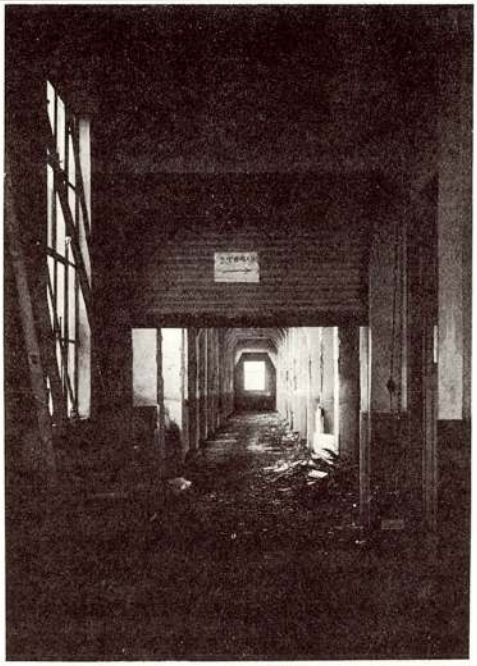
22・ 燒失せる新川小學校

（昭和九年四月廿八日津輕要塞司令部許可濟）



23・新川小學校左翼1階のシヤツター

シヤツターの前面部の被害は如斯甚しきもシヤツターの効果により反對側の教室は些の損害をも受けず



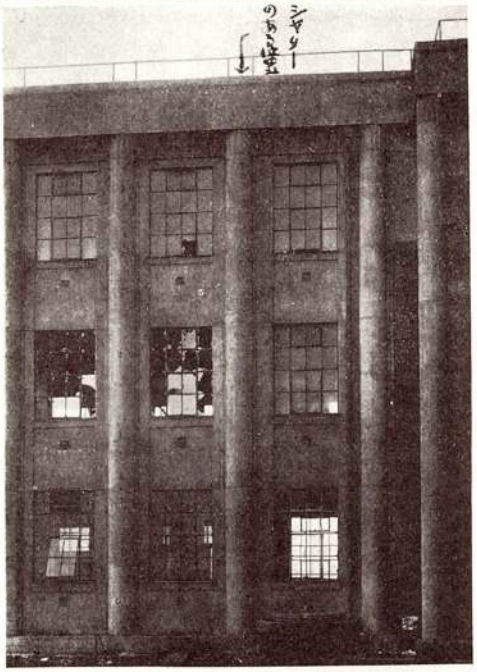
24・新川小學校右翼2階のシヤツター

シヤツターの効果に依りて損害を完全に分ちたる狀況



25・新川小學校右翼1階より2階への階段

2階のシヤツター完全に下り居りし爲、1階燒失し火は階段より上昇せるもドラフト付かず僅かに階段の木部を焦したるに止まる



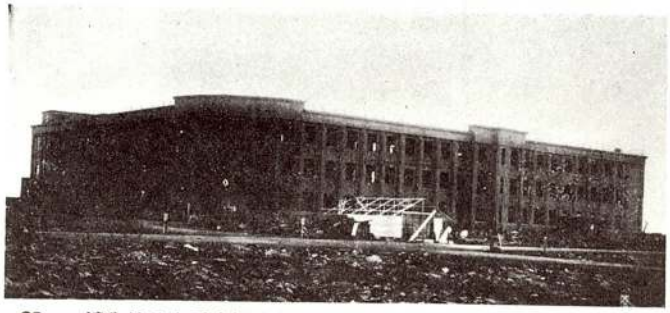
27・新川小學校左翼を中庭より見る

シヤツターに依りて火を兩分したる狀況を外部より示す

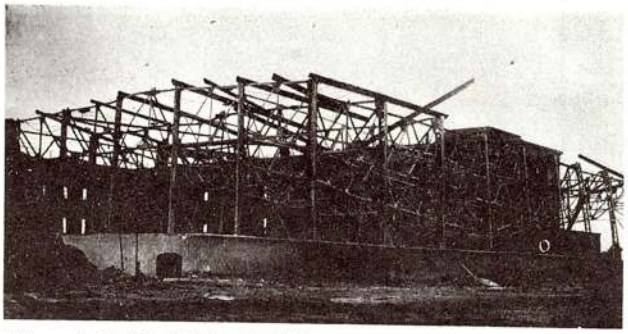


26・新川小學校左翼1階のシヤツターの効果

（昭和九年四月廿八日津輕要塞司令部許可濟）



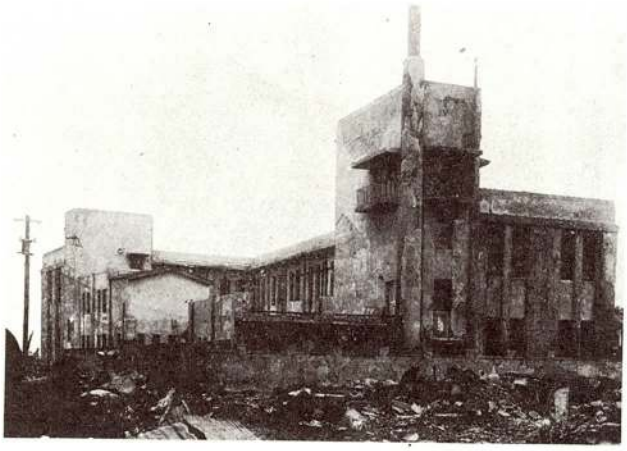
28・ 燒失せる女子高等小學校の外觀



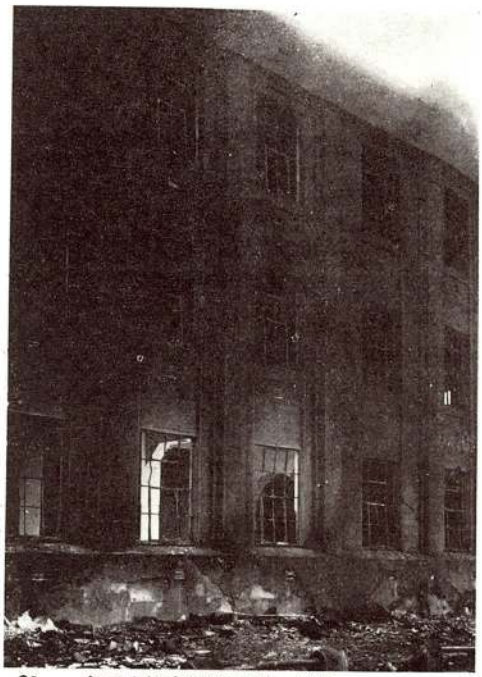
31・ 女子高等小學校雨天體操場の被害



29・ 女子高等小學校左翼1階のシヤツター部を示す
此のシヤツターは下り居らざりしも奥のシヤツター下り居りし爲ドラフト付かず延燒を弱めたる狀況



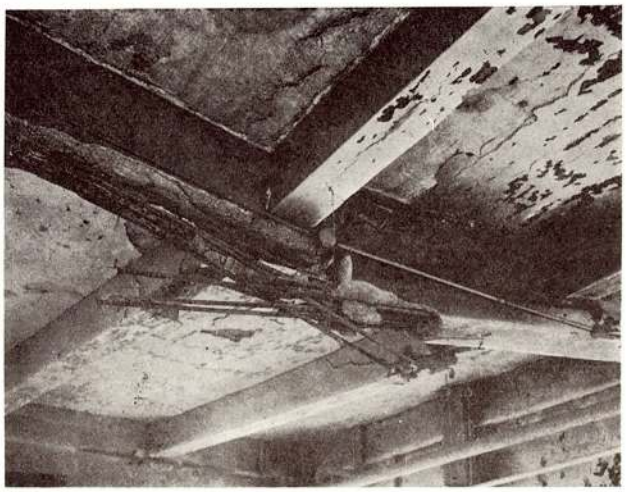
32・ 火炎の中にありて燒失を免れたる電話分室



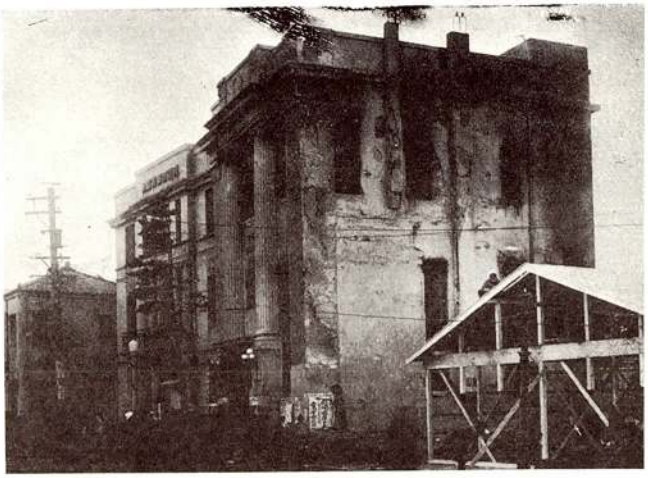
30・ 女子高等小學校右翼の外觀
シヤツター下り居らざる部分を外より示す



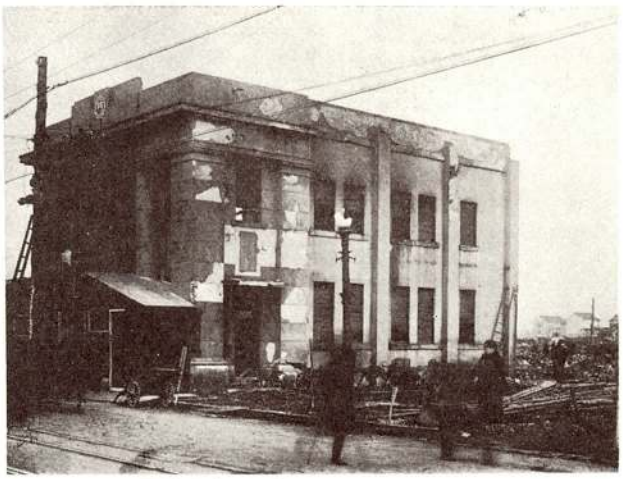
33・ 函館每日新聞社の被害の狀況



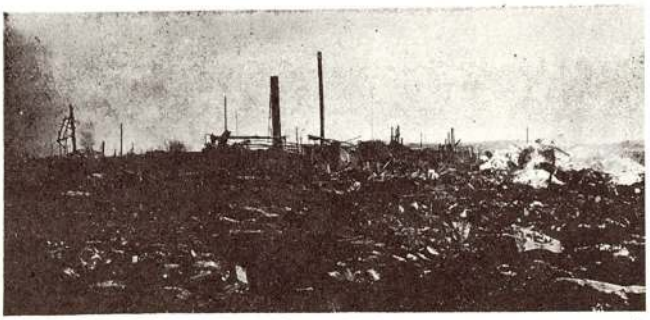
34・ 函館毎日新聞社2階梁の大被害の狀況
3階のビーム墜落し2階梁及床版に大破壞を與へし狀況



35・ 函館貯蓄銀行の外觀
鐵筋混凝土造にしてシヤツターを有するも側面より受けたる火勢猛烈にして僅かなるシヤツターの隙より內部に火の浸入せるものなるべし



36・ 北門銀行函館支店の外觀
鐵筋混凝土造にしてシヤツターを有するも窓枠木造なりし爲外部よりの熱の爲に火を呼びて內部燒失せるものなり



37・ 函館商事ゴム工場の燒跡（巴ゴム）
此の附近に於て火勢漸く衰へかけしもゴム及揮發油の延燒のため火勢を增し此附近を燒きたりと云ふ、22日午前2時よりの火災發火地點



38・ 新川町保育院裏のポプラー並木



39・ 昭和橋際に燒失を免れたる木造家屋
千代ケ岱診療院及院長住宅の2棟が奇蹟的に殘りしものなり、喬の袂に鐵筋コンクリート造の交番あり之亦燒失を免る

附記　本畫報は次揭「函館大火に於ける不燃質建物の被害概況」の附圖となるべきもので、解說は中澤誠一郎氏である、被害寫眞は北海道廳建築工場課村上幾一技師の非常なる御高配によつて中澤氏と御協力のもとに撮影したものである。かゝる貴重なる資料を揭出し得たるは全く兩氏の賜なることを附記してこゝに誌上を藉りて特に兩氏へ深謝す。　（編　輯）

（昭和九年四月廿八日津輕要塞司令部許可濟）



函館市焼失區域内主要建築物配置圖

1 クサカリ藥局	11 寺井雜貨舍庫	21 函館實踐高等女學校
2 函館信用組合	12 五島軒	22 函館每日新聞社
3 市民館	13 五十九銀行函館支店	23 函館時計銀行
4 惠比須座	14 金鱗商會	24 北門銀行函館支店
5 朝日自動車々庫	15 風月堂	25 函館女子高等小學校
6 浪風病院、寮人庄	16 一二堂	26 新川小學校
7 梅津酒店	17 三星屋	27 新川幼稚育院
8 ムサシヤ食料品店	18 長橋茶舖	28 十代ケ岱診療所
9 松下毛皮店	19 水產會社	29 函館商事工場
10 今井百貨店	20 電話分局	

函館大火に於ける不燃質建物の被害概況

中澤誠一郎

去る14日の講演會に於いて間に合はなかつた寫眞を中心として、補稿を綴ることゝした、重複する箇所があるかも知れない、彼此御對照願ふならば幸である。

尙本稿に掲ぐる寫眞(P 90～P 96)に就いては、北海道廳技師村上幾一君の御好意に負ふところ大であつたことを附言し同君に感謝の意を表する。

I. 銀座街

A. 沿革

銀座街と普通稱せられてゐるのは電車交叉點十字街の東一丁より南行する電車道に平行して惠比須町、蓬萊町に至る幅員8間を有する函館市中目貫の街路であり、其の名も町の殷盛によること勿論である。

此の邊に寶町といふのがあるが高田屋嘉兵衛が5萬坪の米倉を作つた爲に町名となつたものであるが、今銀座街の招魂社道（銀座街の中央少し南寄）の角には高田屋御殿の遺跡地として石碑を立てゝ記念してゐる、即此の邊一帶は古來より函館に於ける經濟的中心であつたことを察し得る。

大正10年の大火に見舞はれた爲、街衢を整理し、約8町に亘る甲種防火線に指定せられ不燃質建物が櫛比するの現在に於いて今回の大火に遭つた譯である。

防火線に對しては

函館市は此處に建築する建物に對して補助貸付をやつて災害防備に資してゐたのであつて（末尾參照）函館市が大正15年迄に出した貸付金調書は次の如くである。

防火線家屋建築費貸付金調書(大正15年3月)

年度	金額
大正10年度	65,899円
11	71,203
12	12,258
13	3,649
14	150
計	153,159

補助と貸付は金額約 500,000圓 を略切半したものであつて、大正14年度の

前年繰越金は

補助費	81,776
貸付費	101,939

即當時に於いて旣に50萬圓の內約30萬圓を補助貸付けてゐたのであるから當時約5分の3が完成してゐたと見ていゝであらう。

災害當時の記錄は今不明であるが現在出來上つてゐる處は略完成に近いといつてよい。

補助貸付申請書には簡單なる建築物の圖面を添付すべき規定であるが餘りに簡單なる爲充分なる審査を爲すこと困難であつて從つて如何なる建築物が出來上るか見當のつかないものであつた、又現場には時々監督吏員が見る事はなく唯竣成後技術者が名ばかりの審査をなしてゐるに過ぎなかつた樣な譯で、防火建築としての効果が充分に上るや否や當時より甚だ疑問とされてゐたものである。

尙補助規程に耐火構造なるものを指定してゐるがこれにも多少不備の點があつた樣に思はれる、例へば其の第3條第2號、第4號の如きは今回崩壞せるものゝ主要な原因であつたのではなからうか。

B. 被害狀況

火勢は南西よりの風によつて兩側が街に平行して殆んど同時に燒失した樣であるが、燒失時間帶よりすると、餘程之處で火勢を喰ひとめたことが知られる、尙、此の街の表側と、裏側とはその損傷の度合の非常に異る點からして、裏側は立ち並ぶ木造家屋の火勢の爲火力大なりしに拘らず、前面は窓より火を吹き出す程度にて、火焔の大ならざりしを想像することが出來る。

（1圖は銀座街の背面の慘狀

2圖は其の前面にして電柱、足代、其他全體として殘るものゝ多いのを見る）

銀座街には不燃質家屋65(招魂社通にある活動寫眞館錦輝館を含む)あり其の被害狀況を分類すれば下の如くである。

棟數		無被害	半燒	燒失(內部)	半壞	殆壞	全燒
東側	35	2	1	22	5	2	3
西側	30	1	0	19	4	2	4

C. 被害なきもの

	構造	階數
クサカリ藥局	鐵筋コンクリート造	3
函館信用組合	鐵筋コンクリート造	2
梅津倉庫	土藏造	1

クサカリ藥局(寫眞 2.3.4 圖)

大正11年頃の建築なるもその設備は關東震災後に於いて、その災害狀況を參考として完成したといつてゐる、完全な鐵筋コンクリートなる上に防火戸は前面第1階シヤター2階以上網入ガラス背面は二重戸となり、內部は厚4寸の土製引違扉、外部は鐵扉にして外部にセメント、モルタル1寸2分位を塗りたるものである、而も之にミソメバリを爲し、實に完全な防備振である。

函館信用組合

表裏共に防火扉あり鐵製に1寸位のセメントモルタルを充塡せるものである。

梅津倉庫

之は舊來よりの土藏造であつて他の多くの土藏造の殘存せると同一の狀況である。

D. 半燒

市民館(寫眞5圖)である、鐵筋コンクリート造3階建である、第1階は市場、第2階は食堂、第3階はホールであるが、第1階は全く內部燒失せるも第2階は廊下の1部に火煙の入りたる跡あるのみ、第3階は完全に被害なし。

階上防火戸なし、第1階には出入口にシヤターあれども、窓に對してはなし、之等のシヤターは要するに防火の爲に非ずして戸締の程度に考へられ用ひられてゐるものと見た方が當つてゐるといへる。

E. 內部燒失

鐵筋コンクリート造	4階建	1
	3階建	17
	2階建	18(內屋根床木造のもの4)
煉瓦造	3階建	1
	2階建	2
土藏造	1階建	1

右の內土藏造は昔からのものであつて、防火線內には軒高21尺以上としなければならぬのである。(補助規程第6條參照)

屋根床、木造のものは全部燒失して從來の煉瓦造の火災に於けると同樣のものである。

鐵筋コンクリート造といふも構造的には甚だ如何はしいのがあるが、柱と梁とが鐵筋コンクリートであれば之を同樣の名稱で括つたまでゞある。

F. 崩壞 (寫眞 6,7,8,9,10 圖)

崩壞の程度に依り壁の上部が崩れ下階が多少使ひ得るものを半壞とし、第1階迄も使用に堪えぬものを殆壞とし、外壁全體其形態を止めぬ迄のものを全壞とした、その表は前記の通りであるが、之を構造別にすれば

	全壞	殆壞	半壞
木骨メタルラスコンクリート外壁	2	2	
鐵筋ブロツク	2		
煉瓦造	1		5
石造	1		
鐵筋コンクリート造		2	4

此等の崩壞家屋は殆んどすべて屋根、床等が木造であり、之が燒失すると共に殘さるべき外壁はそれ自體として獨立し得ず、又は梁の墜落屋根の崩壞に伴ひ外壁も自然崩壞するに至つたものと思はれる、且それらの多くはメタルラス、コンクリート若くは鐵筋ブロツクの帳壁である。

II. 末廣町

A. 概況

十字街より二十間坂に至る、電車通と其の附近一帶をまとめて眺めるならば、此の邊は所謂末廣町通であつて、銀座街とは又別な意味で重要なる

繁華街である、即ち銀座街は「さかり場」であるに比し、此處は銀行會社の本支店等多く經濟上の重要點をなし、此れより以西に至れば、元町あり、渡島支廳、市公會堂等あつて、函館の中央商業區である。今井百貨店は4階建の巨軀を以て聳えてゐる。

二十間坂の西側は甲種防火線になつてゐる、此の邊一帶は電車通以北は平坦であるが、以南は急上坂になつてゐるのであるが、二十間坂は名の如く相當幅員が廣く、電車道以北では車道中に綠樹帶を現し偉容を備へてゐる、大正10年にも火害を蒙むつた場所である。(寫眞 11 圖)

B. 被害狀況

火は南西より來り大體二十間坂で喰ひ止めた形であるが、恐らく此の邊で風の方向が西に變つた爲逆風となり終熄したものであらう、即ち二十間坂の電車以南に於いては東側の木造建物が大なる被害なく殘つてゐることから見て考へられる、從つて、幅員の廣い二十間坂そのものが大いに役立つたといふことは此の場合いへないのであらう。(寫眞 12 圖)

不燃質建物の被害を表にすれば

無被害	7
內部燒失	4
計	11

C. 被害なきもの

災害を免れたるものを表示すれば次の如くである。

建築名稱	構造	階數
松下毛皮店	鐵筋コンクリート造	3
長橋茶舖	土藏造	2
三星屋	土藏造	2
風月堂	土藏造	2
寺井雜貨倉庫	土藏造	2
第五十九銀行函館支店	鐵筋コンクリート造	2
五島軒	鐵筋コンクリート造	3

松下毛皮店 (寫眞 13 圖)

火勢は横背後より來りたるものゝ如く、尙、風が西方に廻りてより二十間坂方面より來りたるも今井百貨店に遮られ道路面より煽られたる跡なし、前面、窓出入口に防火シヤターあり、東隣に對しては窓なく、背面には完全なる土藏ありて之亦被害なし。

風月堂 (寫眞 14 圖)

完全なる土藏造にして前面には防火シヤターあり、背面には製菓工場ありて全燒せるが、其の取合はせは二重戸の土藏扉あり、側面の扉も完全に奏功し類燒を免る。

第五十九銀行函館支店 (寫眞 15 圖)

防火シヤターありて完全なり。

D. 內部燒失せるもの

	構造	階數
ムサシヤ食料店	鐵筋コンクリート造	3
一二堂文房具店	鐵筋コンクリート造	3
今井百貨店	鐵筋コンクリート造	4
金鱗商會	鐵筋コンクリート造	3

武藏屋果物店

此の建物の梁、柱至る處に平瓦を用ひたるが、必ずしも補强の爲とは考へられざるも、多少構造の不完全を考慮したるに非ざるか、防火戸等なく餘程火勢猛烈なりしか網入ガラスは飴の如くなつてゐる。(寫眞 16 圖)

一二堂

建物全體に窓少く一見倉庫の如くなり、前面、窓出入口共に窓ガラスの內部に防火鐵扉あるにも係らず恐らく出入口の隙間より火の入りたる爲か內部は全燒してゐる。

今井百貨店 (寫眞 17, 18, 19 圖)

道路に面しては防火戸なく、網入ガラス張、背面には木造の食堂との廊下並に窓には防火シヤターあり、此の背面の木造部分の燃燒の爲シヤターを歪ませ、それより火が入りたるに非ざるか、而して內部は鐵筋コンクリートの被覆の剝離、木質部の完全燃燒等餘程火勢の猛烈なりしを思はせる。

金鱗商會 (寫眞 15 圖)

屋根、床木造なりし爲普通の煉瓦造の建物の類燒と酷似してゐる、第五十九銀行と隣接して良き對照である。

E. 防 火 塀

東濱町に於いて防火壁といはんよりは防火塀といふ方が當る煉瓦塀の爲に類燒を免れた水產會社がある。(寫眞 20,21 圖)

煉瓦塀は1枚半積高さ軒上迄前面にて袖を附け特に2階の部分で袖を大にしてゐる、建物との間は3尺離し、ボールトにてつないでゐる、火災のみを考ふる時はいゝ方法であらうが地震を考慮に入れる時は甚だ危險千萬といはざるを得ない。

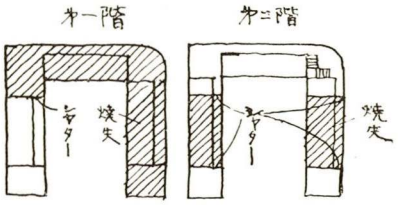
III. 鐵筋コンクリート小學校

新川小學校と函館女子高等小學校は共に鐵筋コンクリート造3階建の相似たる形態をなし、內部の構造設備も殆んど同樣である。

寫眞 22—27 圖は新川小學校で 28—31 圖は女子高等小學校である、後者の方が稍被害が大でありシヤターの効果も前者に及ばぬ點が多い。

A. 新 川 小 學 校

位置、新川町の南端、松風町、千歲町に近し、
構造、鐵筋コンクリート造3階建



被害狀況

第1階第2階は圖中ハッチしたる部分が燒失し其の他は防火シヤターの爲完全に殘存してゐる。

3階は全部被害なし。

窓には防火戶なし。

木造雨天體操場は燒失してゐる。

B. 函館女子高等小學校

位置　大森町の南端、榮町、旭町に近し。

構造　鐵筋コンクリート造3階建

新川小學校と同樣の構造なるも防火シヤターに對する留意が不足せしに非ずやと思はれ被害大である。特にシヤターを完全に下してゐない箇所が見受けられる、其の箇所では、ドラフトが起らなかつた爲か廊下の一部分を燒いたのみで全燒を免れた部分がある。

雨天體操場は鐵骨であるが、小屋が逆に垂れ下つたまゝで殘つてゐる。

IV. 其の他特殊のもの

A. 完全に殘つてゐるものに電話分局(寫眞 32 圖)と函館實踐女學校の圖書館とがある、共に鐵筋コンクリート造2階建である、電話分局は2階外壁窓にシヤターあり、又防火用水のタンクを有し、2階窓に水を流す裝置あり。

B. 函驛每日新聞社　(寫眞 33, 34 圖)

鐵筋コンクリート造2階建の上に3階を木造にて繼ぎ足したるものである、屋根は勿論木造である。

3階の床梁にI型鋼を使用しあり、之が墜落して2階床の大梁を破壞したるは、注意すべきであらう。

C. 鐵筋コンクリート造にして防火シヤターあり乍ら內部を燒失せしめたる例は前にも記したが(一二堂)その他に、函館貯蓄(寫眞 35 圖)、北門銀行函館支店(寫眞 36 圖)がある。

函館銀行の場合はシヤターが外壁の面に近く、ケースの歪める點から見てシヤターの施行にも注意すべき點があつた樣に思はれる。北門銀行は窓枠木造の爲外部の燃燒の爲火を呼びたるものであらう。

末尾參考

防火線家屋建築費補助規程

第一條　本規程ニ於テ防火線ト稱スルハ火災防止ノ爲建物ノ防火構造ヲ要スト認ムル地區ヲ謂フ

防火線ハ甲種及乙種ノ二トス

防火線及其ノ種別ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條　本規程ニ於テ防火構造ト稱スルハ耐火構造及準耐火構造ヲ謂フ

第三條　本規程ニ於テ耐火構造ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル構造ヲ謂フ

一、鐵筋「コンクリート」造ニシテ厚三寸以上ノモノ

二、中空鐵筋「ブロツク」造ニシテ厚五寸以上

ノモノ

三、鐵骨造ニシテ壁部ノ厚三寸以上ノ「ラス、コンクリート」若ハ鐵網「コンクリート」ニテ構成セルモノ

四、外面ニ石、煉瓦又ハ人造石ノ類ヲ用ヒ其ノ厚七寸以上ノモノ

五、土藏造ニシテ塗土漆喰等ノ厚合計七寸以上ノモノ

第四條　本規程ニ於テ準耐火構造ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル構造ヲ謂フ

一、鐵骨造ニシテ外部ヲ生子板張ト爲シタルモノ

二、鐵骨造又ハ木造ニシテ外部ニ左ノ一ニ該當スル被覆ヲ爲シタルモノ

(イ)外面ニ石、煉瓦又ハ人造石ノ類ヲ用ヒ其ノ厚三寸以上ノモノ

(ロ)瓦貼ノ上ニ「セメント、モルタル」塗トシ厚合計一寸二分以上ノモノ

(ハ)厚一寸二分以上ノ「セメント、モルタル」塗又ハ「コンクリート」塗

(ニ)「セメント、モルタル」塗ノ上ニ化粧煉瓦貼トシ厚合計一寸二分以上ノモノ

(ホ)土藏造ニシテ塗土漆喰等ノ厚合計三寸以上ノモノ

三、其ノ他區長ニ於テ前各號ニ準スト認メタルモノ

第五條　本規程ニ於テ不燃材料ト稱スルハ煉瓦、石、人造石、「コンクリート」、石綿盤、瓦、金屬、陶磁器、硝子、「モルタル」、漆喰ノ類ヲ謂フ

第六條　甲種防火線ニ於ケル建物ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一、軒高ヲ二十一尺以上ト爲スコト

二、壁體ヲ耐火構造ト爲スコト

三、屋根ヲ耐火構造ト爲スコト但シ不燃材料ヲ以テ構成シタル厚一寸五分以上ノ野地ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス

四、軒、軒蛇腹、屋窓、裝飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ構成スルコト

五、窓及出入口ニ防火戸ヲ設クルコト但シ區長ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　甲種防火線ニ於ケル建物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ床、柱及階段ヲ耐火構造ト爲スコトヲ要ス

一、建築面積二百坪以上ニシテ階數二以上ノモノ

二、建築面積百坪以上ニシテ階數三以上ノモノ

三、階數四以上ノモノ

第八條　甲種防火線ニ於ケル墻壁ハ不燃材料ヲ以テ構成スルコトヲ要ス

第九條　乙種防火線ニ於ケル建物ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一、軒高ヲ二十一尺以上ト爲スコト

二、道路ニ面スル外壁ヲ耐火構造又ハ準耐火構造ト爲スコト

三、屋根ヲ耐火構造ト爲シ又ハ不燃材料ヲ以テ覆葺スルコト但シ金屬板ヲ以テ被覆スルモノニアリテハ不燃材料ヲ以テ構成シタル厚一寸以上ノ野地ヲ有セシムルコトヲ要ス

四、軒、軒蛇腹、屋窓、裝飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ被覆スルコト

五、耐火構造又ハ準耐火構造ト爲シタル外壁ノ窓及出入口ニ防火戸ヲ設クルコト但シ區長ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　前四條ニ適合スル建物ヲ建築スル者ニハ當該年度豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ建築費ノ一部ヲ補助ス但シ官公衙及拂込濟資本金十萬圓以上ノ會社ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　補助額ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム

一、甲種防火線ニ於ケル建物

建坪延一坪ニ付四十圓

二、乙種防火線ニ於ケル建物

外壁面一坪ニ付十　圓

甲種防火線ニ於ケル建物ニ對スル補助額ハ一戸ニ付二千四百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條　補助ヲ受ケムトスルモノハ其ノ願書ニ左ノ書類及圖面ヲ添付シ區長ニ提出スヘシ

一、設計書及仕樣書

二、建物ノ平面圖及側面圖　縮尺百分ノ一

三、建物ノ構造圖　縮尺五十分ノ一

四、工程書

第十三條　區長ハ前條ノ設計書仕樣書及圖面ヲ審査シ不當又ハ不備ト認ムルトキハ事由ヲ示シ

テ之カ變更又ハ訂正ヲ爲サシムヘシ

第十四條　工事ノ設計又ハ仕樣ヲ變更シ若ハ工事ヲ中止シ又ハ廢止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ區長ノ承認ヲ受クヘシ

第十五條　工事ニ着手シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨區長ニ届出ツヘシ

第十六條　工事ノ施行ニ付テハ區長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル區吏員ノ指揮監督ニ從フヘシ

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ區長ハ補助ノ指令ヲ取消シ又ハ其ノ條件ヲ變更シ若ハ補助金ヲ減額シ又ハ其ノ支給ヲ停止スルコトアルヘシ

一、本規程又ハ補助ノ條件若ハ之ニ基キテ命シタル事項ニ違反シタルトキ

二、工事ノ出來形設計若ハ圖面ニ違ヒタルトキ

三、指定ノ期限内ニ工事ヲ竣功セサルトキ但シ天災事變其ノ他避クヘカラサル事由ニ因ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　工事竣功シタルトキハ遲滯ナク其旨區長ニ届出出來形ノ檢査ヲ受クヘシ工事ノ出來形設計若ハ圖面ニ違ヒ又ハ瑕疵アリト認ムルトキハ區長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ更正セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ指定ノ期限内ニ之カ更正ヲ爲ササルトキハ第十七條第二號ノ例ニ依ル

第十九條　補助金ハ工事竣功檢査ノ後之ヲ支給ス但シ竣功前ト雖工事ノ出來形カ總工費額十分ノ五以上ナルトキハ其ノ出來形ニ對スル補助額ノ十分ノ八以内ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十條　工事ノ竣功檢査前天災事變其ノ他避クヘカラサル事由ニ依リ工事材料又ハ工事ノ既成部分滅失若ハ毀損シタルトキハ七日以内ニ其ノ事實ヲ疏明シタル場合ニ限リ復舊ニ要スル工費ノ幾分ヲ補助スルコトアルヘシ但シ復舊ニ要スル工費カ當初ノ工費額ノ十分ノ二以内ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本規程施行ノ期日ハ區長之ヲ告示ス

末尾參考 2

防火線家屋建築費貸付規程

大正十一年八月一日
函館市告示第二十號

第一條　防火線ニ防火線家屋建築費補助規程第六條乃至第九條ノ規定ニ適合スル構造ノ家屋ヲ建築スル者ニハ當該年度豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ家屋建築費ノ一部ヲ貸付ス

第二條　家屋建築費ノ貸付額ハ防火線家屋建築費補助規程第十一條ノ例ニ依リ之ヲ定ム但シ家屋建築費ノ補助ヲ受ケサル者ニハ特ニ二倍迄ヲ貸付スルコトヲ得

第三條　家屋建築費ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ市長ニ申請スヘシ

一、借入金額

二、償還期限

三、擔保ノ種類及數量

四、防火線ニ建築スル家屋ノ位置及構造

五、其ノ他必要ナル事項

第四條　家屋建築費貸付ノ承認ヲ受ケタル者ハ市長ノ指示スル所ニ從ヒ證書其他必要ナル書類ヲ提出シ擔保ヲ提供スヘシ

第五條　擔保ハ土地建物及市長ニ於テ確實ト認ムル無記名有價證券ニ限ル

前項擔保物ノ擔保價額ハ市長之ヲ定ム

第六條　市長物價ノ變動ニ因リ擔保ニ不足ヲ生シタルトキハ期間ヲ指定シテ之ヲ補充セシムヘシ

第七條　市長必要ト認ムルトキハ保證人ヲ立テシムルコトアルヘシ

保證人ハ市内ニ居住シ資力信用確實ナル者ニ限ル

第八條　貸付金ノ利率ハ年四分八厘トス

貸付金ノ利子ハ毎年六月及十二月ノ二回ニ各其ノ前半期分ヲ仕拂フヘシ但シ月ノ中途ニ於テ貸付シタルトキハ其ノ月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第九條　貸付金ノ償還期間ハ二十年以内トス

貸付金ハ大正十二年迄据置大正十三年以降元利均等償還ノ方法ニ依リ毎年六月及十二月ノ二回ニ各其ノ前半期分ヲ償還スヘシ

第十條　家屋建築費ノ貸付ヲ受ケタル者元利ノ償還ヲ怠リタルトキハ延滯日數一日毎ニ百圓ニ付四錢ノ割合ヲ以テ計算シタル延滯償金ヲ仕拂フヘシ

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ契約條項ヲ增成變更シ又ハ期限到來前ト雖元利ノ償還ヲ爲サシムルコトアルヘシ

一、本規定又ハ契約條項ニ違反シタルトキ
二、防火線家屋建築費補助規程第十七條ノ處分ヲ受ケタルトキ
三、市ノ債券ヲ詐害スル行爲アリタルトキ
前項ノ規定ニ依リ期限到來前元利ノ償還ヲ爲サシムル場合ニ於テ其ノ償還ヲ怠リタルトキハ前條ノ例ニ依ル

第十二條　防火線家屋建築費補助規程第十二條乃至第十八條ノ規程ハ家屋建築費ノ補助ヲ受ケスシテ其ノ貸付ノミヲ受クル者ニ之ヲ準用ス

第十三條　本規程ニ定ムルモノノ外家屋建築費ノ貸付ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ大正十一年八月一日ヨリ之ヲ適用ス

防火線家屋建築費貸付手續

大正十一年八月七日
函館市告示第二十九號

第一條　防火線家屋建築費貸付規程第三條ノ申請書ハ別記第一號樣式ニ依ルヘシ

第二條　前條ノ申請書ニハ擔保物件目錄ヲ添付スヘシ
擔保物件目錄ハ別記第二號樣式ニ依リ調成シ不動產ヲ擔保トスル場合ニ於テハ登記簿ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

第三條　建築費貸付ノ承認ヲ受ケタル者ハ三日以內ニ借用證書ヲ提出スヘシ借用證書ハ成規ノ方式ニ依リ公證人ノ作成シタルモノナルコトヲ要ス

第四條　不動產ヲ擔保トスル場合ニ於テハ市長ノ指示スル所ニ從ヒ抵當權設定ノ登記其ノ他ニ關シ必要ナル書類ヲ提出スヘシ
建物ヲ擔保トスル場合ニ於テハ前項ノ外市ヲ保險金受取人トナシタル火災保險證券ヲ提出スルコトヲ要ス

第一號樣式

家屋建築費貸付申請書

一、借入金額　　金　圓　也
但シ建坪延　坪　合　勺　一坪金　圓
一、償還期限　自　年　月　日　箇　年
至　年　月　日
一、擔保ノ種類及數量　別紙目錄ノ通
一、建築家屋ノ位置及構造
位置　函館市　町　番地
構造　造葺　平家(又ハ二階家何々)棟
間口　間　奥行　間
二階間口　間　奥行　間
此建坪延　坪　合　勺
一、防火線家屋建築費補助規程ニ依リ補助申請ノ有無有(無)
右大正十一年八月一日布告示第二十號防火線家屋建築費貸付規程ニ依リ申請候也
年　月　日
函館市　町　番地
申請人　　氏　　名　印
函館市長　氏　名殿

第二號樣式

擔保物件目錄

一、土地ノ表示
函館市　町　番地
宅地(又ハ田、畑、雜種地)坪(又ハ反別)
此ノ見積時價　金　圓
一、建物ノ表示
函館市　町　番地
土造(石造煉瓦混凝土又ハ何々造)平家(又ハ何々)一棟
建　坪　坪　合　均
二階坪　坪　合　勺
此ノ見積時價　金　圓
一、國庫債券(又ハ何々證券)圓券自第　號至第　號　枚
此ノ見積時價　金　圓
以　上
右ノ通
年　月　日
函館市　町　番地
氏　　名　印

防火線家屋建築費繼續貸付ニ關スル件

大正十二年七月三日
函館市告示第七十三號

大正十一年函館市告示第二十號防火線建築費貸付規程ニ依ル抵當權ノ目的タル家屋ヲ競落シタル者ニ對シテハ償還殘年期間ニ於ケル貸付金ヲ繼續貸付スルコトヲ得但シ此場合ニ於ケル貸付手續ハ防火線家屋建築費貸付規程ヲ適用ス

會員のこゑ

會員　佃　十俊

渡邊橋より見える朝日ビルの窓に「建築資料陳列場」と書かれたる文字を左横書に改めて下さい、學術團體に於ける書式は左横書を適當と思はれます。

答　漢字なるに依り右横書も差支へなきものと認めます。

會員　澤島英太郎

質問事項　東京市在住の會員は地方會員ですか？御尋ねします。

答　京阪神以外の會員は地方會員ですから東京市在住の方は地方會員です。

會員　後川隆一

弗々見學季節になりました見學大いに願ひます。

答　出來得る限り御期待に添ふ様致します。

會員　岡村忠一

出來る丈け多く見學會及講演會を御願ひ致します

答　御主意に添ふ様致します。

會員　松本儀八

1.　京都、神戸方面の「地方」會員の爲めに京都又は神戸などで講演會の様な例會、又は見學會等を開いては如何。

會員增加を圖る意味に於ても斯様な催しは意義をなすものと思ふ。

答　審議の上可成御期待に添ひたいと思ひます。（經費及定款）

特賛　松井邦彦

なるべくは閉會豫定時刻も御記入被下ば幸甚と存候。

答　閉會の時刻は實際に勵行する事は至難です故に豫定時刻の記入を避けたいのです。

普賛　山本一善

講演及參考映畫の會は誠に結構なり益々隆盛繼續を祈る。

答　經費の許す限り實行致します。

普賛　大村榮太郎

會誌の充實と向上とを切望致します、特に寫眞版の豊富を希望します。

答　會誌の充實と向上とに關しては具體案の御提示を願ひます、寫眞版の增加は編輯當事者も希望して居まして經費の許す限り實行致して居ます。

會員　池田宮彦

東京に於て相當大なる建築の竣工したる場合其の披露に建築學會正會員を招待參觀せしめらる習慣にして色々益する處多し、之れは單なる披露と云ふ意味にては無之一つの建物が竣工する迄には其の地方の建築家に直接間接に多大の後援を得て居るものなるが故に其の勞を謝する意味なりとのことにて甚だ良き習慣と思はる、大阪にても當協會の會員のみに限り此の企をせられたく希望す。

答　非常に結構なる御提案です、將來是非出來る限り御希望に添ふ様努力致します。

續學校建築圖集

各方面の盡力を得て最近二三年間に竣工した學校建築の資料を蒐めその中から大•中•小學校の代表的のもの40餘校を纒めて編纂刊行した、內容は別項會告を參照本書は前回發行して非常なる好評を得て三版を重ねたるものの姉妹編である。

1.　大さ　四六倍版　200頁
1.　定價　1.00圓　送料14錢

日本建築協會
（大阪北區朝日ビル）

建築材料陳列場記

1. 株式會社 須賀商會

大阪市北區堂島濱通4丁目10番地
（市電中之島線） 堂島大橋停留所
玉江橋停留所 中央川向ヒ

電話福島（45）{1157 1158 / 1159 1457}

取締役社長		須賀藤五郎
常務取締役	工學士	中島彥六
取締役		內田成之
技術部	工學士	星加雅男
同	工學士	今村道夫
同	工學士	田中喜久雄
同	工學士	吉廣薰夫
同	工學士	山內武雄

支店 東京市京橋區銀座8丁目
名古屋市西區西柳町
京都市下京區烏丸通松原下ル
神戶市神戶區北長狹通2丁目
福岡市上小山町

出張所 兵庫縣武庫郡住吉驛前
兵庫縣西宮北口甲風園
神戶市須磨區天神町五丁目

營業課目 水道、衛生、煖房、冷房、換氣溫濕度調整、病院蒸汽消毒、蒸汽炊事洗濯及乾燥並に汚水處理諸裝置
右設計施工同諸器具直輸入製作販賣

須賀商會の沿革をみるに

明治34年會主故須賀豐治郎氏と實弟の副會主須賀藤五郎氏との協同創設に係り、私設水道の布設及之が岐管工事に伴ふ一般建築物の屋內給水衛生裝置の設計及施工の業を開始してゐる、之れは實に本邦に於ける斯業の嚆矢であつて、時代の進運に伴ひ大正8、9兩年度に亙り會主は親しく歐米の斯界を視察し、歸朝後卓越せる專門外人技術者を傭聘して、爾來一日も研鑽を怠らず大正14年8月に會主病歿せしため副會主之を繼承して、同年12月組織を株式會社に更め資本金50萬圓（全額拂込）となし現會主藤五郎氏社長に就任し、技術部には豐富なる經驗を有する大學及專門學校出身者が多數勤務し、設計の優秀器具の嶄新施工の懇切に遺憾なきを期すると同時に其他各部門に百數十名の社員と參百數十名の從業員を擁して、各專門的に事務を分擔し工事設計施工は勿論外國の取引其他一切の機關が完備してゐる。

同社の光榮

明治36年日露戰役の際には、畏れ多くも明治大帝の大本營であつた廣島偕行社の衛生、給水裝置施工の恩命を辱ふし、更に昭和3年11月には曠古の御大典に際し大正4年先帝御大禮の際に於けると同樣茲に再び左記工事施工の恩命を宮內省內匠寮及大禮使から拜受の光榮に浴してゐる。

1. 京都御所御湯殿及御厠衛生、給水、配湯設備工事一式
1. 大嘗宮朝集所衛生設備工事一式
1. 第一、第二朝集所其他衛生設備工事一式
1. 大宮御所御湯殿增設給水、給湯工事一式
1. 京都御所內皇族御厠衛生、給水、排水設備工事一式
1. 畝傍山御休所、京都驛、二條離宮內諸設備工事一式
1. 京都御所內御用、鏡其他上記諸設備用器具一切供給

尙最近同社が設計及施工したる主なる工事先をみるのに、

		千圓
仙臺市	宮城縣廳舍 消火給水給湯衛生	35,400.00
石之卷市	日本赤十字社宮城支部病院 蒸汽煖房給汽給水排水衛生	60,171.00
東京市	東京文理科大學 蒸汽煖房	41,329.00
同	東京住友ビルデイング 蒸汽煖房換氣	64,220.00
同	東京地方專賣局業平工場 濕調裝置	64,683.00
同	小倉石油株式會社 溫水煖房換氣 給水給湯消火排水衛生	40,530.00
同	聖路加國際病院 消火給水給湯衛生	121,321.00
同	聖路加國際病院 消火給水給湯衛生第2期	102,215.00

同　聖路加國際病院看護婦學校消火給水
給湯衛生排水　107,236.00
同　米國大便館　給水給湯衛生瓦斯
105,295.00
同　貴衆新議院本館　消火衛生　129,448.00
同　銀座ビルデイング
消火給水給湯衛生　23,628.00
同　日清生命館
消火給水排水給湯衛生　70,563.00
同　日本銀行本店
給水衛生煖房改造　33,912.00
同　鈴木三榮ビルデイング
給水排水給湯衛生　77,075.00
同　海軍經理學校
給水排水衛生　19,531.00
同　内務省新廳舍
衛生設備　59,652.00
同　明治生命保險株式會社
給湯消火眞空掃除裝置　124,085.00
同　東京寶塚劇場
給水給湯消火排水衛生　53,000.00
同　日本銀行　衛生設備　285,000.00
同　軍人會館　給水給湯衛生　63,975.00
新潟市　新潟縣廳舍
消火給水衛生汚水淨化　60,061.00
靜岡市　日本赤十字社靜岡支部病院
消火給水給湯給汽汚水淨化
病院消毒器具炊事洗濯　60,642.00
名古屋市　三井銀行名古屋上前津支店
消火給水給湯衛生喞筒排水　55,791.00
同　日華ホテル　給水給湯衛生　11,600.00
同　名古屋株式取引所市場　換氣　15,000.00
同　名古屋市廳舍　蒸汽煖房換氣給湯給水
防火衛生排水　188,700.00
京都市　日本赤十字社京都支部病院給水衛生
淨化槽　84,850.00
大阪市　日本赤十字社大阪支部病院
中病棟及分病舍
蒸氣煖房給汽換氣消火給水給湯衛生
汚水淨化バキユームクリーナー
177,960.00
同　日本赤十字社大阪支部病院
看護婦寄宿舍並洗濯室屍室
蒸汽煖房給汽換氣消火給水給湯
衛生汚水淨化　59,041.00
同　日本赤十字社大阪支部病院
北病棟及炊事場
蒸汽煖房換氣給氣給水給湯防火衛生
器具排水排氣汚水汚化槽　143,000.00
大阪府　住友アルミニウム株式會社ユニツト
ヒーター煖房八尾工場蒸汽煖房15,666.00
大阪府　弘濟會山田事業所
煖房換氣給水給湯衛生　92,000.00
大阪市　野村證券株式會社　蒸汽煖房消火
給水給湯衛生汚水淨化槽　40,182.00
同　大阪女子高等醫學專門學校附屬病院
蒸汽煖房給汽換氣消火給水給湯
衛生汚水淨化炊事洗濯　52,199.00
同　三井銀行大阪川口支店
消火給水給湯衛生汚水淨化　46,283.00
同　三井銀行大阪船場支店
消火給水給湯衛生汚水淨化　50,154.00
同　日本生命保險株式會社
消火給水給湯衛生汚水淨化　23,184.00
同　綿業會館
消火給水給湯衛生汚水淨化　32,896.00
同　大阪市中央卸賣市場
鑿井給水　10,960.00
同　朝日ビルデイング
消火給水給湯衛生汚水淨化　85,000.00
同　大丸第1期消火給水給湯　30,000.00
同　大阪歌舞伎座
消火給水給湯衛生汚水淨化　45,866.00
同　阪急百貨店
消火給水給湯汚水淨化　46,288.00
同　日生病院
消火給水給湯衛生汚水淨化　53,092.00
同　大阪市立商科大學
消火給水衛生　21,480.00
同　伊藤萬商店
消火給水給湯衛生汚水淨化　42,751.00
同　大阪瓦斯株式會社
消火給水給湯衛生汚水淨化　201,768.00
同　新大阪ホテル　衛生設備　352,900.00
神戸市　神戸中央卸賣市場
給水排水衛生喞筒煖房換氣　98,423.00
兵庫縣　山口吉郎兵衛氏邸
消火給水給湯衛生汚水淨化　47,698.00

福岡市　九大醫學部 1. 2. 3. 內科
給水排水衛生汚水淨化　49,270.00
兵庫縣　阪神競馬倶樂部揚送水設備
給水衛生汚水淨化　82,950.00
大阪府　刀根山病院衛生設備　70,500.00

水道衛生煖房工事と云へば須賀を、須賀と云へば水道衛生煖房工事を聯想さるゝ程に當社は一般に熟知されてゐると自負してゐる。

製品に就ては同社多年の經驗と、最新の科學とにより最も嶄新のものを供給し又常に改良研究を怠らない、現在同社の有する特許品は20數件を算へることが出來る。本陳列場に出陳してゐる品は特許品及特種製品の一部で大便器用、小便器用ニート各種フラッシュバルブ、自閉定量栓、水石鹼定量抽出容器等の特許品、各種水栓類、化粧室浴室用器具等である。

上記ニートフラッシュバルブには、ハンドル式足踏式、埋込型ハンドル式、埋込型押ボタン式等があり特にシートアクション式（洋風大便器使用後自働に洗滌するもの）ドアーアクション式（公衆便所等扉の開閉に從ひ自動的に洗滌するもの）或は小便器用は優秀なる機構を有する特製品でもある。

2. 高松菊治郎商店

大阪市南區四ツ橋東北詰（電話船場941）
創業明治元年

瓦商店としては大阪市に於ける最古の商店にして其營業方針又堅實味を以て知られてゐる、其得意先を見ると、住友家、三菱家、大倉家、山口家貝島家等財界並びに、舊家、大林、清水、竹中等一流請負業者凡てに交渉してゐるばかりでなく、九州四國に於ては特に業界に於て高松商店の名を知らない者がないと云はれるほどであるといふから高松商店の信用有るかを知ることが出來るのではなからうか。

尙現在店主高松平太郎氏は建築科出身で和歌山縣廳和歌山市役所に永年建築技術者として奉職した經歷をもつてゐる、特に建築と瓦とについて實地に研究なし現在日本瓦は申す迄もなく各種洋瓦を一手に引受け其業界に致した成績は相當なものである。

尙關東震災後昭和瓦を發明特許を得、最近各地製產地に工場を建設して、最近の實行は瓦業界の主位を占めてゐると噂されてゐるが、その成績から考へられることは、其特長の如何に實質的なるかを實證する事に歸着すると當店では朗かに語つてゐる。

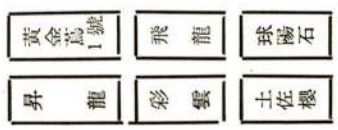
次に昭和瓦の特長とすべきは、優良粘土高熱燒成品、荷重輕減、耐震機構、形態合理、價格低廉葺上容整、緻質强靱、雨漏絕無、葺土不用等々、だそうで今後益々發展のほどを祈る。

3. 大理石工業株式會社

本社及工場　大阪市港區高尾町1丁目17
（電話西 803 767）
東京出張所　東京市小石川區竹早町36
（電話小石川 6264）
資本金　100萬圓也
營業種目　大理石其他銘石及テラゾー加工、販賣、工事請負
創立期　大正8年11月
工場設備　面積599坪餘　切斷機15臺
研磨機7臺　彫刻機9臺　其他
主要業績

白木屋大阪支店	高島屋長堀店
松竹座	堂島ビルデイング
野村銀行本店	加島銀行本店
大丸	藝備銀行本店
日本銀行函館支店	東京朝日新聞社
三井銀行小樽支店	川崎第百銀行大阪支店
大阪鐵道局	愛媛縣廳舍
福岡安田ビルデイング	阪急ビルデイング
內閣總理大臣官邸	明治生命保險株式會社廣島支店
紐育ナショナル銀行大阪支店	東京米穀商品取引所
三菱銀行三宮支店	大阪電氣局
東京劇場	東京博物館
朝鮮忠清南道廳舍	姬路公會堂
神戸商業大學	大阪商科大學
其他	

材料陳列場に於ける同社出品の大理石の配列をみるに





正面に配列のものは何れも最近の採掘に係るもので、此内でも黄金蔦は岡山産の當社直營採掘にかゝるもので、從來にない嶄新な色彩を有し模様一定し、擴大なるものも容易に取揃へることが出來るとのこと、球陽石は沖繩縣産にして今回新規發見したもので是迄の琉球産トラバーチン其他に類を見ない横斷層を有する雅味あるもので、一見伊太利産トラバーチンに比し遜色を見ないと同社で誇つてゐるものゝ一つである。

其他昇龍、飛龍、彩雲、土佐櫻等に於ても從來の大理石に曾て見ない各々特長を有つた色彩のものであるから希くば、出品實物見本に付いて御高覽の上御批判を賜りたい。

4. 內外木材工藝株式會社

本社及工場　大阪市大正區千島町6
（電話櫻川　760）
直營販賣店　林屋　大阪市東區瓦町3ノ8
（電話本局　3116）
東京出張所　東京麹町區丸ノ內仲28號館

營業目的

1. 木材の製作加工並にベニヤ製作
2. 建築、船舶、車輛、其他各種木工造作並に建具、家具類の製作販賣
3. 室內裝飾及之に附隨する一切の事業

會社設立の理由

當社設立は昭和6年10月1日であるが、今その沿革を顧るに從來大林組工作所として明治25年の創立にして大林組の補助機關として夙に製材並に木工に關する方面に從事し數項に亘り工場の擴張及各種機械設備の改善增設を計ると共に事業の愈々進展するに從ひ大正10年當地に水陸至便の地2萬餘坪を卜して現在の工場を新設し各種多様の進歩した製材機及精巧なる木工機械を据付け之れに要する電力も1000馬力を使用して居る。

就中木工製作上最も緊要なる木材の乾燥法に就ては卒先して熱管式乾燥爐を設備し大正13年以來數度社員を米國に派し全國優秀工場數十ケ所に付き全地研究した結果を規準として更に進歩改良せる現在の木工場を建設してゐる、其後も引續き今日に至る迄絶へず新式機械の設備を怠らないので現工場及材料貯藏所其他建物の延坪6000坪、從業員及職工は常時5百人を下らぬ現狀である。

木工部に於ては學識經驗に富む專門技術者が直接指導の下に專屬職工の熟練せる技工と最も進歩せる木工機の應用とによつて數量の大小を問はず汎く江湖の要需に應じ、品質品位に於ては舶來品に比し優るとも劣らざる純國產建築用造作、建具及家具類を精巧敏速に製作し而も低廉なる價格を以て販賣してゐるから日々大方の御讀辭を忝ふして居ると。

然るに最近各種建築並に船舶車輛造作建具、家具等に對する需要增加せんとする狀勢に鑑み益々施設機關の充實を計り廣く江湖の需要に相應し度く昭和6年10月1日株式會社大林組より工作所の業務經營を繼承して獨立の營業機關として設立せられたものである、而して同社新設の所以は專ら事業經營の統制を圖り各機關をして一層所期の目的を達成せしめんが爲め役員幹部の大部分は大林組の役員にして銳意兩社の關係を持し專ら世間一般の需要に應ぜらるゝ次第である。

同社の製作納入に係る主なるものには

船舶にあつては、照國丸、靖國丸の郵船歐洲航路のものを始め、大平洋航路の優秀船である淺間丸、龍田丸さては、リオデジヤネイロ丸、ブエノスアイレス丸等の用命を受けてゐるし、建築關係としては、畏くも、朝香宮御殿をはじめ、米國大使館、加奈陀公使館、三井本館、明治生命等々を數へることが出來る。

昭和7年秋の近畿地方に於ける陸軍特別大演習の際には　畏くも、侍從御差遣の榮を得て同社では常に其榮譽を誇つてゐる。

最近には滿鐵會社から木部造作に關し百數十輛の注文を受けて、非常に多忙を極めてゐるらしい。

猶ほ、鋼管製家具から暗示を得て新らしく考案された、ベニヤ板の曲木による家具の試作に成功して目下新案特許申請中とのことであるが、低廉な價格で一般家庭をはじめ各所に喧傳される日もやがてのことであらう。

折角御精勵を祈る。

5. ベニヤ商會

大阪市西區西長堀南通富田屋橋南詰
（電話新町 4151番）

最近建築界の寵兒として、ベニヤ板を數へることが出來る、其用途は次第に廣範圍に渉り建築材料、造作或は家具材料として重寶がられてゐることは今更いふ迄もない一般周知の事實であり、且つ乾式構築の喧しくなつた今日に於てベニヤ材の用途は一歩を減ずることもあるまい。日本に於けるベニヤ工業を顧ると最近 7,8ケ年の内に非常に發達して、現在其の製作工場は、30 ケ所を數ふるに至り、現在では其市場を廣く海外の天地に求めて盛に輸出せらるゝ狀況で、25 年前北歐瑞典から初めて輸入せられた當時には我國に於て其用途を知らなかつたといふ話を思ひ出して、轉た今昔の感に堪へないものがある。ベニヤ板專門のベニヤ商會では今や斯界に雄飛して、その販路は國内から海外へと擴大されてゐる、同商會では、商品を賣るよりも信用を賣ることをモットーとせられてゐるらしく同商會への照會取引は親切叮嚀であることは誠に喜こばしき事といわねばならない。

ベニヤ板を主材としてゐる次記の各種のドアーが最も多く使用せられつゝあるが、勿論製作方法も各種各樣であつて一樣ではない、材料の甲乙も相當あり、其工費にも種々の差があるのはいふ迄もない。

同商會では如何樣の製品にも御用命に應じて造る事が出來得るとの事である。

フラシュドアー（太鼓張り戸）スラブドアー（太鼓張窓付戸）パネルドアー（唐戸）等をはじめ

其他同商會の製品には象嵌加工、昭和型製圖板内地杉張天井板、フロアリング（實矧床板）、寄木床板、エンボスト玉椿模樣塗ベニヤ、カーブベニヤ等に渉つて相當種目を取扱つてゐる。

更に同商會工作部特製品として、美術寄張ベニヤ其他床材（地板違棚天袋地袋）等特種工作品を作つて好評を博して居るとのことである。

將來一層の發展を希望して止まない。

6. 大阪伊丹商店

大阪市西區靱中通1丁目20番地
（電話土佐堀 2417番）

—（營業種目）—

檜 櫻 樺 床 板
同　上腰羽目
同　上寄木張
同　上伊丹式　フローリングブロック
同　上伊丹式　パーケットリー（一名簡易寄木板）
各 種 浪 釘

大阪伊丹商店の略歴

創立年月日　大正15年4月1日なるも當店の前身は明治43年横濱市淺間町に於て野瀬製材所を開設專ら輸出向檜材の製材及販賣をなし其後明治44年横濱增田貿易株式會社製材部と合併の上輸出向檜材の外檜床板の製造販賣をなす

大正9年5月合資會社伊丹商店を横濱市中區南吉田町に創立し檜櫻床板羽目板フローリングブロック等の製造販賣をなし以來當店は同合資會社伊丹商店の大阪營業所として經營し大正15年4月1日單に大阪伊丹商店なる個人商店に改め經營し現在に至る。

大阪伊丹商店販賣檜及櫻實矧付

グランドラピッド式乾燥床板に就いて

木材を使用するに乾燥の必要なことは今更申す迄もない、其内でも檜や櫻等則ち濶葉樹に屬するものは特に入念の乾燥が必要であるから（1）に天然乾燥（2）に人工乾燥（3）に加工となる。

其處で乾燥法も木材の用途により色々變應せしめて行くのが妥當だと思はれる。當店の取扱つて居る濶葉樹の床板殊に檜や櫻の樣に多量の丹寧を含有する木材は天然乾燥をなすことが最も可いのであるが此方法は其乾燥期間が非常に長期に亘る爲經濟的でないから矢張り人工乾燥法を施し、從來此種木材床板の乾燥は單に水分を除去して木材の收縮を防げば可なりとせられてゐるが當店では床板の樣に濕氣に接觸し易い場所に使用せらるゝものは前記含有丹寧が化學作用に因つて醋酸母に變化する際生ずる菌絲の爲に腐蝕を早められるから乾燥の際此の短所を除去することが大切だと考へてゐる、グランドラピッド式乾燥法と云ふのは是等の短所を補ふべく採用された乾燥法であつて

其概要を申述べると

第1工程……空氣と熱氣と蒸氣との交流せる室房中に一定規格の木材を一定の間隔に併置して樹液を除去しつゝ丹寧を抜取る

第2工程……空氣と熱氣の氣流によりて水分を抜取る

第3工程……大氣中の濕度と平均せしむる爲め少量の濕氣を含ませしめて過度の乾燥による木材使用後の膨脹を防ぐ

即ち以上の3工程により腐蝕を防ぎ伸縮を調節した製品を作るのである

以上乾燥につき述べしが此乾燥を完全にすると云ふ事は此種床板の生命であつて床板の價格を左右するものは一にかゝつて此乾燥の完全不完全の如何によるのである。乾燥期間の長短による費用の差額等は些々たるものであるが恐るべきは此乾燥中に生ずる板の癖即ち狂ひであつて、即ち乾燥室内で板の狂い丈狂はせて仕舞つた後此狂つた部分を切捨て殘の狂はない部分を以て加工するのである、是に反し乾燥を板の狂ひの出ない内に止めて製品を造るならば同量の材量で前の場合では100坪しか出來ぬ時後の場合では130坪位出來る結果から其單價は極端な相違を生じて來るのは自明の理である。

是丈入念に乾燥を施しても原板を個々に點檢すると、木理の相違に隨つて又伸縮率が異つて居るから加工の際に或は狂ひ止を附け、或は膨脹調節の隙間を取ることにしてゐる。

當店の取扱ふ床板は長さが3尺以上1寸上り等と云ふ非常な亂尺であるために、廢材を用ひてゐるかの用に誤解されるが、決して左樣な譯ではないらしい、ヤードに積んである時の狀態を御覽になれば、大體御了解を得らるゝと主張してゐる、原木は8尺から18尺迄のものを製材するのであるが約半歳の野積と前述の乾燥を施す間に皆狂を生じて原形を止めぬ迄になる。

その板の内から正品の部分丈を切取つて使用するために、斯樣の亂尺ものとなるらしい、然し是れは、四方に實矧を付けてあるから使用上には少しも不便のない樣になつて居る。

特許 $\frac{65891}{162451}$號伊丹式フローリングブロック

ブロックの元祖として當店がブロックを創作して以來既に十有五年今や到る處の混凝土建築物の床に採用せられ其の處用の擴大せること隔世の感がある。

然るに近年多種多樣なるブロックが續出して何れもそれ相當の長所がある樣なれ共多くは單に數個の木片を組合せ之を單なる金具を以て綴合せるものに過ぎずして裏面平なる木片にはセメントモルタルが絶體に密着せざる原則を沒却し木片は硬化モルタルの間に空隙を生じ聽て部分的に浮上り遂々床面に波及して其生命を短縮するに至る譯である。

當店のブロックは大正10年創作以來學理と實驗とによる研究を積み陳列實物のブロックの如く裏面の鳩尾狀溝及凹溝に浸入する「セメントモルタル」に依りて混凝土床版と能く固着するも尙確實を期する爲に各木片は膠着劑を以て結合構成してゐるから施工後浮上る恐なく實に鬼に金棒的のブロックだと當店では自慢してゐる。

現代建築に相應しき床敷としてリノリウーム絨氈などと共に耐久力又は衛生上の見地よりその優美にして明るく雅致に富める寄木張が同樣に廣く喜ばれてゐる。

當店は檜櫻堅木床板を專門に扱ひ居る關係上完全にして隙や狂ひの生ぜざる寄木を責任を以て提供致して居る、猶寄木張の良否は(1)完全乾燥(2)材料の正確加工 (3)施工の技術で此三拍子が揃つてこそ完全なる寄木張が仕上る譯である。

當店の寄木に用ふる標準材料檜櫻チーク鹽地、欅、楓、黒柿、紫檀、黒檀、神代欅等の各種にして常に在庫豊富である。

伊丹寄木張の特長

A、寄木材は凡て原木の良材より特別に柾目挽に製材し天然乾燥數ケ月の後更にグラントラビット式乾燥法にて完全乾燥を施し後精巧なる機械にて加工をなしてゐるから各板の接着を確實にし且拾數年來養成せる熟練工の入念施工に依り施工後殆んど狂を生ずる憂ひがないと主張してゐる。

B、十數年來の實驗に依り多方面に適する新柄の圖案を豊富に準備してゐる。

C、施工方法 (1)本寄木張 野床上に厚正3分の寄木材を以て現場割付の上膠付隱釘着施工をなし表面鉋掛及ペーパー掛仕上げとする。

(2) 準寄木張 本寄木張と異なる處は厚5分の材料を用ひ膠付をなさず單に隱釘付にて施工する

グランドラビッド式乾燥各種加工床板標準仕様

名稱	品種	標準寸法 長	働き巾	厚	特徴	用途の概要
本實矧及繼手附	板柾目込	3尺以上12尺迄1寸上り亂尺	2吋半	15/16″7分5厘	美觀耐久力は他の針葉樹床板の及ぶところにあらず	工場用、兵舍用、倉庫用床、學校雨天體操場、事務所用、住宅、病院、小學校、寄宿舍廊下用、2重張化粧用、寄木張用
床板	1等品		3吋半	11 3/16″6分5厘 5/8″ 5分 3/8″ 3分		
本實矧及繼手附	赤身勝白太交り	同上	3吋 3吋半	15/16″7分5厘	此床板は堅牢にして纖維交錯し摩損少く耐久力楢に比し遙かに優る	工場用、各紡績電力會社等の床用
櫻床板	1等品			13/16″6分5厘		體操場用、日本住宅緣甲用、
本實矧及繼手附	赤白交り1等品	同上	3吋 3吋半	15/16″7分5厘	其纖維の交錯及摩損に强き事	柔場劍道場床
椿床板				13/16″6分5厘	櫻に比して稍柔し	各工場床に適す
腰羽目板	楢及櫻	御希望通りの繼切上納入	3吋 3吋半	8分の3吋	凡て銀杏面型に加工し頗る優美高尙である	女學校小學校體操場床學校事務所應接室等用
本寄木張	楢櫻楓チーク	當店意匠の寄木圖面又は施主御好みの御設計圖面通り施工す	中張材料は通常巾2寸長8寸又は巾2寸5分長1尺の實矧手附材料を用ふ	8分の3吋	特に乾燥加工完全なる材料を使用するため施工後狂殆どなし	應接室、書齋
施工共	輪廓には同上の外紫檀黑檀神代杉黑柿等御好による			仕上り	優美高尙に仕上ぐ	食堂、寢室等に適す
特許第66089號伊丹式パーケットリー（簡易寄木張材料）	楢	1尺角	巾2寸は5板巾2寸5分は4板纏合せの上	8分の3吋	簡易寄木張にして本寄木張の如くにはあらざるも本寄木張に準ず	應接室、食堂等に適す
特許第65891號同62451號フローリングブロックコンクリート床板上に張込み	楢	普通8寸角	3枚矧 4枚矧	3/4″以上 15/16″以內	通常正市松斜市松に張り込む 倘網代張道廻し型等も取扱す	百貨店の床張り 理髮店及商店等店の床張りに最も適す 商品の汚損せざるの特徵を有す
		倘上の外特種の寸法のものも作ります				

以下は次號へ續けてゆく考へてある。

（中西幹事）

會　　報

函館市復興に關し本協會は下記の通4月12日寫眞電報により建議をなしたり

函館市復興に關する件

去月 21 日函館市大火に對する閣下の御心勞は多大なりと存し遙かに敬意を表すると共に夙に之か復興に對して格段の施設を講せられつつありと聞き邦家並に市民の爲御同慶至極に存候

過去の災害の狀況に鑑み防火地區特に相當厚みを有する集團式防火地區の必要なるは極めて明瞭なりと存候處若し之を閑却し單に路線式防火地區は廣路、公園、道路の新設擴張のみを以て復興の骨子とせらるることあらは再ひ同樣の災害を惹起するも保し難きに付、復興計畫に當りてはシビツクセンター及中央商業區に對して數ケ所の集團式防火地區を設定することを以て災害防備の骨子とせさる可からすと存候

閣下に於かれては旣に充分なる御研究の上右に對する施設御計畫中の事と存候得共其の必要性と重大性に鑑み此段及建議候也

昭和9年4月12日

社團法人日本建築協會會長

工學博士　片岡　　安

北海道廳長官　佐上信一閣下

役　員　會

常　務　會（第六回）

日　時　3月19日午後6時15分—8時30分

會　場　建築俱樂部別室

出席者　理事　葛野、松室

監事　岡部

常務　今林、浦、中澤、清水、鈴木、平塚、秋田、新名、小笠原設備委員長

議　事

1 コンクリート配給設備研究の件(可決)（提案者小笠原銅氏出席說明）

1 大美野住宅博に付關西土地會社より出品者に對する未拂金に關する件(可決)

1 災害强度委員會より要求に係る委員1名東京へ派遣の件(條件付可決)

1 災害强度委員會より要求に係る委員增員方の件(可決)

1 塗裝競技會に審査員選出方の件(可決)

1 ダンロップ護謨株式會社工場見學の件(可決)

1 春季大會報告の件(可決)

1 雜誌印刷契約に關する件(主計・編輯一任)

1 雜誌廣告募集に關する件(未決定)

1 家具裝飾設計圖案懸賞募集に關する件（修正未決）

1 會員詮衡

報　告

1 2月分會計報告

1 春季大會委員會經過報告

1 夏の家設計懸賞圖案審査報告

1 建築材料陳列場幹事會經過報告

1 會員委員會委員長及幹事依囑の件

1 建築學會寄贈「國立公園に建つ山小屋」の建築設計圖案集の件

常　務　會（第7回）

日　時　4月2日午後6時5分—7時30分

會　場　建築俱樂部別室

出席者　理事　片岡、葛野、松室

監事　岡部

常務　井上、清水、平塚、新名

議　事

1 陳列場幹事會に於て綜合型錄作成計畫に關する件(可決)

（德政幹事長出席協議並に報告）

1 建築俱樂部維持に關する件（再考）

（岡部代表者說明）

1 材料委員會附託の塗裝競技會審査員豫選の件（可決）

1 終身賛助員桐田登氏死亡に付同賛助員を桐田商會名義にて繼續方願出に關する回答案の件（可決）

1 敎化委員會より座談會開催に付經費要求の件（再考）

1 材料委員會より材料實地見學に付經費要求の件(可決)

1 函館市大火災に付災害强度委員會より委員實地派遣方要求に關する件(否決)

1 「市街地建築物法令」第4版刊行の件(可決)
1 藤山工業圖書館より「續住宅圖案集」1部寄贈願出の件(購入方に變更)
1 會員詮衡
報 告
1 備品賣却の件
1 災害强度委員會要求の委員1名東京へ派遣の件

常 務 會 (第8回)

日 時 4月11日午後6時20分—8時10分
會 場 建築倶樂部別室
出席者 理事 葛野、松室
常務 今林、井上、浦、中澤、清水、鈴木、平塚、秋田、加藤、新名、鳥井都市計畫委員長

議 事
1 函館市復興に關し北海道廳長官に建議の件(修正可決)
1 都市武裝促進委員會委員增員の件(可決)
報 告
1 建築材料陳列場給仕1名採用の件
1 函館市大火災實地視察講演會開催の件
1 都市武裝促進委員會事務分擔報告
1 夏の家設計圖案懸賞賞牌贈與の件
1 3月分會計報告

3 月 例 會

日 時 3月20日午後6時30分—9時
會 場 建築倶樂部
出席者 松室重光氏外40名

午後6時30分開會先づ松室副會長より開會の辭として防火に關し簡單なる意見を述べ次で小笠原銅氏より講演者能美輝一氏の略歷より斯界權威者なることを紹介して愈々能美氏演壇に立ち左の演題の下に1時間半餘の長講演あり

ビル內の火災報知機に就いて
附 自働火災警報裝置

右終りて松室副會長より講演謝禮の挨拶あり次で活動寫眞の映眞に移り漫畫、喜劇、世界一周等の映寫の後松室副會長より閉會を告げ散會したり時に午後9時

室生寺に關する講演會

日 時 4月10日午後6時15分—同8時
會 場 建築倶樂部
出席者 伊藤重雄氏外76名
1 午後6時15分松室副會長開會を宣し講演者京都帝國大學教授工學博士天沼俊一氏を紹介し同博士は左の演題の下に室生寺に至る行路より說き始め詳細約2時間に亘る長講演あり(出席會員に參考圖配付)

右講演會を終り質問の後松室副會長より謝辭あり出席會員一同拍手を以て謝意を表し散會を告げたり

函館市火災視察講演會

日 時 4月14日午後6時30分—9時20分
會 場 建築倶樂部
出席者 岩尾保衛氏外43名
1 午後6時30分開會松室副會長より只今から函館市大災實地視察の講演會を開く旨及豫て御通知の講演者中の富士岡重一氏は病氣の爲之れを欠く旨を述べ講演者鳥井信氏を紹介す

同氏は直に演壇に立ち左の演題の下に詳細熱心に諸種の圖表により約2時間に亘る講演ありて降壇、種々の質問應答の後退席せらる時に午後8時20分

函館大火災實地視察談
都市計畫大阪地方委員會技師 鳥井 信氏
1 次で5分間休憩の後松室副會長より中澤誠一郎氏を紹介し同氏は鳥井氏講演以外の視察談を試みたき旨を冒頭に述べ是亦熱心なる視察及感想に付て講演ありて降壇質問應答あり時に9時10分

函館大火災實地視察談
大阪府建築課長 中澤誠一郎氏
1 右終つて松室副會長より謝辭あり一同拍手を以て之に和し講演者に對し謝禮の意を表し松室副會長閉會の旨を告げ散會したり時に午後9時20分

(本日の講演は速記したるを以て後日當協會發行雜誌にて發表の豫定なり)

都市計畫委員會 (第7回)

日 時 4月6日午後6時20分—7時30分
會 場 建築倶樂部
出席者 委員長 鳥井
幹 事 北垣

委　員　喜多村、德政、戸塚、伴野、福富

1 函館市大火（3月21日午後6時勃發）に付鳥井委員長實地踏査の結果次の事項に付諮りたし
復興に關し北海道廳に依つて起案されし防火施設は計畫は餘りに狹少にして今少し擴大されし案を研究して成案を取纏め道廳へ建議すること來る13日(金)迄に草案(鳥井委員長持參の筈)を得て協議することゝす

緊急都市計畫委員會（第8回）

日　時　4月10日午後6時15分—7時
會　場　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　鳥井
幹　事　伊東、北垣
委　員　德政、戸塚、伴野

1 午後6時15分鳥井委員長座長となり開會
1 鳥井委員長より函館市大火災に付今回官命を帶び實地視察したりとて大火災狀況の概略を話し就ては該市の復興計畫に付當委員會より當路に建議すべき要を認め其建議案作成に關し緊急當委員會を開きたりとて開會理由の說明あり
1 次で同委員長起案に係る建議案に付協議の上別紙の通決定し會長に報告すること・となる

都市計畫委員會（第9回）

日　時　4月17日午後6時20分—9時
會　場　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　鳥井
幹　事　北垣
委　員　喜多村、椎原、德政、戸塚、吉田

1 午後6時20分鳥井委員長座長となり開會
鳥井委員長より次の報告あり
前回委員會に於て決議したる函館市大火災に關し其復興計畫に付北海道廳長官に建議の件は常務會に報告し該會に於て別紙の通修正を加へ直に寫眞電報を以て不取敢建議を了したること
1 次に都市武裝に關し今日迄研究したる下記事項は今回協會に都市武裝促進委員會が特設されたるを以て該會調査部に引繼ぎをなすことに決定
1 防火防空建築の促進助成
1 防火地區の擴大
1 避難設備及避難道路の選定及設置
1 環狀放射公園道路の設置
1 從つて委員會は7月下旬防空演習終了迄は突發事項のなき限り休會することを申合す
1 大阪驛前整理事業促進に關しては早速具體案を作成し當局へ陳情することゝなり委員長手許に於て起案し陳情實行に付ては委員長、幹事に一任することに決定
尙別途に右陳情案に對する世論を喚起すべく其方法も考慮することを申合す

法制委員會（第5回）

日　時　4月19日午後6時30分—9時30分
會　場　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　津田
幹　事　玉置、坪井
委　員　石川、武田、永瀨、山口

1 委員長より前々會(前會は流會)の經過報告をなし本夕は警視廳、京都府より夫々送付ありたる建築代願人取締規則に付研究することゝし協議に入る
1 長時間に亘り種々意見の交換をなしたる結果此の問題は追て機會を見て更に研究することとし一先づ此儘保留することとす
1 外國法規研究の爲分科を設くることを申合す
分科委員の人選は玉置幹事に一任と決定
1 質疑應答問題2問に對しては例に依り府の建築課に御願ひすることとす

敎化委員會（第2回）

日　時　3月29日午後6時30分—9時50分
會　場　建築俱樂部別室
出席者　委員長　古宇田
幹　事　姬野
委　員　酒井、澁谷、篠原、高木、永澤

1 午後6時30分古宇田委員長座長となり開會
1 昨年來當委員會に於て調査を進めし
女子中等諸學校の家事科敎材中「住居」に關する問題
は各學校の回答も蒐集したるにより尙進んで該擔當敎師との座談會開催計畫に付協議をなし要項左の通決定す

時　期　5月6日日曜日
案內狀發送先學校範圍　前に照會したる107校全部

午前に於て　實物住宅（大林義雄氏邸？）の見學
午後に於て　座談會開催
經費概算　總額金60圓の豫定
以上會長に要求（別紙の通）すること
其他の計畫は幹事に一任とす
姫野、本間幹事、酒井委員の3名により成案をなすこと
成案次第當委員會を開くこと

1 次に今秋擧行計畫の文部省主催の實業教育50周年記念事業に關し高木委員より實業學務局長の談として計畫大綱に付報告あり
本件に就ては幹事は無論のこと各委員に於ても考慮せられたく委員長より希望あり

1 既往に於ける本委員會の遂行事項に付ては之を謄寫の上各委員に配付し研究事項考慮に參考となすことに決定せり

教化委員會（第3回）

日　時　4月13日午後6時30分－8時30分
會　場　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　古宇田
幹　事　姫野
委　員　伊東、篠原、永澤

1 午後6時30分古宇田委員長座長となり開會

1 前回委員會に於て決議の上常務會に報告旁要求したる住に關する中等程度女學校家事科教師座談會開催計畫に付常務會より具體的提案方回答ありしを以て之が具體案其他に付協議したく本日臨時委員會開會したる旨委員長より說明あり

1 夫より協議に入り先づ西谷書記より常務會の意嚮を聽取したる後協議を進め姫野幹事草案の下に別紙の通常務會提出案の成案を得たり
尙右提出案は姫野幹事常務會に出席し說明をなすことに決定せり

1 次に中等程度女學校家事科の使用せる教科書に付調査する必要ありとて在來寄贈を受けたる教科書に付調査を進めたる結果汎く教科書蒐集の上調査することゝなり發行所に對して寄贈方を申込むことに決定
（發行所の取調べは昨年學校回答によること）
尙現在寄贈ある教科書4部は各委員持ち歸り取調べの上次回委員會に持寄ることを申合す

1 當委員會の既往遂行未遂行研究事項調表は本夕各委員に配付す（缺席者に送附のこと）

材料委員會（第2回）

日　時　2月7日午後6時30分—9時
會　場　建築材料陳列場
出席者　幹事　松久保
委員　楠瀨、作間、高岡、道田、吉本

1 委員長東京出張の爲缺席せられ本年度の調査研究方針等書き送られたり

1 松久保幹事座長となり開會
先づ木材の市場寸法調査より着手することを申合せ右に關し種々意見を交換したる結果依頼狀を各關係方面に發送し木材市場既成品呼稱並同寸法、品等の規格書を取り纏め其の上にて更に研究することゝす
本委員會としては「日本建築協會規格書」とも云ふべきものを制定し凡てを統一する迄に進み度き考へで相當困難なることは豫想せられるが委員會としては其處迄やるのが理想であるとの意見一致せり

1 鳥取縣、愛知縣、兵庫縣、和歌山縣、岐阜縣、北海道は既に木材の規格寸法を制定し居れり
以上は楠瀨、道田兩委員に於て府の庶務課權度課に付調査を依頼す

材料委員會（第3回）

日　時　2月21日午後6時30分—8時10分
會　場　材料陳列場別室
出席者　委員長　池田
幹　事　松久保
委　員　楠瀨、阪口、作間、高岡、道田
吉本

1 午後6時30分委員長座長となりて開會す

1 先づ前回の委員會の申合せに依り各方面に發送せし依頼狀に對し本日迄に送付ありたる夫々の規格書を回覽に供せり

1 以上規格書を參考として從來用ひられて居る市場木材の稱呼並寸法等が果たして實際に即して適當なりや否やを研究することゝし大藏省營繕管財局のものと大阪府告示の木材正量檢査規則とを對照して調査に着手することにしては如何との說ありしも兩者の稱呼に非常なる相違あり

全國的統一を計るを以て本委員會の最後の目的となすも當初よりかゝる計畫をなすは相當困難に付先つ關西方面だけで統一することゝす

1 依つて大阪府のものに付最初研究することゝし本委員會中に小委員會を設け詳細なる調査を依頼することゝし下記の3氏に委員長より依頼せり

松久保幹事、高岡委員、道田委員

1 尙第1回の會合の際申合せたる通り金屬管、エレクトロードに關する調査研究も次回より開始することゝせり

材料委員會 （第4回）

日　時　3月7日午後7時—9時40分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　池田
　　幹　事　松久保
　　委　員　楠瀬、高岡、道田、吉本

1 端柄材寸法改正の希望に關し大阪材木商同業組合より一度然る可き人に本委員會開催日に出席を願ひ種々意見を求めては如何との意見一致し同組合に依頼狀を發送することゝす
尙道田委員作成の案を本委員會の案として協議する爲本夕は先づ該案に付研究をなす

1 豫而工場見學の計畫ありし處來る17日(土)先づ第1回として島田硝子工場の見學をなすことを申合せたり
（17日午後2時建築倶樂部參集一同揃つて出發のこと）

1 臺灣總督府營林所より送付ありたる規格書は寫眞にして各委員に送付すること

材料委員會 （第5回）

日　時　3月22日午後6時10分—8時40分
會　場　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　池田
　　幹　事　松久保
　　委　員　楠瀬、阪口、高岡、道田、吉本

1 會長より本委員會に對し附託されたる塗裝競技會審査員選定の件に關し協議の結果下記の通15氏を選定し會長宛報告することゝせり(略)

1 本夕大阪材木商同業組合より役員の方に出席を願ひ種々打合せをなす豫定なりし處先方の都合惡しく出席無き爲前回に引續き道田委員作成の案に付協議し修正を加へたり

1 來る4月7日ダンロップゴム株式會社工場の見學を申合す

材料委員會 （第6回）

日　時　4月4日午後6時30分—8時
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員　楠瀬、小西、高岡、道田、吉本

1 本夕は委員長幹事共に缺席の爲め議事を進めず種々意見の交換に止めたり

1 次回定例日には大阪材木商同業組合より役員の方に出席を願ふ樣松久保幹事に依頼することを申合す

1 前回申合せたるダンロップ護謨株式會社工場見學の件は常務會に報告し其の承認を得たるも先方の都合にて20日以後にせられたき旨回答ありたる事を書記より報告し追て先方の都合宜しき日に見學をなす事を申合せたり

材料委員會 （第7回）

日　時　4月18日午後6時30分—8時50分
會　場　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　池田
　　幹　事　松久保
　　委　員　小西、阪口、作間、高岡、道田
　　吉本
　　大阪材木商同業組合　森野、木本

1 6時30分開會委員長より先づ本夕大阪材木商同業組合より本委員會に御列席を願ひたる森野、木本兩氏に對し謝辭を述べ同時に本委員會本年度の調査研究計畫及希望等を說明し供給者側と需要者側との立場に於ける腹藏無き意見の交換を希望すとの前提の下に懇談に入る

1 委員側の質問に對する組合側の回答及夫れに關聯する種々なる說明は大略別記の通り（池田委員長記）

1 種々懇談の結果需要者側にある各有力なる團體が稱呼寸法等を充分に研究したる結果之を決定し更めて材木商同業組合と協議を重ね相方が歩み寄り結局に於て一致點を見出す樣努力する事が最も適當なる方法ではなからうかとの結論を得たり

災害强度委員會 （第3回）

日　時　4月12日午後6時40分—9時30分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　波江
　　幹　事　黒田
　　委　員　佐野、谷、鳥井、三浦、矢田、山田

1 午後6時40分波江委員長座長となり開會
1 型枠に關しては各委員の提出論文を取纒めることに決し三浦、篠原、兩委員に於て擔當取纒めることゝなし今日迄に蒐集の論文は協會より前記兩委員の手許へ送附することとす
1 石垣の資料は次回委員會に持ち寄りを申合す
1 近歲防空演習に關する木原大尉の講演中要項を各委員に配布すること
1 前年度研究題目コンクリート、鎔接に對しては逐次研究を進めることを申合す
1 尙當委員會第2分科（地盤移動、防空演習）委員中左記委員は未だ都市武裝促進委員會委員にあらざるに付依囑方を同委員長に要求することに決定
　　三浦尙史氏、　山田誠氏
1 本夕佐野委員より分擔の「型枠の存置期間」原稿提出あり謄寫の上各委員に配付すること

設備委員會 （第5回）

日　時　3月28日午後6時30分—8時10分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　小笠原
　　委　員　西村、增井、政岡、村田

1 午後6時30分小笠原委員長座長となり開會
1 昨年1月7日設備委員會に於て決議したる研究題目の中下記の項に付研究を進むることゝし研究に入る
（ロ）リベッチング、ミキサー其他工事上の騷音防止に關する設備
1 先づ工事に於て騷音を生ずるものは
ミキサー、杭打、リベッチング、ウインチー、の類なり
此の騷音防止は如何にするか
1 ミキサーは全部を適當に被覆するか
一方にコンクリート配給所問題解決すれば自然消滅す
2 杭打は目下の處良法なし
3 リベッチングはポーテーブルのハイドロリックにするか大體今後は電氣鎔接にすれば良いと思ふ
4 ウインチは適當なるカバーを設くるか
大體以上等の方法よりなしと思はるゝが更に次回に引續き研究し結論を得る樣にすることを申合す

設備委員會 （第6回）

日　時　4月11日午後6時30分－8時30分
會　場　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　小笠原
　　幹　事　伊東、松井
　　委　員　西村、增井

1 本夕は出席者少數の爲確定議を得ず潛函工事に關する種々意見の交換をなしたり
1 次回更に協議をなすことゝし各員に對し通知狀を發送することゝす
1 西村委員より「鐵矢板とウオールケーソンとの場合の價格比較」表提出せられたり依つて之を青寫眞とし各員に配布することゝす
1 次回委員會（4月25日）には臨時委員、並に潛函會社の方々にも出席を願ふこと

設備委員會分科會（第1回）

日　時　午後6時30分—同8時
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　小笠原
　　幹　事　增井
　　委　員　西村、政岡、加藤、黒田、阪口志岐、鈴木、森山

1 午後6時30分小笠原委員長座長となり開會
先づ小笠原委員長より
本夕は御多用中の處繰合せ御出席下されしことを謝し混凝土配給所設置に關し研究を進めたく當分科會を設けました
本分科會は設備委員會に於て工事現場の騷音防止問題に付研究に際し混凝土の配給所設置必要問題が起り最早や都市の工事場に於てはかゝる設備の必要切なるやに思はれたる爲早速常務會に提案して其承認を得て急遽當分科會を設けました次第で研究の結果により可成實現さしたく

茲に混凝土を一番多く使用する請負業の御方で實地經驗に富む方々の御研究を願ひたく各位に御苦勞を願ふ次第であります委員中には餘程研究されて居らるゝ方もありますから其の御意見を聽き研究を進めたいと存じます

各位の御意見を拜聽したし

1 K委員の意見

現在に於ては砂利等暴騰より工事上支障多く經濟界の狀態と共に甚だ困つて居るもので從て工事上無理が生ずる次第で此の配給所の實現することは實に吾等の理想であり又建築界歷史的に革命であると思ふ、自分の考へでは請負業者には恐らく反對するものは少なからむ、要するに結構なことで進んで委員會に出席したる次第である

大衆的に眞劍に研究し實現させたいと思ふ

尙各委員の意見發表ありて大體に於て全委員實現贊成說なり

1 次で森山委員より別表(揭載略)のセメント使用量に付說明あり

尙池田宮彥委員は出席不能に付書面にて意見提出ありしを以て委員長之を報告す

1 次に下記の問題に付意見交換ありて次回持寄りと決定す

1 供給を受くる大阪市內建築現場用の混凝土總量の調査

(次回委員會に各委員持寄りのこと)

2 次回委員會には尙一應下記の問題を研究することを申合す

經營即ち配給所設置の利害關係を更に研究すること

1 當分科の定例會合日を下記の通申合せをなす

毎週　金曜日午後5時半

設備委員會分科會　(第2回)

日　時　4月13日午後6時30分—同8時40分

會　場　建築俱樂部別室

出席者　委員長　小笠原

幹　事　伊東

委　員　政岡、村野、落藤、加藤、黑田、阪口、志岐、永澤、森山、淺野セメント會社員

1 前回の申合せに依り大阪市內の建築現場に使用するコンクリートの總量に關し二三委員より調査報告ありたり

1 配給に使用するトラックの問題に付ては(現在1トラックが3噸積めるものとすれば3合のコンクリートしか運搬出來ない)假に1日約20坪餘のコンクリートを必要とすれば其の際トラックを連續的に(8分間位毎)運轉せなければならない結果となる

1 現場に於て45切を打上げるに要する時間は約6分なり、其爲には6分乃至8分毎にトラックの到着を要す且つ現場にはトラックの出入に相當の場所を要す

1 1日に使用するコンクリートの量を150立坪としてトラック1臺が1日12回運搬するものとすれば約12臺を要す

1 材料15日分のストックに必要なる地所は約3,000坪を要する砂、砂利のコンビがうまく行けば多少坪數は減少するかも知れない成るべく狹く高く設備する要あり

1 次回の研究問題左の通

(1) 運搬用トラックは如何なるものを使用するが適當なるか

(2) 配給所の敷地問題に付て

(3) コンクリートのミキシングの方法に付て

設備委員會分科會　(第3回)

日　時　4月20日午後6時50分—同9時

會　場　建築俱樂部別室

出席者　委員長　小笠原

幹　事　伊東

委　員　落藤、志岐、森山

1 午後6時50分小笠原委員長座長となり開會

委員長より本夕は出席者少數なるは甚だ遺憾なるも前回研究事項に付再研究をなし都合によりては尙進んで前回宿題の研究事項に付研究したしと前提し研究に入りしが、前回の研究事項再研究に終り散會したり

1 次回當分科會は5月4日(金)開會のことに申合す、尙其際鈴木委員には是非出席を願ふこと

住宅委員會　(第4回)

日　時　4月18日午後7時10分開會—同9時閉會

會　場　建築俱樂部別室

出席者　委員長　武田

幹　事　小川陽、增山
委　員　赤松、小川、岡本、岡田、小林
三木

1 午後7時10分武田委員長座長となり開會
1 本委員會は當初より座談會の形式で住宅に關し研究を進め會員にも隨意參加を希望する旨雜誌にも會告してある關係上此の座談は雜誌により發表する必要上、速記者使用を常務會に提案することに決し早速手續をとることとなる
1 次に本夕主題「防鼠」の研究に入り其方法、構造、設備、器械等より順次各員の意見發表し研究をなす（會誌に詳細發表の豫定）

（特設）建築會館委員會　（第3回）

日　時　4月9日午後6時10分—7時
會　場　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　安井
幹　事　阪口
委　員　竹腰、德政、波江、森本

1 午後6時10分安井委員長開會を宣し開會す
1 先づ竹腰委員より前年度に於ける本委員會の經過を大略說明し協議に入る
1 結局本委員會は前年の委員會の計畫案（收支豫算書）を其儘襲踏することゝし各員は該計畫案に合致する樣な問題を勉めて獲へる事を申合す依つて良き機會あらば直ちに委員會を招集し協議をなすことを申合せたり
1 收支豫算案は前年度委員會に於て承認濟のものにして本年度委員會も該案に依ることを申合す

（特設）都市武裝促進委員會　（第2回）

日　時　3月27日午後5時15分—9時50分
會　場　朝日倶樂部別室
出席者　講演者　陸軍技術本部員
工兵大尉　木原　友二
委員長　池田
副委員長　波江
委　員　秋田、井上、伊藤、北垣、黑田
清水、篠原、新名、鈴木、鳥井
內藤、姬野、藤島、本多、本間
吉田
副會長　葛野、松室

1 午後5時15分本日の講演者木原工兵大尉と共に一同食堂（朝日ビル10階アラスカ）に至り會食
1 同6時食事を了り朝日倶樂部別室（朝日ビル5階）に入り池田委員長座長の下に委員會を開會先づ軍部より派遣の木原大尉は「都市防空と建築に就いて」の演題の下に左記要項に付圖表により詳細座談的講演あり午後8時30分終了
(1) 近畿防空演習の一般概念
(2) 最近航空機の發達と爆彈の威力
(3) 建築物の遮蔽、擬裝等に付いて
（本講演は速記したるに付雜誌及パンフレットにて發表の豫定）
1 次で講演者に對し種々質問應答ありたる後波江副委員長立つて講演者に謝辭を述べ、尙引續き懇談の後
(1) 事務分擔の件
(2) 幹事選擧の件
の2件あるも本夜は時間も餘程經過せるに付次回委員會にて議することゝし閉會を告げ散會す時に午後9時50分なり

都市武裝促進委員會　（第3回）

日　時　4月6日午後6時20分—8時30分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　池田
副委員長　波江
委　員　秋田、井上、浦、落藤、加藤
北垣、清水、篠原、新名、德
政、鳥井信、鳥井捨、內藤、
中澤、本多、本間、三橋

1 午後6時20分池田委員長座長となり開會
池田委員長より委員長就任の挨拶ありて直に協議に入る
1 先づ幹事の互選を行ふことを提議し該幹事は委員會全體の幹事なりや又部署を定め其係長としての意味に於ける幹事なりやを諮り種々の意見ありしも結局部署を左の8部に分つことゝし各部に幹事1名を附することに決定
1 庶務部
2 財務部
3 調査部
4 宣傳部
5 展覽部
6 演習部

7 記錄部
8 會計部
尙幹事の選定は委員長一任と決定
追加委員も亦委員長一任と決定

1 次で今度の事業は耐火建築を宣傳するのみにして他の急迫せる事業即儀裝等に付理想案を建議する等其他の事に手は付けざるや否に對し種々の意見あり遂に全般に亙る意見の討議をなし之を綜合すれば建築家の本筋として
第 1 パンフレット(內容は種々あるが)を作り豫備知識を與へること
第 2 論文の懸賞募集を爲すこと
但し論文の項目は種々に分つこと
第 3 展覽會を開催すること
展覽會の材料を懸賞募集より採るとすれば懸賞募集は最も早く決行すること
第 4 展覽會開催の時期は燈火管制をなす 1 週間前なること
第 5 木原大尉の講演速記をパンフレットにして同時に懸賞募集を決行すること
但し右速記の前書きに協會の意見を記載すること
第 6 財務部の活動を即刻願ひたきこと

1 次に雜誌の發行及座談會講演、映畫會開催期日に付諮り次の豫定に決定
(1) 雜誌發行は 7 月
(2) 座談會は 6 月
(3) 講演及映畫會は展覽會開期の中途及同會開會前に機會を見て開催

1 函館市大火災視察講演會開催に付當委員會の提案として大々的に早急決行するや否に付協議の結果今回は協會に任せ內部的發表することに決定し本講演會は他日に讓ることとなる

1 當委員會總豫算中に協會支出に付委員長私案を述べ協會主計に希望する所ありたり

都市武裝委員會主催
都市武裝に關する座談會

日 時 4月16日午後6時30分—8時30分
會 場 建築俱樂部別室
出席者 都市武裝促進委員會委員長 池田
同副委員長 波江
同 幹 事 清水、中澤、竹腰
同 委 員 浦、落藤、加藤、黑田、新名、鈴木、姬野、本多、岡田、玉置、坪井、永瀨
副 會 長 松室
評 議 員 池田、伊東、阪口、酒井、高岡、谷、松久保、矢田

1 午後 6 時30分池田委員長司會の下に開會、先づ池田委員長より開會の挨拶として
來る 7 月下旬近畿大防空演習擧行さるるに付當協會は之に參加し建築方面より大に宣傳努力したく茲に都市武裝促進委員會を特設して準備中でありますが之れが豫備の爲去る 3 月27日には軍部より木原大尉の之に關する講演を聽き今夕第 1 次の座談會を開き防空に關し各員の經驗談實見談其他腹藏なく御談を願ひたき次第であります

1 次で委員長より竹腰幹事に實見談を願ひ同氏は二十年前歐洲大戰爭の際渡歐中にて其際に於ける英國及伊太利、瑞西其他にての空襲實見談を累々述べられ次で永瀨委員の上海事變の際親戚の某海軍々人よりの爆撃狀況の手紙を朗讀あり質問は續發し談はなかなか盡きる模樣なかりしが午後 8 時30分池田委員長閉會の挨拶ありて散會したり
(本夕の座談は速記したるを以て後日印刷發表の豫定)

會 員 動 靜

轉 勤 轉 居

會 員

渡邊 平君 尼崎市竹谷町3ノ127ノ2
守谷 茂君 大阪市西成區千本通5ノ7
楠 正巳君 大阪府下泉南郡貝塚町半田150 大日本紡績工場建築場竹中工務店出張所
德永 隆俊君 神戶市葺合區熊內町4ノ62番屋敷

地方會員

山田 芳雄君 山口縣宇部市宇部セメント會社錢高組出張所
高橋 君三君 宮崎縣宮崎市御船町35郡是製糸㕑事所宮崎支所建築場

田島市兵衛君　熊本縣芦北郡袋校建築事務所
竹谷德治郎君　大連市東公園35大林組大連支店內
藤村　武君　東京市世田谷區羽根木町1753
小林麟太郎君　京城府南大門通2ノ1日本生命ビル大林組京城出張所
田中　浩君　横濱市鳴見區生麥町躑躅ケ丘1980奉天市青葉町41大林組奉天常設出張所

普通贊助員

大槻　貞夫君　滿洲國新京西公園南側　關東軍司令部廳舍建築工事大林組出張所
佐藤　佐七君　廣島縣佐伯郡小方村字下ノ町
會我部幸雄君　廣島縣御調郡三原町　帝國人絹株式會社三原工場建築事務所工事係建築部
藤生　阪藏君　大阪市東成區北生野町1ノ63
石井　富可君　京都府綾部町若松町30
松山　愛三君　大阪府三島郡高槻町　鐘紡高槻絹糸工場建築場竹中工務店出張所
吉田光太郎君　仙臺市南町67　大林組仙臺營業所
和中　直一君　尼崎市中大物町48
早川　健次君　大阪市北區中野町5ノ8
田中　數雄君　鳥取市步兵第40聯隊內第10師團經理部派出所
森　歡之助君　千葉縣松戸町裁判所東隣
近藤　保君　京都市新町通松原南
城戸　久君　名古屋高等工業學校助教授建築科教室
奥保　忠次君　大連市連鎖廣小路　宗像建築事務所
田中喜久雄君　京都府中郡峯山町泉
戸田　和夫君　吳市本通10丁目8ノ7　本川方
松本　正香君　大阪市天王寺區谷町9ノ15 天野方

入　會　者

會　員

杉田　親厚君　旭區今市町975（葛野建築事務所）
龜井　吉一君　武庫郡良元村寶塚34（龜井建築工務店）
鈴木　孫市君　北區眞砂町41松下由藏方（大阪稅務監督局營繕掛）
三橋國太郎君　京都市上京區紫竹初音町91（京都市役所營繕課長）
前野慶太郎君　北河內郡四條畷村大字南野402（あめりか屋）
中西　和夫君　大正區南泉尾町2ノ74（石材業自營）

特別贊助員

佐々木源之助君　西區京町堀上通3ノ22(土木建築請負業)
中野　銈三君　西區北堀江通2ノ2（土木建築請負業）
織田秋之助君　兵庫縣川邊郡小田村次屋五反田113（關西ペイント株式會社常務取締役）

普通贊助員

細川　笹市君　神戸市林田區菅原通7ノ80番屋敷（長谷工務店）
森本　源造君　府下豊中松ケ枝通126(大阪三越設計部)
晉納喜久治君　府下三島郡岸部村大字小路60ノ1（大阪三越設計部）
川添貞一郎君　京都市東山區今熊野寶藏町62（龜井商店裝飾部）
中川　了文君　北區西寺町2圓通禪院（中西建築事務所）
川合　安平君　西淀川區浦江北1ノ126（中西建築事務所）
堀口　甚吉君　兵庫縣川邊郡小田村杭瀨今福松ケ下43（大阪府立西野田職工學校教諭）
重松傳三郎君　兵庫縣精道村打出下畏川4(三機工業株式會社大阪支店長)

會員(地方在住)

岸田林太郎君　奈良縣吉野郡上市町（奈良縣立吉野工業學校）

退　會　者

會　員　長谷川熊吉君
普通贊助員　服部　保君

日本建築協會役員及委員（昭和九年）

社團法人

材料委員會

長事員　池松楠　小阪作　高古道吉
委幹委同同同同同同　田　久瀨　西口間岡塚田本　宮敬　一三出三正治次　保芳日與泰政　彦三澈良郎生吉治郎郎

災害强度委員會

長事員　波黒落　佐篠谷　鳥中　三矢山　渡　悌藤俊太　隆捨智尙鐵圭　江田藤野原　井島浦田田部　夫茂吉三郎夫藏喜史藏誠吾
委幹委同同同同同同同同

設備委員會

長事員　小伊松　西塙增　政村村八　銅郎助　彦信克次吾一二　太之安　敏基藤小盛　原宗清　笠東井　村　井岡野田木
委幹同　委同同同同同同同

設備委員會分科會

長事員　小松　伊　增　池落加黒阪芝志鈴　永西牧政村森渡　銅助郎　克彦吉二茂郎重吉尾一彦忠次吾富吾　之太　敏宮藤誠　三　知善末毅安　基藤隆圭　原清宗　笠井東　井田藤藤田　芳　口田岐木澤村野岡野山部
委幹同分幹委同同同同同同同同

夫郎弓武道　吾男吉介郎　造郎一三治郎二　治治夫　二助

悌太眞正　藤孝善之次　健太誠狂正太英　榮代種　榮之

江原澤野多　野田藤垣盈　腰林井瀬塚國　橋崎　橋田名　水井　清

部波篠瀧姫本　部村岡加北玉　部竹今坪永古三山　部高秋新　部清松

傳長　覽長員　習長員　錄長員　計長員

宣部同同同同　展部委同同同　演部委同同同同　記部委同　會部委

郎一吾　吾夫藏夫助銅憲實尾雄吉郎雄　信夫吉茂藏彦治史誠武一

一亮圭　金信福達之　定　末敏鎗三武　和藤　捨乙長尙　信甲

誠　藤部　政田上高　英原　田　笠田宇木田塚島井　井　藤藤田井間本浦田田

澤

部中內渡部德石井飯浦小籠古鈴津平藤安部鳥伊落黑島本宮三山吉和

務長員　務長員　查長員

總部委同財部委同同同同同同同同同同調部委同同同同同同同同同

一吉八平修郎郎男造三

會員委宅住

五陽儀新　一次

田川本山　松安新　孝三來

武小松增赤小岡岡小三

長事　員

員

委幹同同委同同同同同

會員委館會築建

雄郎藏郎吉尾造吾夫光吉郎

武三　四米末健金悌重藤三

井芳民　賢　友

口　林井木腰政江室本　脇

安阪谷大阪鈴竹德波松森山

長事　員

員

委幹同委同同同同同同

會員委進促武裝市都

實夫

悌

田

江

池波

長員

委副

本誌執筆者紹介

岡田孝男　工學士、京大建築學科卒業、三越住宅建築部勤務

鳥井信　工學士、東大建築學科卒業、都市計畫委員會技師、都市計畫大阪地方委員會勤務

中澤誠一郎　工學士、東大建築學科卒業、地方技師、大阪府建築課長

編　輯　後　記

□本月號は「住宅とアパートメント」を中心とした特輯號とする豫定で各方面に御依頼した所、幸にも多數の御賛同を得編輯の手に集つた諸家御設計の住宅の實例だけでも、豫想に倍する多數に及んだ。何れも相當の大邸宅であり、選定せられた寫眞亦その各部の詳細を網羅して餘すところがない全く諸家の御盡力に依るものとして多謝する次第である。

□が、恰も 3 月 21 日函館に大火があり、本協會會員中にも慰問、調査等の目的を以て、現地に赴かれた人々多數あり、それ等の人々の調査報告を得て、都市火災の狀態を知り、都市の防火施設に關する資料たらしめることも、亦大いに時を得たるものなるを以て、茲に取りあへず鳥井氏、中澤氏に御依頼して實狀調査の一端を掲載することにした。

□その爲に、住宅の實例の 1 部とアパートメントに關する全てを 6 月號に廻して、同號を「住宅とアパートメント」號とすることとし、本月號は單に「住宅」號とした。住宅の實例をお世話下さつた一部の方々にこの點御諒解を乞ふ次第である。

□それにしても、懸賞「夏の家」設計當選圖案の發表もあり、函館火災の調査報告をも加へて、本月號は堂々 124 頁の超增大號となつた。多數寫眞版の挿入を惜まなかつた點買つて貰つていい。

□寫眞版と言へば、去る 3 月號より大に印刷屋を鞭撻して、特に寫眞版印刷の鮮明を期して居る。成績未だ充分ではないがアート紙の寫眞版に就いて御比較を乞ふ。

□本會から「市街地建築法令」第四版、また「續學校建築圖案」が相次いで出た。充分の確信を以つて推薦出來得ると思ふ。

□本誌の原稿締切を毎月 15 日に繰上げた

（新名）

建　築　と　社　會

第 17 輯第 5 號

毎月1回1日發行　定價　1冊 .50圓(郵稅2錢)　12冊 6.00圓(同 24 錢)

昭和9年4月25日印刷　昭和9年5月1日發行

發行・編輯　財團法人　日本建築協會　鷹取陽

印刷人　西宮市今津町津門字賓津605番地

印刷所　大阪活版所

大阪市東區內淡路町1丁目7番地

發行所　財團法人　日本建築協會

大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル

電話長本局(23)4500番(6)

振替口座大阪39.975番

特約販賣店　柳々堂書店

大阪市西區京町堀羽子板橋北

電話土佐堀 2440番

振替口座大阪 2084番

禁　轉　載

本誌に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣　告　掲　載　料　金

普　通	1 頁	1 回	15.00
普　通	½ 頁	1 回	8.00
普　通（前附第1頁）	1 頁	1 回	45.00
普　通（前附第2頁）	1 頁	1 回	40.00
普　通（後附第1及最終頁）	1 頁	1 回	25.00
アート（中挿）	½ 頁	1 回	20.00
表　紙 2	1 頁	1 回	60.00
表　紙 3	1 頁	1 回	45.00
表　紙 4	1 頁	1 回	80.00
建築事務所錄	1 欄	1 回	1.50
（建築關係職者案內）	1 欄	1 回	5.00

御　注　文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

オータラム裝置

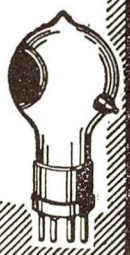
自働警報裝置

マツダ

光電管の應用に依り

目に見えぬ赤外線にて四圍の警戒區域を造り、不慮の妨害闖入者を警報す

邸宅、寶庫、金庫、橋梁、街路、港灣等凡て警戒を要する場所



說明書進呈

東京電氣株式會社

建築と社會第17輯第5號　廣告索引

ア　阿部鐵工所……24
旭硝子株式會社……35
淺野スレート株式會社……18
淺海商店……22
イ　岩元商會建材部……22
エ　榮進社……17
英進商會建材部……26
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
大阪伊丹商店……14
大野製作所……表紙 2
奥村重兵衛商店……19
押谷商店……26
大澤商會……39
カ　關西ペイント株式會社……8
キ　木下謹三商店……14
桐田商會……25
協和商會……28
ク　黒川化學工業所……12
久保商店……36
ケ　建盛商會……10
輕量建材合資會社……20
サ　三共株式會社……5
佐渡島商店……33
ス　須賀商會……29
セ　政正合資會社……32
清光社……34
ソ　そごう(神戸)……40
タ　田中昌司商店……38
田村商會……30
ダ　ダンロップ護謨株式會社……中挿
大理石工業株式會社……32
ト　東洋リノリユーウム株式會社……13
東洋陶器株式會社大阪出張所……37
東京商會……31
東京建材工業所……7
東京電氣株式會社……42・43
ナ　內外土木建築材料合資會社……27
南滿鑛業株式會社……20
ニ　日本建築紙工株式會社……31
日本金具株式會社……中挿
西原衛生工業所……6
西孫南店建築金物部……21
ノ　野澤幸三郎商店……3
ハ　汎建製作所……36
ヒ　平松釣戸車製作所……10
フ　福島合名會社……4
マ　マルエス工業株式會社……11
ミ　ミナト製作所……12
三井物產株式會社……15
宮島康夫商店……34
ヤ　矢橋大理石商店……16
大和護謨製作所……9
ヤマト商會……28
山本東作商店……38
ヨ　横河橋梁製作所……23
米本榮商店……16
ラ　ライトラバー工業合資會社……41
レ　玲光社(木內眞太郎)……4